（仮称）あたみ認定こども園開設にかかる設計等業務委託（幼児棟）

図　面　リ　ス　ト

意匠図		構造図	
A-01	図面リスト	A-27	改修　断面詳細図（2）
02	建築改修工事特記仕様書（1）	28	改修　平面詳細図（1）
03	建築改修工事特記仕様書（2）	29	改修　平面詳細図（2）
04	建築改修工事特記仕様書（3）	30	改修　平面詳細図（3）
05	建築改修工事特記仕様書（4）	31	改修　平面詳細図（4）
06	建築改修工事特記仕様書（5）	32	改修　展開図（1）
07	建築改修工事特記仕様書（6）	33	改修　展開図（2）
08	建築材料等品質性能表（1）	34	改修　展開図（3）
09	建築材料等品質性能表（2）	35	改修　展開図（4）
10	解体特記仕様書（1）	36	改修　天井伏図
11	解体特記仕様書（2）	37	改修　建具平面図
12	設計概要・外部仕上表・案内図	38	改修　建具表（1）
13	敷地求積図・建物求積図・各室求積図	39	改修　建具表（2）
14	改修　採光、換気、排煙算定表	40	改修　家具平面図
15	改修　配置図	41	改修　家具詳細図（1）
16	既存　内部仕上表（1）	42	改修　家具詳細図（2）
17	既存　内部仕上表（2）	43	改修　雑詳細図（1）
18	改修　内部仕上表（1）	44	改修　雑詳細図（2）
19	改修　内部仕上表（2）	45	改修　雑詳細図（3）
20	既存　地階平面図（撤去図）	46	改修　雑詳細図（4）
21	撤去後　地階平面図	47	改修　雑詳細図（5）
22	改修　地階平面図	48	改修　サイン計画図
23	改修　立面図	49	改修　調理室計画図
24	改修　断面図（1）	50	改修　外構平面図
25	改修　断面図（2）	51	改修　外構詳細図
26	改修　断面詳細図（1）	52	改修　仮設計画図

S-01	B1階梁伏図(改修位置図)
02	鉄筋コンクリート壁増設標準図
03	（校舎棟）EW28 増設補強壁詳細図
04	（食堂棟）EW15 新設開口構造詳細図(1)
05	（食堂棟）EW15 新設開口構造詳細図(2)
06	（食堂棟）EW15 新設開口構造詳細図(3)
07	（校舎棟，食堂棟）新設スリーブ構造詳細図(1)
08	（食堂棟）新設スリーブ構造詳細図(2)

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
一級建築士　第274650号　伊東　陽子
意匠設計：一級建築士　第334613号　緋部　響子

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地

設計	製図	調査
申田	申田	窪田

熱海市観光建設部まちづくり課

特記

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名：図面リスト

Scale：－／－

No. A-01

Total 52

建築改修工事特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1　工事名称　（仮称）あたみ認定こども園開設にかかる設計等業務委託（幼児棟）工事
2　工事場所　熱海 市・郡　桜 区・町　他内・先
3　敷地面積　5078.1905 ㎡
4　都市計画　○都市計画区域内　・準都市計画区域内　・都市計画区域外
5　用途地域　・線引（・市街化区域　・市街化調整区域）　・非線引
　・第二種住居地域
6　防火地域　・防火地域　・準防火地域　○指定なし
7　その他の地域・地区　・騒音規制法に基づく指定区域　・１種　・２種　・３種　・４種
　・風力係数算定のための地表面粗度区分　・Ⅱ　・Ⅲ
　・風圧力算定のための基準速度　Vo=　m/s
　・積雪荷重　H12建設省告示1455号における区域　別表(※24　・　)
8　建物概要

建物名称	構造・階数	工事種別	建築面積㎡	延べ面積㎡	摘要
第二小学校	RC造 地下1階地上4階	改修	2005.8735㎡	6150.6809㎡	

9　工事内容

Ⅱ　仕様

1　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）による。（以下「改修標準仕様書」という。）
なお、改修標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）による。（以下「標準仕様書」という。）
2　電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記を適用する。
3　設計図の内容に明記がない場合、又は相違ある場合は、原則として監督員の指示によるほか、次の優先順位により判定する。
①質問回答書（②から⑤までに対するもの）　②現場説明書　③特記仕様書
④図面　⑤改修標準仕様書・標準仕様書
4　特記仕様
①　項目は、番号に○印のついたものを適用する。
②　特記事項は、・印のついたものを適用する。
・印のつかない場合は※印のついたものを適用する。
・印と※印の付いた場合は、共に適用する。
③　特記事項に記載の（　．　）及び［　．　］内の表示番号は、それぞれ「改修標準仕様書」及び「標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
④　「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、工事受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるものとし、警戒宣言発令時には工事を中止する。また、この事実が発生した場合は、静岡県建設工事請負契約約款第26条（臨機の措置）によって処理されたものとする。
⑤　◎印は「静岡県環境物品等の推進に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）の公共工事に関わる特定調達品目を示す。
⑥　標準仕様書で「特記がなければ、」以降に具体的な材料・品質性能・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令（条例を含む）の改正等により抵触する場合には、関係法令等の遵守（1.1.13）の規定を優先する。
⑦　熱帯材の使用削減に努める。
⑧　環境対策（現場発生材の再利用及び分別収集等）に努める。
⑨　ユニバーサルデザインへの対応に努める。
⑩　解体工事に際しては、「建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン」（国土交通省）を遵守すること。

Ⅲ　電子納品等

2　貸与する設計図CADデータの有無
※有り　・無し
3　貸与するCADデータの使用範囲
当該工事のために必要な施工図及び完成図の作成の範囲で使用できる。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	①適用基準等	・建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修（平成28年版） ・工事写真の撮り方　建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成24年版） ・建築物解体工事共通仕様書・同解説 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（平成24年版） ・土木工事共通仕様書
	②工事実績情報の登録	（請負代金500万円以上の場合）※工事ｶﾙﾃ特記仕様書による　（1.1.4）
	③工事の一時中止	（1.1.9） 静岡県建設工事請負契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画書（以下「基本計画書」という。）を発注者に提出し、承諾を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。 また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。
	④総合施工計画書	総合施工計画書（総合仮設計画を含む）提出すること　（1.2.2）
	⑤各工事毎の施工計画	・仮設工事　・防水改修工事　・外壁改修工事　・建具改修工事 ・内装改修工事　・塗装改修工事　・耐震改修工事　・ ・吹付けｱｽﾍﾞｽﾄの除去及び封じ込め工事　・解体工事　・
	⑥ｼｰﾘﾝｸﾞ材の調査	・第一次判定（ｼｰﾘﾝｸﾞ材種の判定） 日本ｼｰﾘﾝｸﾞ材工業会に次のｼｰﾘﾝｸﾞ材のｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞを送付し、材種の判定を行う。 判定結果については、監督員に速やかに報告する。 ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ採取箇所　※監督員との協議による　・図示 採取箇所数　※監督員との協議による　・　箇所 採取方法は「ＰＣＢ含有判定シーリング材サンプル採取マニュアル（日本シーリング材工業会）」を参考にすること。 ・第二次判定（・PCB含有量の判定　・ｱｽﾍﾞｽﾄ含有量判定） 専門分析機関に次のｼｰﾘﾝｸﾞ材のｻﾝﾌﾟﾙを送付し、含有量の分析を行う。なお、分析ｻﾝﾌﾟﾙの四周は除去し、採取部の内部（大気にさらされていない部分）を取り出して分析する。判定結果については、監督員に速やかに報告する。 ｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ採取箇所（　）　採取箇所数（　）

⑦発生材の処理等
・引渡しを要するもの　（・金属類　・PCB含有物　・鉛含有物　）（1.3.12）
・特別管理産業廃棄物　（・廃石綿　・　）
・現場において再利用を図るもの　（　）
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ
ⅰ）廃せっこうﾎﾞｰﾄﾞの裏面の表示を確認し、石綿、ヒ素、ｶﾄﾞﾐｳﾑを含有するか又は、含有していないことが確認できない場合は、各製造工場に問合せの上、適切に処理する。
ⅱ）石綿含有せっこうﾎﾞｰﾄﾞ　搬出先（　）
ⅲ）その他の廃せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（石綿、ヒ素、ｶﾄﾞﾐｳﾑ非含有）　搬出先（　）
・その他の含有物質（　）　搬出先（　）

⑧建設リサイクルデータ統合システム
受注者は施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該ｼｽﾃﾑにﾃﾞｰﾀの入力を行なうものとする。監督員への報告（提出）はｼｽﾃﾑにより作成した{再生資源利用計画書（実施書）}及び{再生資源利用促進計画書（実施書）}により行うものとする。尚、これにより難い場合には、監督員と協議しなければならない。

⑨特定建設資材の再資源化等
本工事は、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第9条による分別解体等実施義務の対象建設工事となることが想定されるため、同法に基づき分別解体等及び特定建設資材等の実施について適切な措置を講ずる。
ただし、工事契約後に明らかになったやむを得ない事情により、工事契約時に予定していた条件により難い場合は、監督員と協議する。
また、分別解体・再資源化等の完了時に、再資源化等が完了した年月日、再資源化等をした施設の名称及び所在地、再資源化等に要した費用を書面にて監督員に報告する。
・分別解体の方法

工事の種類	工程	作業内容	分別解体等の方法
新営、増築、改修工事	①造成等	左記の工事	
	②基礎・基礎ぐい		
	③上部構造部分・外装		
	④屋根		
	⑤建築設備・内装等		
	⑥その他（　）		

工事の種類	工程	作業内容	分別解体等の方法
解体工事	①建築設備、内装材等	左記の取り外し	手作業
	②屋根ふき材		手作業
	③外装材、上部構造部分	左記の取り壊し	手作業・機械作業の併用
	④基礎、基礎ぐい		手作業・機械作業の併用
	⑤その他（　）		手作業・機械作業の併用

・特定建設資材廃棄物の種類と再資源化等をする施設

特定建設資材廃棄物の種類	施設の名称	所在地
・コンクリート		
・鉄及びコンクリートから成る建設資材		
・アスファルト・コンクリート		
・建設発生木材		

届出に係る事項の説明時に上記と異なる施設（同種の再資源化等を行う施設に限る）を受注者が提示した場合は、当該施設に搬出することができる。ただし、当該施設への変更については設計変更の対象としない。

⑩環境への配慮　（1.4.1）
1）建築物内部に使用する材料等は、設計図書に所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。
①合板、木質系ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ、構造用ﾊﾟﾈﾙ、集成材、単板積層材、MDF、ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞ、その他の木質建材、ｴﾘｱ樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗料は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
②接着剤及び塗料は、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ及びｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝの含有量が少ない材料を使用する。
③接着剤は、可塑性（ﾌﾀﾙ酸ｼﾞｰnｰﾌﾞﾁﾙ及びﾌﾀﾙ酸ｼﾞ-2-ｴﾁﾙﾍｷｼﾙ等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ｱｾﾄｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ及びｽﾁﾚﾝを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

2）設計図書に規定する「ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又は④に該当する材料を指す。
①建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ発散建築材料
④建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料　（1.4.2）

⑪材料の品質等
1）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
2）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督員の承諾を受ける。
3）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑫材料の検査等
現場に搬入したすべての材料について、自主検査記録（任意様式）を提出すること。ただし、別表に掲げる材料については監督員の検査を受ける。
なお、監督員の検査の結果、合格した材料と同じ種別の材料は以後原則として抽出検査とする。
また、製造工場等における材料検査を行う工事材料は監督員の指示による。　（1.5.3）

⑬調査のための破壊部分の補修
補修方法　※現状復旧　・図示

⑭地場産品
静岡県中小企業の受注者機会の増大による地域経済の活性化に関する条例に基づき地場産品の使用促進を図ることで地域経済の活性化に寄与することを目的とする。
受注者は工事に使用する建設資材等について契約図書に規定する品質が規格値を満足した地場産品の優先使用に努めること。
「地場産品」とは「県産木材」及び「県産品」をいう。
「県産木材」とは「静岡県産材証明制度要綱」第２条に掲げるものをいう。
「県産品」とは建設資材又は製品等で、県内で最終工程が施されたものをいう。

⑮技能士
一級技能士又は単一等級の資格者を有する者の配置を適用する作業種別　（1.6.2）

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	・とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	・鉄筋組立作業
ｺﾝｸﾘｰﾄ工事	型枠施工	・型枠工事作業
	ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送施工	・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	とび	・とび作業
	鉄工	・構造物鉄工作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾚｷｬｽﾄ、ALCﾊﾟﾈﾙ	ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ建築	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾟﾚｷｬｽﾄ工事作業
押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	ｴｰｴﾙｸｫｰﾊﾟﾈﾙ施工	・ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	防水施工	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業 ・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業 ・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾁｴｺ法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	石材施工	・石張り作業
ﾀｲﾙ工事	ﾀｲﾙ張り	・ﾀｲﾙ張り作業
木工事	建築大工	・大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	・内外装板金作業
	ｽﾚｰﾄ施工	・ｽﾚｰﾄ工事作業
	かわらぶき	・かわらぶき作業
金属工事	内装仕上施工	・鋼製下地工事作業
	建築板金	・内外装板金作業
左官工事	左官	・左官作業
建具工事	ｻｯｼ施工	・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	・ｶﾞﾗｽ工事作業
	自動ﾄﾞｱ施工	・自動ﾄﾞｱ施工作業
	建具製作	・木製建具手加工作業 ・木製建具機械加工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ施工	・金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業
	ｻｯｼ施工	・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業
	ｶﾞﾗｽ施工	・ｶﾞﾗｽ工事作業
塗装工事	塗装	・建築塗装作業
内装工事	内装仕上施工	・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業 ・ｶｰﾍﾟｯﾄ系床仕上げ工事作業 ・ﾎﾞｰﾄﾞ仕上げ工事作業 ・壁装作業
	表装	・表具作業
	畳製作	・畳製作作業
	熱絶縁施工	・吹付け硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱工事作業
排水工事	配管	・建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	・溶解ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業 ・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	造園	・造園工事作業

なお、県内に一級技能士が少ない作業職種は、予め監督員と協議することができる。

⑯室内空気中の化学物質の濃度測定
測定対象室及び測定箇所数　（1.6.9）
測定対象室　※全ての居室、常時換気しない書庫、倉庫　・図示

室の床面積A(m2)		50＜A≦200	200＜A≦500	500＜A
測定箇所数	1	2	3	4

使用した材料、室の形状、換気設備等の使用が類似しており、同様の測定結果となることがよそうされる複数の室については、監督員と協議の上、そのうちの１室以上を測定する。
測定方法　※ﾊﾟｯｼﾌﾞ採取による蒸気拡散式分析法
・厚生労働省の標準法
測定物質　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ、ﾄﾙｴﾝ、ｷｼﾚﾝ、ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ、ｽﾁﾚﾝ

対象物質	厚生労働省の指針値（25℃の場合）
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ	0.08ppm（　100μg/m3）
ﾄﾙｴﾝ	0.07ppm（　260μg/m3）
ｷｼﾚﾝ	0.20ppm（　870μg/m3）
ｴﾁﾙﾍﾞﾝｾﾞﾝ	0.88ppm(3,800μg/m3)
ｽﾁﾚﾝ	0.05ppm（　220μg/m3）

社会福祉施設においては、ﾊﾟﾗｼﾞｸﾛﾛﾍﾞﾝｾﾞﾝの測定要否を監督員と協議すること。
測定者　専門測定機関による測定　※現場作業員による測定
測定前準備　測定対象室を30分換気し、その後5時間閉鎖する。
測定時　測定前準備・測定時は換気設備又は空気調和設備を稼動させたまま行う。ただし、局所的な換気扇で常時稼動させないものは停止させたままとする。測定時間は、原則として24時間とする。ただし、24時間測定が行えない場合は8時間測定（10時30分～18時30分）とする。
測定位置は、室中央付近の床から1.2m～1.5mの高さとする。
測定後　測定年月日、測定時刻、測定時の室温・湿度・天候、及び内装仕上げ工事の完了した年月日等を記載すること。

⑰施工図等の取扱い
施工図等の著作権に係わる当該建築物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

⑱設備工事との取合い
施工範囲　※工事区分表による　（1.8.1～1.8.3）（表1.8.1）
施工図　設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受ける。

⑲検査
中間検査　※対象工事（実施は中間検査実施基準による）　・対象外工事

⑳完成時の提出図書
※現場説明書による。

21設計ＧＬ
※設計GL=BM±　mm(現状地盤高※図示)

㉒事故報告
工事施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、事故発生報告書を監督員に速やかに提出すること。また建設工事事故報告ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽに登録すること。

㉓異常気象時等の報告
異常気象時及び震度4以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督員に報告する。

㉔公共事業労務費調査に対する協力
本工事が公共事業労務費調査の対象となった場合は、その調査時期が工事中又は完成後であっても関係書類の整備、下請負人の指導等を含め協力すること。

㉕建設発生土の処理方法
・場外指定場所に搬出し、搬出後、監督員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。
搬出場所（　）、受入条件（　）
処分費　（　）、仮置場　（　）
○近隣の受入先を調査の上、搬出距離、受入条件等が確認できる資料を監督員に提出し、協議により搬出先を決定する。搬出後、監督員へ搬出先の受入を証明する資料を提出する。なお、次の運搬に相当する経費を見込んでいる。
搬出距離　（　）、DID区間（　）
仮置場　（　）
・場内指定場所に敷き均し
・場内指定場所に堆積
なお受注者の提示する運搬距離、処分費及び整地費と異なる場合においても設計変更の対象としない。

2 仮設工事

①足場その他
内部足場の種別　※脚立、足場板等　・　（2.2.1）
外部足場の種別　○枠組足場　・くさび緊結式足場　・単管本足場　・仮設ゴンドラ　・移動式足場
手すり先行足場の設置　※行う　・行わない　［2.2.4］
足場を設ける場合、(2.2.1)(b)によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

・外部足場の防護ｼｰﾄによる養生
（・養生ﾈｯﾄ　・養生ｼｰﾄ(・Ⅰ類　・Ⅱ類)　・ﾈｯﾄ状養生ｼｰﾄ(・Ⅰ類　・Ⅱ類)
○防音ｼｰﾄ　・防音ﾊﾟﾈﾙ　・　）

②材料、撤去材等の運搬
種別　・A種　・B種　・C種　○D種　・E種　（2.2.1）（表2.2.1）

③既存部分の養生
・既存部分の養生方法　※ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ等　・合板　（2.3.1）
・既存家具、既存設備等の養生方法　※ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ等
・外部開口部の養生方法　※ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ等　・
・工事用通路の養生方法　※ﾋﾞﾆﾙｼｰﾄ等　・
・固定された備品、机、ﾛｯｶｰ等の移動　・行う（※図示）　・行わない
・既存ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞ、ｶｰﾃﾝ等の養生　・行う（※図示）　・行わない
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれのある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

④仮設間仕切り
・仮設間仕切り　設置位置　※図示　（2.3.2）
・A種　下地　※軽量鉄骨　・木
表面材　※せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（厚さ(mm)　※9.5　・　）
・合板（厚さ(mm)　※9.0　・　）
塗装　※行わない　・行う
充填材　※ｸﾞﾗｽｳｰﾙ32k　厚50mm　・
○B種　下地　※軽量鉄骨　・木
表面材　※せっこうﾎﾞｰﾄﾞ（厚さ(mm)　※9.5　・　）
・合板（厚さ(mm)　※9.0　・　）
塗装　※行わない　・行う
※C種　下地　※単管
表面材　※防炎ｼｰﾄ
・仮設扉　材質　※木製扉(合板張程度)　・
塗装　※行わない　・行う

⑤監督員事務所
○設ける　・10m2程度　・（　）m2程度　・既存建物利用　（2.4.1）
・設けない
監督員事務所の備品等　標準仕様書によるほか下記による
・机・椅子・ｺﾞﾑ長靴・雨がっぱ・保安帽・安全帯・更衣ﾛｯｶｰ(以上は監督員　人分)
・書籍・白板・掛け時計・寒暖計・懐中電灯・受注者加入電話の子機
・消火器・冷暖房機器(以上は各1ヶ)・パソコン（インターネット接続：　）

⑥工事用水
構内既存の施設　※利用できる（※有償　・無償）　・利用できない

⑦工事用電力
構内既存の施設　※利用できる（※有償　・無償）　・利用できない

3 防水改修工事

1 施工数量調査
調査範囲　・図示　○防水改修範囲　（1.5.2～3）
既存部分の破壊を行った場合の補修方法　・図示　・
調査報告書　提出部数：・2部　・
（3.2.3,4,6）

2 既存防水の処理
既存保護層の撤去　○行う（範囲　・図示　・　）　・行わない
既存防水層の撤去　○行う（範囲　・図示　・　）　・行わない
露出防水層表面の仕上げ塗装除去
○行う（・M4AS　・M4ASI　・M4C　・M4DI　・L4X）　・行わない

3 既存防水層の下地補修
既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等　・図示　（3.2.6）
POS工法及びPOSI工法(機械式固定方法)の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の補修及び処置
※改修標準仕様書3.2.6(d)(3)(vii)①～③による

4 試験
施工完了後の満水試験　○行う　・行わない
（ｱｽﾌｧﾙﾄ防水、改質ｱｽﾌｧﾙﾄ防水、合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水、塗膜防水の場合）

3 防水改修工事

5 アスファルト防水

屋根保護防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(3.3.5)(表3.3.3～6)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	絶縁用シート	立上り部の保護
・P2A	・A-1 ※A-2 ・A-3			※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・	※乾式保護材 ・コンクリート押え ・
・P1B	・B-1 ※B-2 ・B-3				
・P2AI	・AI-1 ※AI-2 ・AI-3		(材質)※JIS9521による押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA(スキン層付)又はJIS9511によるA種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板の2種1号もしくは2号(透湿係数を除く規格に適合するもの) (厚さ)・25mm　・50mm	※フラットヤーンクロス70g/m2程度 ・	
・P1BI ・T1BI	・BI-1 ※BI-2 ・BI-3				

改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による　・
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による　・
平場の保護ｺﾝｸﾘｰﾄの厚さ　こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床ﾀｲﾙ張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
窯業系ﾊﾟﾈﾙ：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

屋根露出防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(表3.3.7～9)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G	備考
・M4C	・C-1 ※C-2 ・C-3 ・C-4	図示		・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	
・M3D ・P0D	・D-1 ※D-2 ・D-3 ・D-4			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・P0DI ・M3DI ・M4DI	・DI-1 ※DI-2		(材質)下記による (厚さ)・25mm　・	・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による		脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない

断熱材の材質(P0DI、M3DI、M4DI)
※JIS9521による高湿ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号もしくは2号又はJIS9511によるA種高湿ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板の2種1号もしくは2号(透湿係数を除く規格に適合するもの)

脱気装置の種類及び設置基準
※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類製造所の指定による
・脱気装置の種類：　、設置数量：　個/㎡
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ﾙｰﾌﾌﾞﾚﾝ回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示

屋内防水　(3.1.4)(表3.1.1)(3.3.2～4)(表3.3.10)

工法	種別	施工箇所	備考
・P1E	・E-1		保護層　・設ける
・P2E	※E-2		

屋上排水溝　※図示

4 改質アスファルトシート防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.4.2～4)(表3.4.1～表3.4.3)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G	備考
・M4AS	・AS-T1 ・AS-T2 ・AS-J2			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	
・M3AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・P0AS	・AS-T3 ・AS-T4 ・AS-J1 ・AS-J3			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・M3ASI ・M4ASI ・P0ASI	・ASI-T1 ・ASI-J1		(材質)下記による (厚さ)・25mm ・	・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない 防湿層 ・設ける ・設けない

断熱材の材質(M3ASI、M4ASI、P0ASI)
※JIS9521による高湿ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材2種1号もしくは2号又はJIS9511によるA種高湿ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材の保温板の2種1号もしくは2号(透湿係数を除く規格に適合するもの)

改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による　・
部分粘着層付改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
脱気装置の種類及び設置数量
※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ製造所の指定による
・脱気装置の種類：　、設置数量：　個/㎡
押え金物
※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄ製造所の仕様による

5 合成高分子ルーフィング防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.5.2～4)(表3.5.1～2)

工法	種別	施工箇所	断熱材G	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G	備考
・POS ・S4S	・S-F1 ・S-F2 ・S-M1 ・S-M2 ・S-M3	図示		・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
・S3S	・S-F1 ・S-F2			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない
・M4S	・S-M1 ・S-M2 ・S-M3			・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない
・POSI ・S3SI ・S4SI ・M4SI	・SI-F1 ・SI-F2		(材質) ※3.5.2(c)(3)(ⅱ)による ・ (厚さ)・25mm　・	・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ ・設ける ・設けない
	・SI-M1 ・SI-M2		(材質) ※3.5.2(c)(3)(ⅰ)による ・ (厚さ)・25mm　・			・ ・	

屋内防水

種別	施工箇所	保護層 塗厚	保護層 床塗り工法	保護層 下地ﾓﾙﾀﾙ塗り	立上り部の保護ﾓﾙﾀﾙ塗厚
・S-C1	図示	・	※6.15.6(b)(2)及び(3)に準ずる ・	※6.15.6(c)(1)に準ずる ・	※7mm以下 ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表5.3.1から表5.3.2
・
絶縁用ｼｰﾄ　※発泡ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝｼｰﾄ　(3.5.2)
脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシート製造所の指定による
・脱気装置の種類：　、設置数量：　個/㎡
既存防層水下地がPCｺﾝｸﾘｰﾄ部材の場合
目地処理　・行う(工法：　)　・行わない
入隅部の増張り　・行う(S-F1、SI-F1、S-C1の場合)　・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

6 塗膜防水

(3.1.4)(表3.1.1)(3.6.2～4)(表3.6.1)(表3.6.2)

工法	種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水の適用G	備考
・POX	※X-1 ・X-2	図示	・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置　(○)設ける・設けない 改修用ﾄﾞﾚﾝ(○)設ける・設けない
・L4X	・X-1 ※X-2		・ ・製造所の指定による	・ ・製造所の指定による	・	脱気装置　・設ける・設けない
・P1Y	※Y-2					保護層　・設ける・設けない
・P2Y	※Y-2					保護層　・設ける・設けない

脱気装置の種類及び設置数量
※主材製造所の指定による
・脱気装置の種類：　、設置数量　個/㎡

7 シーリング

ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類、施工箇所　(3.7.2)(表3.7.1)
下記以外は(表3.7.1)による

施工箇所	ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類(記号)

目地寸法　(3.7.3)
打継ぎ目地　※幅20mm×深さ10mm以上　・
ひび割れ誘発目地　※幅20mm×深さ10mm以上　・
ｶﾞﾗｽ回り目地　※幅　5mm×深さ　5mm以上　・
その他の箇所　・幅　mm×深さ　mm以上　・
目地位置　※図示

ｼｰﾘﾝｸﾞ改修工法の種類　(3.7.4～7)
・ｼｰﾘﾝｸﾞ充填工法
・ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法
・拡幅ｼｰﾘﾝｸﾞ再充填工法
・ﾌﾞﾘｯｼﾞ工法　・ﾎﾞﾝﾄﾞﾌﾞﾚｰｶｰ張り　・行う　・行わない　(3.7.7)
・ｴｯｼﾞﾝｸﾞ材張り　・行う　・行わない
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の試験　(3.7.8)
※簡易接着性試験　・引張接着性試験

8 とい

といの材種　・配管用鋼管　・硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管　(3.8.2、3)(表3.8.1)
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝ

種別	施工箇所
・ろく屋根用(・縦型　・横型)	
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ用	
・ﾊﾞﾙｺﾆｰ中継用	

ﾛｯｸｳｰﾙ保温筒及びﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温筒のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※規制対象外　・
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法　※図示　・
鋼管製といの防露巻き　※改修標準仕様書表3.8.5による　・
たてどい受金物の取付け　※図示
ﾙｰﾌﾄﾞﾚｲﾝの取付け
※水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にﾓﾙﾀﾙを充填

9 アルミニウム製笠木

(3.9.2)(表3.9.1)(表5.2.2)
種類　・押出し250形　・押出し300形　・押出し350形　・図示
・板材折曲げ形(板厚さ(mm)　※2.0　・　)
表面処理　・A-1種　※B-1種　・B-2種(・ﾌﾟﾛﾝｽﾞ　・ｽﾃﾝｶﾗｰ)　(3.9.2)

既存笠木等の撤去　・行う(範囲　※図示)　(3.9.3)

笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1　・1.15　・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない

4-1 外壁改修工事(共通事項・材料)

①施工数量調査

調査範囲　⊙外壁改修範囲　・図示の範囲　(1.5.2、3)
調査内容(調査内容は壁面へ表示する)

ひび割れ	ひび割れの幅(0.2mm未満、0.2～0.3mm未満、0.3～0.5mm未満、0.5～1.0mm未満、1.0mm以上)及び長さ、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無、及び錆汁の流出の有無を調査する。
浮き	ﾓﾙﾀﾙ塗仕上げ及びﾀｲﾙ張り仕上げについては浮き部分、欠損部の形状、寸法等を調査する。
剥離・剥落	ｺﾝｸﾘｰﾄ表面のはがれ及びひび割れ落部を調査する。
塗り仕上げ	ｺﾝｸﾘｰﾄまたはﾓﾙﾀﾙ表面のはがれ及びひび割れ落部を調査する。また、既存塗膜と新規上塗材との適合性を確認する。

調査業者は使用予定材料メーカーの指定する施工業者とする。
既存部分の破壊を行った場合の補修方法　・図示　・
調査報告書の部数　※1部　・
報告書の内容　調査者(氏名、資格等)、調査日、調査結果一覧表、図面、写真等

②樹脂注入工法用エポキシ樹脂

※JIS A 6024(建築補修用注入ｴﾎﾟｷｼ樹脂)　(4.2.2)
ひび割れ幅　0.2～0.5mm未満　※低粘度形
ひび割れ幅　0.5～1.0mm未満　※中粘度形

③アンカーピン

ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ　(4.2.2)
※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ﾈｼﾞ切り加工したもの
・
注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝ　(4.2.2)
※ｽﾃﾝﾚｽ鋼(SUS304)呼び径6mm　・

④可とう性エポキシ樹脂

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

⑤パテ状エポキシ樹脂

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

⑥タイル張替えタイル部分張替え工法用接着剤

適用箇所　張替え面積が比較的小さく、下地ﾓﾙﾀﾙが健全な箇所に用いる　(4.2.2)
接着剤の種類　JIS A 5557(外装ﾀｲﾙ張り用有機系接着剤)による
一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系又は、ｳﾚﾀﾝ樹脂系とする

⑦エポキシ樹脂モルタル

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

⑧ポリマーセメントモルタル

(品質・性能)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

⑨ポリマーセメントスラリー

(品質・性能)建築材料等品質性能表による　(4.2.2)

⑩既製調合モルタル

ﾓﾙﾀﾙ下地としたﾀｲﾙ工事に使用する張付け用ﾓﾙﾀﾙとして、ｾﾒﾝﾄ、細骨材、混和材等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。　(4.2.2)
(品質・性能・試験方法)　建築材料等品質性能表による

12 タイル

タイルの形状、寸法等　(4.2.2)

主な用途による区分	形状寸法(mm)	再生材の適用G	吸水率による区分 I類	II類	III類	役物 施ゆ	施ゆ	施ゆ	ぐすり役物 あり	なし	色 標準	特注	耐凍害性 あり	なし
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
見本焼き　・行う　・行わない
試験張り　・行う　・行わない
再生ﾀｲﾙの主材　陶磁器質ﾀｲﾙで再生材利用率は原材料の重量比で20%以上使用されていること。G
ただし、再生材料は通常利用している同一工場からの廃材は除くものとする。

4-2 外壁改修工事(コンクリート打放し仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

・樹脂注入工法(ひび割れ幅0.2～1.0mm未満の場合に適用)　(4.3.4)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　)　・行わない　(4.3.4)

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上)　(4.2.2)(4.3.5)
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　※1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う　・行わない
・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂
・ｼｰﾙ工法(ひび割れ幅0.2mm未満)　(4.2.2)(4.3.6)
・ﾊﾟﾃ状ｴﾎﾟｷｼ樹脂　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

2 欠損部改修

鉄筋等の防錆処理　・行う(処理方法　※図示)　・行わない
※充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.3.7)

4-3 外壁改修工事(モルタル塗り仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

既存モルタル塗りの撤去　(4.4.2)
※行わない　・行う(範囲　※図示　・　)
撤去後の処置　「4-2.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。

・樹脂注入工法　(4.4.5)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　)　・行わない　(4.3.4)

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上)　(4.2.2)(4.4.6)
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　※1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う　・行わない
・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂
・ｼｰﾙ工法(ひび割れ幅0.2mm未満)　(4.2.2)(4.4.7)
・ﾊﾟﾃ状ｴﾎﾟｷｼ樹脂　・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

2 欠損部改修

鉄筋等の防錆処理　・行う(処理方法　※図示)
・充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.4.8)
・ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法　既製目地材　・使用する(形状　※図示)　(4.2.2)(4.4.9)

4-4 外壁改修工事(タイル張り仕上げ外壁改修)

1 ひび割れ部改修工法

既存ﾀｲﾙの撤去　(4.5.2)
・行わない
⊙行う　撤去範囲　※図示(・下地ﾓﾙﾀﾙまで　⊙張付けﾓﾙﾀﾙまで　・ﾀｲﾙのみ)

撤去後の処置
・「4-2.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。
・「4-3.1ひび割れ部改修工法」の後、「4-4.2欠損部改修」を行う。

・樹脂注入工法　(4.5.5)

種類	ひび割れ幅(mm)	注入口間隔(mm)	注入量(ml/m)
※自動式低圧ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	・130
・手動式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	・50～100	・40　・
・機械式ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	・100～200	・70　・
	0.5以上～1.0以下	・150～250	・130　・

(4.3.4)(4.5.5)

ｺｱ抜き取り検査　・行う(抜取り部の補修方法：　)　・行わない

・Uｶｯﾄｼｰﾙ材充填工法(ひび割れ幅1.0mm以上の場合に適用)　(4.5.6)
・ｼｰﾘﾝｸﾞ材　充填材料　・1成分形又は2成分形ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙの充填　・行う
・可とう性ｴﾎﾟｷｼ樹脂

・ﾀｲﾙ部分張替え工法　(4.2.2)(4.5.7、8)
接着剤の種類
・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
・JIS A 5557による一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系
・JIS A 5557による一液反応硬化形ｳﾚﾀﾝ樹脂系
・ﾀｲﾙ張替え工法
接着剤の種類
・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
・JIS A 5557による一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系
・JIS A 5557による一液反応硬化形ｳﾚﾀﾝ樹脂系

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　※改修標準仕様書表4.5.1による　・

ﾀｲﾙ張り下地等の均しﾓﾙﾀﾙの接着力試験　・行う　・行わない

・ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ﾀｲﾙ張りの工法
外装ﾀｲﾙ　・密着張り　・改良圧着張り　・改良積上げ張り
外装ﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ　・ﾏｽｸ張り　・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り
・有機系接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
伸縮調整目地その他の目地　※変成ｼﾘｺｰﾝ系　・

2 欠損部改修工法

・ﾀｲﾙ部分張替え工法　(4.2.2)(4.5.7、8)
接着剤の種類
・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ
・JIS A 5557による一液反応硬化形変成ｼﾘｺｰﾝ樹脂系
・JIS A 5557による一液反応硬化形ｳﾚﾀﾝ樹脂系

伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地
位置　※改修標準仕様書表4.5.1による　・

ﾀｲﾙ張り下地等の均しﾓﾙﾀﾙの接着力試験　・行う　・行わない

・ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ﾀｲﾙ張りの工法
外装ﾀｲﾙ　・密着張り　・改良圧着張り　・改良積上げ張り
外装ﾕﾆｯﾄﾀｲﾙ　・ﾏｽｸ張り　・ﾓｻﾞｲｸﾀｲﾙ張り
・有機系接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ｼｰﾘﾝｸﾞ材の種類
打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地　※ﾎﾟﾘｳﾚﾀﾝ系　・
伸縮調整目地その他の目地　※変成ｼﾘｺｰﾝ系　・

3 浮き部改修

既存ﾓﾙﾀﾙの撤去　・行わない　・行う(範囲　※図示、・　)　(4.4.4)
撤去後の処置　下記　・「充填工法」　・「ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法」を行う

(4.4.10～15)

改修工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 一般部	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 指定部	注入口の箇所数(箇所/m2) 一般部	注入口の箇所数(箇所/m2) 指定部	充填量(ml/箇所)	注入量(ml/箇所)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・	
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※25 ・
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・		※50 ・

充填工法　(・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ)　(4.2.2)(4.4.8)
ﾓﾙﾀﾙ塗替え工法　既製目地材　・使用する(形状　※図示)　(4.2.2)(4.4.9)

3 浮き部改修

既存ﾀｲﾙの撤去　(4.5.4)
・行わない
・行う　範囲　(※図示　・　)
切り込み深さ(・下地ﾓﾙﾀﾙまで　・張付けﾓﾙﾀﾙまで　・ﾀｲﾙのみ)
撤去後の処置
・「4-4.2欠損部改修」を行う。

(4.5.9～15)

改修工法の種類	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 一般部	ｱﾝｶｰﾋﾟﾝの本数(本/m2) 指定部	注入口の箇所数(箇所/m2) 一般部	注入口の箇所数(箇所/m2) 指定部	充填量(ml/箇所)	注入量(ml/箇所)
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・	
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※25 ・
・ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ部分ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ｴﾎﾟｷｼ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・	
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞ全面ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄｽﾗﾘｰ注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・		※50 ・
・注入口付ｱﾝｶｰﾋﾟﾝﾆﾝｸﾞｴﾎﾟｷｼ樹脂注入ﾀｲﾙ固定工法					※25 ・	

4 目地改修

・目地ひび割れ部改修工法　(4.2.2)(4.5.16)
・伸縮調整目地改修工法
伸縮調整目地　位置　※図示　・
寸法　幅(　　)mm　深さ(　　)mm

4-5 外壁改修工事（塗り仕上げ外壁改修）

①既存塗膜等の除去、下地処理及び下地調整 (4.6.3)

工法	処理範囲	下地面の補修
・ｻﾝﾀﾞｰ工法	・既存仕上面全体 ※図示	・ひび割れ部改修工法
⊙高圧水洗工法	⊙既存仕上面全体 ※図示	・浮き部改修工法
・塗膜はく離剤工法	・既存仕上面全体 ※図示	・欠損部改修工法
・水洗い工法	※図示 ・	

②下地調整塗材　下地調整　※下地調整塗材 ・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ ・防水形仕上げ塗材主材 (4.6.4)

③仕上塗材仕上げ　建物内部に使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種

新規仕上塗材の種類 (4.1.5)(4.2.2)(表4.2.4)

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状
・薄付け仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状
	・可とう形外装薄塗材Si	・	・ゆず肌状（・吹付け ・ﾛｰﾗｰ塗り）
	・外装薄塗材E	・	・さざ波状 ・平たん状
	・可とう形外装薄塗材E	・	・凹凸状（・吹付け ・こて塗り）
	・防水形外装薄塗材E	・	・着色骨材砂壁状(吹付け・こて塗り)
	・外装薄塗材S	・	・砂壁状じゅらく・京壁状じゅらく
・厚付け仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状
	・外装厚塗材Si	・	・凹凸状・ひき起こし・かき落とし
	・外装厚塗材E	・	上塗材 ・適用する
⊙複層仕上塗材	・複層塗材CE	・	⊙ゆず肌状 ・凸部処理・凹凸模様
	・可とう形複層塗材CE	・	(⊙吹付け ・ﾛｰﾗｰ)
	・複層塗材Si	・	上塗材
	・複層塗材E	・	耐候性 ※耐候性3種 ・
	・複層塗材RE	・	溶 媒 ※水系 ・溶剤系
	・防水型複層塗材CE	・	樹 脂 ※ｱｸﾘﾙ系
	⊙防水型複層塗材E	・	外 観 ※つや有り（・1色・2色）
	・防水型複層塗材RE	・	・つや無し
	・防水型複層塗材RS	・	・ﾒﾀﾘｯｸ
			防水形塗膜材
・可とう形改修用仕上塗材	・可とう形改修塗材E	・	・平たん状
	・可とう形改修塗材RE	・	・ゆず肌状
	・可とう形改修塗材CE	・	・さざ波状

④マスチック塗材塗り　・塗替え ・A種 ・B種 (4.6.6)(表4.6.7)
・新規 ・A種 ・B種

5 建具改修工事

①改修工法　⊙ｱﾙﾐﾆｳﾑ製建具（・かぶせ工法 ⊙撤去工法） (5.1.3)
・樹脂製建具 （・かぶせ工法 ・撤去工法）
⊙鋼製建具
・外部（・かぶせ工法 ⊙撤去工法（・引き抜き工法 ⊙ハツリ工法））
・内部（・かぶせ工法 ・撤去工法（・引き抜き工法 ・ハツリ工法））
・鋼製軽量建具（・かぶせ工法 ・撤去工法（・引き抜き工法 ・ハツリ工法））
・ｽﾃﾝﾚｽ製建具（・かぶせ工法 ・撤去工法（・引き抜き工法 ・ハツリ工法））

②防火戸　⊙適用する 適用箇所（・建具表による ・ ） (5.1.4)
・適用しない

③見本の製作等　建具見本の製作 ⊙行う(建具符号：) ・行わない (5.1.5)
建具見本の程度 ・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組 ・行う(建具符号：) ・行わない

④防犯建物部品　・適用する(※建具表による ・) ・適用しない (5.1.7)

⑤アルミニウム製建具　外部に面する建具 (5.2.2)(表5.2.1)(表5.2.2)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込寸法	建具符号
・A種	S-4	A-3	W-4	建具表による	
※B種	S-5				
⊙C種	S-6	A-4	W-5		

防音ﾄﾞｱｾｯﾄ・防音ｻｯｼ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4）
建具符号（・建具表による ・ ）
断熱ﾄﾞｱｾｯﾄ・断熱ｻｯｼG　断熱性の等級（・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5）
建具符号（・建具表による ・ ）
耐震ﾄﾞｱｾｯﾄ　面内変形追随性の等級（・D-1 ・D-2 ・D-3）
建具符号（・建具表による ・ ）
表面処理
外部に面する建具 ・B-1種 ⊙B-2種 ⊙A-1種
皮膜等の種類(※改修標準仕様書表5.2.2による ・)
着色（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）
屋内の建具 ・C-1種 ・C-2種 ・
皮膜等の種類(※改修標準仕様書表5.2.2による ・)
着色（・ｱﾝﾊﾞｰ ・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ ・ﾌﾞﾗｯｸ系 ・ｽﾃﾝｶﾗｰ）
結露水の処理方法 ・図示 ・
水切り板、ぜん板 ・図示 ・

⑥網戸等 (5.2.3)

種類	材種	線径	網目
・防虫網	※合成樹脂製 ・ｶﾞﾗｽ繊維入り合成樹脂製 ・ｽﾃﾝﾚｽ（SUS316）製	※0.25mm以上 ・	・16ﾒｯｼｭ ・18ﾒｯｼｭ
・防鳥網	ｽﾃﾝﾚｽ（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法 15mm

⑦樹脂製建具　外部に面する建具 (5.3.2)(表5.3.1)(表5.3.2)(表5.3.3)

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み	建具符号
・A種	S-4	A-4	W-4	建具表による	
・B種	S-5		W-5		
・C種	S-6				

防音ﾄﾞｱｾｯﾄ・防音ｻｯｼ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2）
建具符号（・建具表による ・ ）
断熱ﾄﾞｱｾｯﾄ・断熱ｻｯｼG　断熱性の等級（・H-4 ・H-5 ・H-6 ）
建具符号（・建具表による ・ ）
表面色 ※標準色 ・特注色
水切り板、ぜん板 ※図示 ・
ｶﾞﾗｽ ※複層ｶﾞﾗｽ ・

⑧鋼製建具　簡易気密ﾄﾞｱｾｯﾄ ・適用する(適用箇所※図示) ・適用しない (5.4.2)(表5.2.1)
外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 ・
防音ﾄﾞｱｾｯﾄ・防音ｻｯｼ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4）
建具符号（・建具表による ・ ）
断熱ﾄﾞｱｾｯﾄ・断熱ｻｯｼG　断熱性の等級（・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5）
建具符号（・建具表による ・ ）
耐震ﾄﾞｱｾｯﾄ　面内変形追随性の等級（・D-1 ・D-2 ・D-3）
建具符号（・建具表による ・ ）
鋼板

材料	めっき付着量	厚さ
・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)	※Z12又はF12 ・	・標準仕様書表5.4.1
・JIS G 3317(溶融亜鉛-5%ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金めっきめっき鋼板)	※Y08 ・	・

⑨鋼製軽量建具　簡易気密ﾄﾞｱｾｯﾄ ・適用する(適用箇所※図示) ・適用しない (5.5.3)
防音ﾄﾞｱｾｯﾄ・防音ｻｯｼ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4）
建具符号（・建具表による ・ ）
断熱ﾄﾞｱｾｯﾄ・断熱ｻｯｼG　断熱性の等級（・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5）
建具符号（・建具表による ・ ）
耐震ﾄﾞｱｾｯﾄ　面内変形追随性の等級（・D-1 ・D-2 ・D-3）
建具符号（・建具表による ・ ）
鋼板 ※亜鉛めっき鋼板 ・ﾋﾞﾆﾙ被覆鋼板 ・ｶﾗｰ鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板
鋼板の厚さ ・標準仕様書表5.5.1による ・
召合せ、縦小口包み板等の材質 ※鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金押出形材

⑩ステンレス製建具　簡易気密ﾄﾞｱｾｯﾄ ・適用する(適用箇所※図示) ・適用しない
外部に面する鋼製建具の耐風圧性 ※S-4 ・S-5 ・S-6 ・ (5.6.2)
防音ﾄﾞｱｾｯﾄ・防音ｻｯｼ　遮音性の等級（・T-1 ・T-2 ・T-3 ・T-4）
建具符号（・建具表による ・ ）
断熱ﾄﾞｱｾｯﾄ・断熱ｻｯｼG　断熱性の等級（・H-1 ・H-2 ・H-3 ・H-4 ・H-5）
建具符号（・建具表による ・ ）
耐震ﾄﾞｱｾｯﾄ　面内変形追随性の等級（・D-1 ・D-2 ・D-3）
建具符号（・建具表による ・ ）
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板（屋外） ・SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 (5.6.3)
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板（屋内） ・SUS304 ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・SUS430 (5.6.3)
表面仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ ・ (5.6.4)
ｽﾃﾝﾚｽ鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ (5.6.5)

⑪建具用金物　金物の種類・見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書5.7.1による
樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書表5.7.3による
握り玉、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、押板類、ｸﾚｾﾝﾄの取付位置 建具表による
・錠前類【ｼﾘﾝﾀﾞ箱錠及びｼﾘﾝﾀﾞ本締り錠】
（品質・性能・試験方法）建築材料等品質性能表による
・錠前類【ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ】
（性能・試験方法）建築材料等品質性能表による
・ｸﾛｰｻﾞ類
（品質・性能・試験方法）建築材料等品質性能表による

⑫鍵　ﾏｽﾀｰｷｰ ⊙製作する ・既存のﾏｽﾀｰｷｰに合わせる ・製作しない (5.7.4)
その他の鍵 ※3本1組 ・
鍵箱 ⊙有 ・無

⑬自動ドア開閉装置 (5.8.2～3)(表5.8.1～3)

自動ﾄﾞｱ	性能	防錆	ｾﾝｻｰの種類
・DSLD-1 ・DSLD-2 ・SSLD-1 ・SSLD-2	※改修標準仕様書表5.8.1による ・	・適用する ・適用しない	・ﾏｯﾄｽｲｯﾁ ・電波ｽｲｯﾁ ・光線（反射）ｽｲｯﾁ ・ﾀｯﾁｽｲｯﾁ ・熱線ｽｲｯﾁ ・押しﾎﾞﾀﾝｽｲｯﾁ ・音波ｽｲｯﾁ ・ﾍﾟﾀﾞﾙｽｲｯﾁ ・光電ｽｲｯﾁ ・多機能便所ｽｲｯﾁ
・SWD-1 ・SWD-2	※改修標準仕様書表5.8.2による ・		
・図示	・		

凍結防止措置 ・行う(※適用箇所は建具表による) ・行わない
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

⑭自閉式上吊り引戸装置　(性能)※ 改修標準仕様書表 5.9.1 による ・ (5.9.3)
(試験方法)建築材料等品質性能表による

⑮重量シャッター　ｼｬｯﾀｰの種類 ・管理用ｼｬｯﾀｰ 耐風圧強度（)N/m2 (5.10.2)
・外壁用防火ｼｬｯﾀｰ 耐風圧強度（)N/m2
・屋内用防火ｼｬｯﾀｰ
・屋内用防煙ｼｬｯﾀｰ
開閉機能による種類 ※上部電動式(手動併用) ・上部手動式 (5.10.2)(表5.10.1)
管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない
ｽﾗｯﾄ及びｼｬｯﾀｰｹｰｽ用鋼板 (5.10.2)
鋼板の種類 ・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)
・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量 ※Z12またはF12

⑯軽量シャッター　開閉形式 ※手動式 ・上部電動式(手動併用) (5.11.2)(表5.11.1)
耐風圧強度（)N/m2 (5.11.2)
ｽﾗｯﾄの材質 ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっき付着量(※Z06またはF06 ・)
・JIS G 3322(塗装溶融55%ｱﾙﾐﾆｳﾑ－亜鉛合金めっき鋼板)
めっき付着量(※AZ90 ・)
ｽﾗｯﾄの形状 ・ｲﾝﾀｰﾛｯｷﾝｸﾞ形 ・ｵｰﾊﾞｰﾗｯﾋﾟﾝｸﾞ形 (5.11.3～4)

⑰オーバーヘッドドア (5.12.2～3)

ｾｸｼｮﾝ材料による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ｶﾞｲﾄﾞﾚｰﾙの材質
※ｽﾁｰﾙﾀｲﾌﾟ ・ｱﾙﾐﾆｳﾑﾀｲﾌﾟ ・ﾌｧｲﾊﾞｰｸﾞﾗｽﾀｲﾌﾟ	※ﾊﾞﾗﾝｽ式 ・ﾁｪｰﾝ式 ・電動式	・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ形 ・ﾛｰﾊｯﾄﾞ形 ・ﾊｲﾘﾌﾄ形 ・ﾊﾞｰﾁｶﾙ形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板

耐風圧区分 （・125 ・100 ・75 ・50)Pa

⑱ガラス　・合わせガラス

品種	構成種類	性能
・フロート合わせガラス	・フロート板合わせガラス ・熱線吸収、フロート板合わせガラス	・Ⅰ類
・網入り磨き合わせガラス	・網入り磨き、フロート板合わせガラス ・網入り磨き、熱線吸収板合わせガラス	・Ⅱ-1類 ・Ⅱ-2類・Ⅲ類

⊙強化ガラス

材料板ガラスによる種類	種類	性能
⊙フロートガラス	⊙フロート強化ガラス ・熱線吸収強化ガラス	・Ⅰ類 ⊙Ⅲ類
・型板ガラス	・型板強化ガラス	

・熱線吸収板ガラス

品種	性能	色調
・熱線吸収フロート板ガラス	・1種 ・2種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ
・熱線吸収網入り磨き板ガラス		

⊙複層ガラス

品種	断熱性	日射熱遮へい性
・断熱複層ガラス	・1種	・U1
	・2種	・U2
	・3種	・U3-1 ・U3-2
・日射遮へい複層ガラス	・1種	・E4
	・2種	・E5

・熱線反射ガラス

品種	日射遮へい性	耐久性
・熱線反射ガラス	・1種	A種
色調（・ブルー ・グレー）	・2種	・A種 ・B種
・高性能熱線反射ガラス	・3種	B種
色調（・ブロンズ ・シルバー）		

反射皮膜面 ・内面 ・外面
映像調整 ・行わない ・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
・フロート倍強度ガラス	―
・熱線吸収倍強度ガラス	・ブルー ・グレー ・ブロンズ

ｶﾞﾗｽの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ｶﾞﾗｽ留め材	ｶﾞﾗｽ溝の大きさ(mm)
ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材(9.7.1) ・ｶﾞｽｹｯﾄ ・ｸﾞﾚｲｼﾞﾝｸﾞﾁｬﾝﾈﾙ形 ・	※標準仕様書表16.14.1による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材(9.7.1)	※標準仕様書表16.14.1による
ｽﾃﾝﾚｽ製	※ｼｰﾘﾝｸﾞ材(9.7.1)	※標準仕様書表16.14.1による

19ガラスブロック積み (5.13.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 ｸﾘｱ	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
正方形	・125×125	80	・	・	※8～15	外側	※6m以下ごとに10～25	※無し
	・160×160	・95 ・125	・	・	・15～25	※15以下・	・図示	・有り
	・200×200	・95 ・125	・	・	・	内側		
	・320×320	95	・	・		※6以上・		
長方形	・250×125	80	・	・				
	・320×160	95	・	・				

曲面積みの曲率半径は、ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材 ・設ける （形状 ※図示 ・ ） ・設けない
化粧目地ﾓﾙﾀﾙの色 （ ）
金属製化粧ｶﾊﾞｰ 材質 ・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
寸法 ※図示 ・
形状 ※図示 ・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない ※ｶﾞﾗｽﾌﾞﾛｯｸ製造所の仕様による ・

⑳ガラス用フィルム

種類	各性能による区分(JIS A 5759)	張り面	防火認定	備考
・日射調整ﾌｨﾙﾑ(SC)	・A ・B ・C	※内張り ・外張り	・有 ・無	製造所等 JIS A 5759によるもの ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種
⊙ｶﾞﾗｽ飛散防止ﾌｨﾙﾑ(GS)	・A ・B			
・ｶﾞﾗｽ貫通防止ﾌｨﾙﾑ(SF)	・A ・B			

6 内装改修工事

①改修範囲　既存間仕切壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 (6.1.3)
※ 壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取合う天井の改修範囲
※ 壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示
天井の撤去に伴う取合部の壁面の改修
※ 既存のまま ・ 図示

②既存床の撤去及び下地補修　ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ等の除去 (6.2.2)
浮き、欠損部などによる下地ﾓﾙﾀﾙの撤去 ※行う ・行わない
合成樹脂塗床の除去 ・機械的除去工法 ・目荒し工法
改修後の床の清掃 ※行う(※改修端部より1m程度 ・図示) ・行わない

③既存壁の撤去及び下地補修　間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修 (4.4.9)(6.3.2)
・ﾓﾙﾀﾙ塗り(塗り厚25mmを越える場合の補強 ・行う ・行わない) ・図示

④木材の含水率　現場搬入時の木材の含水率 ※A種 ・B種 (6.5.2)
6.5.2(b)～(e)までで含水率が規定されているものはその規定による

⑤木下地 (6.5.1)(表6.5.1)

表面仕上げの種別	適用箇所
・A種	
※B種	
・C種	

⑥製材G　※県内産木材 ・6.5.2による木材 ・市販品 (6.5.2)(表6.5.2)
適用樹種（・杉 ・桧 ）
県内産木材の適用がない場合でも可能な範囲で県内産木材の使用に勤めること
報告：静岡県産材証明制度の「県産材販売管理票」により報告すること
・合法的に生産された木材を使用すること。
報告：木材・木製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ
（平成18年2月15日林野庁作成）に準拠した証明書により報告すること
造作材の材面の品質の基準 ※A種 ・B種

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材 (6.5.2)

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※2級		※A種 ・B種	・
			※2級		※A種 ・B種	・
			※2級		※A種 ・B種	・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
					※A種 ・B種	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	間伐材等の適用
			※1等		※A種 ・B種	・
			※1等		※A種 ・B種	・
			※1等		※A種 ・B種	・

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			（ ） 造作材の場合(※A種 ・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※A種 ・B種	・

・代用樹種を使用できない箇所（ ）

⑥造作用集成材G　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・ (6.5.2)
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
			※1等	・
			※1等	・
			※1等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
					※1等	・
					※1等	・
					※1等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	間伐材等の適用
					・
					・
					・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※A種 ・B種	・
				※A種 ・B種	・
				※A種 ・B種	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※A種 ・B種	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※A種 ・B種	・

⑦造作用単板積層材G　ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・ (6.5.2)
「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し(等級：)	・適用する ・適用しない	・

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り (加工・天然木加工・塗装加工) ・無し( )	・適用する ・適用しない	※14%以下	・

6 内装改修工事

⑧床張り用合板等 G

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.5.2)

・普通合板G

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※5.5・		※1類・2類	広葉樹 ※2等以上・1等 針葉樹 ※C-D以上・	・適用する・適用しない	・

難燃処理―防炎処理

・構造用合板G

施工箇所	厚さ(mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※12・	※2級以上・1級		※1類・特類	※C-D以上・	・適用する・適用しない	・適用する( )・適用しない	・

・ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG

施工箇所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※15・		※13タイプ・	※P又はM・	

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級

⑨接着剤 (6.5.3)(6.8.2)(6.9.3)(6.11.4,5)

接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量 ※ 規制対象外 ・

10防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材 (6.5.5)
適用部位：( )
・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②7～ｴによる
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②7～ｴによる
	※改修標準仕様書6.5.5(a)(ⅲ)②7～ｴによる

・ﾎﾞｰﾄﾞ原料接着材への薬剤混入による防腐、防蟻処理
適用部位( )

⑪軽量鉄骨天井下地

特定天井 ・有(仕様・位置は図示による) ○無し
野縁等の種類 (6.6.2～4)
屋外(※25形 ・19形) 屋内(※19形 ・25形)
・屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1 ・1.15 ・1.3)倍の風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
・適用しない
野縁受、吊りﾎﾞﾙﾄ及びｲﾝｻｰﾄの間隔 ・図示 ・
周辺部の端からの間隔 ・図示 ・
野縁の間隔 ・図示 ・
既存の埋込みｲﾝｻｰﾄ ・使用する ・使用しない
あと施工ｱﾝｶｰの引抜き試験 ・行う(屋外の場合の方法：)
・行わない
・吊りﾎﾞﾙﾄの間隔が900mmを超える場合の補強方法 ※図示 ・
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合の補強方法
※改修標準仕様書6.6.4(h)(1)(2)による ・
・天井のふところが3.0mを超える場合の補強方法 ※図示
・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示 ・
補強方法 ※図示 ・

⑫軽量鉄骨壁下地

ｽﾀｯﾄﾞ、ランナーの種類 (6.7.3)(表6.7.1)
※改修標準仕様書6.7.3によるｽﾀｯﾄﾞの高さにより区分に応じた種類
・
ｽﾀｯﾄﾞの高さが5mを超える場合 ※図示 ・

13ビニル床シート ビニル床タイルの特殊機能

帯電防止機能 (6.8.2)
帯電防止性能評価値（JIS A 1455）1.2以上～3.2未満、
又は体積電気抵抗値（JIS A 1454）1x10^7～1x10^10Ω程度
耐動荷重
JIS A 1454による、へこみ試験、残留へこみ試験、滑り性試験、摩擦性試験、層間はく離強度試験（発泡層のあるビニル床シートのみ）及びキャスター性試験等の試験後、異常がないこと

⑭ビニル床シート G (6.8.2～3)

種類	JIS記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ(mm)
発泡層のないもの	※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ)・		・無地・ﾏｰﾌﾞﾙ柄	・帯電防止・耐動荷重・防滑性・耐薬品性	※2.0・
発泡層のあるもの	・		・無地・柄物		

再生ﾋﾞﾆﾙ樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること(PFの場合を除く)
工法 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所：)

15ビニル床タイル張りG (6.8.2)

種類の記号	施工箇所	色柄	寸法（mm）	特殊機能	厚さ(mm)
・FT		・無地・	・300×300・450×450	・帯電防止・防滑性	※2.0・
・KT		・無地・	・300×300・450×450	・帯電防止・防滑性	・2.0・
・FOA		・無地・	・500×500	・帯電防止・防滑性	・2.0・

再生ﾋﾞﾆﾙ樹脂系材料の合計重量が製品の総重量比で15%以上使用されていること

16視覚障害者用床タイル (6.8.2)

施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内	・塩化ﾋﾞﾆﾙ製	※300×300 ・	※7.0 ・
	・磁器又はせっ器質ﾀｲﾙ	※300×300 ・	
	・ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	※300×300 ・	
屋外	・磁器又はせっ器質ﾀｲﾙ	300×300 ・	※30 ・
	・ﾚｼﾞﾝｺﾝｸﾘｰﾄ製	・300×300 ・	

ﾌﾞﾛｯｸﾊﾟﾀｰﾝはJIS T 9251による

⑰ビニル幅木 材質 ・硬質 ・軟質 (6.8.2)
厚さ ※1.5mm以上 ・ 高さ(mm) ※60 ・75 ・100

18ゴム床タイル 色柄 ( ) (6.8.2)
厚さ(mm) ・3.0 ・4.5 ・6.0 ・9.0
寸法(mm)( )

⑲カーペット敷き

・織じゅうたん (6.9.2)(表6.9.1)

種別	ﾊﾟｲﾙ形状	帯電性	織り方	色柄等	備考
・A種 ・B種 ・C種	・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ ・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ ・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・適用する ※人体帯電圧3kv以下 ・適用しない	・ｳｪﾙﾄﾝｶｰﾍﾟｯﾄ ・ﾀﾞﾌﾞﾙﾌｪｰｽｶｰﾍﾟｯﾄ ・ｱｷｽﾐﾝｽﾀｰｶｰﾍﾟｯﾄ	・無地 ・柄物(標準品)	

下敷き材 ※反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm ・

・ﾀﾌﾃｯﾄﾞｶｰﾍﾟｯﾄ (6.9.2～3)

ﾊﾟｲﾙ形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	※5～7 ・	※全面接着工法 ・ｸﾞﾘｯﾊﾟｰ工法	・適用する ※人体帯電圧3kv以下 ・適用しない	
・ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※4～6 ・			
・ﾚﾍﾞﾙﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※4 ・			
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛ﾌｪﾙﾄ(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ8mm ・

・ﾆｰﾄﾞﾙﾊﾟﾝﾁｶｰﾍﾟｯﾄ 厚さ(mm) ・ (6.9.2)
帯電性 ・適用する(※人体帯電圧3kv以下 ・)
・適用しない
備考( )

○ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ (6.9.2)

ﾊﾟｲﾙ形状	種別	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ﾙｰﾌﾟﾊﾟｲﾙ	※第一種・第二種		※500×500・	※6.5・	
・ｶｯﾄﾊﾟｲﾙ	・第一種・第二種		※500×500・	※6.5・	
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種・第二種		※500×500・	※6.5・	

ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し ・
階段部分 ・市松敷き ※模様流し ・
見切り、押え金物の材質、形状等 ※図示

20合成樹脂塗床 (6.10.2～3)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床(JIS K 5970)			工程 塗布量(kg/m2) ・ 表面仕上げ ・平滑 ・防滑 溶剤 ・水性色・溶剤系・無溶剤系 仕上げ色 ・標準色 ・

塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種

㉑フローリング張り

・単層ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞG (6.11.2～7)

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	大きさ	仕上塗装	間伐材等の適用
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾎﾞｰﾄﾞ 1等	・釘止め工法(根太張り)	※なら・	15	板幅75 板長さ500以上	・塗装品 ・無塗装品	・
	・釘止め工法(直張り)	※なら・	・12以上・	板幅75 板長さ300以上		・
	・接着工法	※なら・	・12以上・	板幅75 板長さ300以上		・
・ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞﾌﾞﾛｯｸ 1等	・接着工法	※なら	15	303×303	・塗装品	・
・ﾓｻﾞｲｸﾊﾟｰｹｯﾄ 1等	接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品	・

ﾓﾙﾀﾙ埋込工法

○天然木化粧複合ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞG (6.11.2～7)

種類	工法	樹種	厚さ・大きさ(mm)	種別	防湿処理	仕上塗装	間伐材等の適用
	・釘留工法(根太張り工法) ・釘留工法(直張り工法)	※なら・		・A種 ・B種 ・C種	・行う ・行わない	・塗装品 ・無塗装品	・
	・接着工法	※なら・	板厚・8mm以上・ 板幅・75以上・ 板長さ 900以上				・

ﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ及び接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.11.2)
接着工法の場合の緩衝材 ※合成樹脂発泡シート
現場塗装 ・行う(施工箇所：) ○行わない (6.11.7)
※ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り ・ｵｲﾙｽﾃｲﾝの上、ﾜｯｸｽ塗り ・生地のままﾜｯｸｽ塗り

22畳敷き 種別 (6.12.2)(表6.12.1)
・A種 ・B種 ・C種 ・D種(畳床KT- ・Ⅰ ・Ⅱ ・Ⅲ ・K ・N)

㉓せっこうボード その他ボード及び合板張り (6.13.2)(表6.13.1)

種類	JIS記号	略号	厚さ(mm)、規格等
・せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-R	GB-R	・9.5(準不燃) ※12.5(不燃) ・15(不燃)
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様)	GB-D	GB-D(T)	※9.5(準不燃) ・
・化粧せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(木目)	GB-D	GB-D(W)	※12.5(不燃) ・ 模様(※柾目 ・板目)
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(化粧無)	GB-NC	GB-NC	(下張用) ※9.5(不燃) ・
・不燃積層せっこうﾎﾞｰﾄﾞ(化粧有)	GB-NC	GB-NC(T)	(ﾄﾗﾊﾞｰﾁﾝ模様) ※9.5(不燃) ・
・ｼｰｼﾞﾝｸﾞﾎﾞせっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-S	GB-S	・12.5(不燃) ・15(不燃)
・強化せっこうﾎﾞｰﾄﾞ	GB-F	GB-F	・12.5(不燃) ・15(不燃)
・せっこうﾗｽﾎﾞｰﾄﾞ	GB-L	GB-L	※9.5(不燃) ・
・けい酸ｶﾙｼｳﾑ板	0.8FK 1.0FK	FK 化粧FK	ﾀｲﾌﾟ2(無石綿) ・6(不燃) ・8(不燃)
・けい酸ｶﾙｼｳﾑ板(化粧有)			ﾀｲﾌﾟ2(無石綿) ・6(不燃) ・8(不燃)
・ﾛｯｸｳｰﾙ化粧吸音板	DR	DR	※ﾌﾗｯﾄﾀｲﾌﾟ(※9(不燃) ・12(不燃)) ・凹凸ﾀｲﾌﾟ(※12(不燃) ・15(不燃))
・ﾛｯｸｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号	RW-B	RW-B	・25 ・
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ吸音ﾎﾞｰﾄﾞ1号32K	GW-B	GW-B	・25(ｶﾞﾗｽｳｰﾙ包) ・ 固定方法：化粧ﾋﾟﾝ止め(縦横300程度)
・硬質木毛ｾﾒﾝﾄ板G	HW	HW	・15 ・20 ・25 ・
・中質木毛ｾﾒﾝﾄ板G	MW	MW	・15 ・20 ・25 ・
・普通木毛ｾﾒﾝﾄ板G	NW	NW	・15 ・20 ・25 ・
・硬質木片ｾﾒﾝﾄ板G	HF	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・
・普通木片ｾﾒﾝﾄ板G	NF	NF	・30 ・
・天然木化粧合板G			樹種名(・) 接着程度 ・1類 ・2類) 厚さ(mm) (・) ・防虫処理 ・難燃処理―→防炎処理
・特殊加工化粧合板G			化粧加工の方法 (・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ ・ﾌﾟﾘﾝﾄ ・塗装) 表面性能 ( )ﾀｲﾌﾟ 接着程度 ・1類 ・2類) 厚さ(mm) (・) ・防虫処理 ・難燃処理―→防炎処理
・普通合板G			表面の材種 ・生地、透明塗料塗り(ﾗﾜﾝ合板程度) ・不透明塗料塗り(しな合板程度) 板面の品質 ( ) 接着程度 ・1類 ・2類) 厚さ(mm) (・) ・防虫処理 ・難燃処理―→防炎処理
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板			JIS K 6903による (※1.2 ・)
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂化粧板			
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞG	MDF	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(素地)G	HB	HB	・未研磨板(・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ) ・研磨板(・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ)
・ﾊｰﾄﾞﾎﾞｰﾄﾞ(化粧)G			・内装用 ・外装用 ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
・ｲﾝｼｭﾚｰｼｮﾝﾎﾞｰﾄﾞG	IB	IB	A級(・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18
・単板張りﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG			・未研磨板 ・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18
・化粧ﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞG			・単板ﾌﾞﾊﾟｰﾚｲ・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ・塗装 ・10(難燃) ・12(難燃) ・

遮音ｼｰﾙ材 ・適用する(・ｼｰﾘﾝｸﾞ材 ・ｼﾞｮｲﾝﾄｺﾝﾊﾟｳﾝﾄﾞ) (6.13.2)
合板類、繊維板及びﾊﾟｰﾃｨｸﾙﾎﾞｰﾄﾞのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 (6.13.2)
※規制対象外 ・第三種
合板類の張付け ・A種 ※B種 (6.13.3)
石膏ﾎﾞｰﾄﾞの目地工法等 ※仕上表による ・ (6.13.3)

㉔壁紙張り ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 ※規制対象外 ・第三種 (6.14.2)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火種別	備考
	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	
	・	・	・	・	・不燃・準不燃・難燃	

下地調整 せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面 ・RA種 ※RB種 ・RC種 (6.14.3)
ｺﾝｸﾘｰﾄ・ALC面 ・RA種 ※RB種 ・RC種
ﾓﾙﾀﾙ・ﾌﾟﾗｽﾀｰ面 ・RA種 ※RB種 ・RC種

㉕モルタル塗り 吸水調整材は、改修工事標準仕様書表4.2.2による (6.15.3、6)
既製目地材 ※適用する ・適用しない
既製目地材形状 ※図示
床目地 ・設ける(工法 ※押し目地 ・) ・設けない
・防水剤 (6.15.6)
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

㉖タイル 伸縮調整目地の位置 (6.16.2～4)
床ﾀｲﾙ(※縦、横とも4m以内ごと ・図示 ・)
床ﾀｲﾙ以外(・図示 ・)

・ｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙによる陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ﾀｲﾙの形状、寸法等

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用G	耐凍害性 有	無	備考
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

⑦塗装改修工事

①材料 屋内で使用する塗料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量 (7.1.3)
※規制対象外 ・
・防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・次の箇所を除き防火材料とする(箇所：)

②下地調整 RB種の場合の既存塗膜の除去範囲 ※塗替え面積の30% ・図示 ・ (7.2.1)
錆止め塗料の除去 鉛含有分析 ・行う(分析方法：) ・行わない
除去方法：鉛作業主任者を選任し、湿式により除去すること。
下地調整 (7.2.2～7)(表7.2.1～7)

下地面の種類	下地調整の種別 塗替え	新規	ひび割れ部の補修
木部	・RA種※RB種・RC種	・RA種 ・RB種	
鉄鋼面	・RA種※RB種・RC種	RA種	
亜鉛めっき鋼面	・RA種※RB種・RC種	RA種	
亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	・RA種※RB種・RC種	RC種	
ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面	・RA種※RB種・RC種	・RA種 ・RB種	・行う・行わない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP以外) ALCﾊﾟﾈﾙ面	・RA種※RB種・RC種	RA種	・行う・行わない
ｺﾝｸﾘｰﾄ面(DP) 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・RA種・RB種・RC種	RA種	・行う・行わない
石こうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面	※RA種※RB種・RC種	・RA種 ・RB種	

③錆止め塗料塗り 錆止め塗料塗りの種別 (7.3.2～3)(表7.3.1～4)

	塗装面	塗料	工程
鉄鋼面	屋外又は屋内(EP-G以外) 塗替え	※A種	※C種 ・
	屋外又は屋内(EP-G以外) 新規：見え掛り部分	※A種	※A種 ・
	屋外又は屋内(EP-G以外) 新規：見え隠れ部分	※A種	※B種 ・
	屋内(EP-G) 塗替え	※B種	※C種 ・
	屋内(EP-G) 新規：見え掛り部分	※B種	※A種 ・
	屋内(EP-G) 新規：見え隠れ部分	※B種	※B種 ・
亜鉛めっき面	屋外又は屋内(EP-G以外) 塗替え	※A種 ・B種	※C種 ・
	屋外又は屋内(EP-G以外) 新規鉄鋼面	※A種 ・B種	※A種 ・
	屋内(EP-G) 塗替え	※C種	※C種 ・
	屋内(EP-G) 新規鉄鋼面	※C種	※A種 ・

④塗装 (7.4.2～7.15.2)(表7.4.1～7.15.1)

塗装の種類	塗装面	工程 塗替え	新規
・合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)塗料の種別 ※1種 ・2種	木部(外部)	※B種 ・	※A種 ・
	木部(内部)	※B種 ・	※B種 ・
	鉄鋼面	※B種 ・	※B種 ・
	亜鉛めっき鋼面	※B種 ・	※B種 ・
	鋼製建具	※A種 ・	※B種 ・
・ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り(CL)		・A種 ※B種	・A種 ※B種
・ﾌﾀﾙ酸樹脂ｴﾅﾒﾙ塗り(FE)		—	—
・ｱｸﾘﾙ樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)		※B種 ・A種	※B種 ・A種
・耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面 上塗り等級 ・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種	※A種
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級 ・1級 ・2級 ・3級	・A種 ・B種 ・C種	※A種
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面 押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種
・つや有り合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	屋内木部	※B種 ・	※A種 ・
	屋内鉄鋼面	※B種 ・	・A種 ※B種
	屋内亜鉛めっき鋼面	※B種 ・	・A種 ※B種
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面等	※B種 ・	・A種 ※B種
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP)		※B種 ・	・A種 ※B種
・合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝ模様塗料塗り(EP-T)		※B種 ・	・A種 ※B種
・ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り(UC)		※B種 ・A種	・A種 ※B種
・ﾗｯｶｰｴﾅﾒﾙ塗り(LE)		※B種 ・A種	・A種 ※B種
・ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り(OS)			
・木材保護塗料塗り(WP)		※B種 ・A種	・A種 ※B種

つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面)の塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めｼｰﾗとする
・
合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗りの塗替えの場合のしみ止め
※改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めｼｰﾗとする

・金属製屋根面に塗装する場合の塗料はJIS K 5675に適合する資材とする。種別、工程及び塗付量は図示による。

既製調合目地材
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

○接着剤による陶磁器質ﾀｲﾙ張り
ﾀｲﾙの形状、寸法等

主な用途による区分 施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用G	耐凍害性 有	無	備考
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
				・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ○行う ・行わない
見本焼き ○行う ・行わない
内装壁ﾀｲﾙ接着材張りに使用する有機質接着剤のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量
※規制対象外 ・

㉗セルフレベリング材塗り ・せっこう系 塗厚( )mm (6.17.2)(表6.17.1)
・ｾﾒﾝﾄ系 塗厚( )mm

| | | | |

8-1 耐震改修工事（鉄筋工事）

①鉄筋

鉄筋の種類 (8.2.1)(表8.2.1)

種類の記号	呼び径(mm)	備考
・SD295A	※D16以下	JIS G 3112
・SD345	※D19以上	JIS G 3112
・SR235	※ｽﾊﾟｲﾗﾙ筋全ての径	JIS G 3112
・SS400	※ｽﾀｯﾄﾞﾎﾞﾙﾄ	JIS B 1198

②溶接金網

形状等 (8.2.2)

種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	使用部位
・溶接金網	SR235	9φ-150×150	床開口閉塞
・鉄筋格子	SD295A	D6-100×100	既存壁スリーブ補強

③継手及び定着

継手方法等 (8.3.4)(8.4.2)

部位	継手方法	呼び径(mm)
柱、梁の主筋	・ｶﾞｽ圧接　・機械式継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手　・	D10～D16
その他の鉄筋(既存壁　)	・重ね継手　・フレア溶接継手	D10～D16

主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ (8.3.4)
・40d(軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの場合は50d)と標準仕様書表5.3.2の大きい方の値
⊙図示による

柱に取り付ける梁の引張り鉄筋定着長さ
・標準仕様書表5.3.4
・図示による

その他鉄筋の定着方法及び定着の長さ (8.3.4)
⊙図示による

その他鉄筋の継ぎ手位置 (8.3.4)
⊙図示による

④鉄筋のかぶり厚さ及び間隔（溶接金網含む）

※最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (8.3.5)(表8.3.6)
柱及び梁の主筋にD29以上の使用　⊙無し
・有り
※主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保する
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄで土に接する部分　⊙無し
・有り　適用箇所(　　)
・標準仕様書表5.3.6に加える厚さ　(　　)mm

耐久性上不利な部分(塩害等を受けるおそれのある部分等)
⊙無し
・有り　適用箇所(　　)
・標準仕様書表5.3.6に加える厚さ　(　　)mm

５機械式継手及び溶接継手

使用箇所 (8.4.2)
※図示による
性能(H12建告第1463号に適合するもの) (8.4.2)
・A級　・
機械式継手の種類(　　) (8.4.2)
鉄筋相互のあき (8.3.5)
・図示による　・標準仕様書8.3.5(d)による
品質の確認方法 (8.4.2)
・図示による
不良となった継手の修正方法等 (8.4.2)
・図示による

６圧接完了後の試験

外観試験　※行う(全数) (8.3.8)
抜取試験　※超音波探傷試験
試験の箇所数等　・標準仕様書[5.4.9]、[5.4.10]による　・
・引張試験
試験片の採取数は、1ﾛｯﾄに対して(※3本　・　　)とする
試験ﾛｯﾄ：1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごとexcept.
試験片を採取した箇所の処置：ｶﾞｽ圧接

8-2 耐震改修工事（コンクリート工事）

①レディーミクストコンクリート製造工場

※品質管理監督検査合格工場(○適ﾏｰｸ取得工場)
・

②コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度

普通ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 (8.1.3)(8.1.4)[6.2.4][表6.2.2)

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
⊙21	※18cm	※耐震補強壁　⊙土間ｺﾝ
⊙24	※18cm	※耐震補強壁
・21　・24	※21cm	※圧入工法による開口閉塞部分

軽量ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 (8.1.3)(8.10.3)[6.2.4][表6.2.2]

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
・	・	
・	・	

③コンクリート種別

種別 (8.1.3)
※Ⅰ類(JIS A 5308への適合を認証されたｺﾝｸﾘｰﾄ)
・Ⅱ類(JIS A 5308に適合したｺﾝｸﾘｰﾄ)

④気乾単位容積質量

普通ｺﾝｸﾘｰﾄ　・2.3t/m3程度　・ [6.2.3]
軽量ｺﾝｸﾘｰﾄ　・1.6t/m3程度　・1.95t/m3程度　・ (8.9.2)

⑤コンクリートの仕上り

部材の位置及び断面寸法の許容差の標準値 (8.1.4)(表8.1.2)
・標準仕様書　表8.1.2による　・

合板せき板を用いるｺﾝｸﾘｰﾄの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

⑥セメント

種類 (8.2.5)[6.13.2](表8.2.3)
※普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ又は混合ｾﾒﾝﾄのＡ種
普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、水和熱が7日目で352J/gｲｶ下、かつ28日目で402J/gｲｶ下のものとする。
・高炉ｾﾒﾝﾄB種G
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種G
・

⑦骨材

ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分　※A　・B (8.2.5)

⑧混和材料

(8.2.5)
※混和剤の適用(・AE減水剤　※高性能AE減水剤(開口閉塞圧入部分)　)
・混和材の適用(ﾌﾗｲｱｯｼｭⅠ種又はⅡ種　・高炉ｽﾗｸﾞ　・膨張材　・　)

⑨ひび割れ誘発目地、打継目地

目地寸法　※「3防水改修工事　ｱｼｰﾘﾝｸﾞ」による [6.6.3][6.8.2][11.1.3](8.7.3)
間隔・位置・形状　・図示 [6.8.2]

⑩打増し厚さ(打放し仕上げ部)

・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) (8.7.8)
・20mm　・
・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る)
・10mm　・

⑪型枠

せき板の材料及び厚さ　・合板(※12mm　・　　)　・ (8.2.7)
断熱材の兼用　・行わない　・行う [6.8.3]
MCR工法用ｼｰﾄ　・用いる　・用いない [6.8.3]
打増し厚さ　・20mm　・
打増し範囲　図示による　・
(8.2.7)(表8.2.4)
ｽﾘｰﾌﾞの材種　※標準仕様書(8.2.7)(f)(2)及び標準仕様書(表8.2.6)による
・

⑫型枠の加工及び部位

ｼﾌｺﾈｸﾀをﾊﾞｲﾚｰﾀｰとして使用 (8.7.8)
・適用箇所　・図示による
(8.9.1)(表8.9.1)

13軽量コンクリート

種別　・1種　使用部位(　　)　・2種　使用部位(　　)
適用箇所　・図示による　・ (8.9.1)

⑭寒中コンクリート

適用期間　・図示による　・ [6.11.1]
・調合管理強度及び調合強度を積算温度を元に定める　(　　D・D)

⑮暑中コンクリート

構造体強度補正値(S)　※6N/mm2 (8.10.2)

16マスコンクリート

ｾﾒﾝﾄの種類　・中庸熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ [6.13.2]
・低熱ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ
・高炉ｾﾒﾝﾄB種G
・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種G
・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄにJIS A 6206に適合するｺﾝｸﾘｰﾄ用高炉ｽﾗｸﾞ粉末の4000を混合したもの
適用箇所　※図示による　・
・混和材 [6.13.2]
混和材の種類　※JIS A 6206に適合するｺﾝｸﾘｰﾄ用高炉ｽﾗｸﾞ微粉末の4000G
・混和剤 [6.13.2]
混和剤の種類　※JIS A 6204に適合するAE減水材又は高性能AE減水剤
・
ｽﾗﾝﾌﾟ　※15cm　・

17無筋コンクリート

無筋ｺﾝｸﾘｰﾄの設計基準強度 [6.14.1]　[6.14.3]

設計基準強度 (N/mm2)	ｽﾗﾝﾌﾟ	適用箇所
※18	※15又は18	※標準仕様書6.14.1(e)　・図示
・	・	
・	・	

18流動化コンクリート

適用箇所　・図示による　・ [6.2.1][6.15.1]

⑲構造用モルタル

圧縮強度(　　) (8.2.6)
ﾌﾛｰ値(　　)
⊙グラウトモルタルは構造図による

8-3 耐震改修工事（鉄骨工事）

①鉄骨の製作工場

※建築基準法に基づき性能評価を受けた製作工場で、下記に認定された製作工場
・Sｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Hｸﾞﾚｰﾄﾞ　⊙Mｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Rｸﾞﾚｰﾄﾞ　・Jｸﾞﾚｰﾄﾞ (8.1.5)
・上記のもの以外の製作工場(・監督員の承諾する製作工場　・　　)

②施工管理技術者

※適用する　・適用しない [7.1.3](8.1.5)

③鋼材

材質等 (8.2.8)(表8.2.7)

種類の記号	適用箇所(主要な部分)	規格
SN400B	鉄骨ブレース補強	・JIS規格による　・
STK400	外部階段柱	・JIS規格による　・
SS400	アングル材　他	・JIS規格による　・
		・
		・
		・

④高力ボルト

ﾎﾞﾙﾄの区分 (8.2.9)
⊙ﾄﾙｼｱ形高力ﾎﾞﾙﾄ　・JIS形高力ﾎﾞﾙﾄ
高力ﾎﾞﾙﾄの径　・図示による
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　・図示による
すべり係数試験　※行わない　・行う (8.13.2)
試験方法等　・図示による　・

⑤溶融亜鉛めっき高力ボルト

ｾｯﾄの種類　・１種(F8T相当) [7.12.4]
溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄの径　・図示による
溶融亜鉛めっき高力ﾎﾞﾙﾄのめっき前の孔径
・審査(評定又は大臣認定)を受けた内容による
ﾎﾞﾙﾄの縁端距離、ﾎﾞﾙﾄの間隔、ｹﾞｰｼﾞ等　・図示による
摩擦面の処理
・ﾌﾞﾗｽﾄ処理（表面粗度50μmRz以上）　・りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法
※すべり係数試験　試験方法等　・図示による　・

⑥アンカーボルト

適用　・建方用ｱﾝｶｰ [7.2.4][7.10.3]
材質　・SS400　・
・構造用ｱﾝｶｰ
材質　・SNR400B　・
ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄ及びﾅｯﾄのねじの種類の規格、及び仕上げの程度 [7.2.4][表7.2.3]
※標準仕様書　表7.2.3による　・

⑦溶接材料

溶接材料　・標準仕様書8.2.10(a)(b)による。 (8.2.10)
・標準仕様書8.2.10(a)(b)以外の溶接材料

⑧デッキプレート

材質、形状及び寸法 [7.2.7]

	適用箇所	材質・形状・寸法	備考
・構造床			
・合成ｽﾗﾌﾞ	床開口閉塞	QL-99-50-16G	
・床型枠用鋼製ﾃﾞｯｷ			
・			

開口部補強要領(補強筋の定着長さ等を含む)　・図示による　・
鉄骨部材への溶接方法　・図示による　・ [7.7.8]
耐火認定　・有り　⊙無し
耐火時間　・図示による　・

⑨スタッド

材質、形状及び寸法
※頭付きｽﾀｯﾄﾞJIS B 1198　・

呼び名	呼び長さ(mm)	適用箇所
・16	150	鉄骨ブレース補強
・19		
・22		

⑩柱底均しモルタル

ﾓﾙﾀﾙの種別　※無収縮ﾓﾙﾀﾙ　・ (8.2.11)[7.10.3]
柱底均しﾓﾙﾀﾙの厚さ　・50mm　⊙80mm　・

⑪工作図

原寸図の作成　・行う　⊙行わない (8.1.6)
監督員による現寸検査　⊙行う(CADによる詳細確認)　・行わない
※増築工事等を含め、既存建築物との取り合う箇所がある場合は現場実測の上、工作図を作成すること

⑫鉄骨の仮組

・行う　⊙行わない (8.12.9)
仮組を行う範囲　・図示による　・
確認方法、確認項目　・図示による　・

⑬溶接作業における技能資格者

溶接作業者の技量付加試験　※行わない　・行う (8.14.3)
試験の要領　・

⑭溶接接合

ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞの切除の必要性　・見え掛り部となる部分(⊙有・無) (8.14.7)
・見え隠れ部となる部分(・有⊙無)
・無し
※固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞの使用
固形ﾌﾗｯｸｽﾀﾌﾞを使用する場合はAW検定技能会議の実施する認定試験の合格者若しくは、日本ｴﾝﾄﾞﾀﾌﾞ協会の実施する施工講習会受講者が施工すること。

15耐火被覆

種別 (8.17.2)

種別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・耐火材吹付け	・乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ	
	・半乾式吹付けﾛｯｸｳｰﾙ	
	・	
	・	
	・	
・耐火板張り	・繊維混入けい酸ｶﾙｼｳﾑ板	
	・	
・耐火材巻付け	・高断熱ﾛｯｸｳｰﾙ	
	・	
・ﾗｽ張りﾓﾙﾀﾙ塗り	—	

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする
性能

性能	適用箇所(部位・部分)
・30分耐火	
・45分耐火	
・1時間耐火	
・2時間耐火	

⑯アンカーボルトの保持及び埋込み工法

構造用ｱﾝｶｰﾌﾚｰﾑの形状及び寸法 [7.10.3]
・図示による　・
建方用ｱﾝｶｰﾎﾞﾙﾄの保持及び埋込み工法 [表7.10.1]
種別　・A種　・B種　・C種

17軽量形鋼構造

接合部(ﾎﾞﾙﾄ接合の場合)　・普通ﾎﾞﾙﾄ接合　・ [7.11.2]

9 環境配慮改修工事

１アスベスト含有建材の処理工事

施工調査
※ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材の事前調査 (9.1.1)
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によりｱｽﾍﾞｽﾄを含有している吹付材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する
調査範囲　・図示　・
貸与資料　・
・分析によるｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材の調査
分析対象：ｱﾝﾄﾗｲﾄ、ｱﾓｻｲﾄ、ｱﾝｿﾌｧｲﾗｲﾄ、ｸﾘｿﾀｲﾙ、ｸﾛｼﾄﾞﾗｲﾄ、ﾄﾚﾓﾗｲﾄ
分析方法(ｻﾝﾌﾟﾙ数：3ｻﾝﾌﾟﾙ/箇所)

材料名	定性分析(JISA1481-2)	定量分析(JISA1481-3)
	・(箇所数：　)	・(箇所数：　)
	・(箇所数：　)	・(箇所数：　)
	・(箇所数：　)	・(箇所数：　)
	・(箇所数：　)	・(箇所数：　)

採取箇所　・図示　・
ｱｽﾍﾞｽﾄ粉じん濃度測定　・行う　・行わない
測定室(　　)
[屋内改修用]

適用	測定時期	測定名称	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考
・	処理作業前	測定１	処理作業室内	各2点又は3点	(注)１
		測定２	調査対象室外部の付置	2点	大気
・	処理作業中	測定３	処理作業室内	各2点又は3点	(注)１
・		測定４	負圧・粉塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の各位置2点	—
・		測定５	処理作業室外	4方向各1点(敷地境界)	—
・	処理作業後(ｼｰﾄ養生中)	測定６	処理作業室内	計2点	—
・	処理作業後ｼｰﾄ撤去後1週間以降	測定７	処理作業室内	各2点又は3点	(注)１
・		測定８	調査対象室外部の付置	2点	大気

注1　各施工箇所ごとの室面積が50m2以下までは2点、300m2以下までは3点とする。300m2を超えるものは、監督員と協議する。

[屋外改修用・解体工事用]

適用	測定時期	測定名称	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考
・	作業前	測定１	処理作業室外	4方向各1点(敷地境界)	
・	作業中	測定２	処理作業室外	4方向各1点(敷地境界)	
・	処理作業後	測定３	処理作業室外	4方向各1点(敷地境界)	

ｱｽﾍﾞｽﾄ粉塵濃度測定方法

	測定3	測定1，2，4，6，7，8	測定5
計数機器	位相差顕微鏡		
ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径	25mm		47mm
試料の吸引流量	1ﾘｯﾄﾙ/min	5ﾘｯﾄﾙ/min	10ﾘｯﾄﾙ/min
試料の吸引時間	5min	120min	240min
試料の透明化	ｱｾﾄﾝｼﾞﾒﾁﾙｼﾞｴﾁﾙｹﾄﾝ法又はｼｭｳ酸ｼﾞﾒﾁﾙ法		
計数条件	総ｱｽﾍﾞｽﾄ繊維数200本又は視野数50視野		
計数ｱｽﾍﾞｽﾄ	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3：1以上		
定量限界	50ｆ/ﾘｯﾄﾙ	0.5ｆ/ﾘｯﾄﾙ	0.3ｆ/ﾘｯﾄﾙ

ｱｽﾍﾞｽﾄ含有建材の処理
・ｱｽﾍﾞｽﾄ含有吹付け材の除去 (9.1.3)
除去対象範囲　※図示
除去工法　※改修標準仕様書9.1.3(b)(1)による。
・
除去したｱｽﾍﾞｽﾄ含有吹付け材等飛散防止　※密封処理　※湿潤化　・ｾﾒﾝﾄ固化等
厚さ(　　mm)　処理範囲(※図示(約　　m2))
処分方法　・埋立処分(管理型最終処分場)　・中間処理(溶融、無害化処理)

・ｱｽﾍﾞｽﾄ含有保温材等の除去 (9.1.4)
除去対象範囲　※図示　・
作業場の隔離　・行う
処分方法　・埋立処分(管理型最終処分場)　・中間処理(溶融、無害化処理)

・ｱｽﾍﾞｽﾄ含有成形板の除去 (9.1.5)
除去対象範囲　※図示
処分方法
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ　※埋立処分(管理型最終処分場)
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ以外
・埋立処分(安定型最終処分場)・中間処理(溶融,無害化処理)

２断熱アスファルト防水改修工事

改修特記仕様書3章による (9.2.1～3)

３外断熱改修工事G

断熱材 (9.3.2～4)

種類		厚さ(mm)
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材		
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)	・保温板(2種b)	
	・保温板(3種b)	
・A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材		
・ﾌｪｰﾙﾄﾌｫｰﾑ保温材(3種2号を除く)		
・ﾛｯｸｳｰﾙ		
・ｸﾞﾗｽｳｰﾙ		

施工箇所　・図示　・
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・

外装材

種類	防火性能	備考
・		

既存外壁の措置
既存外壁仕上げ材の撤去　・あり　・なし
下地面の清掃　・行う　・行わない
欠損部の改修工法　・改修標準仕様書4.1.4による　・
工法
通気層の有無　・あり(　　mm)　・なし
断熱材の施工　※断熱材製造所の仕様による　・
外装材の施工　・外装材製造所の仕様による　・
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1　・1.15　・1.3)倍の風圧力に対応した工法)
・適用しない

④ガラス改修工事

※5-18による (9.4.2)

5 断熱・防露改修工事 G

断熱材のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・　(9.5.2)

・断熱材打込み工法

種　類		厚さ(mm)
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材		
・押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ断熱材(ｽｷﾝ層なし)		
・硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ断熱材		
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ断熱材		
・ﾋﾞｰｽﾞ法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材		
※押出法ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝﾌｫｰﾑ保温材(ｽｷﾝなし)	・保温板(2種b)	・25　・
	・保温板(3種b)	・25　・
	・	・25　・
・A種硬質ｳﾚﾀﾝﾌｫｰﾑ保温材		
・ﾌｪﾉｰﾙﾌｫｰﾑ保温材(3種2号を除く)		

施工箇所　・図示　・

・断熱材現場発泡工法　(9.5.3)
　断熱材の種類　※A種1　・B種1
　厚さ(mm)　・25　・30　・
　施工箇所　※図示　・

・現場発泡断熱材
（品質・性能・試験方法）建築材料等品質性能表による

・断熱材後張工法　(9.5.4)
　断熱材の種類　・
　断熱材の厚さ(mm)　・

6 屋上緑化改修工事 G

植栽基盤及び材料　(9.6.2)
・屋上緑化軽量ｼｽﾃﾑ
　芝及び地被類の樹種並びに種類等　※図示　・
　見切り材、舗装材、排水管、ﾏﾙﾁﾝｸﾞ材等　※図示　・
（品質・性能・試験方法）建築材料等品質性能表による

かん水装置　・設置する(種類・　・　)　・設置しない
既存保護層の撤去　・行う　・行わない

工法
　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法
　※適用する(建築基準法に基づき定まる風圧力の(※1　・1.15　・1.3)倍の
　　風圧力及び積雪荷重に対応した工法)
　・適用しない

7 透水性アスファルト舗装改修工事

適用範囲：歩行者用通路　(9.7.2、3、5～9)
既存舗装の撤去及び再利用　※図示　・
路床
　路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種	・図示
	・建設汚泥から再生した処理土 G	・
・凍上抑制層	・再生ｸﾗｯｼｬﾗﾝ G　・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ	・図示
	・切込み砂利	・
	・川砂、海砂又は良質な山砂(75μmふるい通過量10%以下)	
	・	
・ﾌｨﾙﾀｰ層	・砂	・図示
	・	・

遮断層
路床安定処理
※添加材料による安定処理
　種類　・普通ﾎﾟﾙﾄﾗﾝﾄﾞｾﾒﾝﾄ　・ﾌﾗｲｱｯｼｭｾﾒﾝﾄB種 G
　　・生石灰(・特号　・1号)　・消石灰(・特号　・1号)
　添加量　kg/m3(目標CBR　・5以上　・　)
・ｼﾞｵﾃｷｽﾀｲﾙ
　単位面積質量　・60g/m2以上　・
　厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
　引張強さ　・98N/5cm(10kgf/5cm)以上　・
　透水係数　・1.5×10cm/sec⁻¹以上　・

試験
　砂の粒度試験　・行う　・行わない
　路床土の支持力比(CBR)試験　・行う　・行わない
　現場CBR試験　・行う　・行わない
　路床締固め度の試験　・行う　・行わない

路盤
　構成及び厚さ　・図示　・
　材料　・砕石ｸﾗｯｼｬﾗﾝ　・砕石粒度調整砕石　・再生材ｸﾗｯｼｬﾗﾝ G
　　・再生材粒度調整砕石 G　・ｸﾗｯｼｬﾗﾝ鉄鋼ｽﾗｸﾞ G　・粒度調整鉄鋼ｽﾗｸﾞ G
　締固め度の試験　※行う　・行わない

舗装の構成　※図示
　構成　・図示　・
　試験
　　開粒度ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
　　舗装の平たん性　※著しい不陸がないもの　・

8 路面表示用塗料

(JIS K 5665(路面表示用塗料)による)

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	揮発性有機溶剤の含有率
・1種	常温	液状	※ 白	・150	※1.0	塗料総質量に対して
・2種	加熱		・	・100	・	5%以下
※3種 1号	溶融	粉体状				

10 ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア

[20.2.2]

構法	仕上り高(mm)	寸法(mm)	許容水平力	耐荷重性能	表面仕上げ材
・ﾊﾟﾈﾙ構法	・100	・500×500	・0.6G(地下及び1階)	・3,000N	・帯電防止床ﾀｲﾙ
・溝構法		・600×600	1.0G(2階以上)	・5,000N	・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ
		・	・1.0G(すべて)		
・	・	・	・	・	

表面仕上材は仕上げ表、品質・性能は標準仕様書19章による。
構成材の材質　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・鋼製　・
ｽﾛｰﾌﾟ及びﾎﾞｰﾀﾞｰ　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しﾊﾟﾈﾙ
　ﾌﾘｰｱｸｾｽﾌﾛｱ全体面積に対する設置割合　・20～30%　・
　配線取り出し開口　・ﾊﾟﾈﾙ1枚につき40mmx80mm程度の開口１ヶ所以上　・図示
(性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

2 可動間仕切

[20.2.3]

構造形式	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	ﾊﾟﾈﾙ	厚さ(mm)	表面材 材質	厚さ(mm)	ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	遮音性	防火性能
・ｽﾀｯﾄﾞ式(内臓)				・鋼板	・0.6	・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付	・0・12	・不燃
・ｽﾀｯﾄﾞ式(露出)				・	・0.8	又は	・20・28	
・ｽﾀｯﾄﾞﾊﾟﾈﾙ式						ｱｸﾘﾙ樹脂焼付	・36	
・ﾊﾟﾈﾙ式						・焼付塗装		

ﾊﾟﾈﾙ内に取付ける建具　・あり(※図示　・　)　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
ﾊﾟﾈﾙ材料のﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・第三種

3 移動間仕切

[20.2.4]

走行方向	操作方法	圧接装置の操作方法	厚さ(mm)	表面材の材質	仕上げ	遮音性
・平行方向移動式	・手動式	・ﾌﾟｯｼｭ式		・鋼板	・焼付塗装	・36未満
・二方向移動式	・電動式	・ﾊﾝﾄﾞﾙ回転式		・	・壁紙張り	・36以上
	・部分電動式	・			・	

ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げの壁紙張りの品質　標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする
ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙの取付け下地の補強
　※取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する
　・図示
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

4 トイレブース

[20.2.5]

表面材の材質	脚部 形状	脚部 材質	ドアエッジ 形状	ドアエッジ 材質
・ﾒﾗﾐﾝ樹脂系化粧板	・幅木	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・標準	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製
・ﾎﾟﾘｴｽﾃﾙ樹脂系化粧板	・支柱	・ｽﾃﾝﾚｽ製	・R	・ｽﾃﾝﾚｽ製
・	・なし	・		・表面材と同材
・				

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による
ﾄｲﾚﾌﾞｰｽﾊﾟﾈﾙのﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ放散量　※規制対象外　・第三種

5 階段滑り止め

[20.2.6]

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド
・ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)	・約35	※接着工法	・有り(・ﾋﾞﾆﾙ製　・ｽﾃﾝﾚｽ製)
・ﾋﾞﾆﾙﾀｲﾔ入り	・	・埋込み工法	・無し

6 黒板 ホワイトボード

[20.2.8]

種類		寸法(mm)	色彩	形式		
・黒板	※焼付け		※緑　・黒	・平面　・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付き引分け	
・WB	・ほうろう		・白	・平面　・曲面	・ｽｸﾘｰﾝ付き引分け	

7 表示

[20.2.10]

区分	材質	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考
・衝突防止表示(・両面　・片面)	・ｽﾃﾝﾚｽ製 ・図示	※30φ ・	※市販品 ・	※図示 ・	
・室名札 ・ﾋﾟｸﾄｸﾞﾗﾌ ・とびら番号	・ｱｸﾘﾙ板 ・	※図示	※5 ・	※図示 ・	
・庁舎案内板 ・各階案内板	・ｱｸﾘﾙ板 ・	※図示	※5 ・	※図示 ・	
・					

案内用図記号はJIS Z8210による

8 ブラインド

[20.2.12]

形式	操作方法	種類	ｽﾗｯﾄの材質	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙの材種	寸法、取付箇所
・横形	・電動		※ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	※25	※鋼製	※図示
	・手動	※ｷﾞﾔ式 ・ｺｰﾄﾞ式 ・操作棒式	・	・	・	・
・縦形	・電動		・ｱﾙﾐｽﾗｯﾄ	・80	・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	※図示
	・手動	※1本操作ｺｰﾄﾞ式・ｸﾛｽｽﾗｯﾄ 2本操作ｺｰﾄﾞ式		・100	・	・

アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G

9 ロールスクリーン

操作方法　・プルｺｰﾄﾞ式　・ﾁｪｰﾝ式　・電動式　[20.2.13]
生地材種　・ポリエステル
遮光性能　・1級　・2級　・3級
巻取りﾊﾟｲﾌﾟ、ウェイトﾊﾞｰ、操作ｺｰﾄﾞ又は操作ﾁｪｰﾝその他の材料は製造所の仕様による

10 カーテン及びカーテンレール

カーテン　[20.2.14]

ひだの種類	形式	開閉操作	取付箇所	備考
・ﾌﾗﾝｽﾋﾀﾞ	・ｼﾝｸﾞﾙ	・電動	※図示	
・箱ひだ・つまひだ	・ﾀﾞﾌﾞﾙ	・ひも引き	・	
・ﾌﾟﾚｰﾝひだ・片ひだ		・手引き		
・				(暗幕)
・				

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G

カーテンレール
　材種　※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製　・ｽﾃﾝﾚｽ製　・　(20.2.14)
　形式　・片引き　・引分け(暗幕用は300mm以上の召合せの重掛けとする)
　形状　・D型　・D型　※角形　・

11 ブラインドボックス及びカーテンボックス

寸法(mm)　・90x150　・120x80　・120x150　・150x80　・図示
材質　・集成材(仕上：　)
　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製 表面処理(・B-1　・B-2　・C-1　・C-2)
　　(・ｱﾝﾊﾞｰ　・ﾌﾞﾛﾝｽﾞ　・ﾌﾞﾗｯｸ系　・ｽﾃﾝｶﾗｰ)

12 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・450×450	・一般形	・屋内外用	・額縁ﾀｲﾌﾟ	・額縁ﾀｲﾌﾟ
・	・600×600		・屋内用	・目地ﾀｲﾌﾟ	・目地ﾀｲﾌﾟ
	・	・密閉形			

(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

13 床点検口

材種	寸法	形式	
・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製	・450×450	・一般形	・屋内外用
・ｽﾃﾝﾚｽ製	・600×600	・密閉形	・屋内用
・鋼製	・	・結露防止形	
・鋳鉄製			

一般形：ﾊﾟｯｷﾝを装着しないもの、又はがたつき防止用ﾊﾟｯｷﾝを装着したもの
密閉形：ﾎﾞﾙﾄ、ﾅｯﾄ等のﾒｶﾆｶﾙ構造にﾊﾟｯｷﾝを装着したもの
(品質・性能・試験方法)建築材料等品質性能表による

14 天井見切り縁

材種　・塩化ﾋﾞﾆﾙ製　・ｱﾙﾐﾆｳﾑ製

15 流し台・ｺﾝﾛ台 吊戸棚

製品　・優良住宅部品(BL製品)　・非BL製品
ﾄｯﾌﾟ材質　・ｽﾃﾝﾚｽ　・

16 水切り棚

材質　※ｽﾃﾝﾚｽ製(SUS304)　市販品　・

17 洗面カウンター

材質　※人工大理石　・ﾒﾗﾐﾝ樹脂化粧板(心材：集成材)
形状　※図示
奥行き　・約450mm　・約600mm　・図示
ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※規制対象外　・第三種

18 木製造付け家具

ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞの放散量　※規制対象外　・第三種
材料に合板、集成材を使用する場合は、内装工事のせっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張りによる

19 旗竿

材種及び形式　ｱﾙﾐﾆｳﾑ製ﾃｰﾊﾟｰ付き(※ﾊﾝﾄﾞﾙ式　・ﾛｰﾌﾟ式)
脚部　※埋込式　・ﾍﾞｰｽ式
設定風速　※60m/sec(地上用)

20 車止めさく

形式	材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(m)	備考
・上下式鎖内蔵式	・ｽﾃﾝﾚｽ製	・φ76.3　t=2.0	・GL＋700	
(・標準品　・ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞ式)	・	・	・	
・				

21 フェンス

ﾌｪﾝｽの種類　・ﾋﾞﾆﾙ被覆ｴｷｽﾊﾟﾝﾄﾞﾌｪﾝｽ　・樹脂塗装ﾒｯｼｭﾌｪﾝｽ　・鋼管ﾌｪﾝｽ
　・ｱﾙﾐﾌｪﾝｽ　・
高さ　・図示　・

22 敷地境界石標

種類　※ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ製(市販品)　・花こう石類(文字記号等入り)
設置方法
　根切り底を突き締めたうえ、厚さ60mmの砂利地業を行い、ｺﾝｸﾘｰﾄで根巻きして建て込む。建て込みは監督員の立ち会いのもと行う。
ｺﾝｸﾘｰﾄの調合　容積比　ｾﾒﾝﾄ1：砂2：砂利4程度

別表

材料名称

仮設工事
・
・

防水改修工事
・防水材
・断熱材、接着剤
・シーリング材
・長尺金属板
・折板
・粘土瓦
・とい
・
・

外壁改修工事
・外壁改修材
・外壁仕上塗材
・
・

建具改修工事
・アルミ製、鋼製建具
・木製建具
・建具用金物
・ガラス
・シャッター
・
・

内壁改修工事
・木材
・集成材
・軽量鉄骨天井下地
・軽量鉄骨壁下地
・あと施工アンカー
・ビニル床シート
・カーペット
・合成樹脂塗床材
・フローリング
・畳
・せっこうボード
・壁紙
・断熱、防露材
・モルタル
・セルフレベリング材
・タイル
・タイル張付け用材料
・
・

塗装改修工事
・塗料
・
・

環境配慮改修工事
・
・

ユニット、その他工事
・フリーアクセスフロア
・可動間仕切
・トイレブース
・
・

耐震改修工事
※鉄筋
・溶接金網
・スリーブ補強筋(既製品)
・型枠
・特殊型枠(フラットデッキ他)
※コンクリート
・セメント
・骨材
・水
・混和材
※鋼材
・高力ボルト、普通ボルト
・アンカーボルト
・スタッド
・デッキプレート
・溶接材料
・耐火被覆材
・溶融亜鉛めっき
・
・

監督員の検査を受けて使用すべきとされた材料であっても、設計図書に定めるJIS又はJASのﾏｰｸ表示のある材料並びに規格、基準等の規格証明書が添付された材料で、監督員の承諾を受けた場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとして、取り扱うことができる。

工事区分

本工事の施工にあたり各工事の区分は、下記に○印をそれぞれ付したものを適用する。

	NO.	項目	建築	電気	衛生	空調	別途	備考
一般事項	1	仮設用の電力、上下水、ガスの使用料金、及び負担金	○	○	○	○		
	2	電気、上水道、下水道、ガス引込み負担金		○	○	○		
	3	本設後引き渡しまでの使用料金	○	○	○	○		
	4	本設後引き渡しまでの基本料金	○	○	○	○		
躯体貫通	5	はり貫通スリーブ(RC造)	○	○	○	○		
	6	はり貫通スリーブ(S・SRC造)	○	○	○	○		
	7	壁、床、貫通部スリーブ、箱入れ	○	○	○	○		
	8	同上貫通部スリーブ補強	○	○	○	○		
	9	同上貫通部孔埋の躯体補修	○	○	○	○		
	10	二重スラブ内、避遷管及び通気管、水抜き管	○					
	11	水切付スリーブ	○	○	○	○		
機械基礎	12	機械基礎(躯体と一体の基礎)	○					
	13	独立機械基礎	○					
	14	アンカーボルト、箱入れ、チャンネル土台		○	○	○		
	15	機械基礎用床補強	○					
	16	屋上等防水層に関する基礎及び防水仕舞	○					
	17	油構、外部及び基礎	○					
開口補強	18	工事制作間仕切、床の孔明け取付け枠及び補強	○					
	19	天井取付器具の取付け		○	○	○		
	20	同上開口補強	○					
	21	設備機器取付け用ALC板、石の孔明け及び補強						
	22	設備機器取付け用ブロック煉瓦の開口部取り付け枠						
	23	天井吊機器の吊ボルト		○	○	○		
	24	同上C型鋼補強	○					
機械室・点検口	25	機械搬出入、据付用フック						
	26	電気配線用ピット蓋共						
	27	増打軽量コンクリート及び床仕上げ						
	28	マシンハッチ及び床仕上げ						
	29	煙突						
	30	外部取付ガラリ	○					
	31	リターングリル						
	32	ドアーグリル	○					
	33	点検口及び仕上げ	○					
	34	マンホール						
	35	タラップ	○					
	36	市水槽及び蓄熱槽の躯体及びマンホール蓋取付	○		○			
厨房・洗面所	37	厨房器具	○					
	38	同上フード及び排気ダクト				○		
	39	浴槽、バスユニット、洗面ユニット	○		○			
	40	風呂釜、バーナー、排気筒及び接続配管			○			
	41	流し台(既製品、造り付け)	○					
	42	陶器製洗し			○			
	43	給排水金物及び配管			○			
	44	化粧鏡	○					
	45	湯沸器			○			
	46	グリーストラップ			○			
	47	増打軽量コンクリート						
	48	排水溝及びフタ	○		○			
	49	床排水工事(目皿共)	○		○			
屋外工事	50	屋外排水溝及び蓋	○		○			
	51	雨水排水工事及び会所	○					
	52	雑排水工事及び会所			○			
	53	汚水排水工事及び会所			○			
	54	下水本管への接続(雨水)	○					
	55	同　上　(下水)			○			
	56	電力引込みハンドホール						
	57	電話引込みハンドホール						
	58	埋込み雪止及び排水層	○					
	59	植樹	○					
	60	散水栓			○			
	61	ガソリントラップ						
	62	出入口マット下排水管(第一会所まで)						
その他	63	煙感知器連動防火防煙シャッター(二次側配管配線共)						
	64	煙感知器連動防煙垂れ壁(二次側配管配線共)						
	65	煙感知器連動防火戸(二次側配管配線共)						
	66	防火ダンパー(二次側配管配線共)				○		
	67	防煙垂れ壁						
	68	エンジンドアー	○					
	69	電動シャッター						
	70	エレベーター						
	71	エスカレーター						
	72	ダムウエーター						
	73	エアーシューター						
	74	ゴンドラ及び制御盤共一式レール共						
	75	電気時計	○					
	76	看板取付用下地補強及び基礎	○					
	77	避雷針及び接地工事						
	78	高架水槽						
	79	排気扇等取付枠共				○		
	80	同上電源工事各種箱板		○		○		
	81	設備機器表示板		○	○	○		
	82	ベンチレーター(自然換気)						
	83	し尿浄化槽設置工事						
	84	し尿浄化槽ＦＣ造躯体及び防水工事						
	85	避雷器具						
	86	機械駐車装置及び制御装置消火設備一式						
	87	舞台装置						
	88	防火区画貫通ダクト及び配管等の防火養生	○	○	○	○		
	89	排煙口及び手動開放装置						
	90	排煙ダクト						
	91	空調、衛生機械2次側配線工事				○		
	92	自動火災報知用発信機、ベル表示灯収納ボックス	○	○				
	93	空調自動制御用電気工事		○				

この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。

3 防水工事 アスファルト防水

〈乾式保護材〉
（品質・性能）

分類・規格		・窯業系ﾊﾞﾈﾙⅠ類（寒冷地仕様）	・窯業系ﾊﾞﾈﾙⅡ類（一般地仕様）	・金属複合板
寸法(mm)	厚さ(mm)			
	幅(mm)			
寸法の許容差		厚さ：+10%、-5%、幅：±1%		
出荷時の含水率		出荷時において10%以下		―
曲げ強さ・曲げﾓｰﾒﾝﾄ（N・cm）（ｽﾊﾟﾝ50cmにおける単位幅1cmあたりの曲げﾓｰﾒﾝﾄ）	標準時	550以上	450以上	300以上
	凍結融解完了時（試験ｻｲｸﾙ数）	400以上（300）	320以上（200）	250以上（300）
吸水率（%）		20以下	20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		曲げ強さ、曲げモーメントの凍結融解完了時の試験サイクル後、著しい割れや剥離がなく、外観上異常がないこと		
耐衝撃性能		質量500g（窯業系パネルⅠ類は1,000g）のおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。 残留変形量1/100以下かつ加圧時の最大変形量4/100以下		質量500gのおもりを高さ1.0mから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。
剛性(E×I)（スパン40cm幅30cmの中央曲げ時に荷重720Nの時、たわみ4mm以下となる剛性）		―	―	80,000N・cm²以上

（試験方法）
（１）寸法の測定方法
（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。
（２）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）
（３）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。
（４）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。
（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JISK 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。
その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間　の長さを測定し、それを基準（Ｌ1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（Ｌ2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔＬ）は、次式によって求める。
（ΔＬ）＝（Ｌ2 － Ｌ1）／ Ｌ1 ×100　　ΔＬ：吸水による長さ変化率（%）
Ｌ1：乾燥時の標線間の長さ（mm）　　Ｌ2：吸水時の標線間の長さ（mm）
（６）耐凍結融解性能試験は、JIS A 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。
（７）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。
試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは記号（W1－1000又はW2－500）とする。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

4 外壁改修工事（共通事項） 可とう性エポキシ樹脂

〈可とう性エポキシ樹脂〉
（品質・性能）

項目		品質・性能
比　重		表示値　：　±0.10
押出し性		60秒　以下
スランプ		3.0mm　以下
加熱減量		5.0 %　以下
常温物性	引張強さ	1.0 N/mm²　以上
	伸　び	30.0 %　以上
	引張接着性	最大引張り応力　1.0 N/mm²　以上
		破断時の伸び　10.0 %　以上
低温性	引張強さ	1.0 N/mm²　以上
	伸　び	30.0 %　以上
加熱劣化	引張強さ	1.0 N/mm²　以上
	伸　び	30.0 %　以上
その他		1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2）対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 3）常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所 の指定する期間又は製造後６か月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。

（試験方法）
イ）試験室の状態：試験室は、特にことわりがない限り、温度23±2℃、湿度50±5% とし、標準状態とする。
ロ）試験体の作り方　：試験室に保管した主剤及び硬化剤を、適切な容器に製造所の定める割合で採取し３分間十分に混練する。試験体個数は、３個とする。
ハ）比重：JIS A 1439「建築用シーリング材の試験方法」の5.11による。
ニ）押出し性：JIS A 1439の5.14（試験用カートリッジによる押出し試験）による。
ホ）スランプ：JIS A 1439の5.1による。
ヘ）加熱減量：加熱減量試験は、下記による。
１．試験器具は、次による。
（1）時計皿：直径75mmのもの2枚。
（2）恒温器：JIS K 6257「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム−熱老化特性の求め方」の4.3試験方法の表１に規定する促進老化試験Ａ法 のAA−2強制循環形熱老化試験機（横風式）（ギ ヤー式老化試験機ともいう。）又はこれに準じた装置。
（3）はかり：ひょう(秤)量200g、感量1mmgのもの。
２．試験方法
2枚の時計皿の質量(M0)を測定する。次に一方の時計皿にへらなどを用いて試料を直径約60mm、厚さ約2mmになるように塗りつけ、残りの時計皿でふたをして、直ちにその質量(M１)を測定する。ふたを取り除いて、標準状態に14日間静置し、更に80±3℃に調節した恒温器中で336 時間(14日間)加熱する。加熱後、恒温器から取り出し、標準状態に4時間静置し、再び残りの時計皿でふたをして、その質量(M2)を測定する。
加熱減量は、次の式によって計算し、平均値で表す。

$$L = \frac{M1-M2}{M1-M0} \times 100$$

Ｌ：加熱減量（%）
Ｍ０：2枚の時計皿の質量（mg）
Ｍ１：加熱前の試料と2枚の時計皿の質量（mg）
Ｍ２：加熱後の試料と2枚の時計皿の質量（mg）

ト）引張強さ：JIS K 6251「加硫ゴム及び熱可塑性ゴム−引張特性の求め方」に準ずる１号ダンベルを用い、引張速度は200mm/minとする。
チ）伸び：JIS K 6251に準ずる。１号ダンベルを用い、引張速度は200mm/minとする。
リ）引張接着性：JIS A 1439の5.20による。
ヌ）標準状態での試験：試験体を標準状態で14日間養生したのち、引張強さ、伸び、引張接着性を測定する。
ル）低温での試験：試験体を標準状態で14日間養生し、さらに0±3℃に調節した恒温室に16時間保存したのち恒温室内にて引張強さ、伸びを測定する。
ヲ）加熱劣化試験：試験体を標準状態で14日間養生し、さらに80±3℃に調節した恒温器内 に14日間置いたのち、標準状態に戻して引張強さ、伸びを測定する。

パテ状エポキシ樹脂

〈パテ状エポキシ樹脂〉
（品質・性能）

項目	品質・性能
初期硬化性	標　準　：　2.0 N/mm²　以上
接着強さ	標　準　：　6.0 N/mm²　以上
圧縮強さ	50.0 N/mm²　以上
曲げ強さ	30.0 N/mm²　以上
硬化収縮率	3.0 %　以下
その他	1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2）対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。 3）常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所 の指定する期間又は製造後６か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目の規定に適合していること。

（試験方法）
JIS A 6024「建築補修用注入エポキシ樹脂」の6.試験方法を準用する。
ただし、曲げ試験は、下記による。
（曲げ強さ）
１．6.1 b)の試料を標準寸法の金型（長さ80.0±2.0mm、幅10.0±0.2mm、厚さ4.0 ±0.2mm）に充填し、6.1の試験室の状態で７日間養生し、脱型したものを用いる。
２．試験方法は、JIS K 7171「プラスチック−曲げ特性の求め方」に規定する。
曲げ強さは、次の式によって計算する。

$$\sigma b = \frac{3Pl}{2bh^2}$$

σb：曲げ強さ（MPa）
P：最大荷重（N）
L：支点間距離（mm）
b：試験片の幅（mm）
h：試験片の厚さ（mm）

３．試験の回数は、各試験３回行う。

エポキシ樹脂モルタル

〈エポキシ樹脂モルタル〉
（品質・性能）

項目	品質・性能
だれ	形状に異常がなく、だれが生じないこと。
接着強さ	1.0 N/mm²　以上
圧縮強さ	20.0 N/mm²　以上
曲げ強さ	10.0 N/mm²　以上（３日後の値）
その他	1）こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。 2）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3）「労働安全衛生法」に基づく有機溶剤中毒予防規則に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 4）常温・常湿（温度20±15℃、湿度65±20%）において製造所 の指定する期間又は製造後６か月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。

（試験方法）
イ）試験室の状態：試験室は、特にことわりがない限り、温度23±2℃、湿度50±5% とし、標準状態とする。
ロ）試料の調整：イ）の状態で保管した主剤及び硬化剤を製造所の定める割合で採取し、適切な容器を用いて十分に撹拌する。試験体個数は、３個とする。
ハ）外観：ロ）の試料を用い、清浄なガラス板に均一に塗布し、均質性と異物の混入の有無を観察する。
ニ）比重：曲げ試験体の寸法と重量を測定して求める。
ホ）圧縮強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4により試験体を作成し、10.1(4)に規定する試験機で10.5により測定し、10.6により圧縮強さを求める。
ヘ）曲げ強さ：JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の10.4に準じ試験体を作成する。10.1(5)に規定する試験機により、支点間100mmとし、供試体を成形したときの側面の中央に毎秒50 NのD割合で載荷し最大荷重 P（N）を求め、P×0.00234＝σｂの式で曲げ強さσｂ（N/mm²）を求める。
ト）接着強さ：JIS A 5371「ﾌﾟﾚｷｬｽﾄ無筋ｺﾝｸﾘｰﾄ製品」の附属書 B（規定）及び推奨仕様 B−1に規定する普通平板の表面をワイヤーブラシなどを用いて清浄にし、そのうえに厚さ10mmになるようエポキシ樹脂モルタルを塗り、３日間経過した後に、その上面に縦40mm、横40mm、厚さ10mmの鉄片を張り付けて単軸引張りを加える。最大荷重（P）を断面積（A）で除し、接着強さを求める。
チ）だれ試験：JIS A 5371の 附属書B（規定）及び推奨仕様B−1に規定する普通平板の表面をワイヤーブラシ等を用いて清浄にし、その上に厚さ30mm、幅100mm、長さ50mmの寸法にエポキシ樹脂モルタルを塗り付け、塗付け開始から5分後に、平らに置かれた平板を直角に立て起し、そのままの状態で静置する。 24時間後のエポキシ樹脂モルタルの変形状態を観測し、その形状の異常の有無とだれ長さを測定する。

ポリマーセメントモルタル

〈ポリマーセメントモルタル〉
（品質・性能）

項目		品質・性能
だれ	下がり量（mm）	5以内
	表面の状態	ひびわれの発生が無いこと。
曲げ強さ（N/mm²）		6.0以上
圧縮強さ（N/mm²）		20.0以上
接着強さ（N/mm²）	標準条件	1.0以上
	特殊条件　湿潤時	0.8以上
	特殊条件　低温時	0.5以上
透水性		裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他		1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
		2）高分子ｴﾏﾙｼｮﾝは、常湿常湿において製造後６か月保存しても、変質しないこと。

ポリマーセメントスラリー

〈ポリマーセメントスラリー〉
（品質・性能）

広がり速度（cm/s）	長さ変化率（収縮）（%）	引張接着性（材齢28日）（N/mm²）	曲げ性能（材齢28日）（N/mm²）	吸水性（72時間）（%）	耐久性（劣化曲げ強さ）（N/mm²）
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

保水係数　0.35～0.55
粘調係数　0.50～1.00

既製調合モルタル

〈既製調合モルタル〉
（品質・性能）

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/L以上
接着強さ	標準時	0.6N/mm²以上
	温冷繰り返し後	0.4N/mm²以上
長さ変化率		0.2%以下
曲げ強さ		4.0N/mm²以上

（試験方法）
（１）試料の調製
製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（ 縦150mm、横150mm、厚さ5mm）のとにJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 A5ろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（１）で調製した試料を金ベらで平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出た水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50/平均値×100　　（注）　50：リング型わくの内径　mm
（３）単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B−１に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。 直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで 乾式成形のＩ類 （施ゆう）「50角ユニットタイル（外のりサ法約300mm×300mm）」を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引っ張り試験を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定ヶ所は、試験体の中からまんべんなく５箇所を選び抜取る。（全てが0.6N/㎡以上）
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書B（規定）及び推奨仕様B−１に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形の Ｉ類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を４枚２列、計８枚を圧着する。
その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm²以上）
（６）長さ変化率の試験方法
JIS A 6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
JIS A 6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度±2℃、湿度65±10%とする。

5 建具改修工事 建具用金物

〈錠前類 【シリンダ箱錠及びシリンダ本締り錠】
（品質）
デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。
鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
（性能）

使用頻度による性能	1）（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、動作に支障がない。	
	2）キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。（シリンダ本締り錠のみ）シリンダ単体の施解錠繰り返しの評価は、シリンダだけの回転トルクが10N・cm以下とする。	
	3）キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。	
	4）キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は10 N以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。（キーに加えるトルクは、150N・cmとする）	
外力に対する性能	1）デッドボルトの押込み強度試験（10KN）を行なった後、荷重を除いたときのデッドボルトの出寸法は8 mm 以上であること。	
	2）デッドボルトの側圧強度試験（10KN）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。	
	3）デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8 mm未満）にならないこと。	
	4）デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験（58.5J）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。	
	5）（シリンダ本締り錠はグレード3以上の扉込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5 mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6 mm以上の鋼製の一体紋りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。	

使用扉の質量に対する性能（シリンダ箱錠のみ）	1）ラッチボルトの側圧強度試験（4 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。	
	2）レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	
	3）握り玉のねじり強度試験（3 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	
	4）ハンドルの引張強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	
	5）ハンドルの垂直荷重強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。	
鍵	1）かぎ（鍵）数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。	
	2）同一タンブラーの使用数は、60% 以下とする。また、６ 本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大２連続までとしていること。	

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物ー錠ー第１部：試験方法）による。

〈錠前類〉【レバーハンドル】
（性能）

ねじり強度	レバーハンドルのねじり強度試験（3.5 KN・cm）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
引張り強度	ハンドルの引張強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
垂直荷重強度	ハンドルの垂直荷重強度試験（2 KN）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。

試験方法は、JIS A 1541-1（建築金物ー錠ー第１部：試験方法）による。

〈クローザ類〉
（品質・性能）

性能試験項目 ＼ 区分			① ドアクローザ		② ヒンジクローザ		③ フロアヒンジ	
初期値	閉じ力及び効率による区分（注1）	Grade2 番手	閉じﾓｰﾒﾝﾄ（N・m）	効率（%）	閉じﾓｰﾒﾝﾄ（N・m）	効率（%）	閉じﾓｰﾒﾝﾄ（N・m）	効率（%）
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
	閉じ速度（秒）		常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できること。					
	温度依存性（℃）		緩衝油の流動点は、JIS K 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、−15℃以下であること。					
	ストップ力	ストップ入力	60 N-m以下 但し、ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は200 N-m以下		100 N-m以下		100 N-m以下	
		ストップ解除力	8 N-m以上		3 N-m以上		10 N-m以上	
	バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）		ﾄﾞｱ開扉方向に荷重60 N/mを開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		－		－	
	ディレードアクション性能（秒）ディレードアクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）		開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		－		－	
	戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）		－		－		±3mm以内	
耐久性	繰返し開閉後の閉じﾓｰﾒﾝﾄ（N-m）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。					
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		－		－	
	繰り返し開閉後の戸開鎖位置（mm）		－		－		耐久試験後 ±6mm以内	
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2	20万回		10万回		30万回	

注１．ﾊﾞﾗﾙﾙ取付けは、右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの70%程度までとする。
注２．ｺﾝｼｰﾙﾄﾞ型は右記の閉じﾓｰﾒﾝﾄの50%程度までとする。
Grade1を選定する場合は、図示による。

（試験方法）
１）性能試験は、JIS A 1510-3（建築用ドア金物の試験方法−第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
２）試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

この建築材料等品質性能表は、特記仕様書記載の材料の品質、性能、試験方法を詳細に示したものである。

章	項目	品質　性能　試験方法

5 建具改修工事

自動ドア開閉装置

〈自動ドア開閉装置〉
（品質・性能）
駆動装置・制御装置

項目	品質・性能
作動電圧	定格電圧に対し90%～110%の電圧で作動に異常がない
適用使用周囲温度（℃）	−10℃～40℃
電動機の焼損防止措置	電動機にサーマルプロテクターを内蔵、 又は制御装置に保護回路を設置

検出装置（本体センサー、補助センサー）

項目	品質・性能			
作動電圧範囲	定格電圧90% ～110% で作動させた時に異常がないこと。			
出力接点容量	有接点		無接点	
	AC 100V	0.3A以上（抵抗負荷）	DC 50V	0.1A以上（抵抗負荷）
	DC 30V	0.3A以上（抵抗負荷）	−	−
	DC 50V	0.1A以上（抵抗負荷）	−	−
応答時間（秒）	0.3以下			
適用使用周囲温度（℃）	−10℃～40℃			

（試験方法）
（１）応答時間
　0.3m/secの早さで移動している標準被試験体が検出範囲に入ってから、ON信号を出力するまでの時間を測定する。
（２）検出範囲
ａ．ゴムマットスイッチは、直径100mmの鋼製円柱（質量10kg）を不感部を除く全面に静かに置いたとき、確実に作動すること。
ｂ．上部取り付け形の動体検出形は、0.15m/secの速度で、検出範囲に近づけたとき確実に作動すること。
ｃ．上部取り付け形の静止体検出形は、0.05m/secの速度で、検出範囲に近づけたとき、確実に作動すること。
　注）取り付け位置などにより、上記によりがたい場合は、当該センサーに適した方法の試験を行い確実に作動することを確認する。
　＜試験条件＞
　（１）無目付センサー又は天井付センサーの検出体及び検出範囲試験は、JIS A 1551 の7.6による。
　（２）熱線スイッチ：被検出体表面温度、33±2℃とし、周辺温度は、被検出体表面温度より5℃±2℃低い値とする。
　（３）超音波スイッチ：温度−10℃、湿度75%、風速10m/secとする。
　（４）試験室の状態は、JIS Z 8703「試験場所の標準状態」の常温、常湿による。
（３）耐放射ノイズ
　放射無線周波電磁界イミュニティ試験とする。（ただし、電界強度は一定とする。）

自閉式上吊り引戸装置

〈自閉式上吊り引戸装置〉
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
　閉については外力によらず、試験体の自開装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。
　同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。
　適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自開装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
　落下高さ17cmにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。 耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。 適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
　JIS A 1516「建具の気密性試験方法」による。

6 内装改修工事

モルタル塗り

〈防水剤〉
（品質・性能）

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の８の規定によって行う。 凝結時間　始発：１時間以上　終結：10時間以内
	（安定性）JIS R 5201「セメントの物理試験方法」の９の規定によって行い、収縮性、膨張性のひび割れ及びそりについて観察する。
曲げ及び圧縮強度比	70%以上
吸水比	95%以下
透水比	80%以下

（試験方法）
JIS A 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による。ただし、透水試験における水圧は、294.0kPaとし１時間行う。

タイル張り

〈既製調合モルタル〉
（品質・性能）

項目		品質・性能
保水率		70.0%以上
単位容積質量		1.8kg/ℓ以上
接着強さ	標準時	0.6N/mm²以上
	温冷繰り返し後	0.4N/mm²以上
長さ変化率		0.2%以下
曲げ強さ		4.0N/mm²以上

（試験方法）
（１）試料の調製
　製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
　練り混ぜは、JIS R5201「セメントの物理試験方法」の9.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
　JIS R3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定するみがき板ガラス（ 縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11cm）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ３mm）を設置し、（１）で調製した試料を金ベらで平滑に詰込む。 その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
　　保水率＝50/平均値×100　　（注）　50：リング型わくの内径　mm

（３）単位容積質量の試験方法
　JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ(規定)及び推奨仕様Ｂ−１に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで 乾式成形のⅠ類（施ゆう）「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。
　その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.9付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、エポキシ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6N/mm²以上）
ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」の附属書Ｂ(規定)及び推奨仕様Ｂ−１に規定する普通平板N−300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定する外装壁モザイクタイルで乾式成形のⅠ類（施ゆう）「小口タイル108mm×60mm×12mm」を４枚２列、計８枚を圧着する。
　その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A 6909「建築用仕上塗材」の7.10温冷繰返し試験に準じて行う。
　試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに−20±2℃の 恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間 を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4N/mm²以上）
（６）長さ変化率の試験方法
　JIS A6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
　JIS A6916「建築用下地調整塗材」7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態　：　試験室は、温度20±2℃、湿度65±10%とする。

〈既製調合目地材〉
（品質・性能）

項目	品質・性能
保水率	30.0%以上
長さ変化率	0.2%以下（収縮）
吸水量	50g以下
単位容積質量	1.8kg/L以上

（試験方法）
（１）試験の条件
　試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、予め24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（２）試料の調整
　正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Lの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。
　練り混ぜは、JIS R 5201「セメントの物理試験方法」10.1に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投函し3分間練り混ぜて資料とする。
（３）保水性（ろ紙法）
　JIS R 3202 「フロート板ガラス及び磨板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm,横200mm、厚さ5mm）の上に JIS P 3801 「ろ紙（化学分析用）」に規定する５Aろ紙（直径18.5cm）をのせ、その中央部に真鍮製リング型枠（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、２）で練り混ぜた試料を金ベらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型枠上部にガラス板を当て上下逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。10分後にろ紙へにじみだした水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて1mmまで測定する。試験はは3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
　　保水率（%）＝50/平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（４）単位容積質量
　（２）で練り混ぜた試料を、JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.3に規定する方法で求める。
（５）長さ変化率
　（２）で調整した試料を用いてJIS A 1171の7.6長さ変化率試験に従って行う。
（６）吸水量
　（３）で調整した試料を用いて JIS A 1404「建築セメント防水剤の試験方法」10.に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

9 環境配慮改修工事

断熱・防露改修工事

〈現場発泡断熱材〉
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （１）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 （２）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験 （コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の（１）～（３）に適合していること。 （１）総発熱量が8MJ/㎡以下であること。 （２）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （３）最高発熱速度が、10秒以上継続して200KW/㎡を超えないこと。

（試験方法）
（１）原液試験（原液粘土試験）
JIS K 7117-1「ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｰ液状、乳濁状又は分散状の樹脂ーﾌﾞﾙｯｸﾌｨｰﾙﾄﾞ形回転粘度計による見掛け粘度の測定方法」による。
（２）発泡品試験
１）試料の作成は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
２）試料の状態調節は、JIS A 9526 の6.2.2による。また、試験片の作成はJIS A 9526 の6.2.3による。
３）試験片の状態調節及び試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
（３）圧縮強さ試験
JIS A 9526の6.2.5により、測定はJIS K 7220「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｰ圧縮特性の求め方」による。
（４）熱伝導率試験
JIS A 9526の6.2.6により、JIS A 1412-1「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法ー第１部：保護熱板法（GHP法）」又はJIS A 1412-2「熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法ー第２部：熱流計法（HFM法）」によって、平均温度（23±2）℃、高温板と低温板の温度差（25±5）℃で熱伝導を測定する。
（５）接着強さ試験
JIS A 9526の6.2.7による。
（６）透湿率試験
JIS A 9526の6.2.8により、測定はJIS A 1324「建築材料の透湿性測定方法」又はJIS K 7225「硬質発泡ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｰ水蒸気透過性の求め方」による。
（７）難燃性の表面加熱試験
JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
（８）発熱性試験
建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

屋上緑化改修工事

（屋上緑化軽量システム）
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、 排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。 （保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240L/㎡・h以上
耐荷重性能 排水層の許容圧縮強度	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10⁴N/㎡以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
防水層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（断縁シート含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（１）排水基盤の耐荷重性能
　（イ）3×10 N/㎡の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
　（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/min以下とする。

建築解体工事特記仕様書

Ⅰ工　事　概　要

1　工　事　名　称　（仮称）あたみ認定こども園開設にかかる設計等業務委託（幼児棟）

2　工　事　場　所　静岡県熱海市桜町 地内

3　敷　地　面　積　5078.1905㎡

4　都　市　計　画　⊙都市計画区域内　・都市計画区域外

・線引　⊙市街化区域　・市街化調整区域）　・非線引

5　用　途　地　域　・第二種住居地域

6　防　火　地　域　・防火地域　・準防火地域　⊙指定なし

7　騒音規制法に基づく指定区域　・１種　・２種　・３種　・４種

8　解体建築物、工作物の構造・規模等

建築物又は工作物	構造・階数	建築面積　㎡	延面積　㎡	築造面積　㎡	長さ　m	摘　要
第二小学校	RC造 地下1階地上4階	2005.8735㎡	6150.6809㎡			

9　解体工事内容　設計書による

Ⅱ仕　様

1　図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「建築物解体工事共通仕様書・同解説」（平成１８年版）による。（以下、「解体共通仕様書」という。）　解体共通仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）(平成22年版)」(以下「標準仕様書」という。)及び「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(平成22年版)」(以下、「改修標準仕様書」という。)・「公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(平成22年版)」・「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(平成22年版)」による。

2　設計書の内容に明記がない場合、又は相違ある場合は、原則として監督職員の指示によるほか、次の優先順位により判定する。
(1)　質問回答書((2)から(5)に対するもの)　(2)　現場説明書　(3)　特記仕様書　(4)　図面
(5)　解体共通仕様書

3　特記仕様
(1)　項目は、番号に○印のついたものを適用する。
(2)　特記事項は、○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は※印のついたものを適用する。
(3)　特記事項に記載の（　.　.　）内の表示番号は、解体共通仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の（改　　）内の表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の（標　　）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4)　「大規模地震対策特別措置法」による注意情報が発せられた場合、工事受注者は人身の保護及び安全な避難に必要な補強、落下防止等の保全措置を講ずるものとし、警戒宣言発令時には工事を中止する。
事実が発生した場合は、契約約款第２６条（臨機の措置）によって処理されたものとする。
(5)　㊎ 印は「静岡県環境物品等の推進に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）の公共工事に係わる特定調達品目を示す。
(6)　環境対策（現場発生材の再利用及び分別収集等）に極力努めること。
(7)　「建築物の解体工事における外壁の崩落等による公衆災害防止対策に関するガイドライン」（国土交通省）を遵守すること。

Ⅲ電子納品

1　納品の仕様等は電子納品運用ガイドライン（案）による。

2　貸与する設計図CADデータの有無
※有り　・無し

3　貸与するCADデータの使用範囲
当該工事のために必要な施工図及び完成図の作成の範囲で使用できる。

章	項　目	特　記　事　項
1 一般共通事項	① 適用基準等	(1.1.1) ・建築工事における建設副産物管理マニュアル・同解説　国土交通省大臣官房官庁営繕部設備・環境課営繕環境対策室　（平成18年版） ・既存建築物の吹付けアスベスト粉じん飛散防止処理技術指針・同解説 建設省住宅局建築指導課・建設大臣官房官庁営繕部監督課監修 ・工事写真の撮り方（改定第3版）建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
	② 官公署その他への届出手続等	(1.1.3) ※遅滞なく必ずおこなうこと。 届出書の写、申請書の写及び許可書などの書類は、受注者事務所に保管する。
	③ 工事実績情報の登録	(1.1.4) （請負代金500万円以上の場合）　※工事カルテ特記仕様書による
	④ 工事の一時中止	(1.1.9) 静岡県建設工事請負契約約款第20条の規定により工事の一時中止の通知を受けた場合は、中止期間中における工事現場の管理に関する計画書（以下「基本計画書」）を発注者に提出し、承認を受けるものとする。 なお、基本計画書には、中止時点における工事の出来形、職員の体制、労務者数、搬入材料及び建設機械器具等の確認に関すること、中止に伴う工事現場の体制の縮小と再開に関すること及び工事現場の維持・管理に関する基本的事項を明らかにする。 また、工事の施工を一時中止する場合は、工事の続行に備え工事現場を保全すること。
	⑤ 関係法令等の遵守	(1.1.13) 解体工事の施工にあたり、関係法令等を遵守すること。
	⑥ 工事の記録	(1.2.3) **解体工事のため建築物及び工作物が消滅するので、地下室の搬出など見え隠れとなる**箇所や法令を遵守した施工方法などを工事写真とし必ず記録すること。
	⑦ 電気保安技術者	(1.3.3) ※適用する　・適用しない
	⑧ 施工条件	(1.3.5) ※条件有り　・条件無し ①施工可能時間帯　・　時　～　時　⊙施設管理者との協議による　・指定なし ②部位別の施工順序　・図示　・指定なし ③工事車両の駐車場　・図示　⊙施設管理者との協議による　・指定なし ④資　材　置　場　・図示　⊙施設管理者との協議による　・指定なし ⑤現場事務所（業者）　⊙設ける　・設けない
	⑨ 発生材の処理	(1.3.10) 発注者に引渡すもの　・有り　⊙無し ・ＰＣＢ含有物（保管場所：　） ・金属類（保管場所：　） ・
	⑩ 施工調査	(1.4.1) 解体施工、建設廃棄物の処理、特別管理産業廃棄物の処理、アスベスト含有建材の除去等の前には必ず施工調査を実施すること。設計図書等との相違がある場合は資料を添えて監督職員に報告し協議を行なう。
	⑪ 工事検査	(1.6.1)(1.6.2) ・中間検査（現場説明書による。）　⊙完了検査
	⑫ 解体重機類	⊙低騒音型　・低振動型　・指定無し
	⑬ 事故報告	工事施行中に事故が発生した場合には、直ちに監督職員に通報するとともに、事故発生報告書を監督職員に速やかに提出すること。また建設工事事故報告書データベースに登録すること。
	⑭ 異常気象時等の報告	異常気象時及び震度４以上の地震発生時には、現場点検を行い速やかに監督職員に報告する。
	⑮ 公共事業労務費調査に対する協力	本工事が公共事業労務費調査の対象となった場合は、その調査時期が工事中又は完成時期であっても関係書類の整備、下請負人の指導等を含め協力すること。
2 仮設工事	① 騒音・粉塵等の対策	(2.2.1) ・防音パネル　⊙防音シート　・メッシュ金網、養生シート
	設置範囲及び高さ	※　図示
	② 監督員事務所等	(2.3.1) ⊙設ける（　㎡程度）　・設けない
	工事用水	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　※利用できない
	工事用電力	構内既存の施設　・利用できる（・有償　・無償）　※利用できない
	③ 足場その他	(標2.2.4)(改2.2.1) 手すり先行足場の設置　※行う　・行わない 足場を設ける場合は、標準仕様書2.2.4(b)によるほか、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における２の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場により行うこと。
	④ 仮設開仕切り	(改2.3.2) ・Ａ種　・Ｂ種　Ｃ種 合板またはせっこうボードの塗装　・行う　※行わない
3 解体施工	① 事前措置　水道管	(3.2.1) ・使用中　⊙休止中　・撤去済
	ガス管	・使用中　⊙休止中　・撤去済
	電線引込み	・使用中　⊙休止中　・撤去済
	② 杭の解体	(3.8.2) ・行う　⊙行わない
	解体工法	・引抜き工法　・破砕による解体
	③ 樹木等の移植	(3.9.1) ・行う（移植先：　）　⊙行わない
	④ 地下埋設物・埋設配管等の解体	(3.10.1) ⊙行う　※行わない
	⑤ 解体後の整地	(3.11.1) ※ 行う　・行わない
	整地高さ	・
	盛土等の種別	(標3.2.3) ・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・現場発生土

4 建設廃棄物の処理

① 建設リサイクルデータ統合システム

本工事は、建設リサイクルデータ統合システム（以下「システム」）の登録対象工事であり、受注者は施工計画作成時、工事完了時及び登録情報の変更が生じた場合は速やかに当該システムにデータの入力を行なうものとする。監督職員への報告（提出）はシステムにより作成した［再生資源利用計画書（実施書）］及び［再生資源利用促進計画書（実施書）］によりおこなうものとする。尚、これにより難い場合には、監督職員と協議しなければならない。
本工事の施工にあたっては「建築工事における建設副産物管理マニュアル」を参考に適切な処理に努めるものとする。

② 特定建設資材の再資源化等

本工事は、建設工事に係わる資材の再資源化等に関する法律［（平成１２年法律第１０４号）以下「建設リサイクル法」という。］に基づき、特定建設資材の分別解体等及び再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。
尚、本工事における特定建設資材の分別解体等・再資源化等については、別表１及び３の積算条件を設定しているが、工事請負契約書の別紙に定める「解体工事に要する費用等」の事項は契約締結時に発注者と受注者の間で確認されたものであるため、発注者が積算上条件明示した別表の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。但し、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものではない事項については、この限りではない。
又、受注者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法第１８条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督職員に報告することとする。
１）再資源化等が完了した年月日
２）再資源化等をした施設の名称及び所在地
３）再資源化等に要した費用
尚、書面は「建設リサイクルガイドライン（平成１４年５月）」に定めた様式１［再生資源利用計画書（実施書）］及び様式２［再生資源利用促進計画書（実施書）］を兼ねるものとする。但し工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。
本工事が「建設リサイクル法」の対象外である場合においても前記に準じ適切な措置を講ずるものとする。

・別表１　建築物に係る解体工事

工程ごとの作業内容及び解体方法	工　程	作業内容	分別・解体等の方法
	・建築設備、内装材等	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
	・屋根ふき材	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
	・外装材、上部構造部材	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
	・基礎、基礎ぐい	⊙有 ・無	・手作業 ⊙手作業と機械作業の併用
	・その他 （　　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

・別表３　建築物以外のものに係る解体工事又は新築工事等（外構・工作物等）

工程ごとの作業内容及び解体方法	工　程	作業内容	分別・解体等の方法
	・仮設	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
	・土工	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
	・基礎	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
	・本体工事	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
	・本体付属品	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用
	・その他 （　　）	・有 ・無	・手作業 ・手作業と機械作業の併用

手作業・機械作業を併用する理由
建築設備の取り外し（　　）
内装材料の取り外し（　　）
屋根葺材の取り外し（　　）

③ 再資源化等

※別表４　再資源化等をする施設の名称及び所在地　(4.4.1)

建設廃棄物の種類	中間処理施設又は再資源化施設の名称等	所　在　地
コンクリート	駿河開発㈱	静岡県田方郡函南町軽井沢257-1
ｺﾝｸﾘｰﾄ及び鉄からなる建設資材（PC板、ｺﾝｸﾘｰﾄ平板、ｺﾝｸﾘｰﾄ二次製品等）	㈱フジタ	静岡県伊東市富戸1033-8
木材	㈱三島チップ	静岡県三島市塚原新田362-1
木材（縮減）		
ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ	駿河開発㈱	静岡県田方郡函南町軽井沢257-1
金属類	㈱平和リサイクル三島支社	静岡県三島市御園24-10
小型二次電池	㈱フジタ	静岡県伊東市富戸1033-8

注）別表４については積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

(4.4.1)

建設廃棄物の種類	再資源化の有無	再資源化施設の名称等	所在地
蛍光ランプ ＨＩＤランプ	・再資源化する ⊙再資源化しない		
硬質塩化ビニル管・継手	・再資源化する ⊙再資源化しない		
硬質塩化ビニルﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管・継手	・再資源化する ⊙再資源化しない		

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

④ 現場利用する再資源化された建設廃棄物　(4.4.1)

種　類	再利用する場所（箇所）等

⑤ 産業廃棄物広域認定制度　(4.4.2)

種　類	所　在　地　等

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

⑥ 最終処分する建設廃棄物　(4.4.4)

種　類	最終処分場の名称等	所　在　地　等

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

⑦ 処理に注意を要する建設廃棄物　(4.5.1)

種　類	処理施設の名称等	所　在　地　等

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

⑧ 建設発生土の処理　(標3.2.5)

⊙積外搬出適切処理　片道の運搬距離（10.0）ｋｍ
・構内指示の場所に堆積する。
・構内指示の場所に散き均す。
尚、受注者の提示する運搬距離、処分費及び整地費と異なる場合においても設計変更の対象としない。

5 特別管理産業廃棄物等の処理等

1　施工調査　(5.1.3)

分析調査を行う特別管理産業廃棄物の種類	採取する部位又は箇所等	採取する数量	備　考

5 特別管理産業廃棄物の処理等

2 特別管理産業廃棄物の処分等 (5.4.1)

特別管理産業廃棄物の種類	処理施設の名称等	所在地等

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

3 ＰＣＢを含む機器類 (5.4.3)

引渡しを要する機器類
・
・
・
・
注）照明器具安定器にＰＣＢが使用されている場合、安定器を本体より分離して金属箱に収納し表示を付して建物管理者に引き渡すこと。(報告書共)

4 ＰＣＢ含有シーリング材 (5.4.4)

ＰＣＢ含有分析調査
・第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。
採取箇所数 （ 箇所）
採取箇所 ※図示 ・
・第二次判定
専門分析機関にてＰＣＢ含有量の分析を行う。
分析個数 （ 箇所）
撤去方法
・「標準施工要領書(日本ｼｰﾘﾝｸﾞ工事業協同組合連合会/日本ｼｰﾘﾝｸﾞ材工業会)」による。
・
撤去範囲 ※図示 ・

5 特殊な建設副産物の回収及び処分 (5.5.1)

回収又は処分を行う特殊な建設副産物の種類	対象機器名称	回収業者又は処分場の名称等	保管場所・処分場の所在地等

注）上記については、積算上の条件明示であり、処理施設を指定するものではない。
尚、受注者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。

6 アスベスト含有建材の除去等

1 用語の定義 (6.1.2)

アスベスト含有建材とは、アスベスト含有量が、労働安全衛生法及び石綿障害予防規則等に規定する含有量を超えるものとする。

2 作業主任者 (6.2.2)

アスベスト含有建材の除去に当たっては、石綿作業主任者技能講習会又は平成18年度3月以前の特定化学物質等作業主任者技術講習会を終了した者のうちから選任する。

3 施工調査 (6.1.3)

・行う ・行わない
分析方法は、「建材中の石綿含有率の分析方法について」(厚生労働省労働基準局安全衛生部化学物質対策課長通達 平成18年8月21日 基安化発第0821001号)による。
定量分析は、分析方法に基づくエックス線回析分析法による定量分析を行う。
分析対象
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)
・材料名( ) 採取場所( )
・定性分析(試料数:) ・定量分析(試料数:)

4 アスベスト含有吹付け材の除去 (6.3.2)

処理を行う吹付けアスベストの仕様等

材 料 名	厚さ(mm)	処理を行う範囲	数量(㎡)
		※図示 ・	
		※図示 ・	
		※図示 ・	

処理工法
※除去工法 ・封じ込め工法
吹付けアスベストの調査等
※行う

5 アスベスト含有吹付け材の粉塵濃度測定及び測定方法

アスベスト粉塵濃度測定等 ・行う ・行わない
測定室（ ） (改9.1.1)

アスベスト粉塵濃度測定

適用	測定時期	測定名称	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考
・	処理作業前	測定１	処理作業室内	各２点又は３点	注１
		測定２	調査対象室外部の付近	計２点	大気
・	処理作業中	測定３	処理作業室内	各２点又は３点	注１
		測定４	負圧・除塵装置の排出吹出し口	出口吹出し風速1m/sec以下の位置各2点	―
		測定５	処理作業室外	４方向各１点(敷地境界)	―
・	処理作業後(シート養生中)	測定６	処理作業室内	各２点	―
・	処理作業後 シート撤去後 １周間以降	測定７	処理作業室内	各２点又は３点	注１
		測定８	調査対象室外部の付近	計２点	大気

注１ 各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは２点、300㎡以下までは３点とする。300㎡を超えるものは、監督員と協議する。

アスベスト粉塵濃度測定方法

名称 / 項目	測定３	測定１，２，４，６，７，８	測定５
計数機器	位相差顕微鏡		
ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀの直径	25mm		47mm
試料の吸引流量	1ℓ/min	5ℓ/min	10ℓ/min
試料の吸引時間	5min	120min	240min
試料の透明化	アセトン-トリアセチン法又はシュウ酸ジメチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数200本又は視野数50視野		
計数アスベスト	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3:1以上		
定量限界	50f/ℓ	0.5f/ℓ	0.3f/ℓ

6 吹付けアスベストの処理方法

※密封処理(二重袋梱包)
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、除塵機フィルタ等も密封処理を行う。
※セメント固化をしない ・セメント固化をする

7 アスベスト含有保温材等の除去

工法 ・手ばらし ・手ばらし以外 (6.4.2)
「手ばらし工法」の除去は『アスベスト含有吹付け材の除去』を適用する。
「手ばらし以外工法」の除去は『アスベスト含有成形板の除去』を適用する。

8 アスベスト含有成形板の除去

処理を行うアスベスト含有成形板の仕様等 (6.5.2)

材 料 名	厚さ(mm)	処理を行う範囲	数量(㎡)

処理工法
※手ばらし
施工調査
・行う ・行わない

9 アスベスト含有成形板の粉塵濃度測定及び測定方法

アスベスト粉塵測定 ・行う ・行わない

アスベスト粉塵濃度測定

適用	測定時期	測定名称	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備考
・	作業前	測定１	処理作業室外	４方向各１点(敷地境界)	
・	作業中	測定２	処理作業室外	４方向各１点(敷地境界)	
・	処理作業後	測定３	処理作業室外	４方向各１点(敷地境界)	

測定方法はアスベスト含有吹付け材のアスベスト粉塵濃度測定方法の「測定５」による。

10 アスベスト成形板の処理等

シート等で覆うなどの飛散防止措置を講ずる。

設　計　概　要

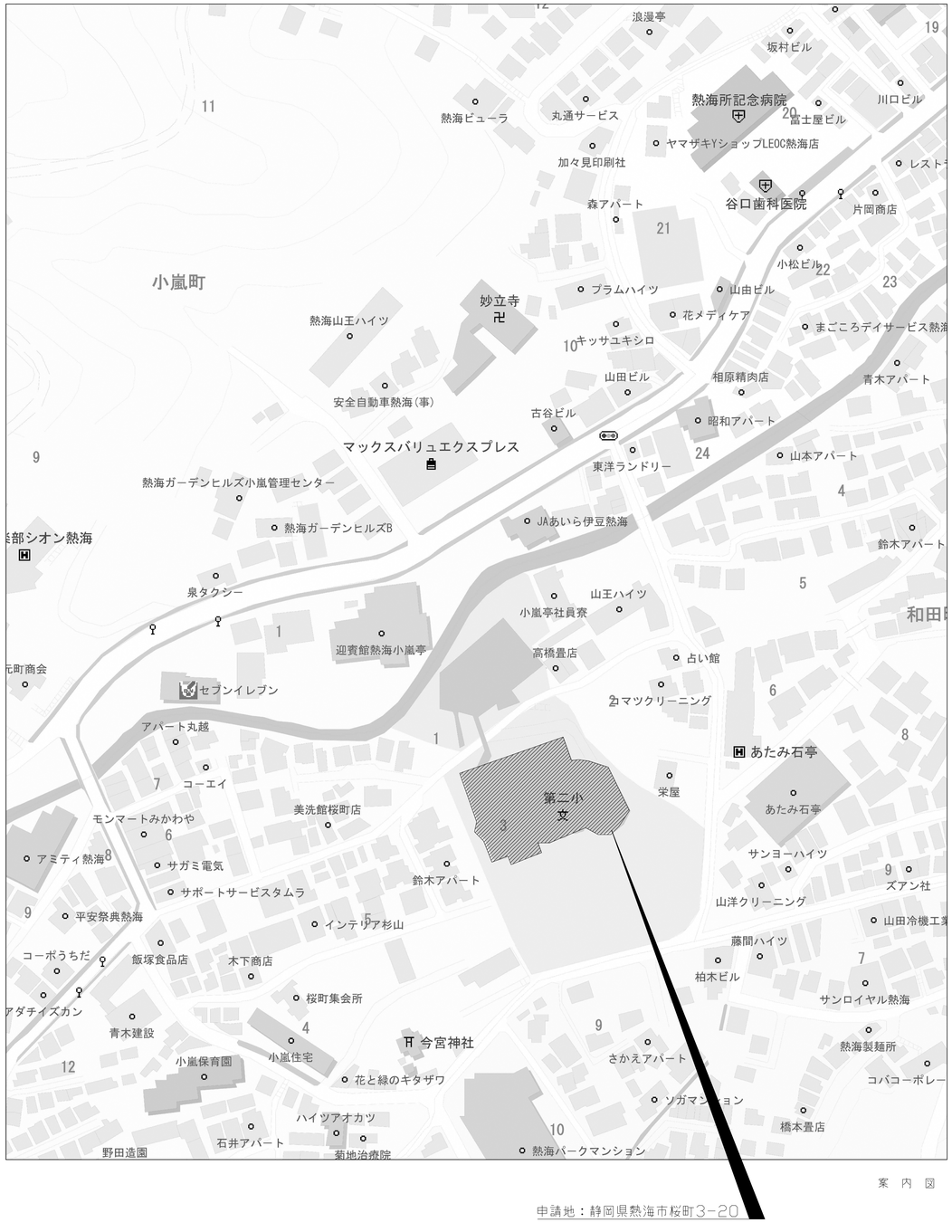
敷地	地名地番	静岡県熱海市桜町3-20	敷地面積（㎡）	5078．1905㎡
	用途地域	第二種住居地域	その他の地域地区	
	防火地域	指定なし		21ｍ第1種　高度地区
建物	主要用途	学校（1～4階：小学校　地下1階：認定こども園※3～5歳児）	構造	鉄筋コンクリート造　一部鉄骨造
	工事種別	地下1階部分における「学校」から「認定こども園（幼児棟）」への改修工事		
	階数	地下1階　地上4階	最高の高さ（ｍ）	19．804m
	階高（ｍ）	B1F：3．75m　1F：3．60m　2F：3．75m　3F：3．75m　4F：3．75m	軒高（ｍ）	17．279m
面積	建築面積（㎡）	2005．8735	建ぺい率（%）	39．50%　≦　60%
	延床面積（㎡）	6151．9855㎡（工事範囲：1238．86㎡）	容積率（%）	121．15%　≦　300%
その他	静岡県建築基準条例			
	静岡県福祉のまちづくり条例			

外　部　仕　上　表

部位	仕上
1．屋根	均しモルタル下地＋アスファルトルーフィング22Kg　ダンカクルーフ260（カラーアルミ板　㋑　0．8mm）
（既存のまま）	均しモルタル下地　アスファルト防水（露出用）s-128
2．パラペット	内外部　コンクリート打放し　アクリルゴム系弾性吹付タイル凸面処理
（既存のまま）	備考：アルミ笠木
3．外壁	A-1（新設壁），コンクリート打放し　アクリルゴム系弾性吹付タイル凸面処理
（新設・既存改修）	A-2（既存壁改修），既存小口タイル撤去　清掃　下地調整処理の上　アクリル系弾性吹付タイル凸面処理
4．開口部	既存　アルミサッシ　見込　70mm
（既存・新設）	備考：脱落防止型　オペレーター　一部網戸（ステン）
	新設　アルミサッシ：ビル用　二次電解着色
	ステールサッシ：亜鉛メッキ処理鋼板の上　ポリウレタン樹脂塗装
5．シーリング	サッシ・外壁まわり：ポリイソブチレン系20×15　ガラスまわり：変成シリコン系5×5
（新設）	
5．庇	新設　アルミ製　D300（色指定）　三協アルミ　アクセントひさし
（新設）	
6．テラス	既存タイルモルタル下地　クリンカータイル150角　一部撤去（撤去図参照）　下地調整
（既存・新設）	木製デッキ：再生木材145×30　目地5ｍｍ　ノンビスタイプ
	根太：スーパーダイマ40×40@500　大引き・束柱：40×40@900
7．ピロティー	木製デッキ：再生木材145×30　目地5ｍｍ　ノンビスタイプ
（既存・新設）	根太：スーパーダイマ40×40@500　大引き・束柱：40×40@900

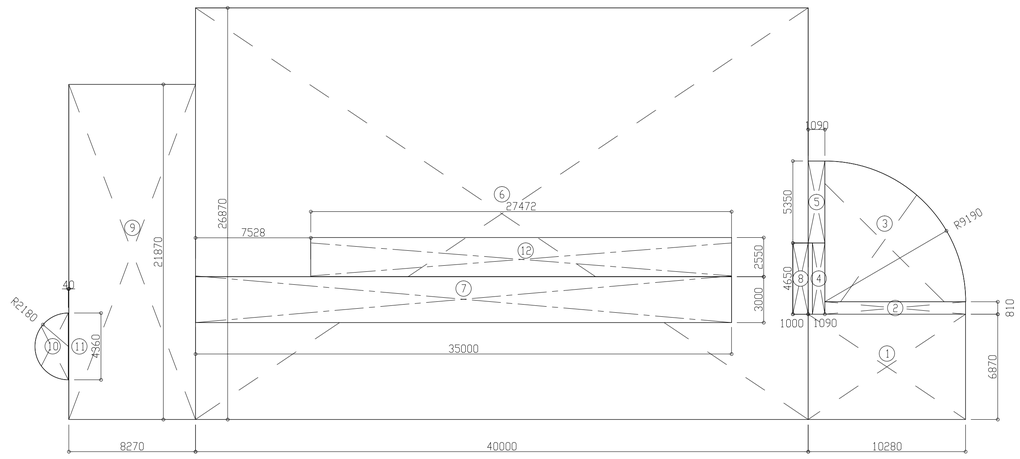
■耐火建築物

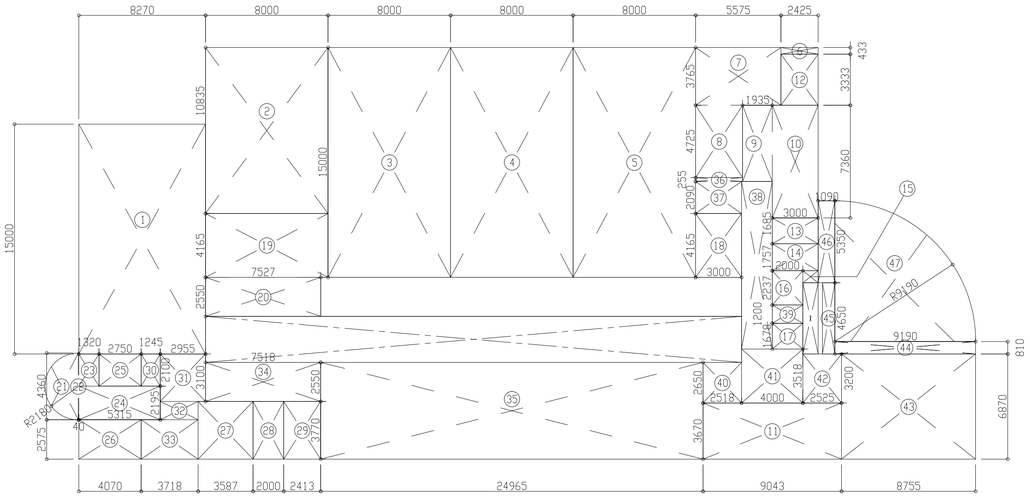
外壁（耐力壁）	2時間	コンクリート打放し　アクリルゴム系弾性吹付タイル凸面処理
床	2時間	
梁	2時間	
屋根	30分	均しモルタル下地＋アスファルトルーフィング22Kg　ダンカクルーフ260（カラーアルミ板　イ　0．8mm） 均しモルタル下地　アスファルト防水（露出用）s-128
階段	30分	鉄筋コンクリート造
軒裏	30分	外壁によって小屋裏又は天井裏と防火上有効遮られているものを除くため該当外



案　内　図

申請地：静岡県熱海市桜町3-20





■延床面積

記号	計算式(mm)			面積(㎡)	面積(㎡) 切捨て計算
1	10280	6870	70623600	70.6236	70.62
2	9190	810	7443900	7.4439	7.44
3	9190 * 9190 * 3.14 * 0.25		66298039	66.2980	66.30
4	810	4650	3766500	3.7665	3.77
5	1090	5350	5831500	5.8315	5.83
6	26870	40000	1074800000	1074.8000	1074.80
7	-35000	3000	-105000000	-105.0000	-105.00
8	-1000	4650	-4650000	-4.6500	-4.65
9	8270	21870	180864900	180.8649	180.86
10	2180 * 2180 * 3.14 * 0.5		7461268	7.4613	7.46
11	40	4360	174400	0.1744	0.17
12	-27472.5	2550	-70054875	-70.0549	-70.05
				合計面積(㎡)	1237.56

建築面積　2005.8735（既存図より）

敷地面積　5078.1905（既存図より）

地階延べ床面積＜A+B＞

672.15　＋　561.41　＝　1237.56

地上階延床面積　（既存図より）

1階　1734.7181 ㎡

2階　1159.1976 ㎡

3階　1159.1977 ㎡

4階　860.0075 ㎡

延べ床面積　6150.6809㎡

建ぺい率 ＝　2005.8735 ／　5078.191

＝　39.50% ＜　60%

容積率 ＝　6150.6809 ／　5078.195

＝　121.12% ＜　300%

■居室面積

室名	記号	計算式(mm)			面積(㎡)	室面積(㎡)	室面積(㎡) 切捨て計算
遊戯室2	1	8270	15000	124050000	124.0500	124.0500	124.05
4歳児保育室	2	8000	10835	86680000	86.6800	86.6800	86.68
遊戯室1	3	8000	15000	120000000	120.0000	120.0000	120.00
5歳児保育室	4	8000	15000	120000000	120.0000	120.0000	120.00
3歳児保育室	5	8000	15000	120000000	120.0000	120.0000	120.00
ダイニング	6	2425	433	1050025	1.0500		
	7	5575	3765	20989875	20.9899		
	8	3065	4725	14482125	14.4821	36.5220	36.52
調理室	9	1935	4980	9636300	9.6363		
	10	3000	7360	22080000	22.0800	31.7163	31.72
事務スペース	11	9043	3670	33187810	33.1878	33.1878	33.19
						合計	672.15 …A

■室　面積

室名	記号	計算式(mm)			面積(㎡)	室面積(㎡)	室面積(㎡) 切捨て計算
下膳室	12	2425	3333	8082525	8.0825	8.0825	8.08
前室	13	3000	1685	5055000	5.0550	5.0550	5.06
食品庫	14	3000	1757	5271000	5.2710	5.2710	5.27
給湯室	15	1000	783	783000	0.7830		
	16	2000	2237	4474000	4.4740	5.2570	5.26
大人トイレ	17	2000	1678	3356000	3.3560	3.3560	3.36
幼児トイレ1	18	3000	4165	12495000	12.4950	12.4950	12.50
幼児トイレ2	19	8000	4165	33320000	33.3200		
	20	7527	2550	19193850	19.1939	52.5139	52.51
階段室1	21	2180*2180*3.14*0.5		7461268	7.4613		
	22	40	4360	174400	0.1744		
	23	1320	2100	2772000	2.7720		
	24	5315	2195	11666425	11.6664	22.0741	22.07
多目的便所	25	2750	2100	5775000	5.7750	5.7750	5.78
倉庫1	26	4070	2575	10480250	10.4803	10.4803	10.48
倉庫2	27	3587	3770	13522990	13.5230	13.5230	13.52
更衣室	28	2000	3770	7540000	7.5400	7.5400	7.54
相談室	29	2413	3770	9097010	9.0970	9.0970	9.10
廊下	30	1245	2100	2614500	2.6145		
	31	2955	3100	9160500	9.1605		
	32	2472	1195	2954040	2.9540		
	33	3718	2575	9573850	9.5739		
	34	7518	2550	19170900	19.1709		
	35	24965	6320	157778800	157.7788		
	36	3065	255	781575	0.7816		
	37	3000	2090	6270000	6.2700		
	38	2000	10938	21876000	21.8760		
	39	2000	1200	2400000	2.4000		
	40	2518	2650	6672700	6.6727		
	41	4000	3518	14072000	14.0720		
	42	2525	3200	8080000	8.0800	261.4049	261.40
エントランス	43	8755	6870	60146850	60.1469	60.1469	60.15
階段室2	44	9190	810	7443900	7.4439		
	45	810	4650	3766500	3.7665		
	46	1090	5350	5831500	5.8315		
	47	9190*9190*3.14*0.25		66298038.5	66.2980	83.3399	83.34
						合計	561.41 …B

株式会社　日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
一級建築士　第274650号　伊東　陽子
遺匠設計：一級建築士　第334613号　緋部　響子

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地

熱海市観光建設部まちづくり課

設計	製図	調査
中田	中田	窪田

特記

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）

図面名：敷地求積図・建物求積図・各室求積図

Scale：A1: 1/100　A3: 1/200

No. A-13

Total 52

■採光補正係数の算定表

建物	階数		d	h	d/h	α	β	A=d/h*α-β
1	地階	築山（軒先）	3.943	7.458	0.529	6	1.4	1.772
		4歳児保育室（軒先）	5.846	7.458	0.784			3.303
		ネット遊具（軒先）	7.502	7.458	1.006			4.635
		5歳児保育室（軒先）	9.573	7.458	1.284			6.302
		3歳児保育室（軒先）	11.016	7.458	1.477			7.462
		ダイニング	9.917	7.458	1.330			6.578
		保育室（中庭）	3.200	17.300	0.185			-0.290
		保育室（中庭）	1.840	17.300	0.106			-0.762
		廊下	3.200	8.450	0.379			0.872
		廊下	1.840	8.450	0.218			-0.093
用途地域：住居系地域						α=6	β=1.4	D=7

■有効採光面積の算定表

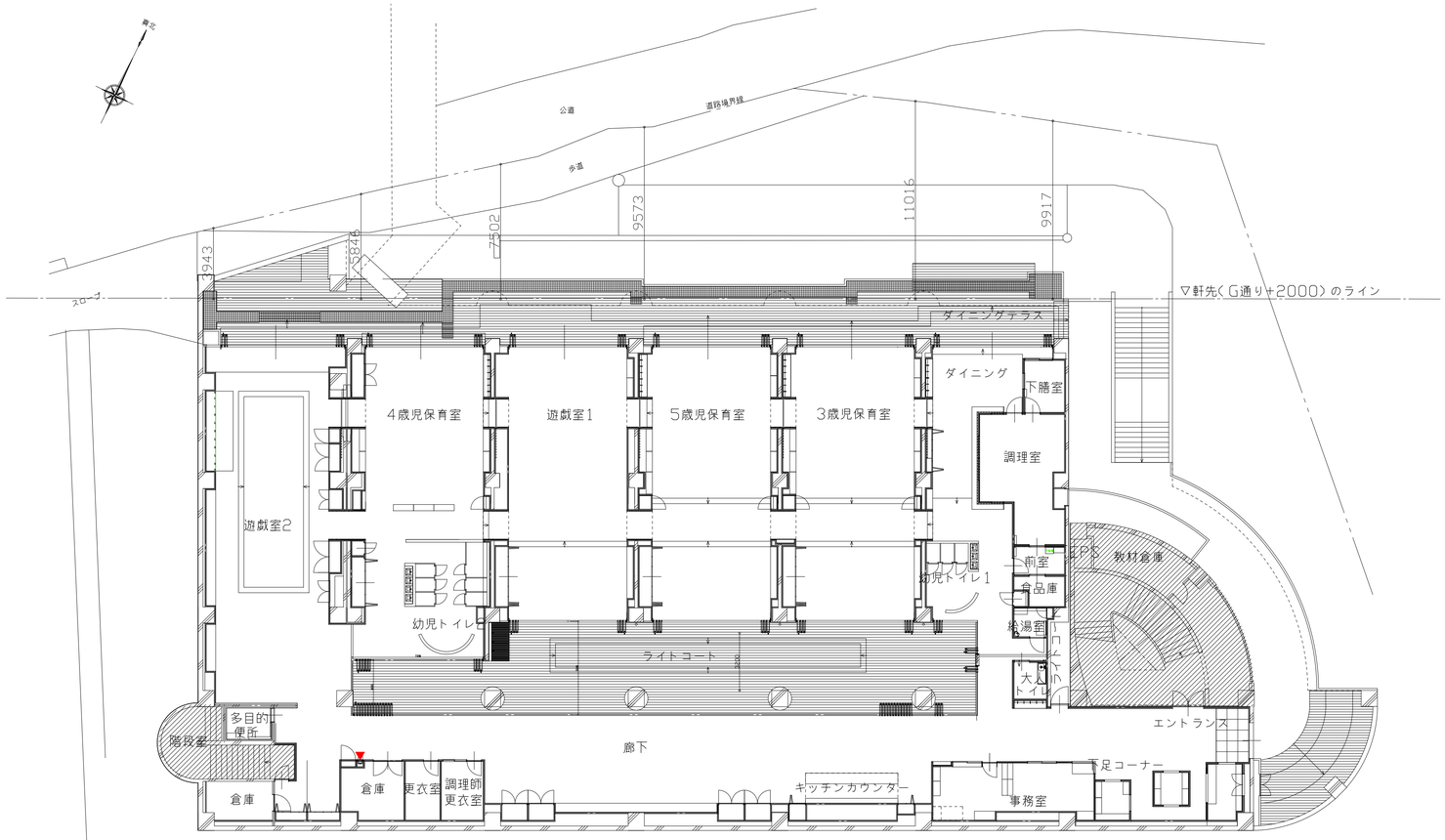
部屋名	床面積	必要採光面積		有効採光面積	判定	開口記号	開口の形状						計
	(㎡)	K	(㎡)	(㎡)				W	H	ヶ所	数量	採光補正係数A	(㎡)
全体	1240.529	1/5	248.106	390.246	OK	AW-1	四角形	5.882	2.255	1	1	3.00	39.792
						AW-2A							
						AW-2A	四角形	5.779	2.255	1	1	3.00	39.095
						AW-2B							
						AW-3	四角形	5.752	2.255	1	1	3.00	38.912
						AW-4							
						AW-5	四角形	18.920	2.255	1	1	3.00	127.994
						AW-6							
						AW-9A	四角形	21.353	2.255	1	1	3.00	144.453
						AW-9B, AW10							

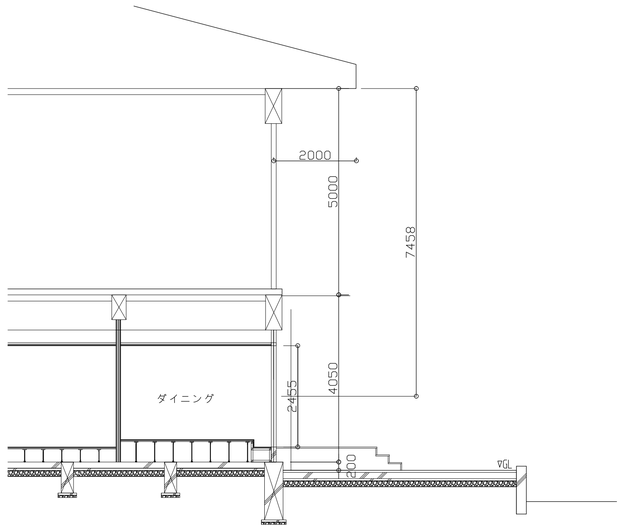
■有効換気面積の算定表

部屋名	床面積	必要換気面積		有効換気面積	判定	開口記号	窓の形状							計
	(㎡)	K	(㎡)	(㎡)				窓形式	倍率	W	H	ヶ所	数量	
全体	1240.529	1/20	62.026	130.082	OK	AW-1	四角窓	折戸	1	5.882	2.26	1	1	13.264
						AW-2A	四角窓							
						AW-2A	四角窓	折戸	1	5.779	2.26	1	1	13.032
						AW-2B	四角窓							
						AW-3	四角窓	折戸	1	5.752	2.26	1	1	12.971
						AW-4	四角窓							
						AW-5	四角窓	折戸	1	18.920	2.26	1	1	42.665
						AW-6	四角窓							
						AW-9A	四角窓	折戸	1	21.353	2.26	1	1	48.151
						AW-9B, AW10	四角窓							

■有効排煙面積の算定表

部屋名	床面積	必要排煙面積		有効排煙面積	判定	開口記号	窓の形状						計
	(㎡)	K	(㎡)	(㎡)				窓形式	倍率	W	H	ヶ所	数量	
全体	1240.529	1/50	24.811	38.729	OK	AW-1		折戸	1	5.882	0.45	1	1	2.617
						AW-2A		折戸	1	5.779	0.45	1	1	2.572
						AW-2A		折戸	1	5.779	0.45	1	1	2.572
						AW-2B		折戸	1	5.779	0.45	1	1	2.572
						AW-3		折戸	1	5.752	0.45	1	1	2.560
						AW-4		折戸	1	6.935	0.45	1	1	3.086
						AW-5		折戸	1	18.920	0.45	1	1	8.419
						AW-6		折戸	1	6.143	0.45	1	1	2.734
						AW-9A		折戸	1	21.353	0.45	1	1	9.502
						AW-9B, AW10		折戸	1	4.710	0.45	1	1	2.096

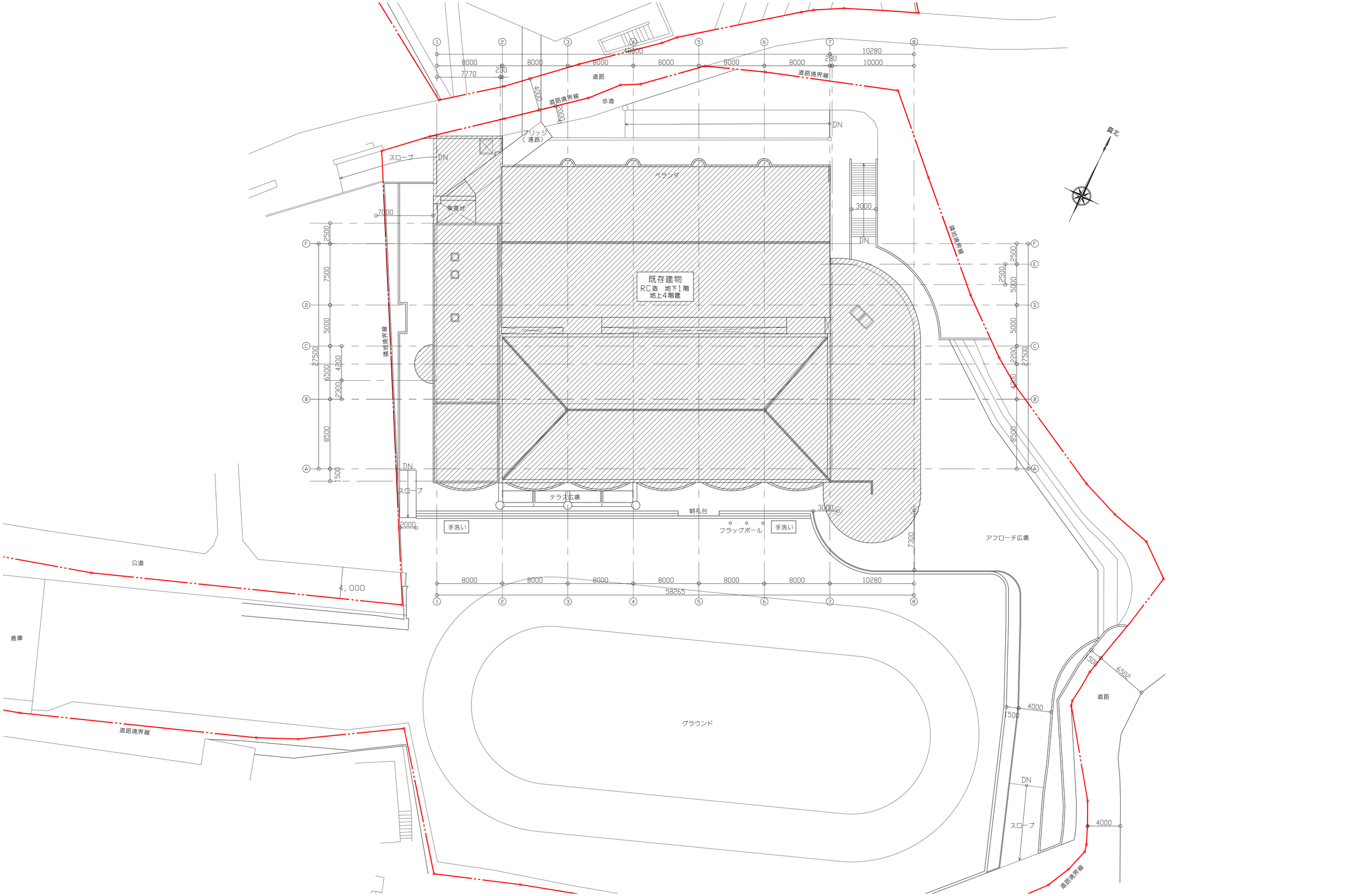




採光補正係数D
A1: 1/150 A3: 1/300

採光補正係数H
A1: 1/100 A3: 1/200

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第274650号 伊東 陽子	意匠設計：一級建築士 第334613号 緋部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修 採光、換気、排煙算定表	Scale A1: 1/150 A3: 1/300	No. A-14 Total 52



株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子	遅延設計：一級建築士　第３３４６１３号　鮒部　響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	設計 中田	製図 中田	調査 窪田	熱海市観光建設部まちづくり課	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修　配置図	Scale A1: 1/200 A3: 1/400	No. A-15 Total 52

内　部　仕　上　表

階	室名（既存）	室名（新設）	床	幅止	記号	巾木	高さ	記号	腰	高さ	記号	壁	記号	天井	記号	天井高	室名（既存）	室名（新設）	備考
地階	教育相談	エントランス	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	木製入巾木　□Pヌリ	50	EH-2				胴縁下地　木品ベニアｔ=9　目スカシ貼り　□Pヌリ	EW-15	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）	EC-2	3000	教育相談	エントランス	
		下足コーナー	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	木製入巾木　□Pヌリ	50	EH-2				胴縁下地　木品ベニアｔ=9　目スカシ貼り　□Pヌリ	EW-15	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）	EC-2	3000		下足コーナー	
	ギャラリー（B-C通り間）	事務室	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板ｔ=12捨て貼り	EC-4	3000	ギャラリー	事務室	
	図工室（一部）	ダイニング	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　ｔ=8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	図工室（一部）	ダイニング	
			モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6														
	図工準備室（一部）		コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）ｔ=9	EC-2	2700	図工準備室（一部）		
	図書室	3歳児保育室	コンクリート金ゴテ下地　タイルカーペット敷き	－	EF-3	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	図書室	3歳児保育室	
	図書準備室		コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）ｔ=9	EC-2	2700	図書準備室		
	家庭科室	4歳児保育室	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り	－	EF-2	木製入巾木　□Pヌリ	50	EH-2				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	家庭科室	4歳児保育室	
			下地モルタル磁器無釉タイル100角	－	EF-7														
	家庭科準備室		コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り □Pヌリ	EW-2 EW-8	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）ｔ=9	EC-2	2700	家庭科準備室		
	視聴覚室	5歳児保育室	□A用フロアー+タイルカーペット敷き	－	EF-9	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				内法H：2000以下胴縁下地　化粧グラスウール埋込 木製スリット壁　ラワン30角@=60　□Pヌリ	EW-3	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	視聴覚室	5歳児保育室	
			モルタル金ゴテ下地　長尺塩ビシート貼りｔ=2．8	－	EF-5							内法H：2000以上胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　吸音クロス貼り	EW-4						
	視聴覚準備室		コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）ｔ=9	EC-2	2700	視聴覚準備室		
	理科室	遊戯室1	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　ｔ=8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-5	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	理科室	遊戯室1	
			下地モルタル磁器無釉タイル100角	－	EF-7							内法H：2000以上　掲示用クロス貼り	EW-6						
	理科準備室		コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）ｔ=9	EC-2	2700	理科準備室		
	会議室	遊戯室2	コンクリート金ゴテ下地　タイルカーペット敷き	－	EF-4	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=9　吸音クロス貼り	EW-9	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3000	会議室	遊戯室2	
	男女便所		モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6							モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	EW-12	軽鉄下地　石綿ケイ酸カルシウム板ｔ=6 目スカシ貼り　VEヌリ	EC-5	2640	男女便所		
			コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシートｔ=2．8	－	EF-1														
	図工室（一部）	下膳室	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　ｔ=8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	図工室（一部）	下膳室	
			モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6														
		調理室	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　ｔ=8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740		調理室	
			モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6														
		前室	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　ｔ=8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板ｔ=5．5　杉板貼りｔ=6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740		前室	
			モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6														

内　部　仕　上　表

階	室名（既存）	室名（新設）	床	幅木	記号	巾木	高さ	記号	腰	高さ	記号	壁	記号	天井	記号	天井高	室名（既存）	室名（新設）	備考
地階	図工準備室（一部）	食品庫	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　化粧石膏ボード（ジプトーン）t＝9	EC-2	2700	図工準備室（一部）	食品庫	
	廊下（通路）	給湯室	コンクリート金ゴテ下地 長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1	軽鉄間仕切　ベニア合板 t＝5．5 杉木貼り t＝6 クリアーヌリ	900	1	□通り腰上：軽鉄間仕切ベニア合板 t＝9　掲示用クロス貼り	EW-10	トップライト（スクールテンバ）	EC-3	2700	廊下（通路）	給湯室	
												ライトコート側：コンクリート打放　吹付タイル	EW-11						
	ギャラリー	廊下	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	3000	ギャラリー	廊下	
		更衣室	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	3000		更衣室	
		調理師更衣室	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	3000		調理師更衣室	
	図工室（一部）	幼児トイレ1	コンクリート金ゴテ下地　パーケットフロアー貼り　t＝8	－	EF-2	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝5．5　杉板貼り t＝6　クリアーヌリ	EW-1	システム天井EGスパン（2×2）	EC-1	3090~3740	図工室（一部）	幼児トイレ1	
			モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6														
	廊下（通路）	幼児トイレ2	コンクリート金ゴテ下地 長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1	軽鉄間仕切　ベニア合板 t＝5．5 杉木貼り t＝6 クリアーヌリ	900	1	腰上：軽鉄間仕切ベニア合板 t＝9　掲示用クロス貼り	EW-10	トップライ（スクールテンバ）	EC-3	2700	廊下（通路）	幼児トイレ2	
												ライトコート側：コンクリート打放　吹付タイル	EW-11						
		大人トイレ	コンクリート金ゴテ下地 長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1	軽鉄間仕切　ベニア合板 t＝5．5 杉木貼り t＝6 クリアーヌリ	900	1	腰上：軽鉄間仕切ベニア合板 t＝9　掲示用クロス貼り	EW-10	トップライ（スクールテンバ）	EC-3	2700		大人トイレ	
												ライトコート側：コンクリート打放　吹付タイル	EW-11						
	身障者便所	多目的トイレ	モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	－	EF-6							モルタル金ゴテ下地　磁器無釉タイル100角	EW-12	軽鉄下地　石綿ケイ酸カルシウム板 t＝6 目スカシ貼り　VEヌリ コンクリート打放し　吹付タイル	EC-5 EC-6	2590	身障者便所	多目的トイレ	
	倉庫	倉庫1	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　木品ベニア合板 t＝9　目スカシ貼り　□Pヌリ	EW-13	軽鉄下地　化粧石膏ボード t＝9	EC-2	2600	倉庫	倉庫1	
	ギャラリー	倉庫2	コンクリート金ゴテ下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-1	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				胴縁下地　ベニア合板 t＝9　クロス貼り	EW-2	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	3000	ギャラリー	倉庫2	
	ドライエリア	ライトコート										コンクリート打放　吹付タイル	EW-18				ドライエリア	ライトコート	
	吹き抜け	ライトコート（改修なし）										コンクリート打放　吹付タイル	EW-18				吹き抜け	ライトコート（改修なし）	
	階段A	（改修なし）	セメント系SLプラスター下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-8							スキンコート吹付	EW-14	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	－	階段A	（改修なし）	
	洗面所	（改修なし）	セメント系SLプラスター下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-8							下地モルタル　磁器施釉タイル貼り（モザイク）	EW-16	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	－	洗面所	（改修なし）	
	教材倉庫	（改修なし）	セメント系SLプラスター下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-8	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				コンクリート打放し　EPヌリ	EW-17	軽鉄下地化粧石膏ボード（ジプトーン）t＝9	EC-2	－	教材倉庫	（改修なし）	
	階段B	（改修なし）	セメント系SLプラスター下地　長尺発泡塩ビシート t＝2．8	－	EF-8	入巾木　□Pヌリ	50	EH-1				コンクリート打放　吹付タイル	EW-18	軽鉄下地　ロックウール化粧吸音板 t＝12 捨て貼り	EC-4	－	階段B	（改修なし）	

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子
遅匠設計：一級建築士　第３３４６１３号　鍛部　響子

Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田　製図 中田　調査 窪田

特記

ATMY-KNS-01

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名：既存　内部仕上表（2）

Scale

No. A-17

Total 52

内　部　仕　上　表

階	室名	床	仕上	記号	巾木	高さ	記号	腰	高さ	記号	壁	記号	天井	記号	天井高	室名	法規制等
地階	エントランス	コンクリート金ゴテ下地　調整モルタルの上 磁器質タイル600×600貼り （名古屋モザイクタイル　グランラウンジ　同等）		F-1	SUS巾木 t＝1．2HL	80~125	H-1				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	エントランス	
											LGS下地PB12．5の上　木化粧板貼り	W-2	LGS野縁下地　石膏ボードt=9．5　2枚貼りの上　EP塗装	C-7	2700		
	下足コーナー	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 耐水合板ｔ＝24の上　複合フローリングｔ＝14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	65	F-2	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	下足コーナー	
											LGS下地PB12．5の上　木化粧板貼り	W-2					
	事務室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 耐水合板ｔ＝24の上　複合フローリングｔ＝14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	65	F-2	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧PB t＝9．5（900角）貼り	C-6	2370	事務室	
	ダイニング	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12捨貼りの上　複合フローリングｔ＝14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-4	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2185	ダイニング	
	3歳児保育室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12の上　床暖房パネルt=12敷き込み 複合フローリングｔ＝14（望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-3	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	3歳児保育室	※床暖房
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20の後、 耐火合板ｔ＝12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ＝2．0貼り （サンゲツ　エスリュームプレーン　同等）	50	F-5'							LGS耐水下地PB12．5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　ビニルクロス貼り	C-2	1870		
	4歳児保育室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12の上　床暖房パネルt=12敷き込み 複合フローリングｔ＝14（望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-3	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	4歳児保育室	※床暖房
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20の後、 耐火合板ｔ＝12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ＝2．0貼り （サンゲツ　エスリュームプレーン　同等）	50	F-5'							LGS耐水下地PB12．5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　ビニルクロス貼り	C-2	1870		
	5歳児保育室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12の上　床暖房パネルt=12敷き込み 複合フローリングｔ＝14（望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-3	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	5歳児保育室	※床暖房
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20の後、 耐火合板ｔ＝12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ＝2．0貼り （サンゲツ　エスリュームプレーン　同等）	50	F-5'							LGS耐水下地PB12．5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　ビニルクロス貼り	C-2	1870		
	遊戯室1	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12の上　床暖房パネルt=12敷き込み 複合フローリングｔ＝14（望造　HSチーク　UVマット　W127　同等） （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-3	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2570	遊戯室1	※床暖房
											LGS下地PB12．5の上 ボンデ鋼板t=0．8貼の上　シーラー塗布　黒板塗装（グリーンエレファント）	W-3	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　ビニルクロス貼り	C-2	1870		
											LGS下地合板t=9．0貼の上 ステンレスミラーt=1．5貼						
	遊戯室2	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20 耐水合板ｔ＝12捨貼りの上　複合フローリングｔ＝14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等） 既存コンクリートスラブ下地調整の上　防塵塗装	50 0	F-4 F-8	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　岩綿吸音板　t＝9．0貼り	C-1	2370	遊戯室2	
											LGS下地PB12．5の上 ビニルクロス貼（ルノン同等）	W-7	LGS野縁下地　PB t＝9．5の上　ビニルクロス貼り	C-2	1870		
	下膳室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20の後、 耐水合板ｔ＝12の上　ビニル床シートｔ＝2．0貼り （サンゲツ　ニューセーフティ　同等）	40	F-5							LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-4	LGS野縁下地（外部用）　ケイカル板ｔ＝6．0　貼り （目透かし）の上　VP塗装	C-4	2285	下膳室	※火気使用室
	調理室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ＝25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ＝20の後、 耐水合板ｔ＝12の上　ビニル床シートｔ＝2．0貼り （サンゲツ　ニューセーフティ　同等）	40	F-5							LGS下地PB12．5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条．114条区画：両面強化PB12．5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-4'	LGS野縁下地（外部用）　ケイカル板ｔ＝6．0　貼り （目透かし）の上　VP塗装	C-4	2285	調理室	※火気使用室

内装制限

■令126条の2　排煙設備の免除

種二　平12建告1436号1項四号　ハ（2）適用室
床面積が100㎡以下で、令第126条の2第1項に掲げる防煙壁により区画
（防煙壁：天井面から50cm以上下方に突き出した垂れ壁、仕上を不燃材料）

種四　平12建告1436号1項四号　ハ（4）適用居室
床面積が100㎡以下で、壁及び天井の仕上・下地を不燃材料

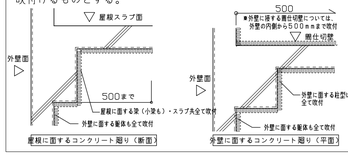
使用建材材料表（法28条の2及び令20条の7）

■内装仕上げに用いる建築材料の種別

磁器質タイル	規制対象外	ケイ酸カルシウム板	規制対象外
複合フローリング	F☆☆☆☆	パスリブ	規制対象外
ビニル床シート	規制対象外	合板	F☆☆☆☆
発泡層付ビニル床シート	規制対象外	ランバーコア材	F☆☆☆☆
防湿性ビニル床シート	規制対象外	引戸・開戸・収納扉	F☆☆☆☆
タイルカーペット	F☆☆☆☆	家具	F☆☆☆☆
スタイロ畳	F☆☆☆☆	木材保護塗料	規制対象外
繊維板甲板	規制対象外	ウレタンラバー(UC)	規制対象外
石膏ボード	規制対象外	ビニル製ペイント(VP)	規制対象外
ビニルクロス	F☆☆☆☆	エマルションペイント(EP)	規制対象外
岩綿吸音板	規制対象外		
フレキシブルボード	規制対象外	※石綿を含む建材は使用しない。	

外壁断熱材　特記

外壁・屋根に面するコンクリート部には、発泡ウレタン　t=25を吹付けるものとする。



内装材料

石膏ボードt=12．5	不燃材料	NM-8619
化粧石膏ボード t＝9．5	不燃材料	NM-1864
強化石膏ボードt=12．5	不燃材料	NM-8615
珪酸カルシウム板t=6．0	不燃材料	平12建告1400
フレキシブルボードt=6．0	不燃材料	平12建告1400
陶磁器質タイル	不燃材料	平12建告1400
ビニルクロス	不燃材料	NM-1096
ロックウール化粧吸音板 t＝9．0	不燃材料	NM-8599
複層仕上塗材E	不燃材料	NM-8573

室内空気汚染物質対策について

内部仕上における建材使用により化学物質の室内汚染対策として下記の通り施工・検査をする事。

1．揮発性有機化合物による各室内濃度においては下記に示す基準値以下とする。
2．現場における、合板、壁紙、木製造作家具等における工事に際しては、事前にメーカー又は製作業者による『揮発性有機化合物の基準値以下とする施工計画書』を提出させる事。
3．現場における、上記の材料等搬入時には必ず検知機による濃度検査を行い、基準値を上回る物がある場合は現場内への搬入を禁止する。
4．現場における、完了検査時には必ず再度検知機による濃度検査を行い、基準値を上回る物がある場合は速やかに改善処置を行う事。

化学物質濃度基準値一覧　下記◎印の物質の室内化学物質濃度の測定を厚生労働省標準測定法により検査できる第三者機関に依頼し、基準値以下であることを確認した報告書を提出すること。（測定箇所：各居室）

◎ホルムアルデヒド	:0．08ppm	パラジクロロベンゼン	:0．04ppm
◎アセトアルデヒド	:0．03ppm	テトラデカン	:0．04ppm
◎トルエン	:0．07ppm	クロルピリホス	:0．007ppb
◎キシレン	:0．20ppm	フェノブカルブ	:3．8ppb
◎エチルベンゼン	:0．88ppm	ダイアジノン	:0．02ppb
◎スチレン	:0．05ppm	フタル酸ジ-n-ブチル	:0．02ppm
		フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	:7．6ppm

シックハウス対策

1．内装仕上材及び造作家具材料については、全て「F☆☆☆☆」認定品を使用すること。（天井裏への措置、開仕切、外壁、収納についても同等とする）
2．建築材料については、クロルピリホス不添加、石綿不使用とする。（令20条の4，5）

ビニル床シート貼り特記

1．ビニル床シートを水廻りに使用の時は、エポキシ系接着剤を使用する事。
2．ビニル床シートを1階部に使用の時は、エポキシ系接着剤を使用する事。
3．ビニル床シートを2階以上に使用する時は、エマルジョン系接着材を使用する事。

下地合板・化粧合板等特記

1．水廻り・湿気の及ぼす可能性のある箇所については、（T－1）合板を使用する事。
2．壁下地等で合板を使用する場合は、（F☆☆☆☆）合板を使用する事。（国産品）
3．仕上材として合板を使用する時は、（F☆☆☆☆）合板を使用する事。（国産品）
4．練付化粧合板を使用する時も、（F☆☆☆☆）合板を使用し、突板の接着においてもノンホルマリンの接着剤にて加工する事。（国産品）

造作家具製作特記

1．造作家具製作に当たっての、塗装仕上げは必ずスプレーガンにて施工し、ハケ塗りをしない事。
2．使用する合板においては、必ず（F☆☆☆☆）合板を使用する事。下地共（国産品）

軽量鉄骨壁下地　特記

1．脚部ランナーの固定打込みピンは@900程度とする。
2．頭部ランナーの固定打込みピンは@900程度とする。
3．開口部補強材は、C－60×30×10×2．3とし、防錆処理を行う事。
4．溶接箇所には、必ず錆止め塗料を塗布する事。
5．製品は、JIS規格品とする。

壁紙貼り（ビニルクロス・無機質クロス等）特記

1．壁紙の壁面への接着期は、ノンホルマリン期を使用する事。
2．壁紙を仕上る際にスポンジ・雑巾等で水拭きを行う時は、接着期等を良く落としたきれいな物で拭く事。

フローリング特記

1．フローリングにおいて、複合フローリングを使用の際は、（F☆☆☆☆）仕様のフローリングとする事。
2．床との接着に際しても、ノンホルマリン接着剤を使用する事。

株式会社　日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事　登録　第２０１７号
一級建築士　第274650号　伊東　陽子

所属設計：一級建築士　第334613号　新部　馨子

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地

熱海市観光建設部まちづくり課
設計：中田　製図：中田　調査：窪田

特記：ATMY-NS-01

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名：改修　内部仕上表（1）

Scale：

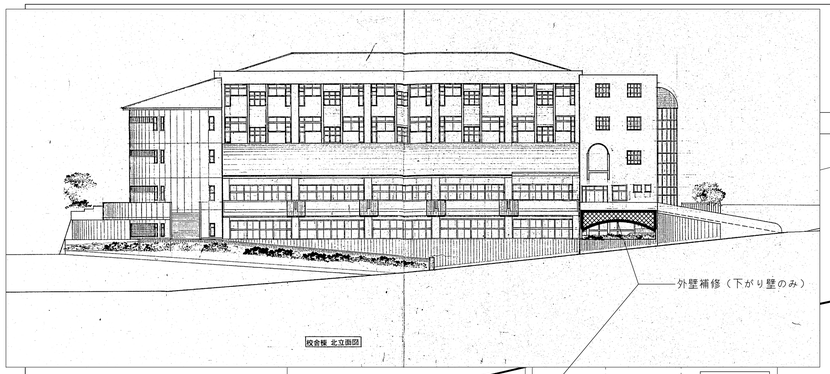
No. A-18
Total 52

内　部　仕　上　表

階	室名	床	幅	記号	巾木	高さ	記号	腰	高さ	記号	壁	記号	天井	記号	天井高	室名	法規制等
地階	前室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20の後、 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-5	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	前室	
	食品庫	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20の後、 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-5	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	食品庫	
	給湯室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20の後、 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-5	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	給湯室	
	廊下	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐火合板ｔ=24の上　複合フローリングｔ=14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	65	F-2	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PBｔ=9.5の上　岩綿吸音板　ｔ=9.0貼り	C-1	2370	廊下	
											LGS下地PB12.5の上　木化粧板貼り	W-2	LGS野縁下地　PBｔ=9.5の上　ビニルクロス貼り	C-2	2370		
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐水合板ｔ=12　合板t=12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	65	F-6'							LGS下地PB12.5　2枚貼の上　□P塗装	W-6					
	更衣室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐火合板ｔ=24の上　複合フローリングｔ=14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	65	F-2	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	更衣室	
	調理師更衣室	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐火合板ｔ=24の上　複合フローリングｔ=14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	65	F-2	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	調理師更衣室	
	幼児トイレ1	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20の後、 耐火合板ｔ=12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	50	F-5'							LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PBｔ=9.5の上　岩綿吸音板　ｔ=9.0貼り	C-1	2370	幼児トイレ1	
											LGS耐水下地PB12.5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4					
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20 耐水合板ｔ=12捨貼りの上　複合フローリングｔ=14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-4													
	幼児トイレ2	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20後、 耐火合板ｔ=12　2枚貼りの上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	50	F-5'							LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等） （令112条、114条区画：両面強化PB12.5　2枚貼りの上ビニルクロス貼）	W-1	LGS野縁下地　PBｔ=9.5の上　岩綿吸音板　ｔ=9.0貼り	C-1	2370	幼児トイレ2	
											LGS耐水下地PB12.5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4					
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20 耐水合板ｔ=12捨貼りの上　複合フローリングｔ=14 （望造　HSチーク　UVマット　W127　同等）	50	F-4													
	大人トイレ1	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20後、 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-5	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	大人トイレ1	
											LGS耐水下地PB12.5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4					
	大人トイレ2	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-6	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	大人トイレ2	
											LGS耐水下地PB12.5の上　磁器質タイル25角 （名古屋モザイクタイル　αキューブマット　同等）	W-4					
	倉庫1	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-6	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	倉庫1	
	倉庫2	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-6	軟質ビニル巾木（抗菌）	60	H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り	C-3	2370	倉庫2	
	ライトコート	根太：亜鉛メッキ鋼板（2AM）ｔ=1.6　40×70@500 大引き：亜鉛メッキ鋼板（2AM）ｔ=1.6　40×70@900 木製デッキ：再生木材145×30　目地5ｍｍ　ノンビスタイプ （東洋ロザイ　アシェラウッド貼り方向指定）		F-7							コンクリート打放　吹付タイル（ALC　吹付タイル）（既存のまま）	W-5				ライトコート	
	収納	既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 二重床システム　パーティクルボードｔ=20後、 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-5	軟質ビニル巾木（抗菌） 軟質ビニル巾木（抗菌）	60 60	H-2 H-2				LGS下地PB12.5の上　ビニルクロス貼り（ルノン同等）	W-1	LGS野縁下地　化粧石膏ボードｔ=9.5貼り LGS野縁下地　PBｔ=9.5の上　ビニルクロス貼り	C-3 C-2	- -	収納	
		既存コンクリートスラブの上　ウレタンフォームｔ=25敷き込み 耐水合板ｔ=12の上　ビニル床シートｔ=2.0貼り （サンゲツ　エスリュームブレーン　同等）	40	F-6													

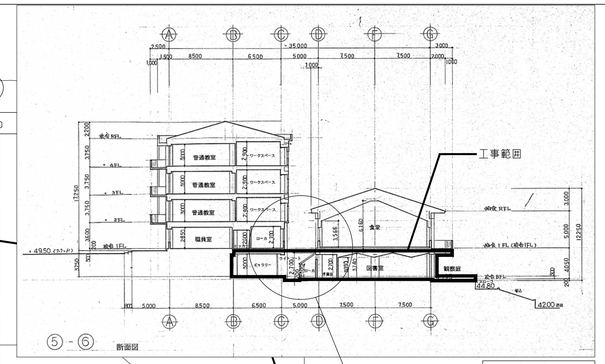
株式会社　日比野設計
一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
一級建築士　第274650号　伊東　陽子
意匠設計：一級建築士　第334613号　新部　響子

Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課	特記	工事名	図面名	Scale	No.
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田　製図 中田　調査 窪田	ATMY-NS-01	（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　内部仕上表（2）		A-19
									Total 52



外壁補修（下がり壁のみ）

北立面図



⑤-⑥ 断面図

既存⑤－⑥断面図

公道

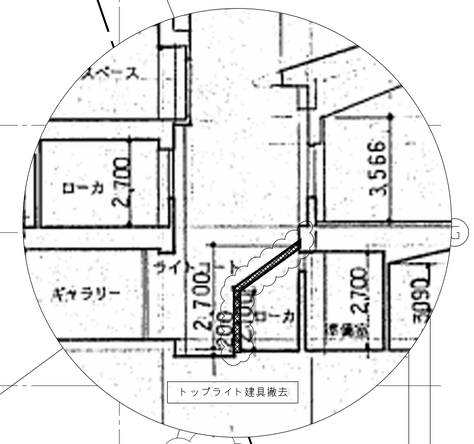
道路境界線

歩道

スロープ

- サッシ・壁の撤去範囲
- 工事範囲外
- トップライト建具範囲

※B1FL＝既存食堂棟SLとする
※その他の壁は構造体以外撤去
※床は構造体以外全て撤去
※天井は全て撤去
※現地調査の上、既存平面図・改修平面図にないものはすべて撤去とする



フェンス撤去
既設階段撤去
カスケード内部および
カスケード周り20cmの範囲タイル撤去
北水口周り装飾撤去・補修
スロープ
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=7380×2770
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6675×2870
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6975×3070
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6975×2940
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6975×3070
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6675×3070
手洗い
タイル
撤去
家具撤去H=960
家具撤去H=800
壁撤去W×H=
1760×2180
FL+135
家具撤去H=3000
家具撤去H=1200
家具撤去
2000×900
計8台
プロジェクター
装置撤去
黒板撤去
家具撤去
1800×900
計7台
家具撤去H=900
家具撤去H=3000
壁撤去W×H=
1760×2180
FL+135
家具撤去H=2000
家具撤去H=3000
家具撤去H=3000
家具撤去
3000×900
家具撤去H=800
テレビ吊り
装置撤去
家具撤去H=2800
家具撤去H=900
プラネタリウム装置撤去
テレビ吊り装置撤去
ホワイトボード撤去
家具撤去H=2000
壁撤去W×H=
1960×2000
FL+135
家具撤去H=3200
家具撤去
2400×900
家具撤去
H=3000
吊り具撤去
家具撤去H=2700
家具撤去H=1800
家具撤去H=2000
家具撤去H=2025
家具撤去H=800
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=34810×1800
下がり壁撤去
※梁を壊さないよう注意する
竪樋撤去
（地下部分のみ）
建具撤去（FIX）
W×H=
1800×1000
建具撤去（FIX）
W×H=
360×2680
建具撤去（FIX）
W×H=3100×2680
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=35170×2680
Exp. j 及び 袖壁撤去しない
スロープ撤去
建具撤去（防煙シャッター）
W×H=1250×2690
建具撤去（防煙シャッター）
W×H=2195×2690
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=5675×2570
建具撤去（FIX）
W×H=
1760×2180
FL+135
建具撤去（片開き戸・FIX窓）
W×H=900×2700
工事範囲外
建具撤去（FIX・引違窓）
W×H=6290×2460
Exp. j
撤去しない
会議室
家庭科室
理科室
視聴覚室
図書室
図工室
家庭科準備室
理科準備室
視聴覚準備室
図書準備室
図工準備室
廊下（通路）
吹き抜け
ギャラリー
教材倉庫
階段室A
階段室B
女子便所
男子便所
身障者便所
倉庫
教相室
ドライエリア
トイレブース・
衛生器具撤去
排水管撤去
（壁内）
※既存机・椅子は撤去せずに保管する
FL±0
FL+130
FL+300
Up
DN
EPS
工事範囲外

8000 8000 8000 8000 8000 8000 10280 7000
58280

1 2 3 4 5 6 7 8
B C D E F G H

真北

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号
一級建築士 第274650号 伊東 陽子
登所設計：一級建築士 第334613号 鯨部 響子

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地

熱海市観光建設部まちづくり課					
設計	中田	製図	中田	調査	窪田

特記

ATMY-GT-01

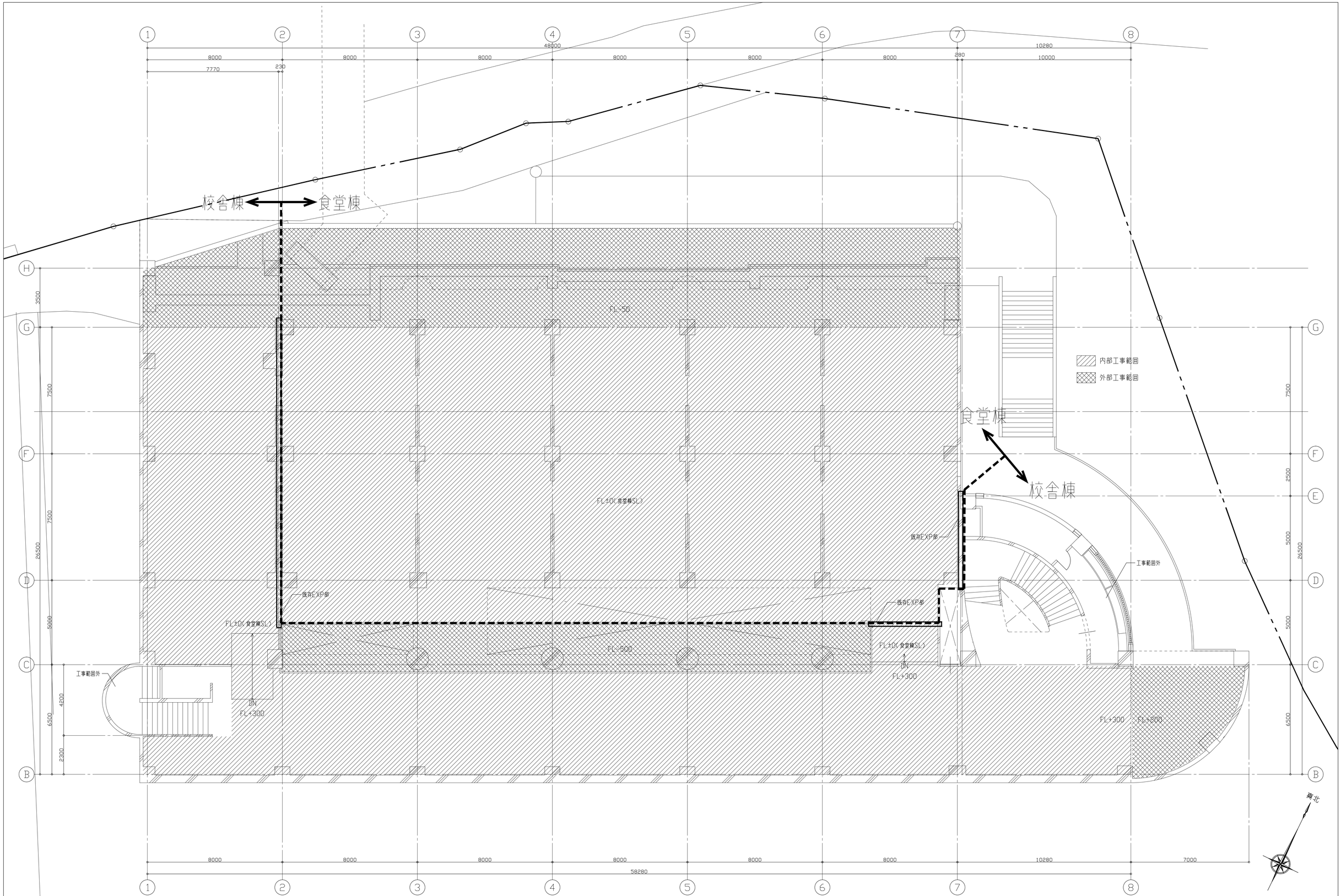
工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名：既存 地階平面図（撤去図）

Scale：A1：1/100 A3：1/200

No. A-20

Total 52


1
2
3
4
5
6
7
8
8000
8000
8000
8000
8000
8000
8000
48000
7770
230
280
10000
10280
58280
7000
校舎棟
食堂棟
H
G
F
E
D
C
B
3500
7500
26500
5000
2300
4200
6500
FL-50
FL±0(食堂棟SL)
FL-500
既存EXP部
工事範囲外
DN
FL+300
FL+200
内部工事範囲
外部工事範囲
真北

| | | |

記号	内　　容
	令114条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
	令112条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
	床下点検口　600角（SUS）
	PS点検口
	埋込型消火器BOX＋消火器ABC粉末10型
	置型消火器BOX＋消火器ABC粉末10型
排	令126条の2の防煙垂壁H=500 （記述のないものは壁と同様の構造とする）（下地仕上不燃）
防	特定防火設備（常閉）

※B1FL＝既存食堂棟SLとする。
※建物内で使用するカーテン・絨毯等は防炎物品を使用する。

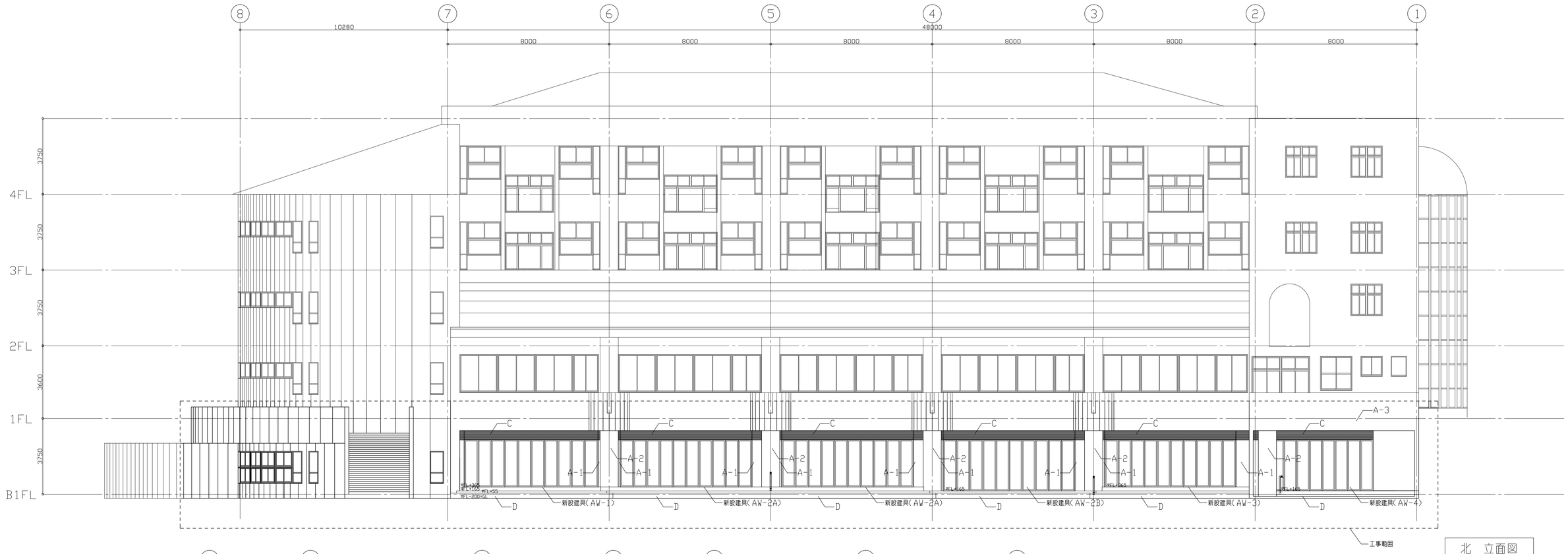
■定員

年齢	定員	一人当りの面積	必要面積	
3	40	1.98	79.20	幼児棟
4	40	1.98	79.20	
5	40	1.98	79.20	

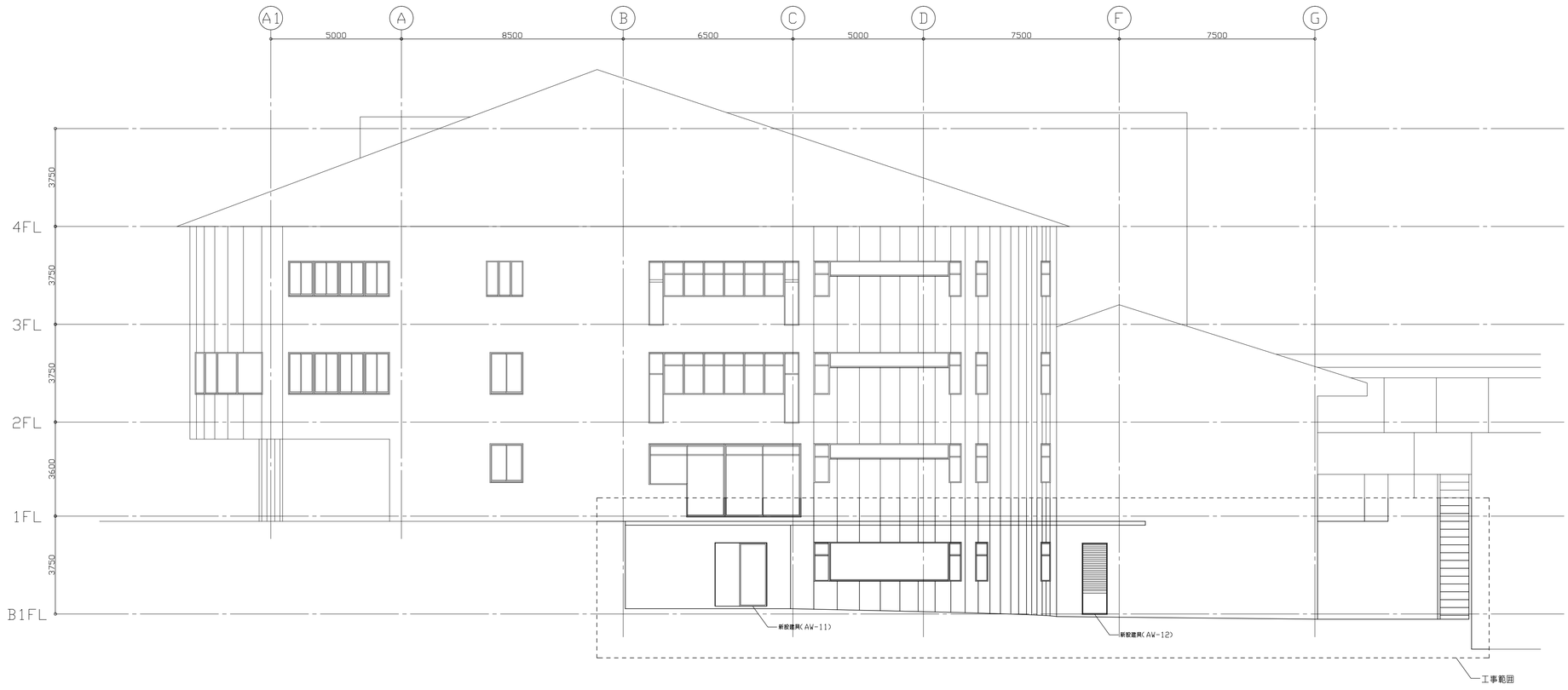
※3~5歳児：1号認定、2号認定　各20人

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子	遅延設計：一級建築士　第３３４６１３号　緋部　響子	Date	平成30年3月	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課	設計	製図	調査	特記
				奥水	浅井	伊佐地		中田	中田	窪田	

ATMY-HS-01	工事名	図面名	Scale	No.
	（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　地階平面図	A1: 1/100 A3: 1/200	A-22 Total 52



北　立面図

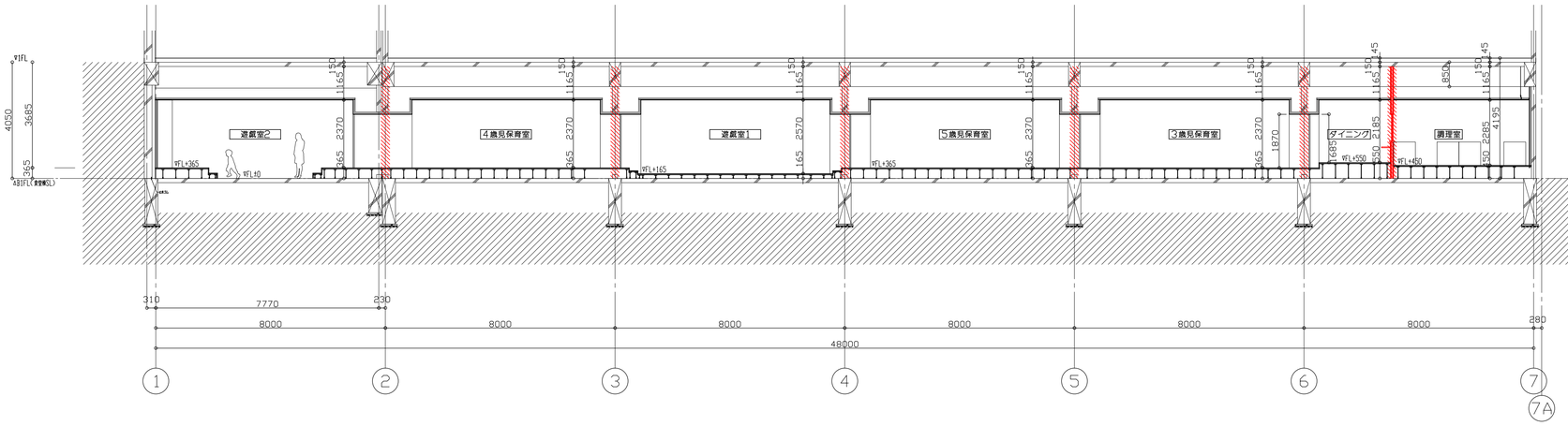


東　立面図

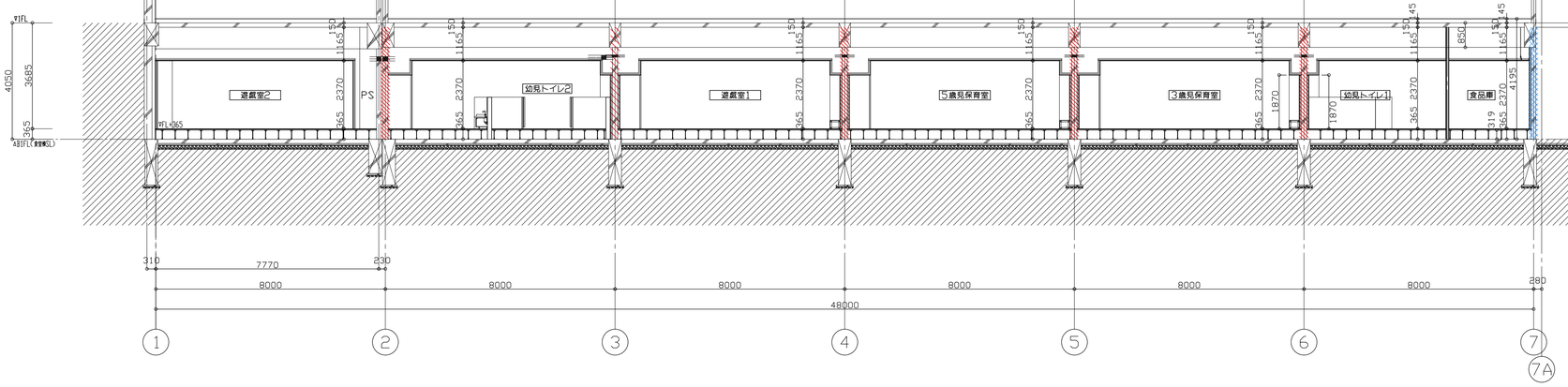
仕上凡例

A-1	外壁（新設）	コンクリート打ち放し　アクリルゴム系弾性吹付タイル凸首処理
A-2	外壁（既存）	既存小口タイル撤去　清掃　下地調整処理の上　アクリル系弾性吹付タイル凸首処理
A-3	外壁（既存）	（垂壁撤去後）清掃　下地調整処理の上、アクリル系弾性吹付タイル凸首処理
B	軒天	軽量鉄骨下地　ケイ酸カルシウム板t=6.0　目地かし張り　EP塗装
C	ルーバー	軽量鉄骨下地　再生木ルーバー　100×25@55
D	ウッドデッキ	木製デッキ：再生木材145×30　目地5mm　ノンビスタイプ 根太：スーパーダイマ40×40@500　大引き・束柱：40×40@900
E	水栓柱	ステンレス水栓柱　三栄　T805-76×1300

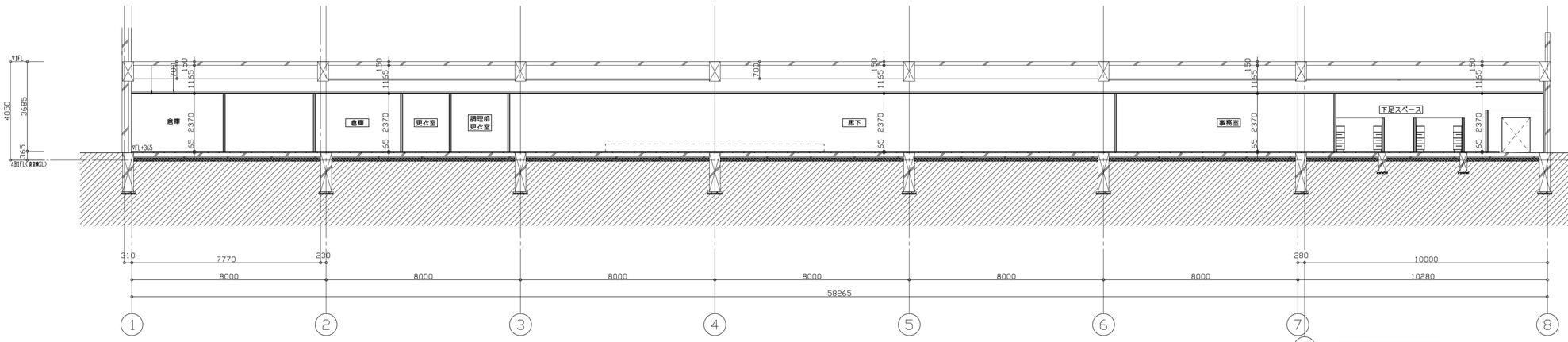
| | | |



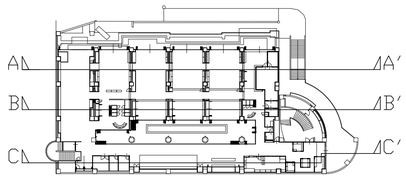
A－A′ 断面図



B－B′ 断面図



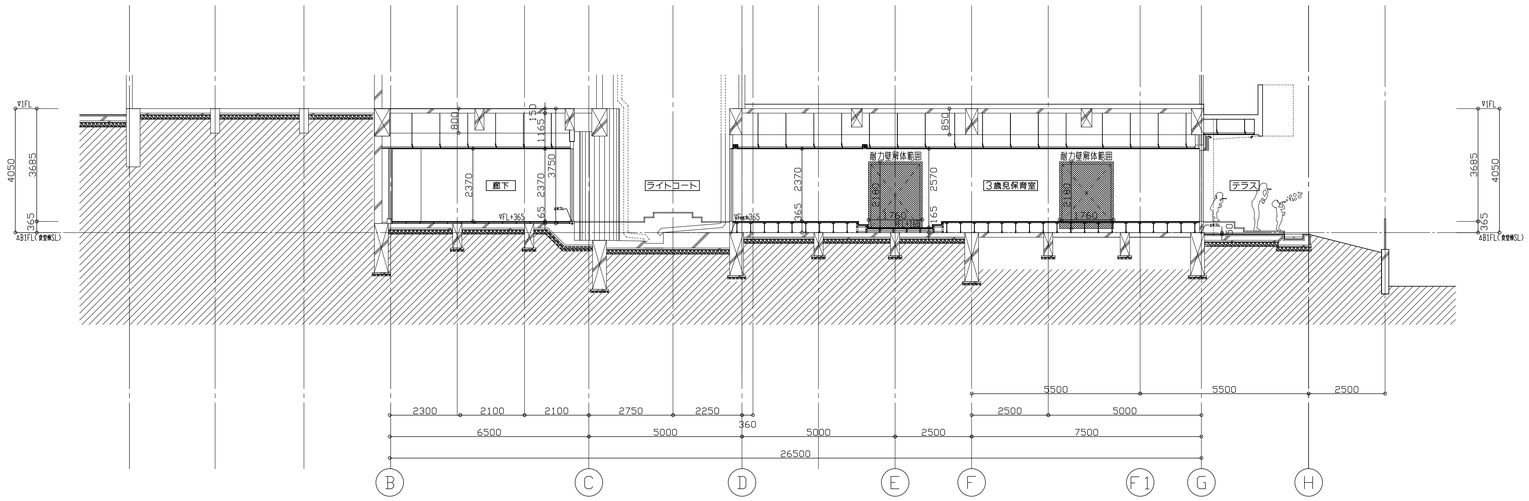
C－C′ 断面図



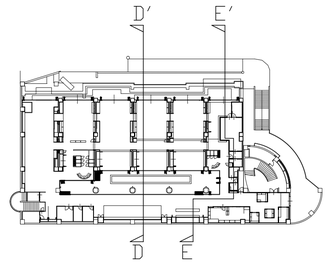
記号	内　　容
	令114条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
	令112条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174

※B1FL＝既存食堂棟SLとする

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　静岡県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子	意匠設計：一級建築士　第３３４６１３号　綿部　響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 濱井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田　製図 中田　調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修　断面図（1）	Scale A1：1/100 A3：1/200	No. A-24 Total 52

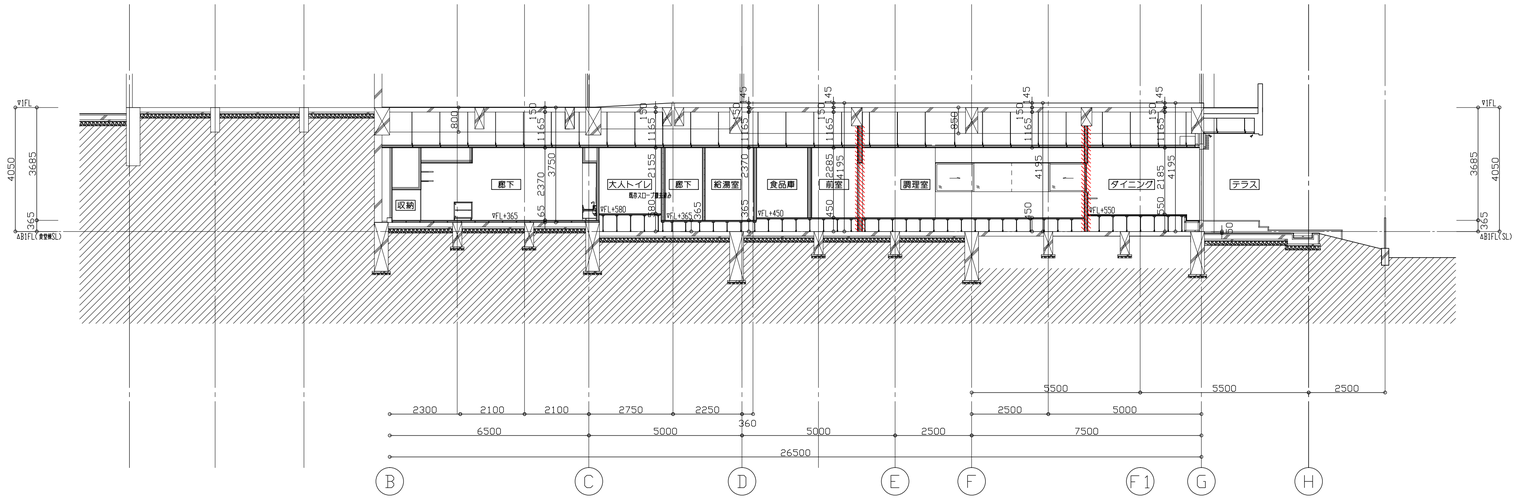


D-D′ 断面図

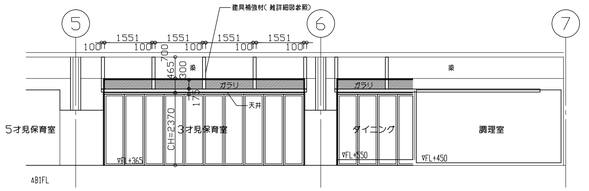


記号	内　　容
	令114条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
	令112条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174

※B1FL＝既存食堂棟SLとする



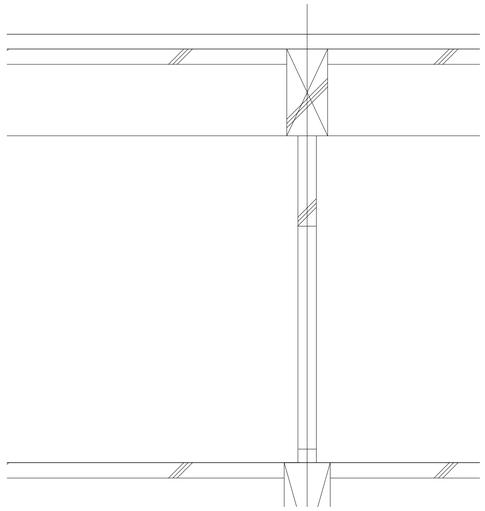
E-E′ 断面図

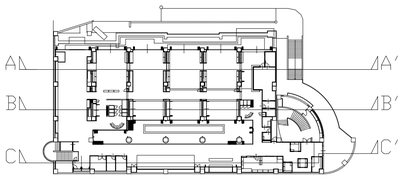


3歳児保育室・ダイニング　北展開図

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第274650号　伊東　陽子		Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課				特記	工事名	図面名	Scale	No.
	遵匠設計：一級建築士 第334613号 林部 響子	平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田	製図 中田	調査 窪田			（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　断面図（2）	A1：1/100 A3：1/200	A-25 Total 52



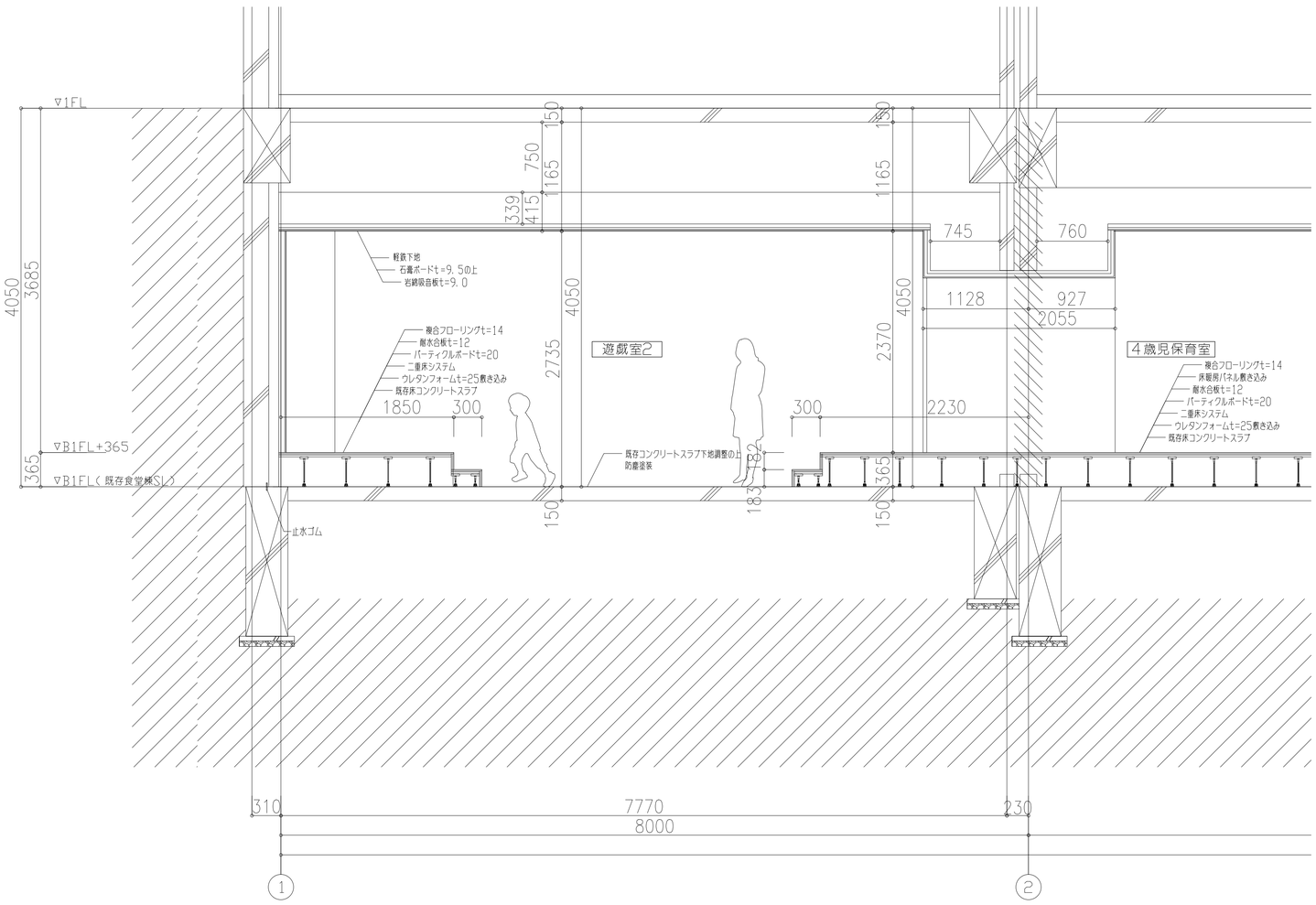


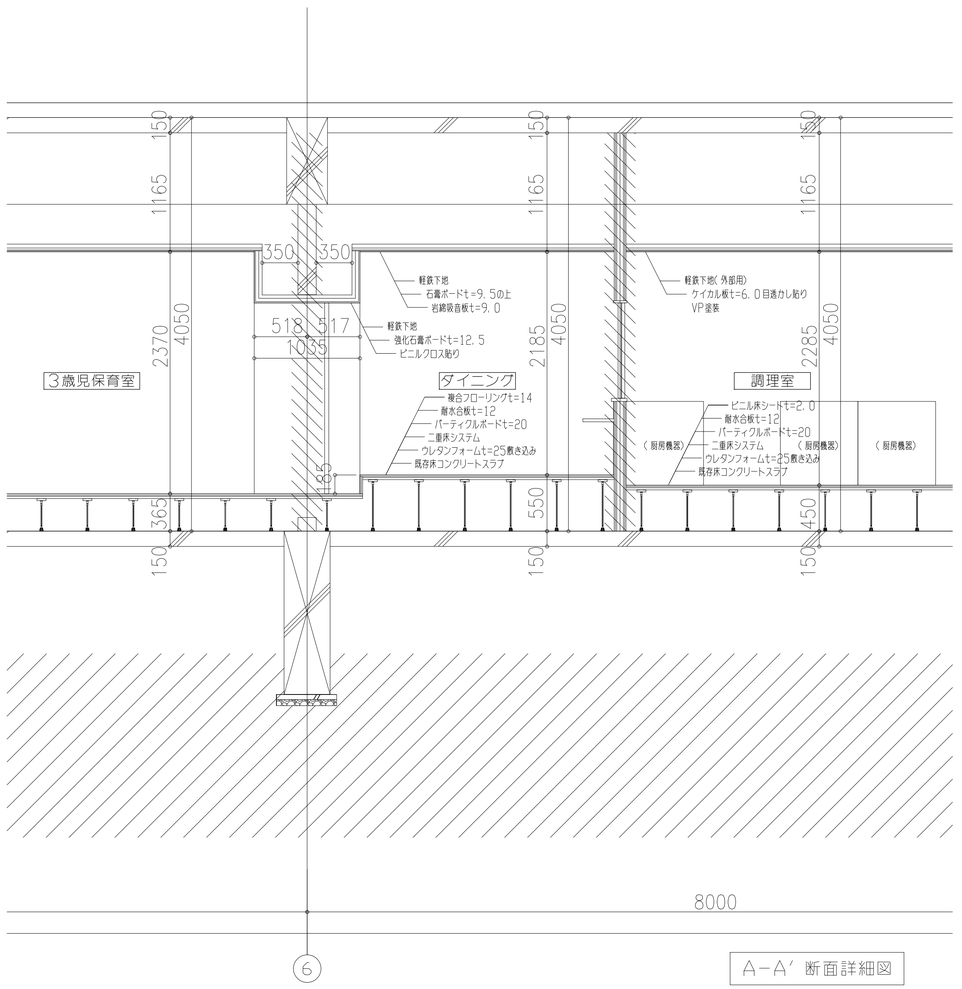


記号	内　　容
▨	令114条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
▩	令112条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174

※B1FL＝既存食堂棟SLとする

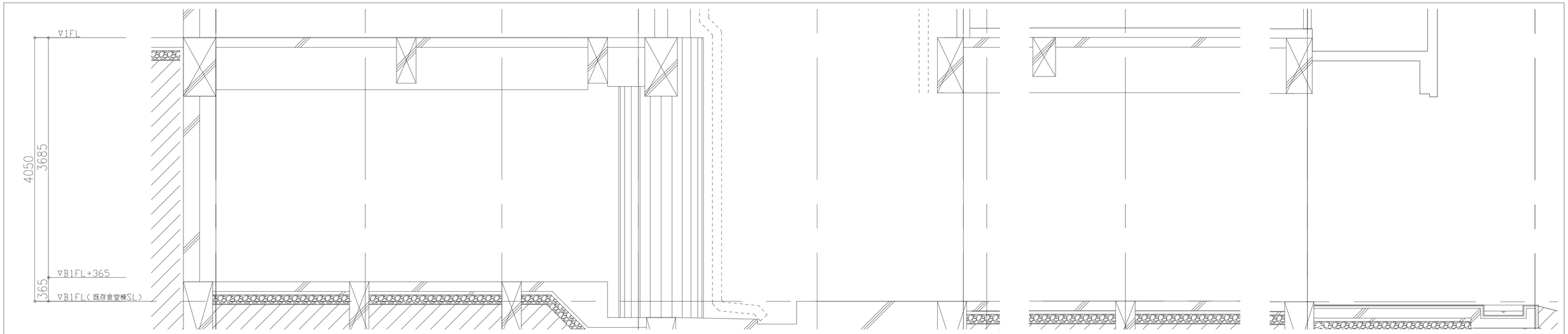
A－A′ 既存断面詳細図



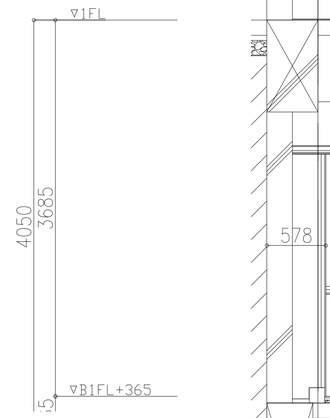


A－A′ 断面詳細図

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第274650号　伊東　陽子		意匠設計：一級建築士　第334613号　緋部　響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課						特記	工事名	図面名	Scale	No.
			平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査	窪田		（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　断面詳細図（1）	A1: 1/30 A3: 1/60	A-26 Total 52



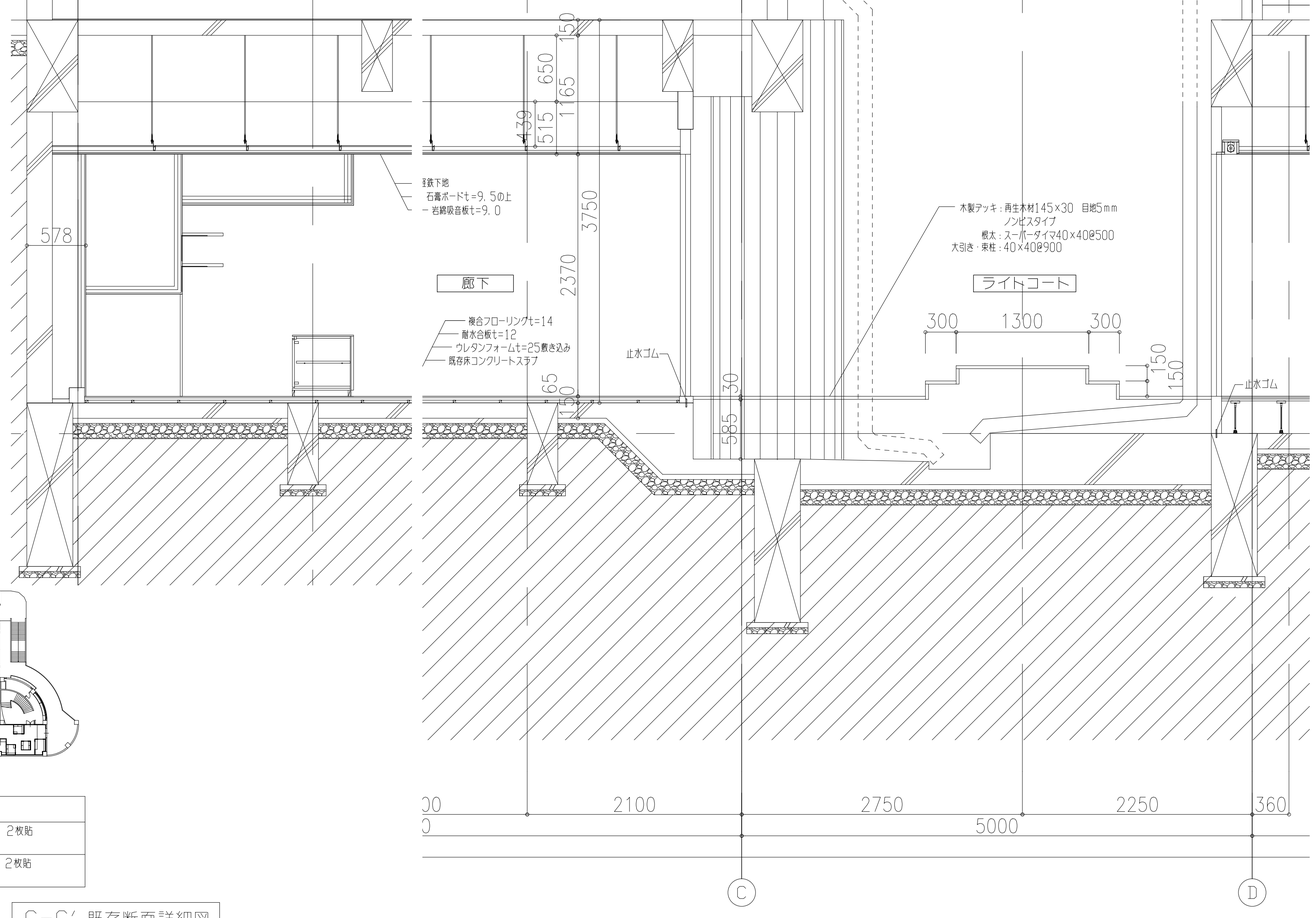
D－D′ 断面詳細図

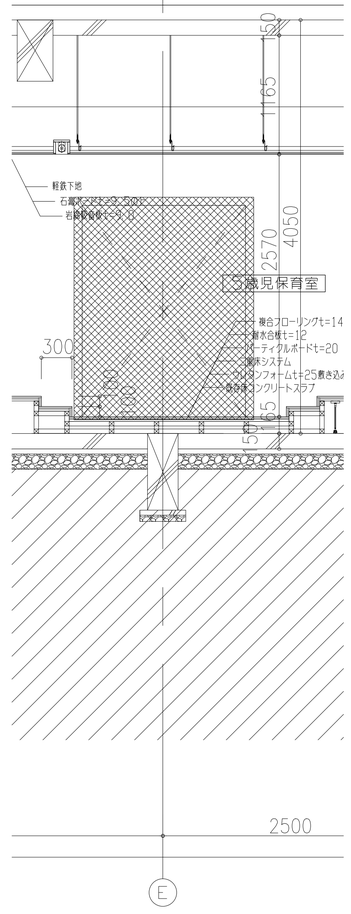


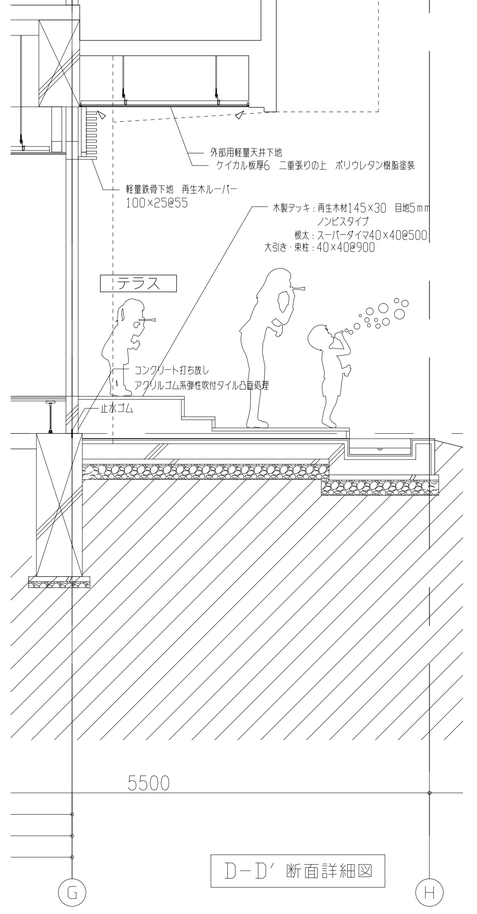
記号	内　　容
	令114条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174
	令112条防火区画　両面強化PB厚12.5　2枚貼 （耐火1時間）FP060NP-0174

※B1FL＝既存食堂棟SLとする

C－C′ 既存断面詳細図







D－D′ 断面詳細図

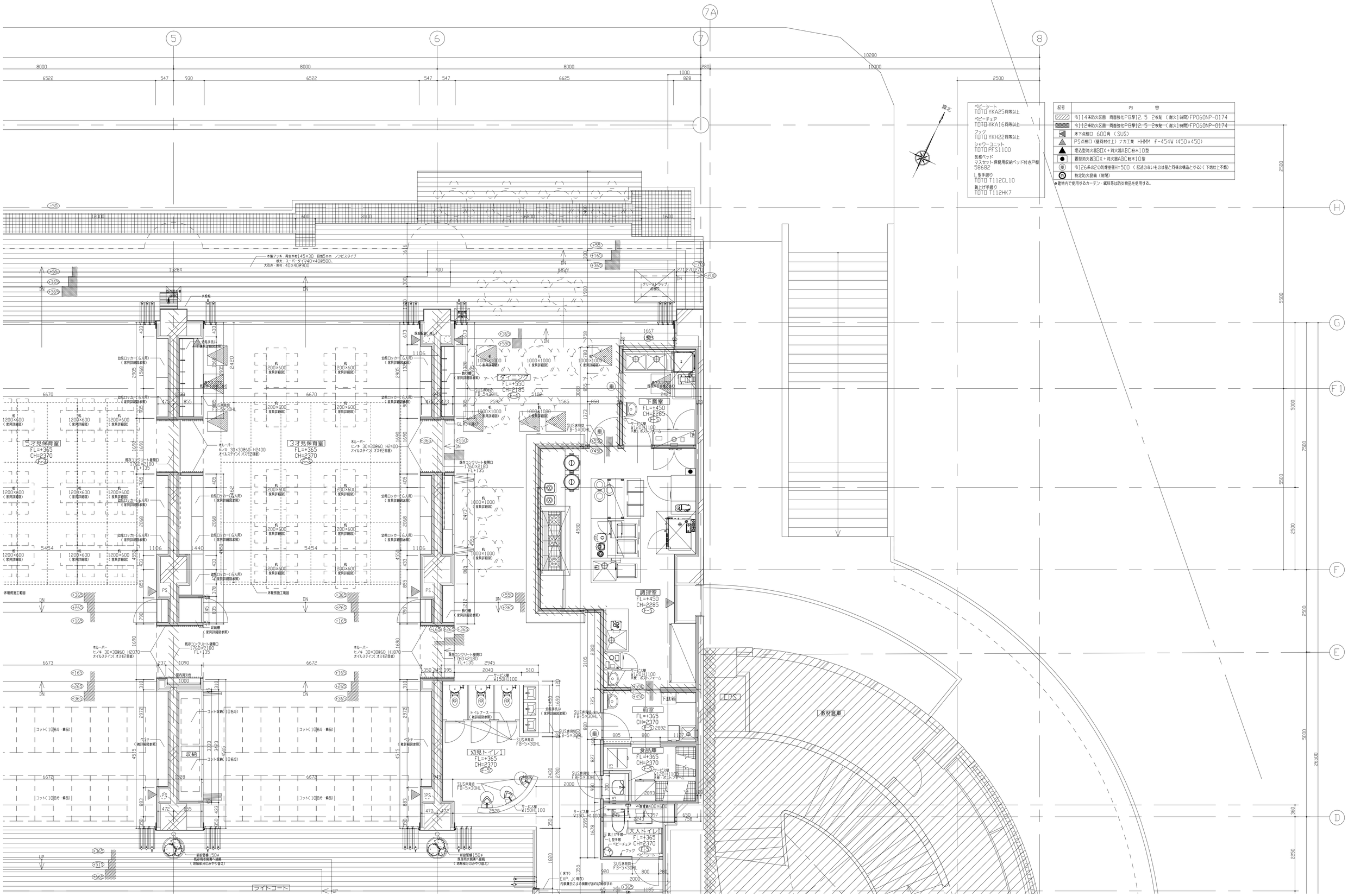
株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第274650号　伊東　陽子	意匠設計：一級建築士　第334613号　綿部　響子	Date	平成30年3月	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課					特記	工事名	図面名	Scale	No.
				奥水	浅井	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査	窪田	（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　断面詳細図（２）	A1：1/30 A3：1/60	A-27 Total 52

ベビーシート TOTO YKA25四等以上	
ベビーチェア TOTO YKA16等以上	
フック TOTO YKH22四等以上	
シャワーユニット TOTO PFS1100	
医療ベッド マスセット 保健用収納ベッド付き戸棚 58682	
L型手摺り TOTO T112CL10	
路上付手摺り TOTO T112HK7	

記号	内容
	令114条防火区画 両面強化PB厚12.5 2枚貼（耐火1時間）FP060NP-0174
	令112条防火区画 両面強化PB厚12.5 2枚貼（耐火1時間）FP060NP-0174
	床下点検口 600角（SUS）
	PS点検口（壁同材仕上）ナカニシ HHMM F-454W（450×450）
	埋込型消火器B□X＋消火器ABC粉末10型
	置型消火器B□X＋消火器ABC粉末10型
排	令126条の2の防煙垂壁H=500（起泊のおいものは壁と同様の構造とする）（下地仕上不要）
	特定防火設備（常閉）

※建物内で使用するカーテン・絨毯等は防炎物品を使用する。

4
5
H
G
F1
F
D
4才児保育室 FL=+365 CH=2370 F-3
遊戯室 FL=+165 CH=2570 F-6
5才児保育室 FL=+365 CH=2370 F-7
遊戯室2 FL=+165 CH=2735 F-8
CH=2370 F-4
幼児トイレ2 FL=+365 CH=2370 F-5
FL=+135
掃除員入れ
収納
既存屋内排水放し
既存屋外排水放し
既存屋上防水撤去
既存コンクリート壁開口補強
既存PS
既存配管(残し)
既存配管(撤去)
既存笠木
既存手摺
既存ルーフドレン
既存ガラリ
既存ベンチ
既存屋外階段
既存屋外スロープ
既存屋外階段手摺
既存屋外スロープ手摺
既存屋外階段ノンスリップ
既存屋外スロープノンスリップ
既存屋外階段ノンスリップ補修
既存屋外スロープノンスリップ補修
既存屋外階段ノンスリップ撤去
既存屋外スロープノンスリップ撤去
既存屋外階段ノンスリップ撤去補修
既存屋外スロープノンスリップ撤去補修


5
6
7
7A
8
1
H
G
F1
F
E
D
8000
6522
547
930
8000
6522
547
547
8000
6625
1000
828
280
10280
10000
2500
2500
5500
2500
5000
7500
5500
2500
5000
26500
2500
360
2250
北
ベビーシート
TOTO YKA25 同等以上
ベビーチェア
TOTO YKA16 同等以上
フック
TOTO YKH22 同等以上
シャワーユニット
TOTO PFS1100
医療ベッド
マスセット 保健用収納ベッド付き戸棚
58682
L型手摺り
TOTO T112CL10
跳上げ手摺り
TOTO T112HK7
記号
内容
令114条防火区画 両面強化PB厚12.5 2枚貼（耐火1時間）FP060NP-0174
令112条防火区画一両面強化PB厚12.5 2枚貼（耐火1時間）FP060NP-0174
床下点検口 600角（SUS）
PS点検口（壁同材仕上） ナカエ業 HHMM f-454W (450×450)
煙感型消火器B□X＋消火器ABC粉末10型
置型消火器B□X＋消火器ABC粉末10型
令126条の2の防煙垂壁H=500（記述のないものは壁と同様の構造とする）（下地仕上不燃）
特定防火設備（常閉）
※建物内で使用するカーテン・絨毯等は防炎物品を使用する。
木製デッキ：再生木材 45×30 目地5mm ノンビスタイプ
根太：スーパーダイク40×40@500、
大引き：米松 40×40@900
グリーストラップ
床暖房施工範囲
ダイニング
FL=+550
CH=2185
F-4
下膳室
FL=+450
CH=2285
F-5
調理室
FL=+450
CH=2285
F-5
5才児保育室
FL=+365
CH=2370
F-3
3才児保育室
FL=+365
CH=2370
F-3
前室
FL=+365
CH=2370
F-5
食品庫
FL=+365
CH=2370
F-5
幼児トイレ
FL=+365
CH=2370
F-5
大人トイレ
FL=+365
CH=2370
F-5
教材倉庫
PS
収納
ライトコート
UP
DN
既存コンクリート壁開口
1760×2180
FL+135
新設笠木150t
既存雨水樋集水装置
（笠木取付及び防水補修）
新設笠木150t
既存雨水樋集水装置
（笠木取付及び防水補修）
（床下）
EXP. J（既存）
内装仕上による振動があれば補修する

| | | |

遊戯室2
FL=+165
CH=2735
F-8

収納

幼児ロッカー(6人用)
(家具詳細図参照)

木ルーバー
ヒノキ 30×30@60 H1870
オイルステイン オスモE2自然

既存屋内排水放し

ベンチ
(雑詳細図参照)

掃除具入れ

マルチシンク

SUS床見切
FB-5×30HL

洗濯機パン

既設監視(放し)

既設PS

トイレブース
(雑詳細図参照)

サービス筐
W120 H1100

幼児手洗い
(家具詳細図参照)

CH=2370
F-4

既存屋内排水放し

築山テーブル
(雑詳細図参照)

既設PS

大人トイレ2
FL=+365
CH=2370
F-5

L型手摺
跳上げ手摺
既存樹
(家具詳細図参照)

サービス筐
W150 H1100

既存樹400×600

UP

点検口

防火戸
(雑詳細図参照)

既存屋内排水放し

倉庫2
FL=+365
CH=2370
F-6

既設監視(放し)

既存屋内排水放し

倉庫1
FL=+365
CH=2370
F-6

既存雨水側溝

空調ドレン配管

既存竪樋

既存屋内排水放し

トイレブース
(雑詳細図参照)

シャワーユニット

収納

コット収納(10名分)

コット(10名分・肩掛)

幼児トイレ2
FL=+365
CH=2370
F-5

(床下)
EXP. J(既存)
内装仕上による段差がおのは有様する

サービス筐
W150 H1100

既存竪樋

既存雨水側溝

空調ドレン配管

調理師
更衣室
FL=+365
CH=2370
F-2

職員ロッカー
900×515
(備品)

倉庫1
FL=+365
CH=2370
F-6

更衣室
FL=+365
CH=2370
F-2

職員ロッカー
900×515
(備品)

収納

既存屋内排水(雑詳細図参照)

ライトコート

既存竪樋

既存雨水側溝

空調ドレン配管

既存竪樋

空調ドレン配管

既存竪樋

空調ドレン配管

既存竪樋

木製ファニ、再生木
樹木、ファー(
大引き、束柱:40×

廊下
FL=+365
CH=2370
F-2

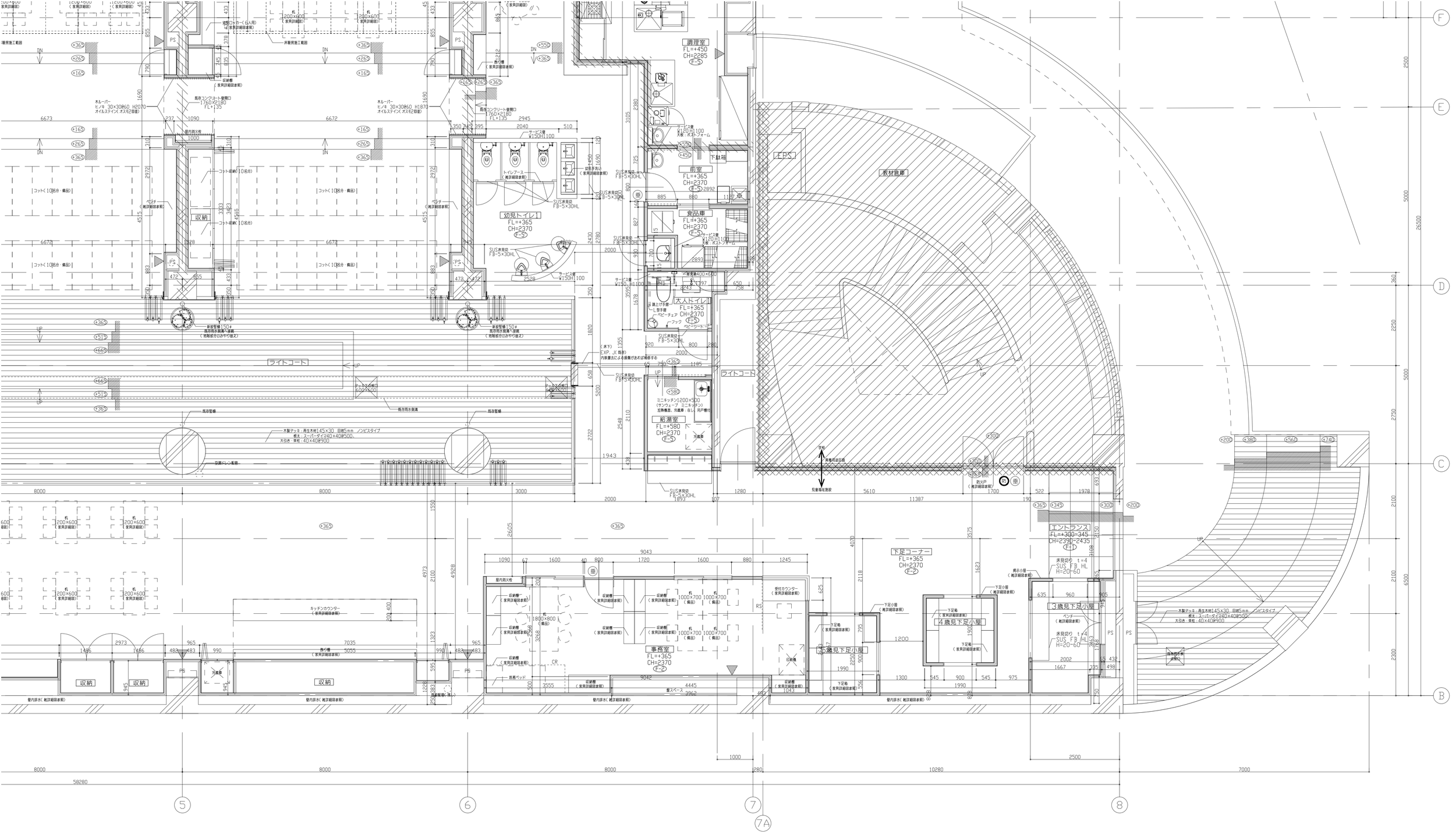
ベンチ
(雑詳細図参照)

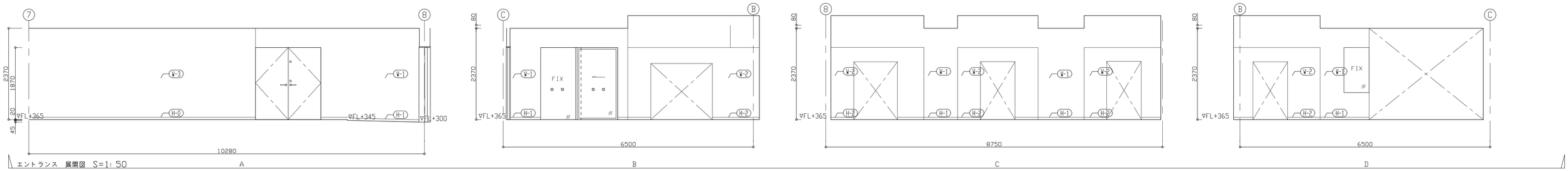
収納

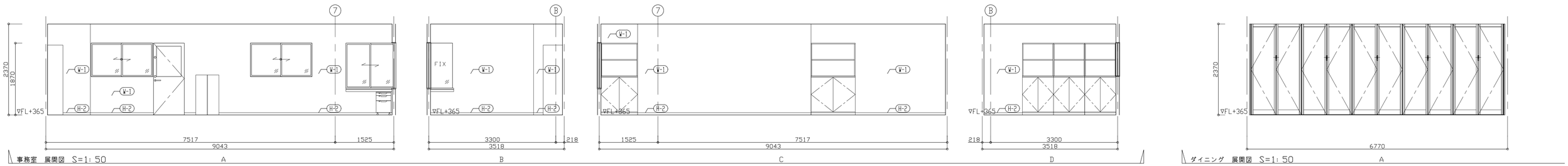
既存屋内排水(雑詳細図参照)

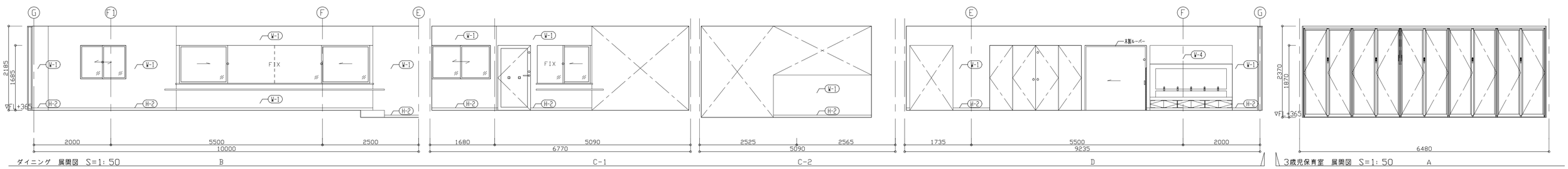
既存屋内排水(雑詳細図参照)

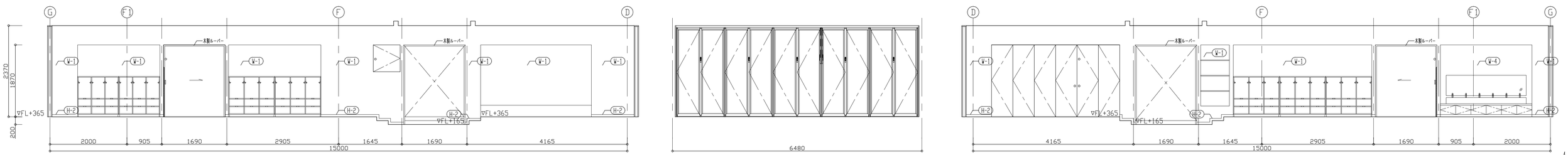
既存屋内排水(雑詳細図参照)

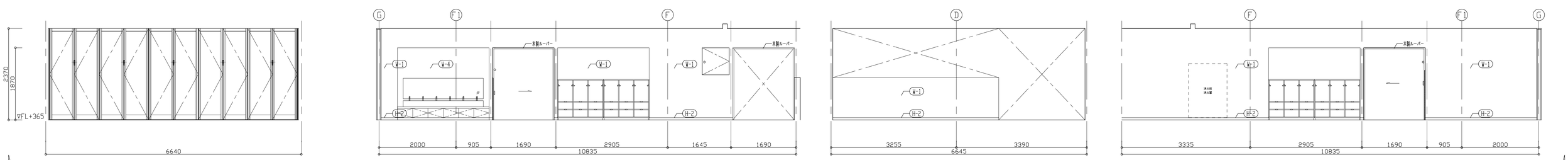

ライトコート
収納
幼児トイレ FL=+365 CH=2370 (F-5)
大人トイレ FL=+365 CH=2370 (F-5)
給湯室 FL=+580 CH=2370 (F-5)
調理室 FL=+450 CH=2285 (F-5)
前室 FL=+365 CH=2370 (F-5) 2892
食品庫 FL=+365 CH=2370 (F-5)
教材倉庫
下駄箱
EPS
ライトコート
事務室 FL=+365 CH=2370 (F-2)
下足コーナー FL=+365 CH=2370 (F-2)
3歳見下足小屋
4歳見下足小屋
5歳見下足小屋
エントランス FL=+300~345 CH=2390~2435 (F-1)
学校
異物混進防御
児童福祉施設
ライトコート
収納
収納
収納
収納
事務室
下足コーナー
3歳見下足小屋
4歳見下足小屋
5歳見下足小屋
エントランス
教材倉庫
58280
8000
8000
8000
3000
2000
1280
5610
11387
190
1978
1700
9043
1090
67
1600
40
800
1720
1600
880
1245
2605
4973
2100
4928
2118
2575
4070
1623
2100
6500
2300
2500
26500
5000
2750
2250
5000
2100
2360
1550
1943
2722
2548
2110
5200
638
1820
2780
2430
3105
2280
2912
2893
2892
2528
2945
2972
3105
2972
3105
2945
2945
2945



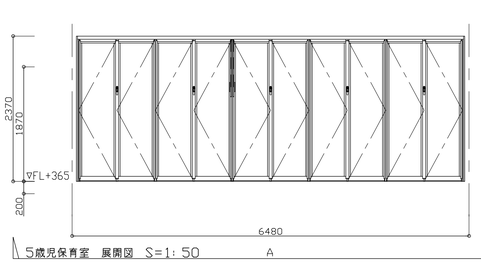




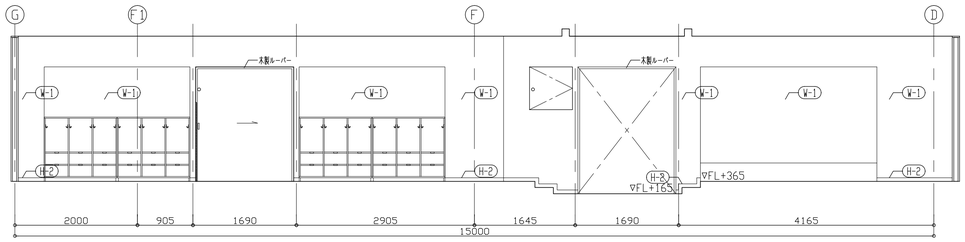




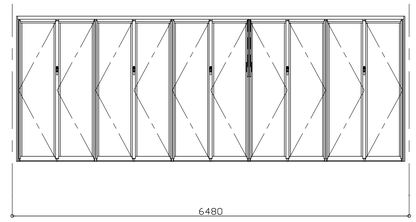
株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第274650号　伊東　陽子	是匠設計：一級建築士　第334613号　綿部　響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課						特記	工事名	図面名	Scale	No.
HIBINO SEKKEI		平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査	窪田		（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）	改修　展開図（１）	A1：1/50 A3：1/100	A-32 Total 52



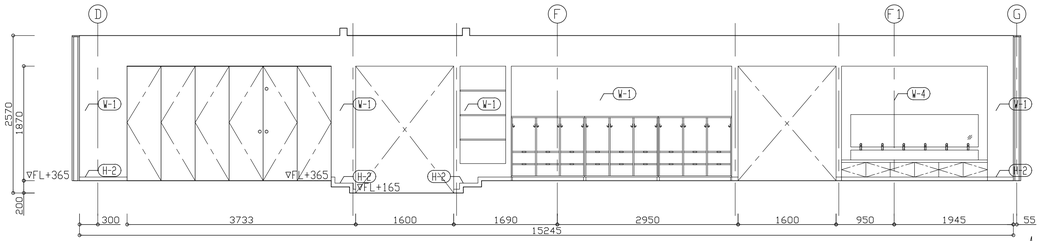
5歳児保育室　展開図　S=1：50　A



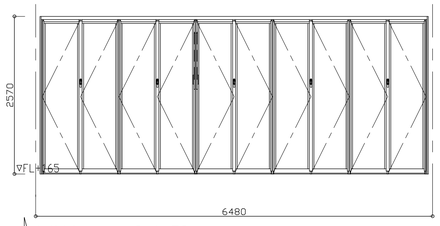
B



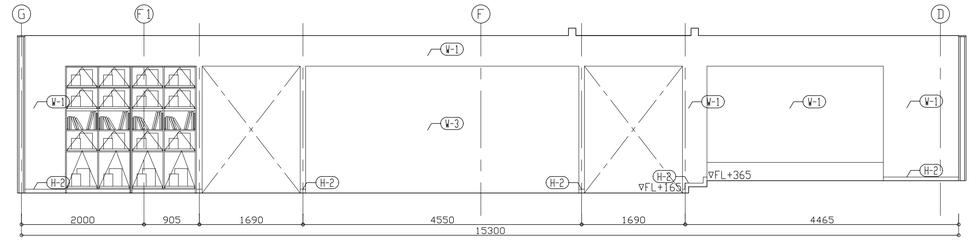
C



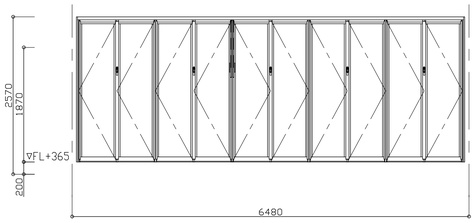
5歳児保育室　展開図　S=1：50　D



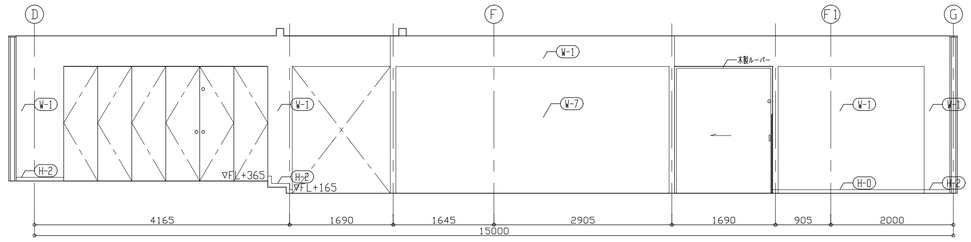
遊戯室1　展開図　S=1：50　A



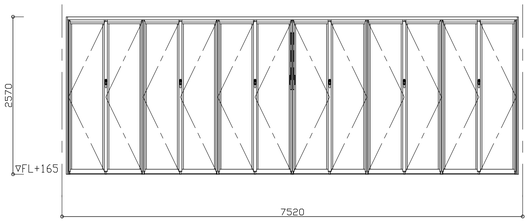
B



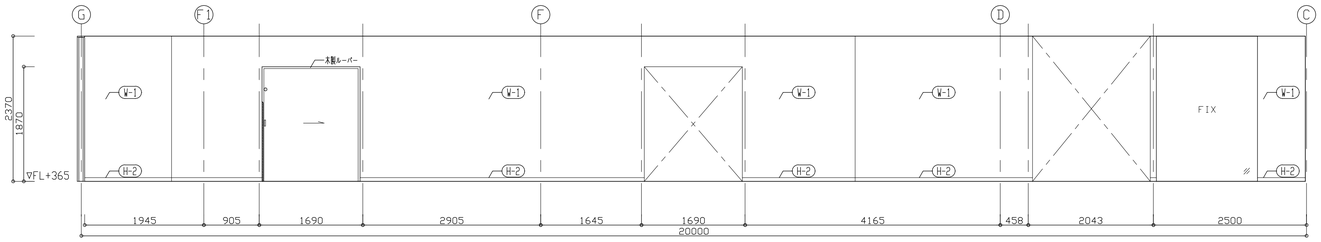
遊戯室1　展開図　S=1：50　C



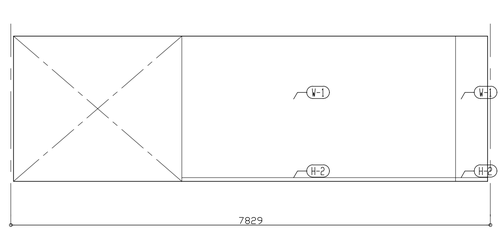
D



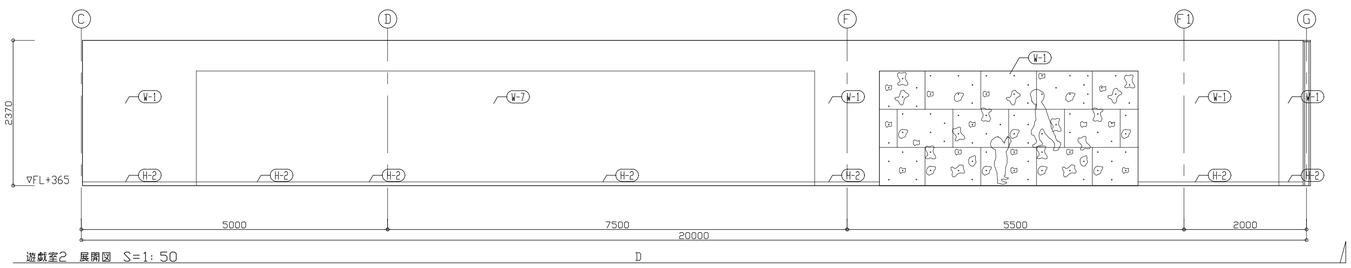
遊戯室2　展開図　S=1：50　A



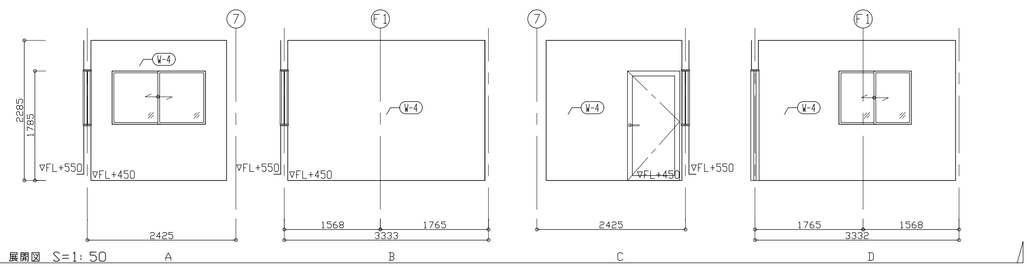
遊戯室2　展開図　S=1：50　B



C

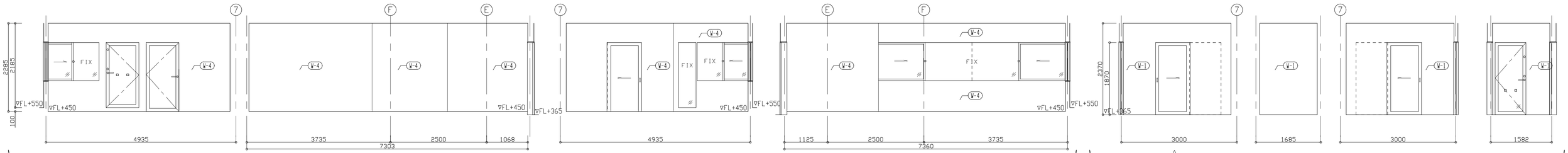


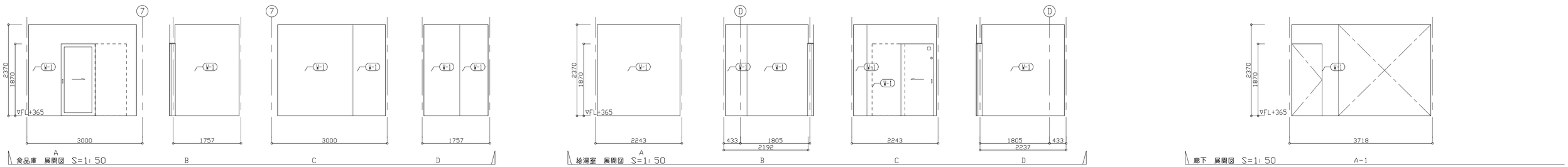
遊戯室2　展開図　S=1：50　D

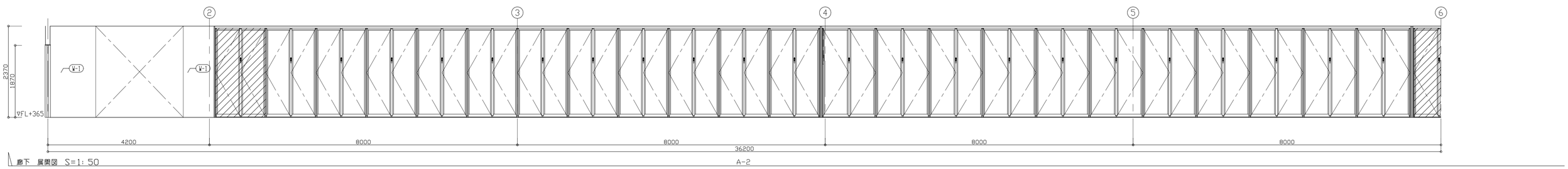


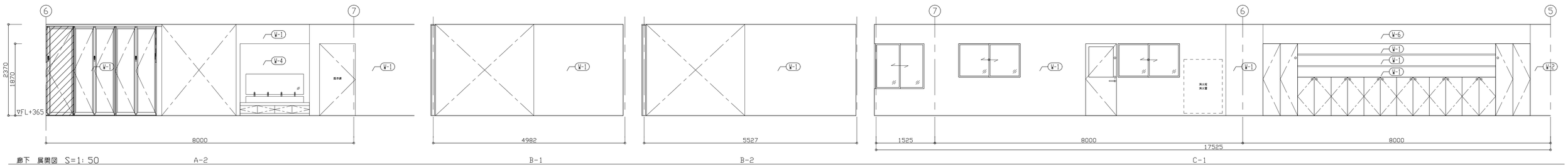
下膳室　展開図　S=1：50　A　B　C　D

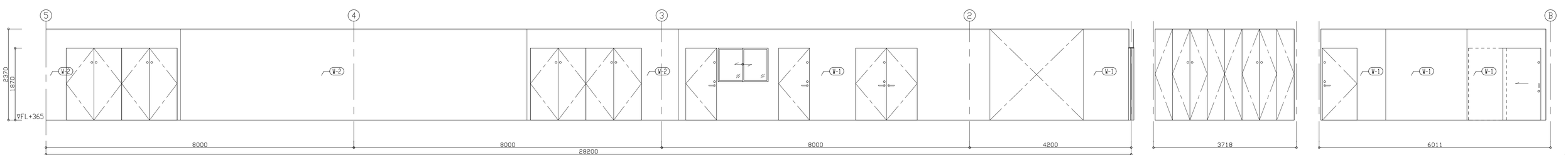
株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６３０号　伊東　陽子	構造設計：一級建築士 第３３４６１３号 藤部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 / 製図 中田 / 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）	図面名 改修　展開図（2）	Scale A1：1/50 A3：1/100	No. A-33 Total 52


2385
2185
100
FIX
W-4
▽FL+550
▽FL+450
▽FL+365
4935
3735
2500
1068
7303
1125
7360
3735
2370
1870
W-1
3000
1685
1582
調理室 展開図 S=1:50
A
B
C
D
前室 展開図 S=1:50

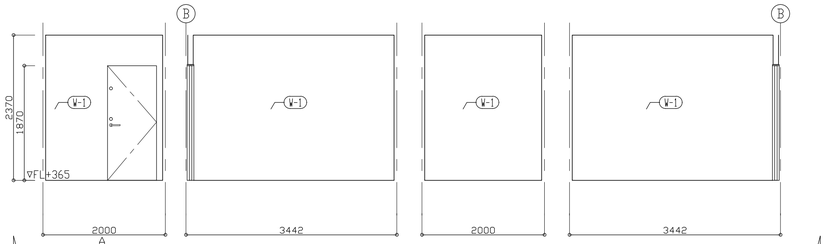

2370
1870
W-1
▽FL+365
3000
1757
2243
433
1805
2192
2237
食品庫 展開図 S=1:50
給湯室 展開図 S=1:50
廊下 展開図 S=1:50
A
B
C
D
A-1
3718


2370
1870
W-1
▽FL+365
4200
8000
36200
廊下 展開図 S=1:50
A-2

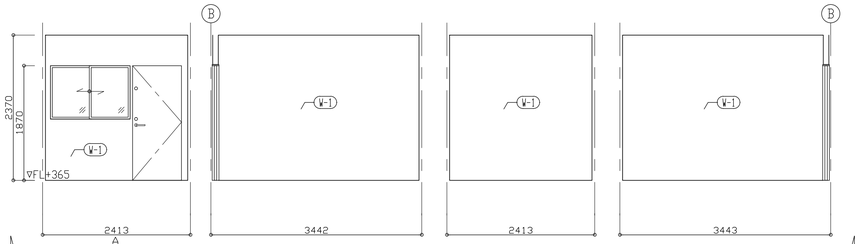

2370
1870
W-1
W-4
▽FL+365
8000
4982
5527
1525
17525
W-6
W-2
廊下 展開図 S=1:50
A-2
B-1
B-2
C-1


2370
1870
W-1
W-2
▽FL+365
8000
28200
3718
6011
廊下 展開図 S=1:50
C-1
C-2
D

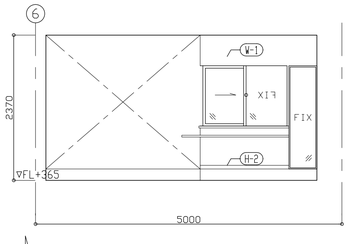
| | | |



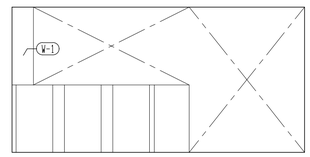
更衣室　展開図　S=1：50



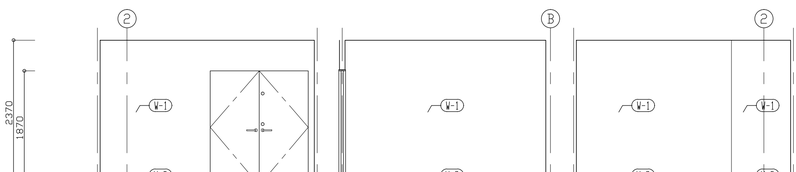
調理師更衣室　展開図　S=1：50



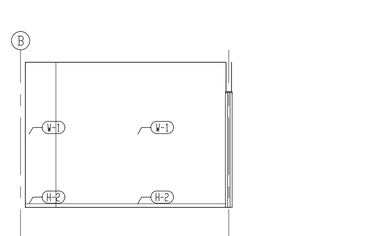
幼児トイレ1　展開図　S=1：50　A-1



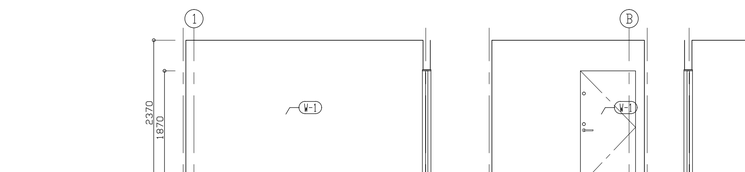
A-2



幼児トイレ1　展開図　S=1：50　B



C



D



給湯室と大人トイレの囲　展開図　S=1：50





幼児トイレ2　展開図　S=1：50



幼児トイレ2　展開図　S=1：50　D

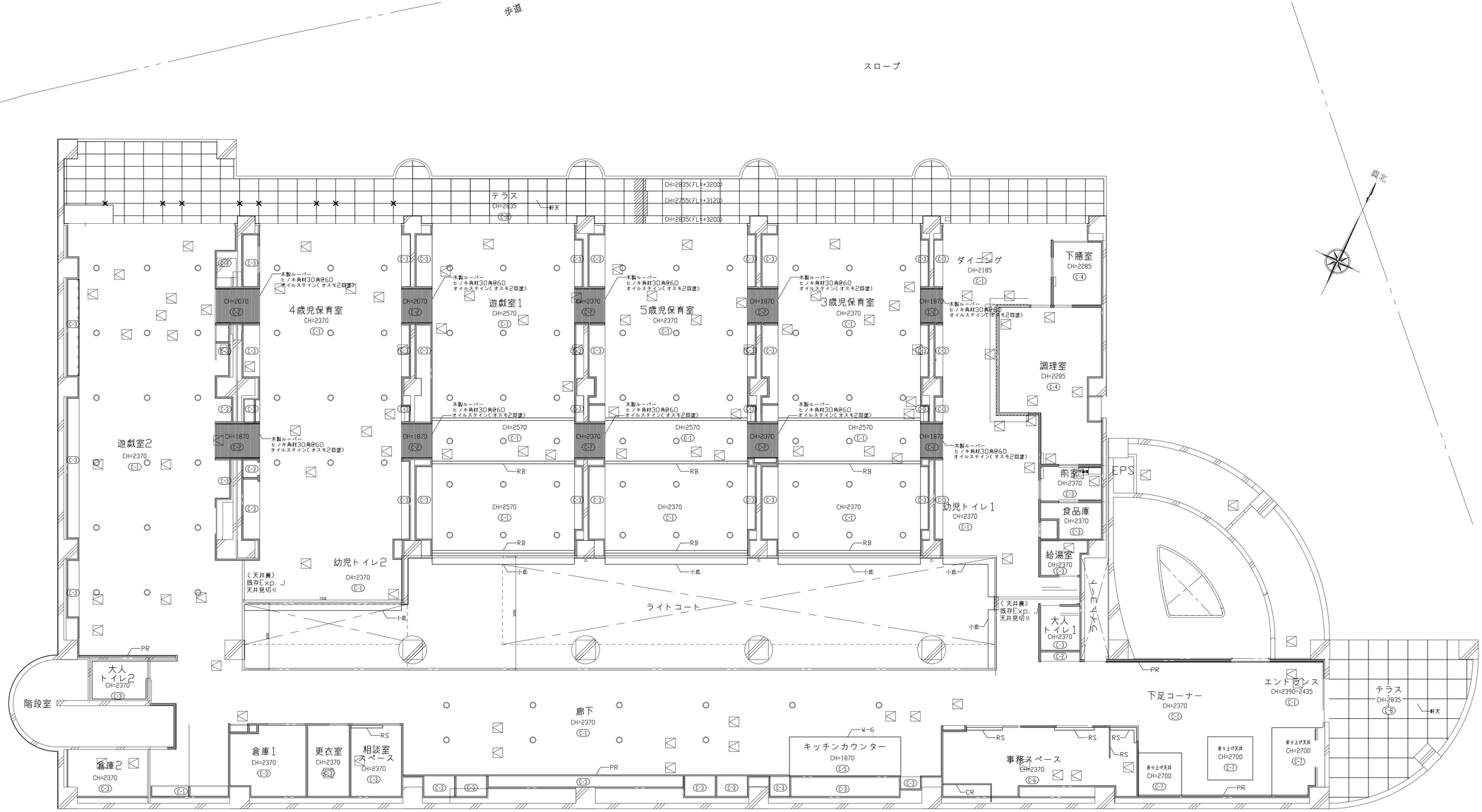
大人トイレ1　展開図　S=1：50

大人トイレ2　展開図　S=1：50

倉庫1　展開図　S=1：50

倉庫2　展開図　S=1：50

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７１６５０号　伊東　陽子	意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 新部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田　製図 中田　調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）	図面名 改修　展開図（４）	Scale A1：1/50 A3：1/100	No. A-35 Total 52



■仕上凡例

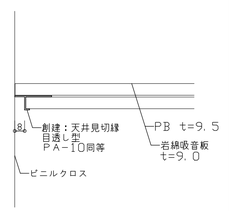
C-1	LGS野縁下地　PBt=9.5の上　岩綿吸音板　t=9.0貼り
C-2	LGS野縁下地　PBt=9.5の上　ビニルクロス貼り
C-3	LGS野縁下地　化粧石膏ボードt=9.5貼り
C-4	LGS野縁下地（外部用）　ケイカル板t=6.0　貼り（目透かし）の上　AEP塗装
C-5	LGS野縁下地　PBt=9.5　二重貼りの上　EP塗装
C-6	LGS野縁下地　化粧PBt=9.5(900角)貼り
C-7	LGS野縁下地　石膏ボードt=9.5　二重貼りの上　EP塗装
C-8 軒天	外部用軽量天井下地　ケイカル板t=6.0　二重貼りの上　EP塗装

■凡例

PR	ピクチャーレール（アルミ押出型材・フック4ヶ/m）
CR	カーテンレール(シングル)　カーテン(サンゲツ　セドナ)
RS	ロールスクリーン　ハンドル式（タチカワ　ブラインド　エプリ　遮光）
RB	ロールスクリーン　ボックス・ロールスクリーン(ハンドル式)（タチカワ　ブラインド　エプリ　遮光）
小庇	アルミ製　D300(色指定)　三協アルミ　アクセントひさし
○	ステンレス丸かん（耐荷重40kg以上）
×	屋外物干し（天井取付タイプ）（川口技研：軒天用ホスクリーンスポット型　SPOL-S　同等）
△	天井点検口（アルミ製目地タイプ450角・ナカ工業ハイハッチMM同等）

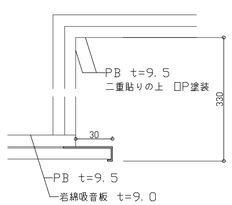
※特記なき部分は塩ビ製見切縁（フクビ同等）をまわすこと

天井－壁取合い部　詳細図　1/5

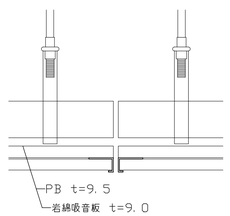


※天井を貼る室全てに、廻り縁をまわすこと。
※合板張りの部分については目透かし張（8mm）

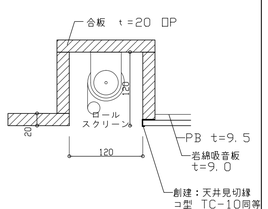
折り上げ天井　詳細図　1/5



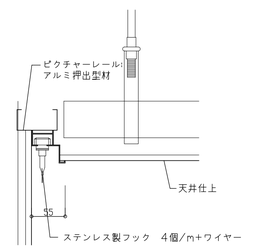
天井－天井Exp. J部　詳細図　1/5



ロールスクリーンブックス　詳細図　1/10



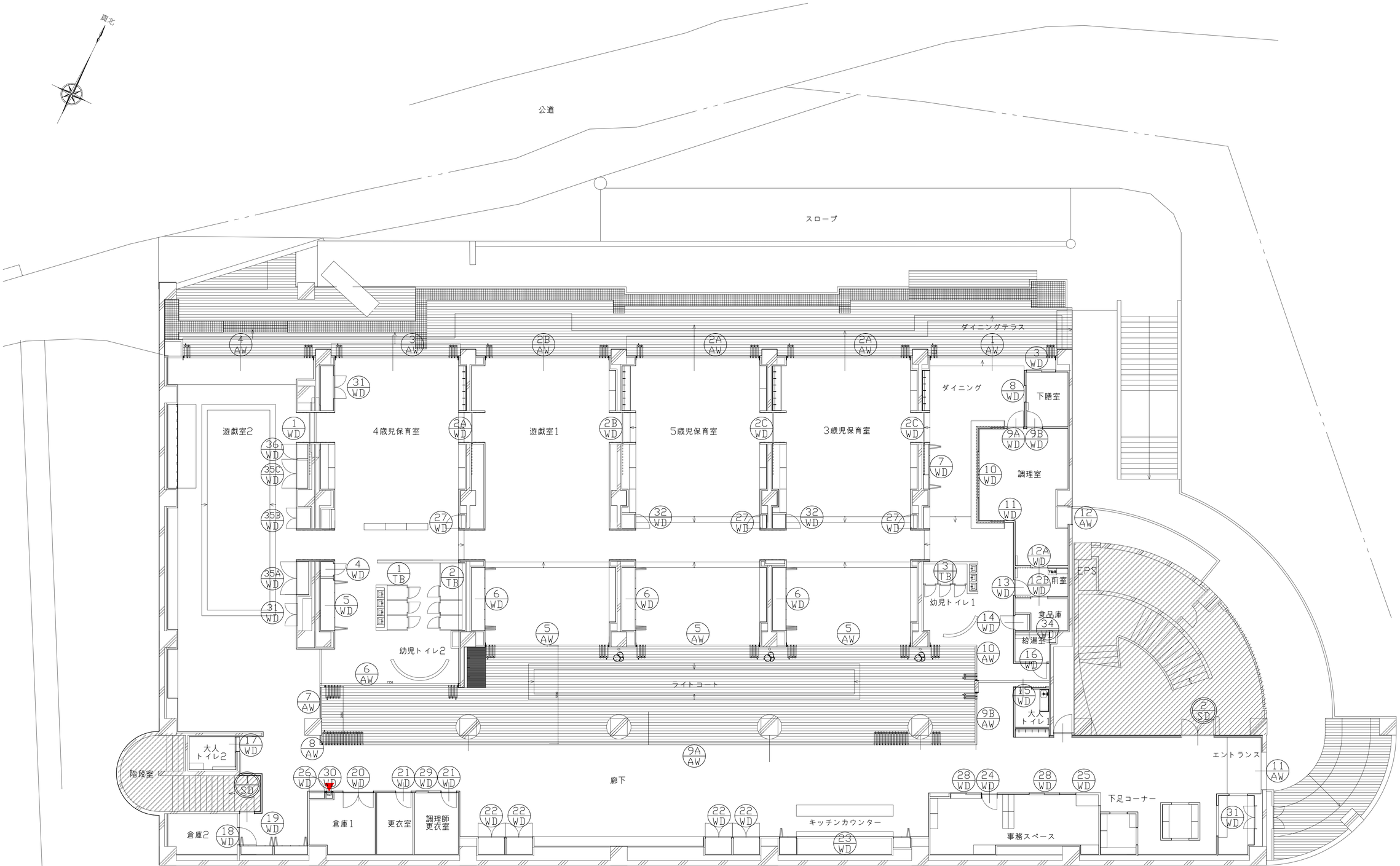
ピクチャーレール　詳細図　1/5



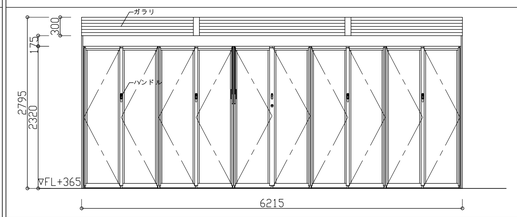
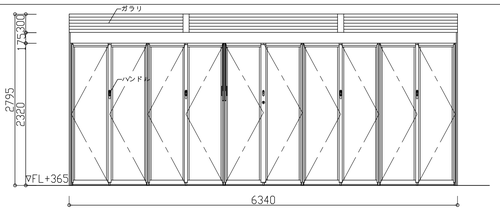
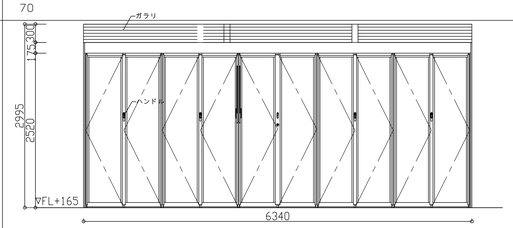
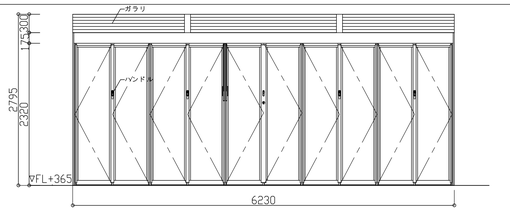
株式会社　日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事登録　第20179号
一級建築士　第274650号　伊東　陽子
意匠設計：一級建築士　第334613号　緋部　響子

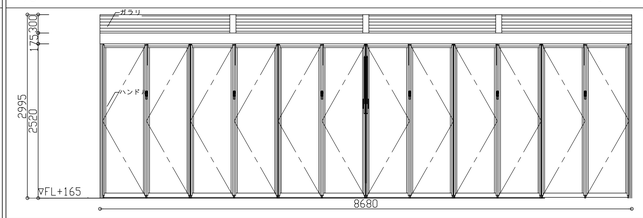
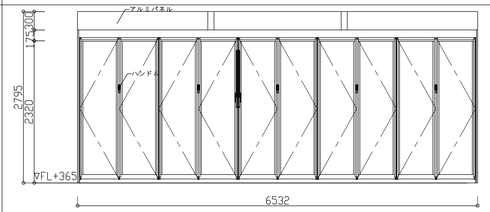
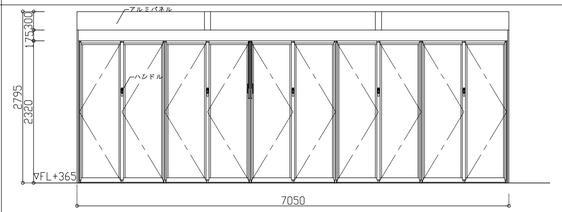
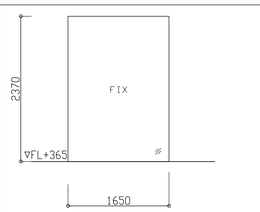
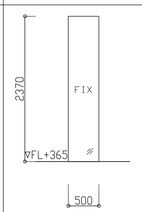
Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課	特記
平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田　製図 中田　調査 窪田	

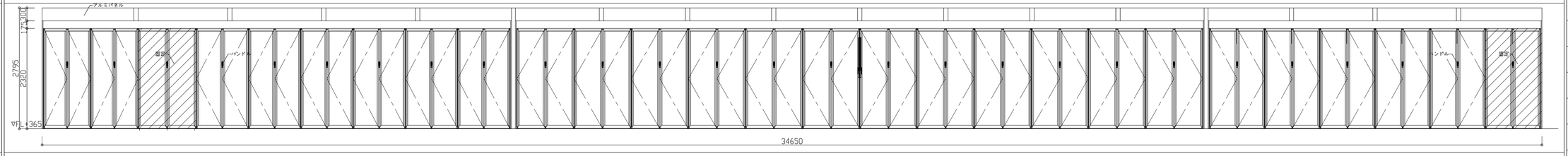
工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　天井伏図	A1: 1/100 A3: 1/200	A-36 Total 52

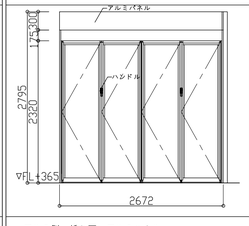
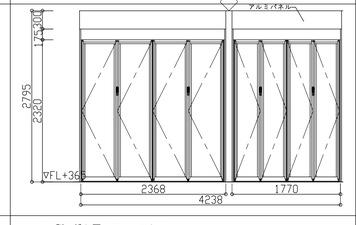
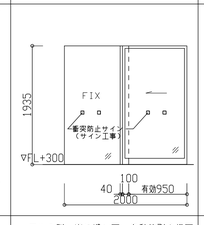
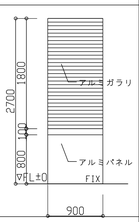
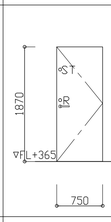
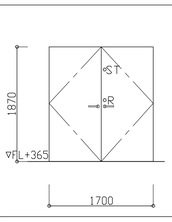
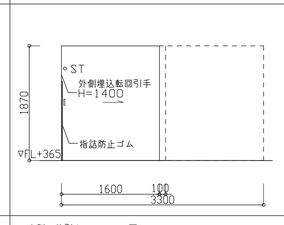
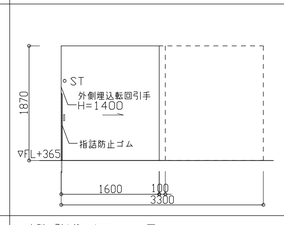
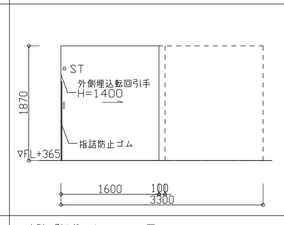
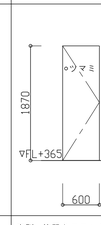

真北
公道
スロープ
ダイニングテラス
遊戯室2
4歳児保育室
遊戯室1
5歳児保育室
3歳児保育室
ダイニング
下膳室
調理室
前室
食品庫
給湯室
幼児トイレ1
幼児トイレ2
大人トイレ1
大人トイレ2
EPS
ライトコート
廊下
階段室
エントランス
倉庫1
倉庫2
更衣室
調理師更衣室
キッチンカウンター
下足コーナー
事務スペース
4 AW
3 AW
2B AW
2A AW
2A AW
1 AW
3 WD
31 WD
8 WD
1 WD
2A WD
2B WD
2C WD
2C WD
9A WD
9B WD
36 WD
35C WD
7 WD
10 WD
35B WD
27 WD
32 WD
27 WD
32 WD
27 WD
11 WD
12 AW
12A WD
35A WD
4 WD
1 TB
2 TB
6 WD
6 WD
6 WD
3 TB
13 WD
12B WD
31 WD
5 WD
14 WD
34 WD
5 AW
5 AW
5 AW
10 AW
16 WD
6 AW
7 AW
15 WD
9B AW
8 AW
2 SD
9A AW
17 WD
1 SD
26 WD
30 WD
20 WD
21 WD
29 WD
21 WD
22 WD
22 WD
22 WD
22 WD
28 WD
24 WD
28 WD
25 WD
19 WD
18 WD
23 WD
31 WD
11 AW

| | | |

記号・位置	1 AW	2A AW	2B AW	3 AW
	ダイニング	3歳児保育室、5歳児保育室	遊戯室1	4歳児保育室
見込・数量	70 1	70 2	70 1	70 1
形状・寸法				
種別・方式	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ
仕上	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色
硝子	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5
金物	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式
備考	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」

記号・位置	4 AW	5 AW	6 AW	7 AW	8 AW
	遊戯室2	ライトコート	ライトコート	ライトコート	ライトコート
見込・数量	70 1	70 3	70 1	70 1	70 1
形状・寸法					
種別・方式	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　折れ戸・アルミガラリ	アルミ製　嵌め殺し窓	アルミ製　嵌め殺し窓
仕上	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色
硝子	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5
金物	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	AA・S・附属金物一式
備考	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」 小庇D=300　サッシ取りつけ	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」 小庇D=300　サッシ取りつけ		

記号・位置	9A AW
	ライトコート
見込・数量	70 1
形状・寸法	
種別・方式	アルミ製　折れ戸・アルミパネル
仕上	二次電解着色
硝子	SKY5+A6+SKY5
金物	AA・S・GH・附属金物一式
備考	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」

記号・位置	9B AW	10 AW	11 AW	12 AW	1 SD	2 SD	1 WD	2A WD 2B WD	2C WD	4 WD
	ライトコート	ライトコート	エントランス	調理室	廊下	エントランス	遊戯室2	＊2Bは左右対称 遊戯室1	3歳児保育室・5歳児保育室	幼児トイレ2
見込・数量	70 1	70 90° 1	70 1	70 1	55 1	55 1	40 1	40 2	40 2	40 1
形状・寸法										
種別・方式	アルミ製　折れ戸・アルミパネル	アルミ製　折れ戸・アルミパネル	アルミ製　嵌め殺し戸・自動片引き框戸	アルミ製　ガラリ・パネル	スチール製　片開きフラッシュ戸	スチール製　両開きフラッシュ戸	木製　片引きフラッシュ戸	木製　引き込みきフラッシュ戸	木製　引き込みきフラッシュ戸	木製　片開きフラッシュドア
仕上	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	ポリウレタン樹脂塗装	ポリウレタン樹脂塗装	シナ合板　□P塗装	シナ合板　□P塗装	シナ合板　□P塗装	シナ合板　□P塗装
硝子	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5	SKY5+A6+SKY5							
金物	AA・S・附属金物一式	AA・S・GH・附属金物一式	自動本締錠・R 電気錠・附属金物一式	AA・S・附属金物一式	R・RH・DS・DC・PH ST・付属金物一式	R・RH・DS・DC・隠し丁番 ST・付属金物一式	DW・堀込引手・アルミV字フラットレール ST・付属金物一式	DW・堀込引手・アルミV字フラットレール ST・付属金物一式	DW・堀込引手・アルミV字フラットレール ST・付属金物一式	プッシュツマミ・SH（重量用） ST・附属金物一式
備考	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」 小庇D=300　サッシ取りつけ	東工シャッター：イースターカーテン「あけてんで」 小庇D=300　サッシ取りつけ	フラットレール・垂突防止サイン（サイン詳細図参照）				指挟み防止ゴム・堰止転回引手	指挟み防止ゴム・堰止転回引手	指挟み防止ゴム・堰止転回引手	

凡例・ガラス

- G厚 普通板ガラス
- S厚 摺ガラス
- F厚 フロート板ガラス
- P厚 磨板ガラス
- K厚 型板ガラス
- PW厚 網入磨板ガラス
- PL厚 線入磨板ガラス
- KW厚 網入型板ガラス
- KL厚 線入型板ガラス
- KY厚 強化ガラス
- SKY厚 スクールテンパー
- T厚 テッシュ入ガラス

凡例・金物

- AA アルミアングルピース
- SA スチールアングルピース
- S 水切皿板
- C クレセント
- R シリンダー錠
- DC ドアチェック
- H 蝶番
- PH ピボットヒンジ
- AH オートヒンジ
- FH フロアヒンジ
- F フランス落シ
- DS 戸当り
- DW 戸車
- PP 押縁・押板
- RH レバーハンドル
- GH グレモンハンドル
- SJ スチール唐板（額縁）
- AJ アルミ唐板（額縁）
- N 網戸（アルミ枠 サランネット）
- B 分電盤錠
- ST サムターン
- SH スライドヒンジ

凡例・仕上

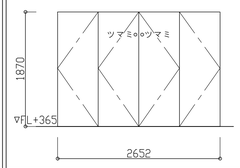
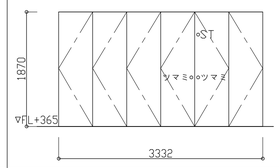
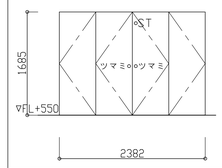
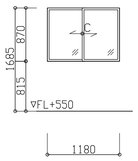
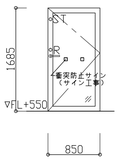
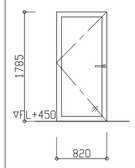
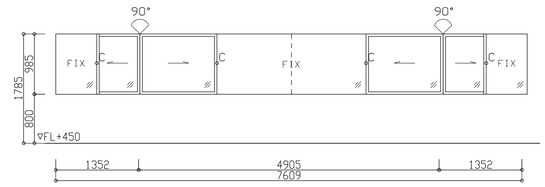
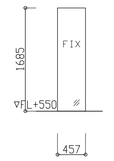
- 防火設備
- 特定防火設備
- A 複層ガラス 中空層厚

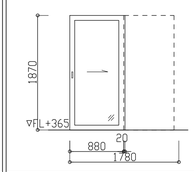
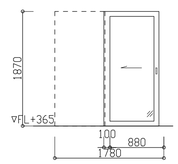
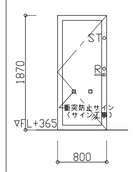
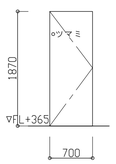
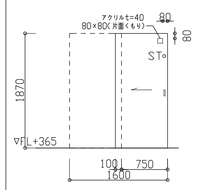
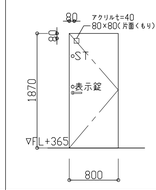
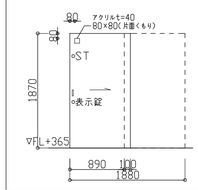
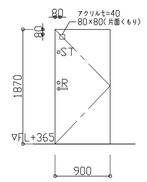
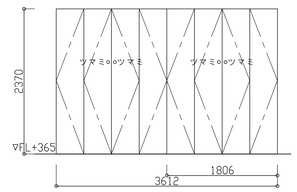
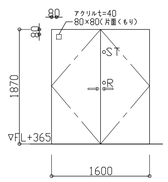
特記 ※はきだし窓はフラットレールとする。
※はき出しアルミサッシュのクレセントは上下2ヵ所（900, 1500）とする。その他のアルミサッシュのクレセントはFL+1500以下とする。
※サムターンの上端高さは1500とする。引き戸の指詰め防止ゴムの高さは1300とする。
※引違い窓のアルミサッシュは指詰め防止ゴム付く 増田産業SD-511）とする。

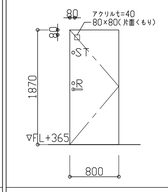
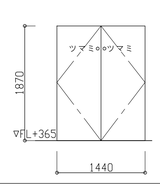
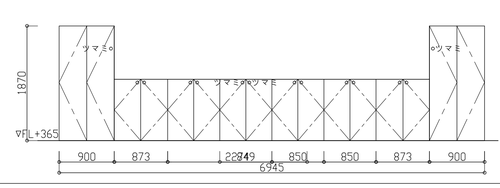
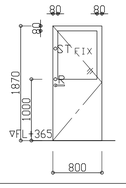
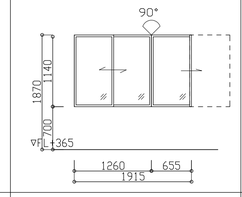
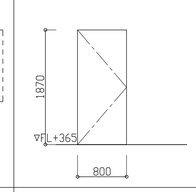
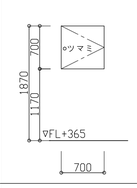
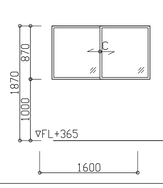
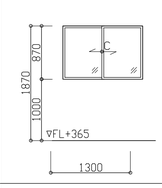
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	建匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 鈴部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅桃井颯	Check 伊佐地

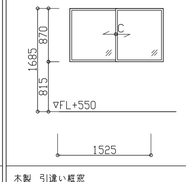
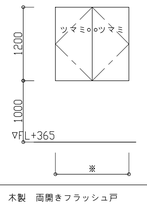
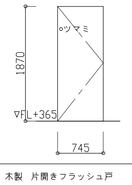
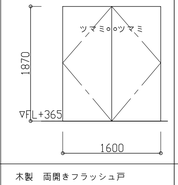
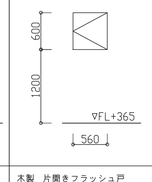
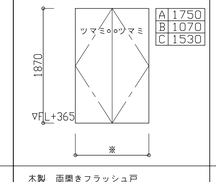
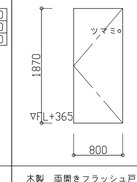
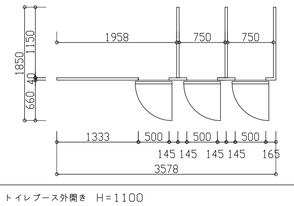
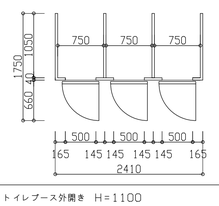
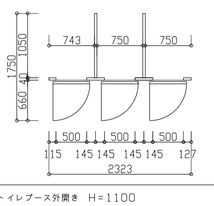
熱海市観光建設部まちづくり課					
設計	中田	製図	中田	調査	篠田

工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　建具表（1）	A1: 1/50 A3: 1/100	A-38
		Total 52	

記号・位置	(5) WD 幼児トイレ2	(6) WD 午睡スペース	(7) WD ダイニング	(8) WD ダイニング	(9A) WD 調理室	(9B) WD 調理室	(10) WD 調理室	(11) WD 調理室
見込・数量	40 1	40 3	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1
形状・寸法								
種別・方式	木製 面開きフラッシュ折戸	木製 面開きフラッシュ折戸	木製 面開きフラッシュ折戸	木製 引違い框窓	木製 片開き框戸	木製 片開き框戸	木製 片引き框窓・嵌め殺し窓	木製 嵌め殺し窓
仕上	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	框 □P塗装	框 □P塗装	框 □P塗装	框 □P塗装	框 □P塗装
硝子				SKY4	SKY5	SKY5	SKY5	SKY5
金物	ブッシュツマミ 折れ戸金物（厚鼾用）・附属金物一式	ブッシュツマミ・ST 折れ戸金物（厚鼾用）・附属金物一式	ブッシュツマミ・ST 折れ戸金物（厚鼾用）・附属金物一式	DW・C・附属金物一式	ST・PH・DS・R DC・RH・附属金物一式	PH・DS DC・RH・附属金物一式	堀込引手・引き戸ストッパー・C アルミV字フラットレール・附属金物一式	
備考					番突防止サイン（サイン詳細図参照）			

記号・位置	(12A) WD 前室	(12B) WD 前室	(13) WD 前室	(14) WD 手洗い	(15) WD 給湯室	(16) WD 大人トイレ	(17) WD 多目的トイレ	(18) WD 倉庫2	(19) WD 廊下	(20) WD 倉庫1
見込・数量	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1	40 1
形状・寸法										
種別・方式	木製 片引き框戸	木製 片引き框戸	木製 片開き框戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 片引きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 片引きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ折戸	木製 面開きフラッシュ戸
仕上	框 □P塗装	框 □P塗装	框 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装
硝子	SKY5	SKY5	SKY5							
金物	堀込引手・アルミV字フラットレール DW・附属金物一式	堀込引手・アルミV字フラットレール DW・附属金物一式	ST・PH・DS・R DC・RH・附属金物一式	ブッシュツマミ・SH 附属金物一式	堀込引手・アルミV字フラットレール DW・ST・附属金物一式	ST・PH・DS・表示錠 DC・RH・附属金物一式	堀込引手・アルミV字フラットレール DW・ST・附属金物一式・表示錠	ST・PH・DS・R DC・RH・附属金物一式	ブッシュツマミ 折れ戸金物（厚鼾用）・附属金物一式	RH・ST・R・PH・DC・DS 附属金物一式
備考			番突防止サイン（サイン詳細図参照）							

記号・位置	(21) WD 更衣室・相談室	(22) WD 廊下	(23) WD キッチンカウンター	(24) WD 事務スペース	(25) WD 事務スペース	(26) WD 廊下	(27) WD 3・4・5歳児保育室	(28) WD 事務スペース	(29) WD 調理師更衣室
見込・数量	40 2	40 4	40 1	40 1	40 1	40 1	40 3	40 2	40 1
形状・寸法									
種別・方式	木製 片開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸・片開きフラッシュ折戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 引き窓・嵌め殺し窓	木製 片開きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 引違い框窓	木製 引違い框窓
仕上	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	シナ合板 □P塗装	框 □P塗装	シナ合板 ビニルクロス貼	シナ合板 ビニルクロス貼	框 □P塗装	框 □P塗装
硝子				SKY4	SKY4			SKY4	SKY4
金物	RH・ST・R・PH・DC・DS 附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	ブッシュツマミ SH・折れ戸金物（厚鼾用）・附属金物一式	ST・PH・DS・R DC・RH・附属金物一式	堀込引手・引き戸ストッパー・C アルミV字フラットレール・附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	DW・C・附属金物一式	DW・C・附属金物一式
備考									

記号・位置	(3) WD 調理室	(30) WD 廊下	(31) WD エントランス・遊戯室2 4歳児保育室	(32) WD 3・5歳児保育室	(33) WD 4歳児保育室	(34) WD 大人トイレ1	(35) WD 遊戯室2	(35) WD 遊戯室2	(1) TB 幼児トイレ2	(2) TB 幼児トイレ2	(3) TB 幼児トイレ1
見込・数量	40 1	20 1	40 3	40 2	40 1	20 1	40 3	40 1	40 1	40 1	40 1
形状・寸法											
種別・方式	木製 引違い框窓	木製 片開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸	木製 片開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸	木製 面開きフラッシュ戸	トイレブース外開き H=1100	トイレブース外開き H=1100	トイレブース外開き H=1100
仕上	框 □P塗装	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	シナ合板 ビニルクロス張り	メラミン化粧合板フラッシュ	メラミン化粧合板フラッシュ	メラミン化粧合板フラッシュ
硝子	SKY4										
金物	DW・C・附属金物一式	SH・ブッシュラッチ 附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	ブッシュツマミ・SH 附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	SH・ブッシュラッチ 附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	ブッシュツマミ SH・附属金物一式	グラビティヒンジ：ベスト 1602C 同等 附属金物一式	グラビティヒンジ：ベスト 1602C 同等 附属金物一式	グラビティヒンジ：ベスト 1602C 同等 附属金物一式
備考									小松ウォール工業同等	小松ウォール工業同等	小松ウォール工業同等

凡例・ガラス

- G厚 普通板ガラス
- S厚 摺ガラス
- F厚 フロート板ガラス
- P厚 磨板ガラス
- K厚 型板ガラス
- PW厚 網入磨板ガラス
- PL厚 線入磨板ガラス
- KW厚 網入型板ガラス
- KL厚 線入型板ガラス
- KY厚 強化ガラス
- SKY厚 スクールテンバー
- T厚 テッシュ入ガラス

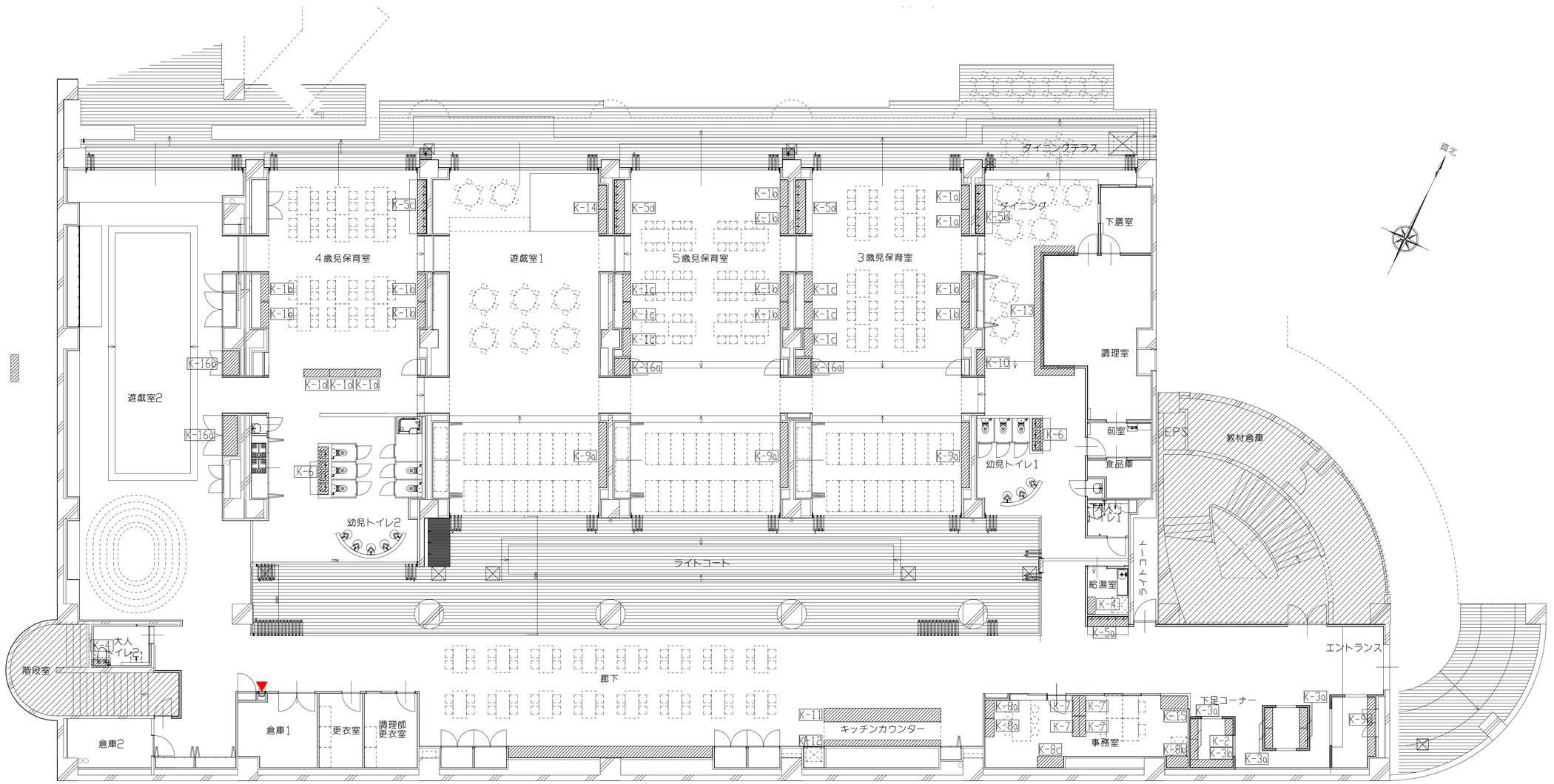
凡例・金物

- AA アルミアングルピース
- SA スチールアングルピース
- S 水切皿板
- C クレセント
- R シリンダー錠
- DC ドアチェック
- H 蝶番
- PH ピボットヒンジ
- AH オートヒンジ
- FH フロアヒンジ
- F フランス落シ
- DS 戸当り
- DW 戸車
- PP 押縁・押板
- RH レバーハンドル
- GH グレモンハンドル
- SJ スチール扉板(錠録)
- AJ アルミ扉板(錠録)
- N 網戸(アルミ枠 サランネット)
- B 分電盤錠
- ST サムターン
- SH スライドヒンジ

凡例・仕上

- 防火設備
- 特定防火設備
- A 複層ガラス 中空層厚

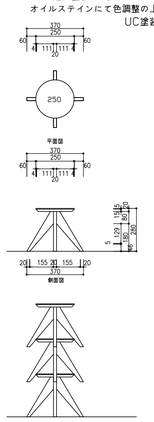
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	遊匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 林部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記 ※はきだし窓はフラットレールとする。 ※はき出しアルミサッシュのクレセントは上下2ヵ所（900, 1500）とする。その他のアルミサッシュのクレセントはFL+1500以下とする。 ※サムターンの上端高さは1500とする。引き戸の指詰め防止ゴムの高さは1300とする。 ※引違い窓のアルミサッシュは指詰め防止ゴム付（増田産業SD-511）とする。	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修 建具表（2）	Scale A1: 1/50 A3: 1/100	No. A-39 Total 52



K-17 | 幼児用イス（丸）

遊戯室1×48・ダイニング×42

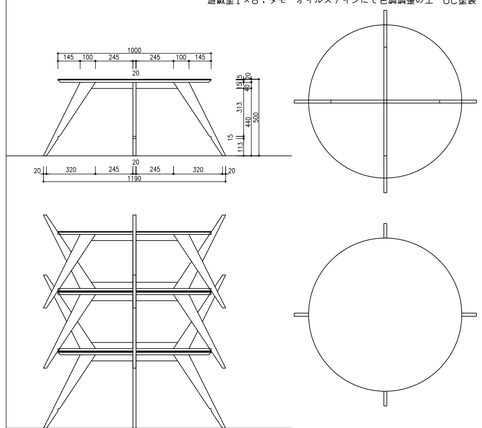
ダイニング×42：クスノキ
遊戯室1×48：タモ
オイルステインにて色調整の上
UC塗装



K-18 | 幼児用机（丸）

遊戯室1×8　ダイニング×7

ダイニング×7：クスノキ　オイルステインにて色調整の上　UC塗装
遊戯室1×8：タモ　オイルステインにて色調整の上　UC塗装

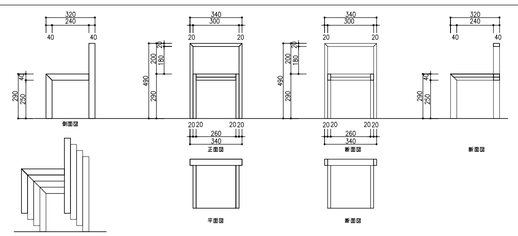


K-19 | 幼児用イス

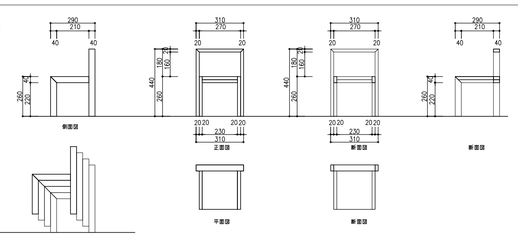
3歳児保育室×44・4歳児保育室×44・5歳児保育室×44・廊下（4歳児用）×80

本体：タモオイルステインにて色調整の上　UC塗装

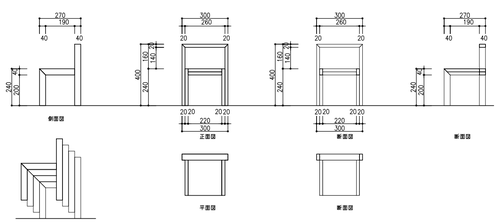
椅子　5才用



椅子　4才用



椅子　3才用

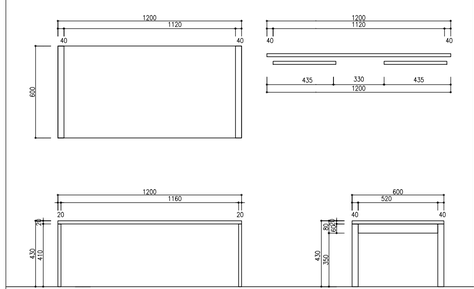


K-20 | 幼児用机

3歳児保育室×12・4歳児保育室×12・5歳児保育室×12・廊下×20

計56ヶ所

本体：タモ　オイルステインにて色調整の上　UC塗装



株式会社 日比野設計 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 鍔部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修　家具平面図	Scale A1: 1/20 A3: 1/40	No. A-40 Total 52

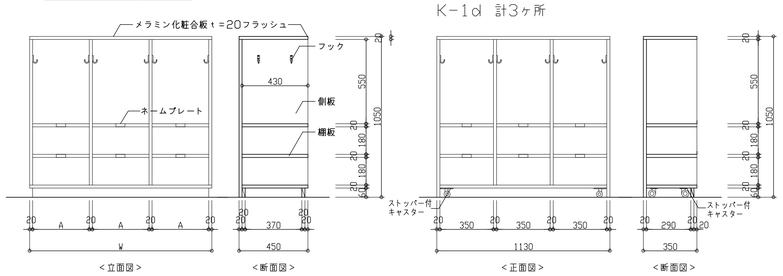
K-1　3・4・5歳児用ロッカー　　保育室×21

※園児　2×3×21=126人分

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ

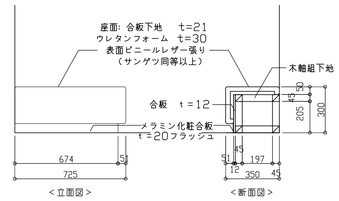
タイプ		W
K-1a	計2ヶ所	1070
K-1b	計10ヶ所	1190
K-1c	計6ヶ所	1200

K-1d　計3ヶ所



K-2　ベンチ　　下足コーナー×1

本体：木軸組下地
巾木：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
座面：合板下地 t=21、ウレタンフォーム t=30
　　表面ビニールレザー張り（サンゲツ同等以上）

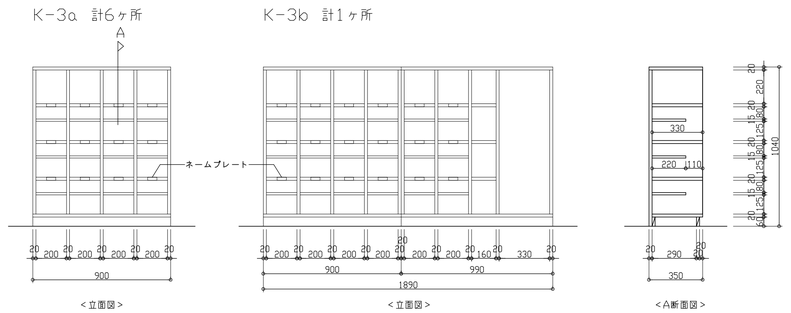


K-3　下足箱　　下足コーナー　×7

※園児　4×3×6=72人分
　　6×3×1=18人分
　　計90人分
※職員　4×1×8=32人分
　　6×1×2=12人分
　　計44人分

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ

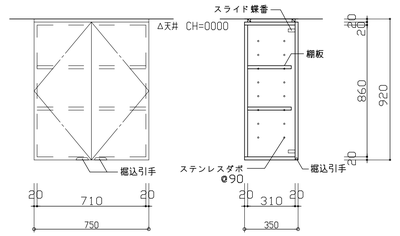
K-3a　計6ヶ所　　K-3b　計1ヶ所



（こども12人分　職員4人分）　（こども18人分　職員6人分）

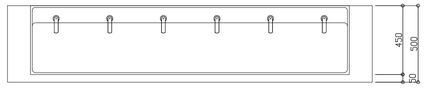
K-4　吊り棚　　大人トイレ1×1　大人トイレ2×1　計2ヶ所

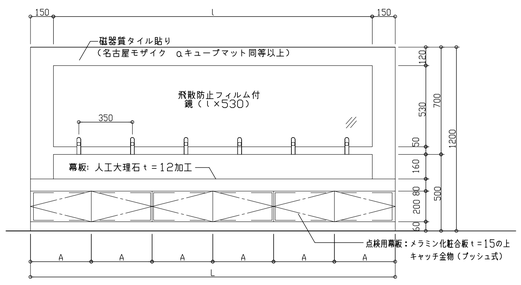
天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ

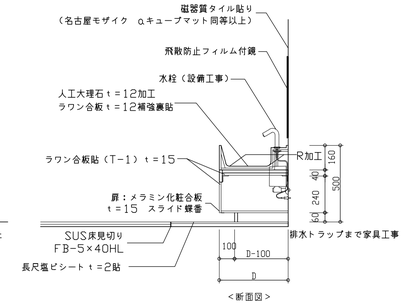


K-5　手洗い　　ダイニング×1　廊下×1　保育室×3

天板：人工大理石 t=12加工
　　ラワン合板 t=12補強裏貼
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



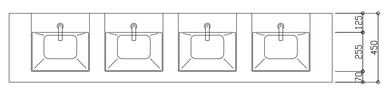


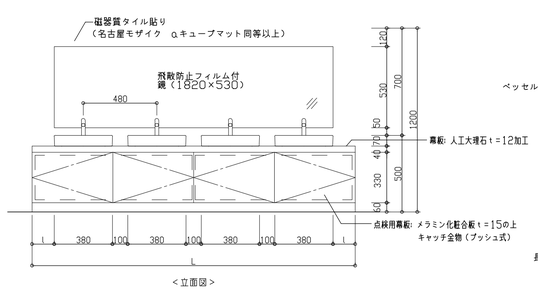


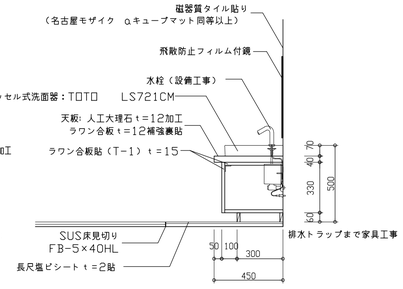
設置場所		扉数	水栓数	水栓形状	l	L	D
K-5a（廊下）	計1ヶ所	5	4	自動水栓	1500	1800	450
K-5b（ダイニング）	計1ヶ所	6	5	自動水栓	1840	2140	400
K-5c（4才児保育室）	計1ヶ所	6	6	自動水栓	2080	2380	400
K-5d（3、5才児保育室）	計2ヶ所	6	6	自動水栓	2080	2380	450

K-6　手洗い（ベッセル式）　　幼児トイレ×2

天板：人工大理石 t=12加工
　　ラワン合板 t=12補強裏貼
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



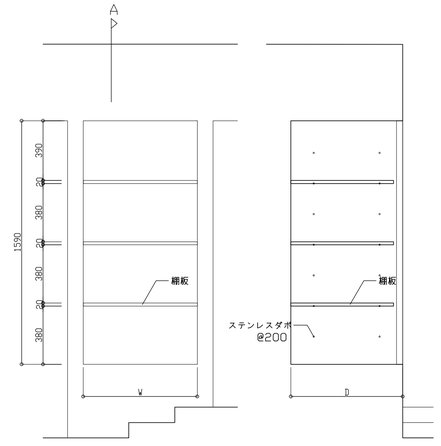




設置場所		水栓数	水栓形状	L	l（面積の幅）
幼児トイレ（1）	計1ヶ所	3	自動水栓	1450	55
幼児トイレ（2）	計1ヶ所	4	自動水栓	2110	145

K-16　棚　　保育室×2、遊戯室2×2

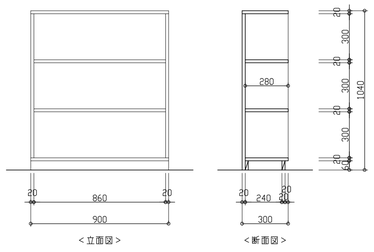
天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



	設置場所		W	D
16a	保育室	計2ヶ所	745	730
16b	遊戯室2	計1ヶ所	1750	625
16c	遊戯室2	計1ヶ所	1070	710

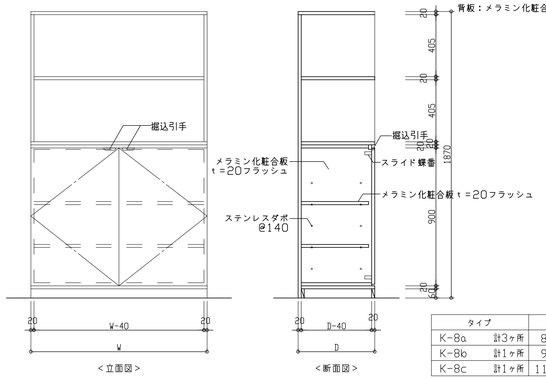
K-7　収納棚（低）　　事務室×4

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



K-8　収納棚（高）　　事務室×8

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ

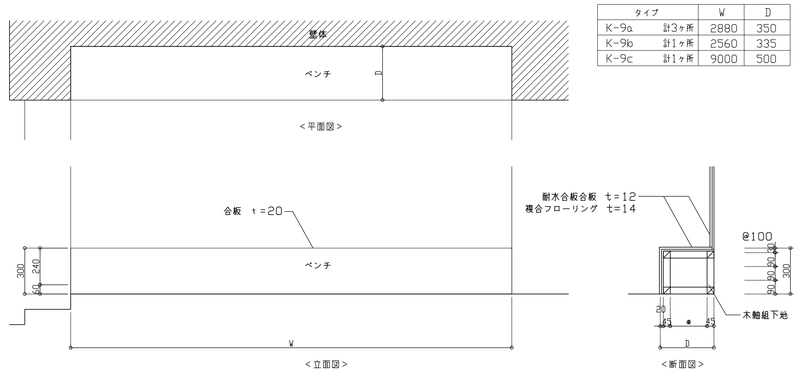


タイプ		W	D
K-8a	計3ヶ所	810	400
K-8b	計1ヶ所	950	500
K-8c	計1ヶ所	1160	500

K-9　ベンチ　　下足コーナー×1　午睡スペース×3

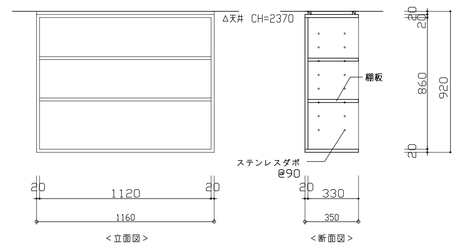
本体：木軸組下地
座面：耐水合板下地t=12の上、
　　複合フローリングt=14

タイプ		W	D
K-9a	計3ヶ所	2880	350
K-9b	計1ヶ所	2560	335
K-9c	計1ヶ所	9000	500



K-10　吊り棚　　ダイニング×1

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



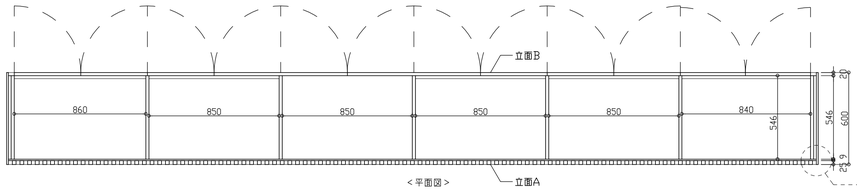
株式会社	日比野設計
	一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
HIBINO SEKKEI	一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子

意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 林部 響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課					特記
	平成30年3月	奥水	浅井・魏 池谷	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査	窪田	

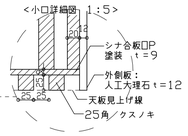
工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　家具詳細図（1）	A1: 1/20 A3: 1/40	A-41
			Total 52

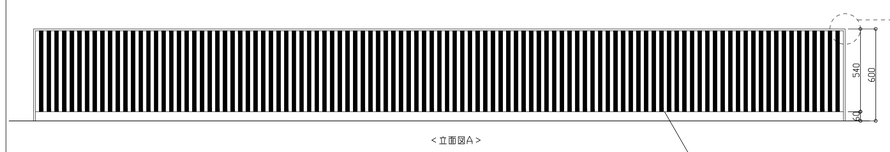
K-11 キッチンカウンター　キッチンカウンター×1

天板：人工大理石 t=12
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：シナ合板□P塗装 t=9
ルーバー：25角 クスノキ オイルステイソの上UC @50

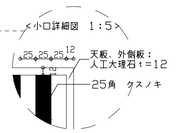


＜平面図＞

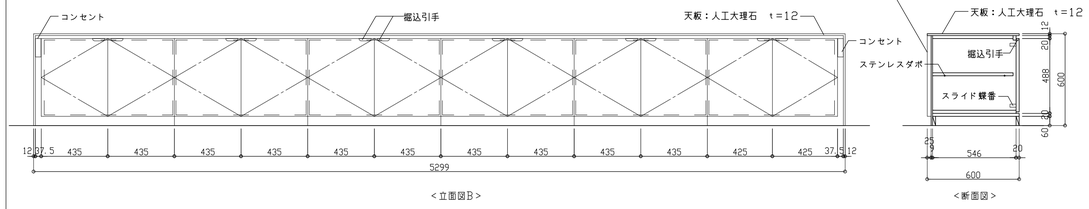




＜立面図A＞



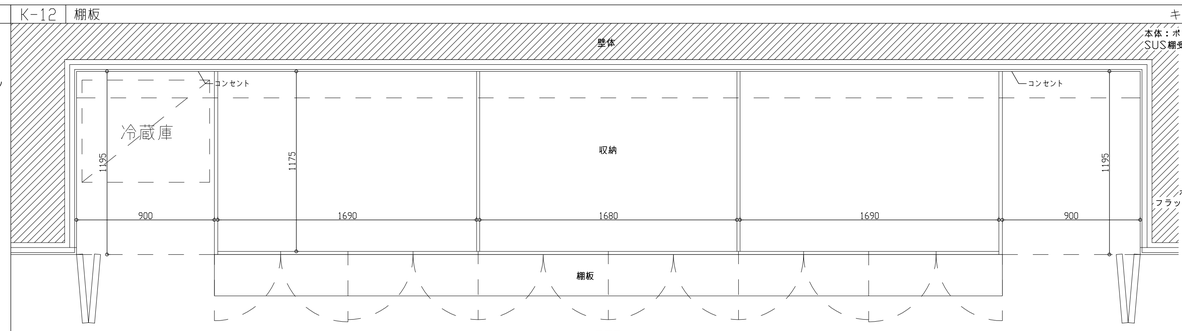
ルーバー 25角 クスノキ
オイルステイソの上UC @50



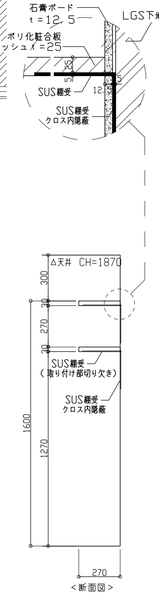
＜立面図B＞　＜断面図＞

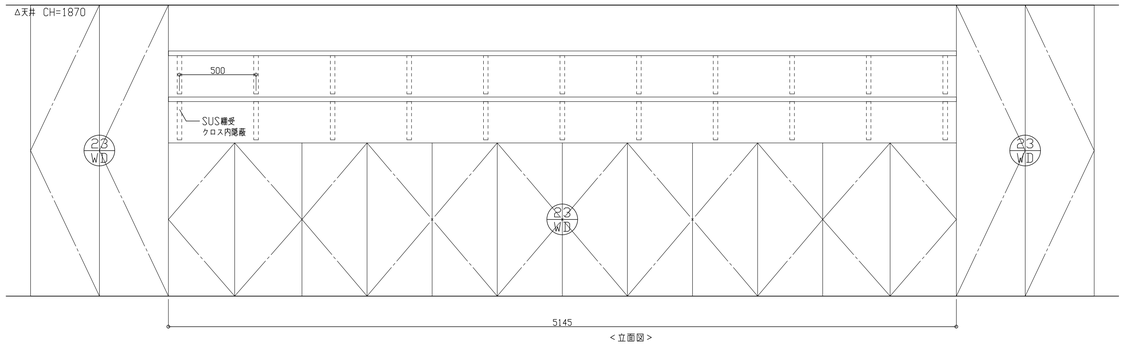
K-12 棚板　キッチンカウンター×1

本体：ポリ化粧合板フラッシュ t=30
SUS棚受：杉田エース（SUSブラケット
530型163-580同等以上）



＜平面図＞



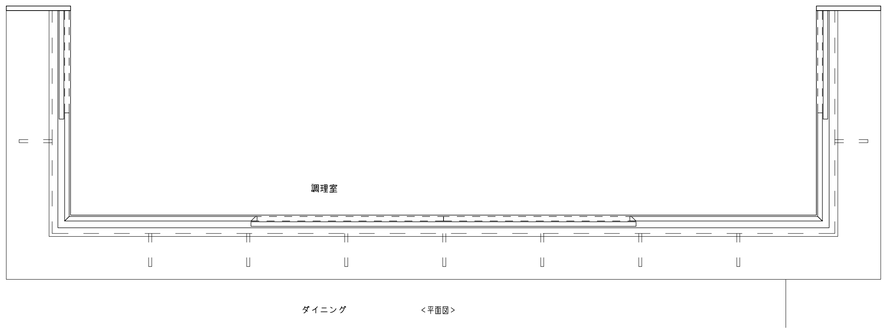


＜立面図＞

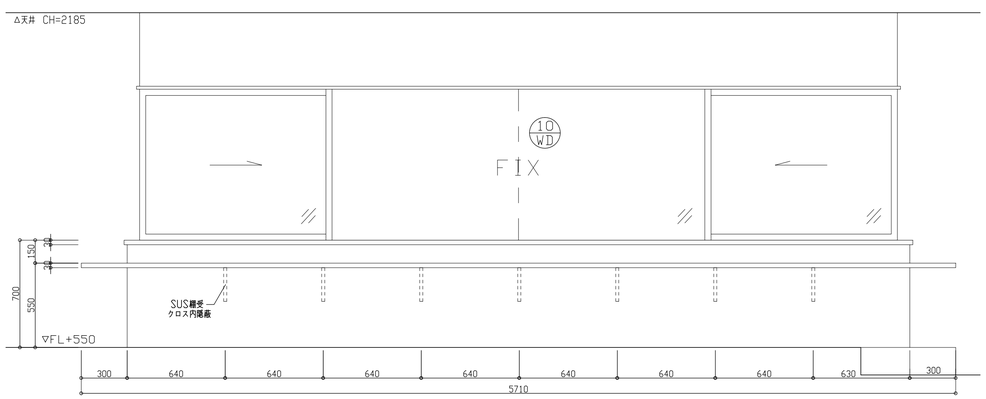
＜断面図＞

K-13 キッチンカウンター　ダイニング×1

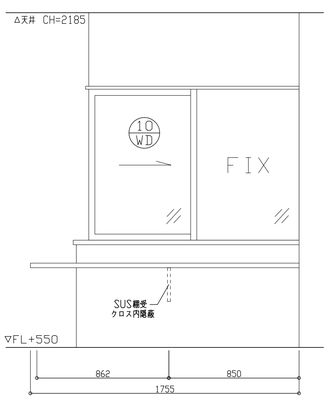
天板：木板 t=30
側板：合板 t=20



ダイニング　＜平面図＞



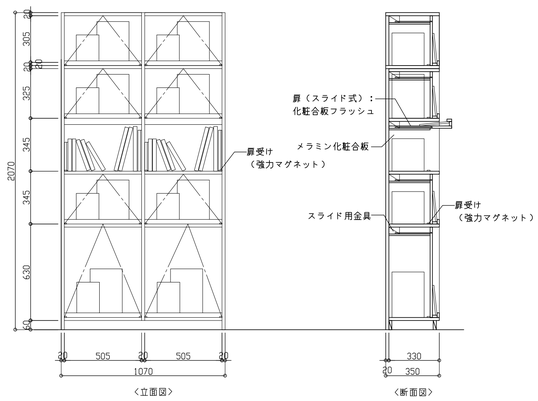
＜立面図＞



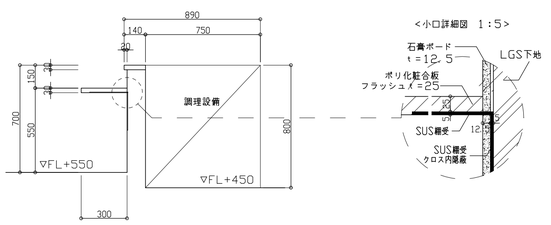
＜側面図＞

K-14 本棚　遊戯室1×2

天板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
側板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
棚板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ
背板：メラミン化粧合板 t=20フラッシュ



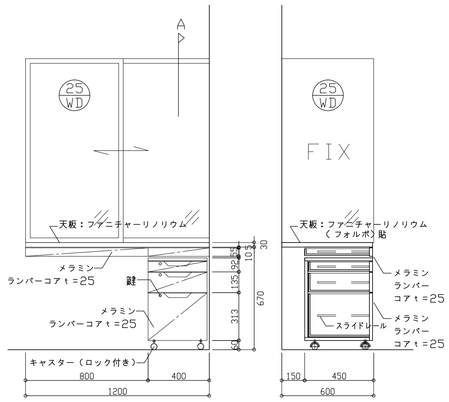
＜立面図＞　＜断面図＞



＜断面図＞

K-15 受付カウンター　ダイニング×1

天板：木板 t=30
側板：合板 t=20

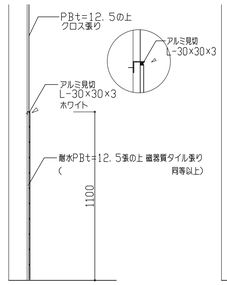


＜立面図＞　＜A断面図＞

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 林部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井・魏 池谷	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）	図面名 改修 家具詳細図（2）	Scale A1: 1/20 A3: 1/40	No. A-42 Total 52

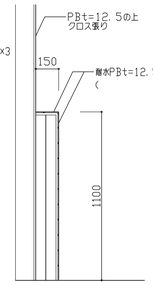
サービス壁　詳細図　1：20

幼児便所（1）



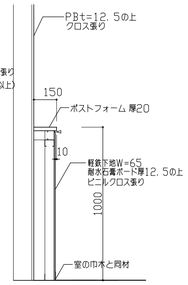
一般壁部

幼児トイレ1、2



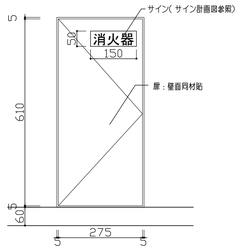
サービス壁部

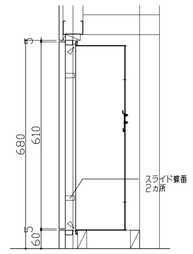
一般部

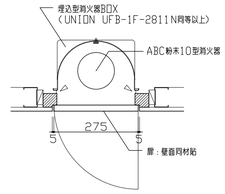


サービス壁部

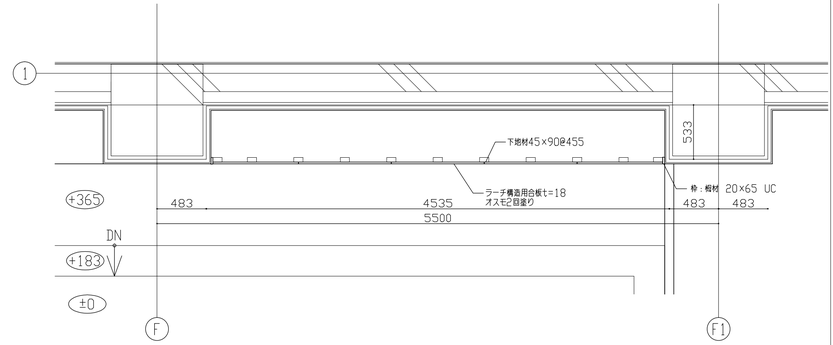
消火器ボックス　詳細図　1：10

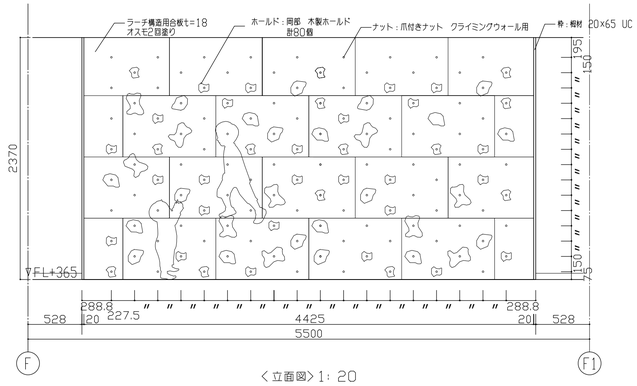






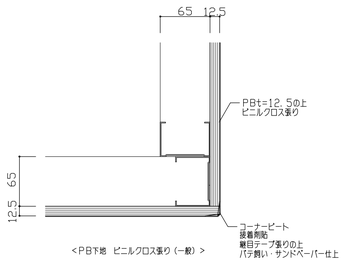
クライミングウォール　詳細図　1：30





＜立面図＞1：20

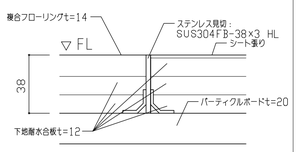
コーナー見切　詳細図　1：4



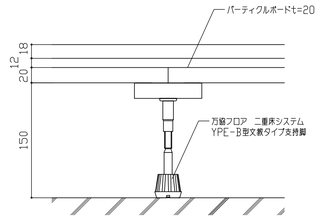
＜PB下地　ビニルクロス張り（一般）＞

床見切　詳細図　1：2

※見切りはFLと同面とする事。

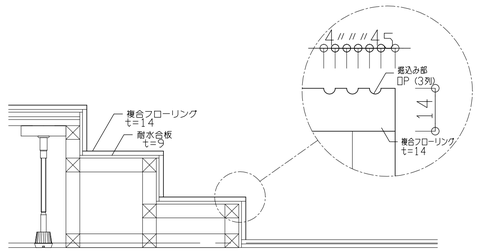


鋼製束　詳細図　1：4



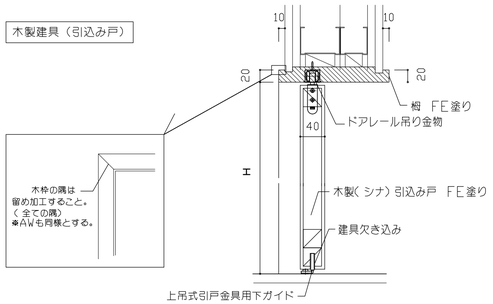
屋内階段段鼻　詳細図　1：10

※屋内の全て段差部（フローリング仕上）に共通とする

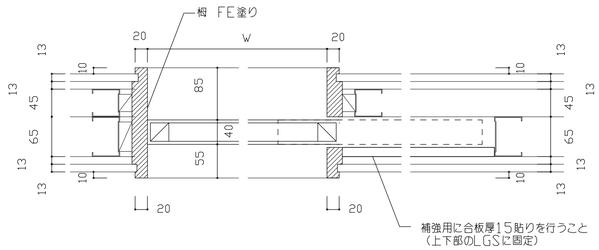


木製建具　詳細図　1：5　1：2

木製建具（引込み戸）

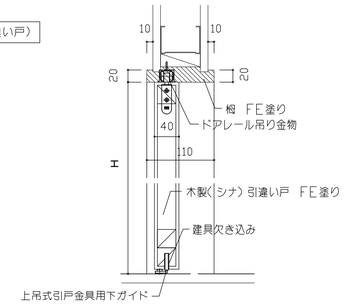


断面詳細図

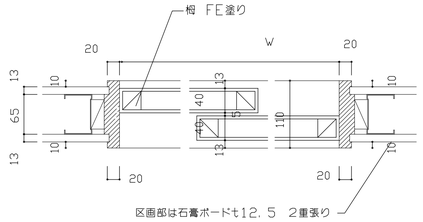


平面詳細図

木製建具（引違い戸）



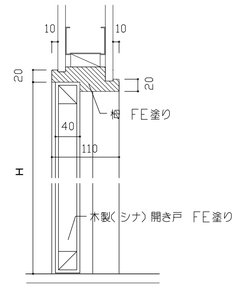
断面詳細図



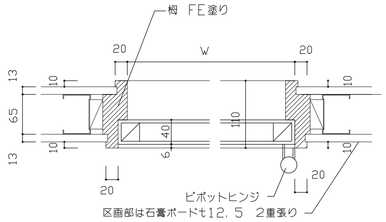
平面詳細図

木製建具（開き戸）

WD49も同等

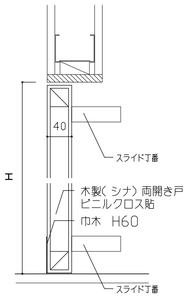


断面詳細図

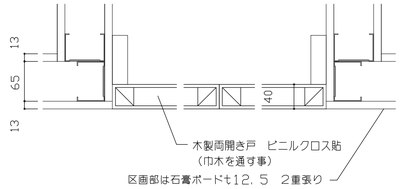


平面詳細図

木製建具（両開き戸）



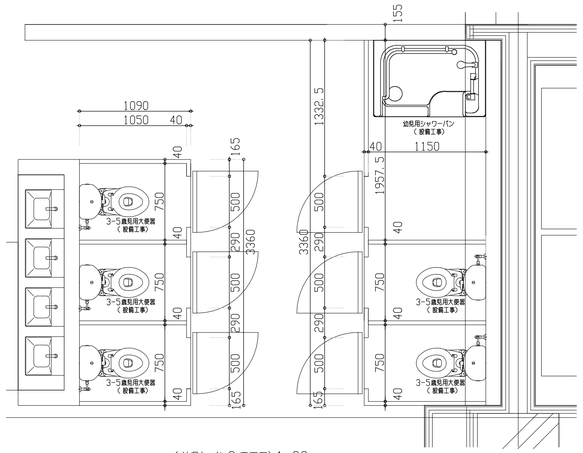
断面詳細図



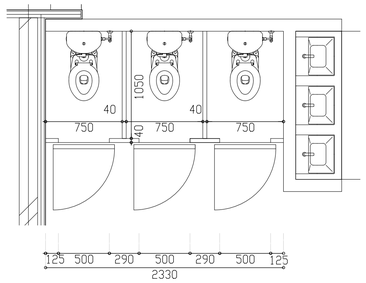
平面詳細図

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 林部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修 雑詳細図（1）	Scale A1：1/100 A3：1/200	No. A-43 Total 52

幼児トイレ　トイレブース　詳細図　1：4　1：30

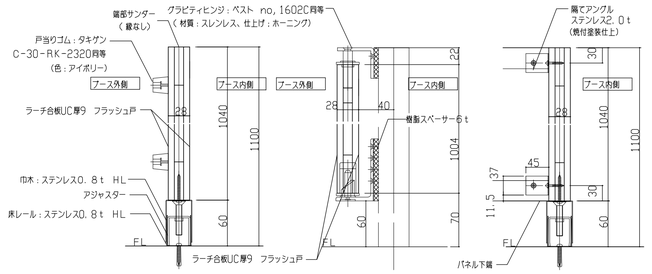


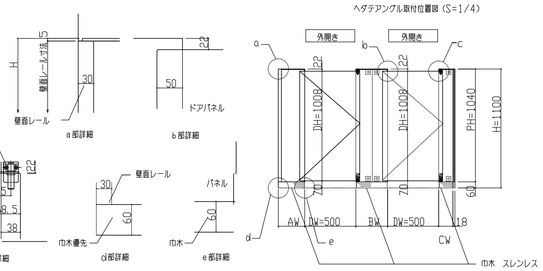
〈幼児トイレ2 平面図〉1：30

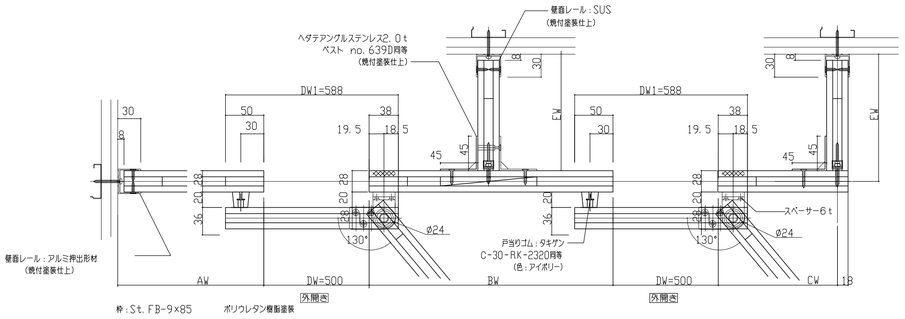


〈幼児トイレ1 平面図〉1：30

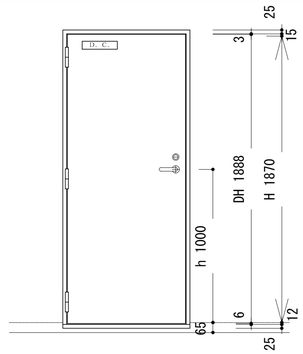
※壁面ビス取り付け部には下地補強を入れてください。

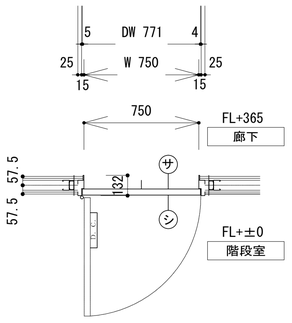


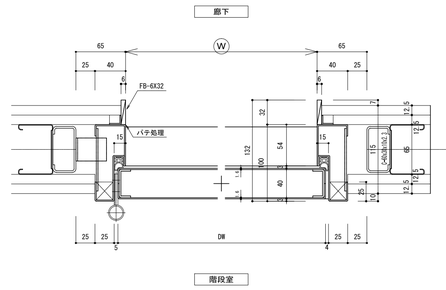




スチールドア　詳細図　1：4　1：20

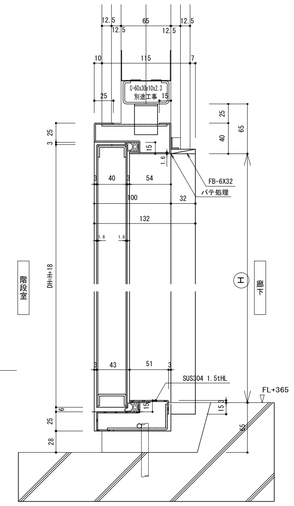






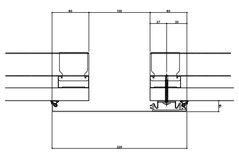
符号	数量	仕上	枠形状
SD 1	1	枠：SOP（現場塗装）さび止め塗装�行	S・T・SAT・PAT
		扉：SOP（現場塗装）さび止め塗装仕	特防：防火・一般

金具品名	メーカー	品番型式	単位数量	備考
レバーハンドル錠	ミワ	LA50-1（ST）	1	BS/64
丁番	制定品	BX-SD5S	3	
ＤＣ	ＮＳ	P-7003	1	ストップ無
戸当り	リョービ	RC-009A	1	
SATゴム	制定品	BX-AT18	1	

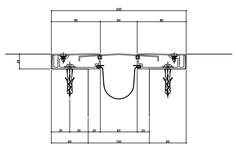


Exp. J　詳細図　1：5

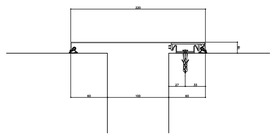
［天井＋天井］S10-SCW 標準
※落下防止システム（セーフティワイヤー）付き



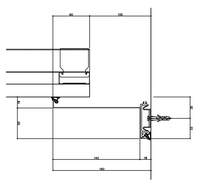
［床＋床］S10-SFX 標準（内外共通）



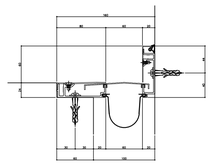
［内壁＋内壁］S10-SUW 標準



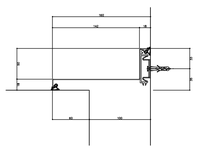
［天井コーナー］S10-SCWC 標準
※落下防止システム（セーフティワイヤー）付き



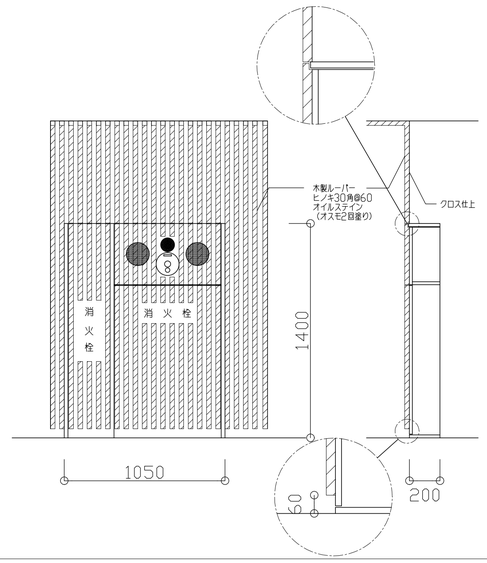
［床コーナー］S10-SFXC 標準（内外共通）



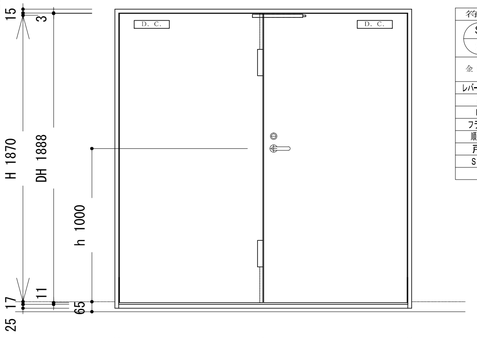
［内壁コーナー］S10-SUWC 標準



屋内消火栓設備　1：20

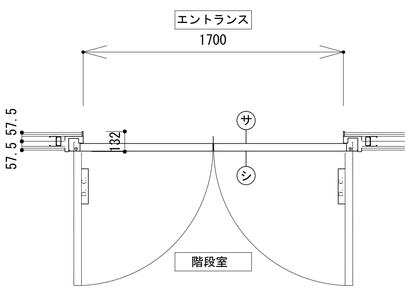


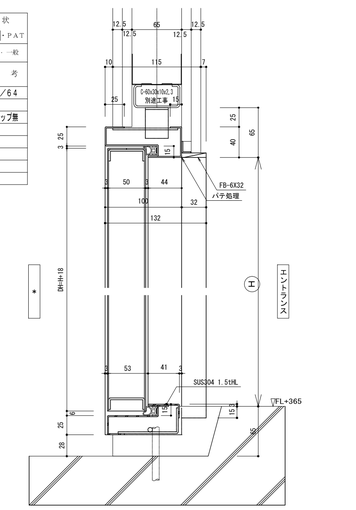
改修　雑詳細図（2）

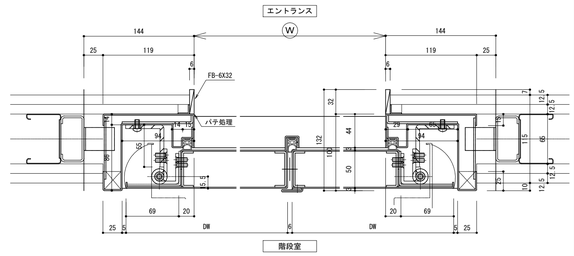


符号	数量	仕上	枠形状
SD 2	1	枠：SOP（現場塗装）さび止め塗装仕	S・T・SAT・PAT
		扉：SOP（現場塗装）さび止め塗装仕	特防：防火・一般

金具品名	メーカー	品番型式	単位数量	備考
レバーハンドル錠	ミワ	LA50-1（ST）	1	BS/64
召合丁番	マツエイ	SD-610A-1	6	
ＤＣ	ＮＳ	P-7003	2	ストップ無
フランス落し	リョービ	RB-002	2	
扉位調整棒	ＮＳ	SF-250F	1	
戸当り	リョービ	RC-009A	1	
SATゴム	制定品	BX-AT18	1	

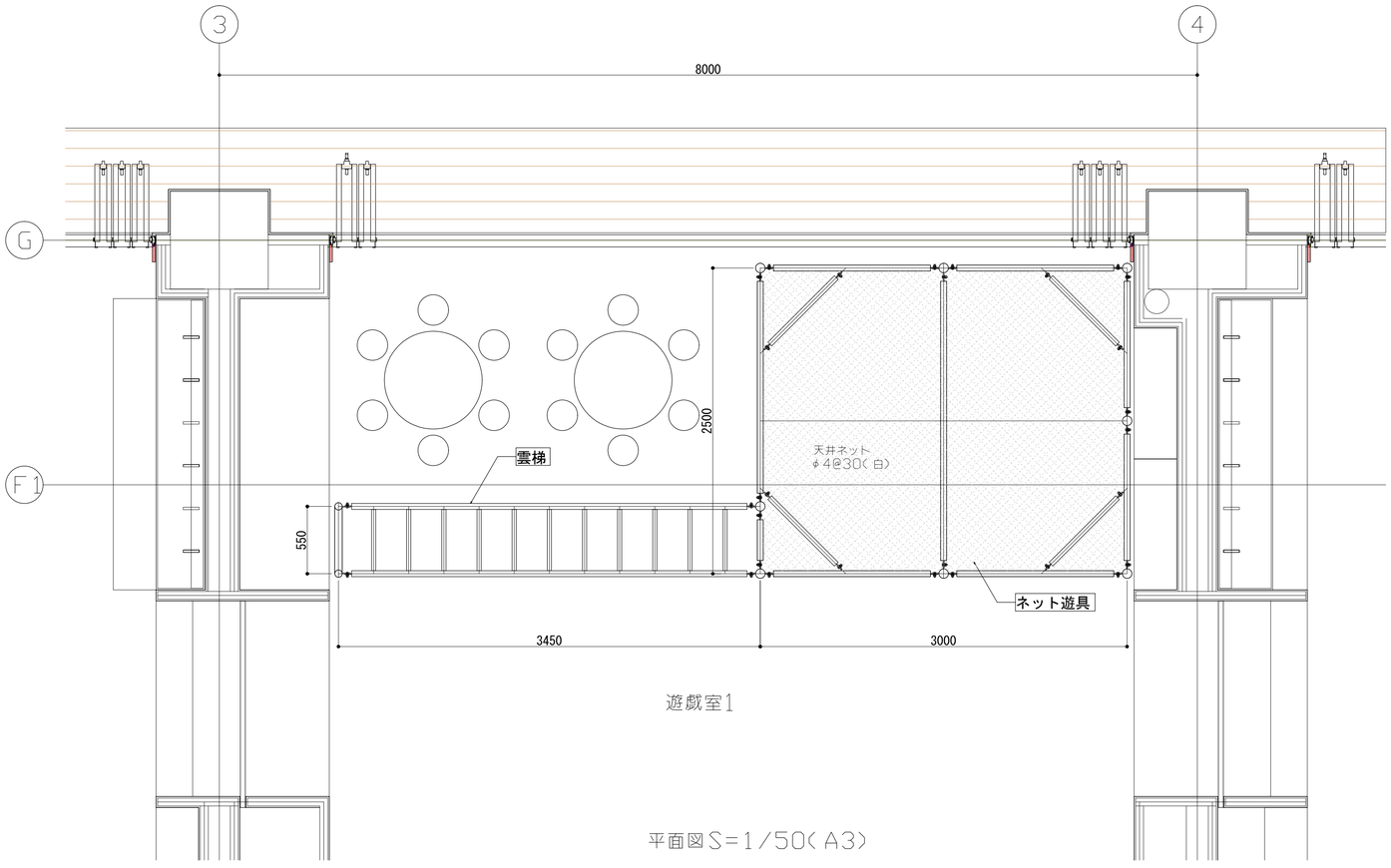






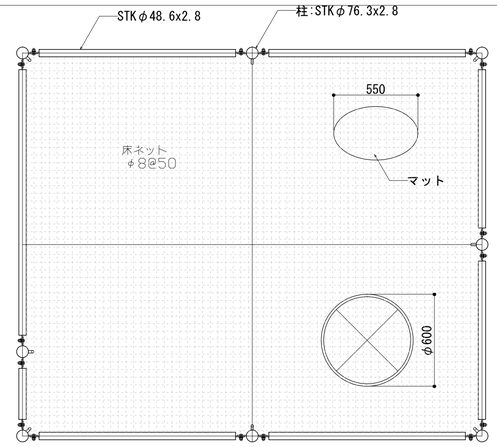
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第274650号 伊東 陽子	意匠設計：一級建築士 第334613号 鍔部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	設計 中田	製図 中田	調査 窪田	特記

工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　雑詳細図（2）	A1: 1/100 A3: 1/200	A-44
			Total 52

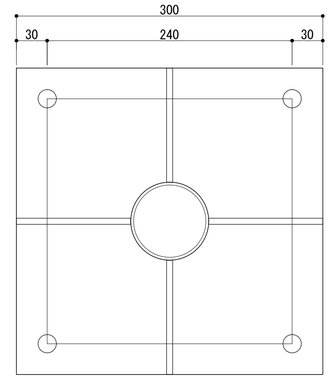


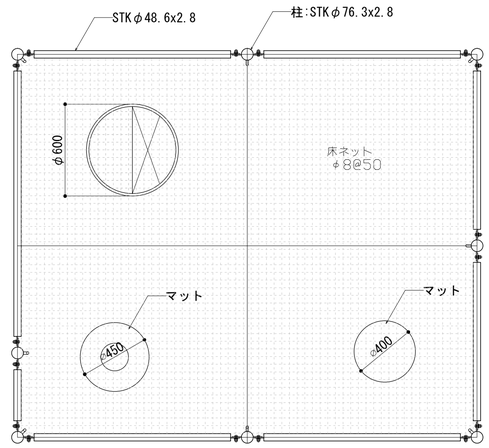
遊戯室1

平面図S=1/50(A3)

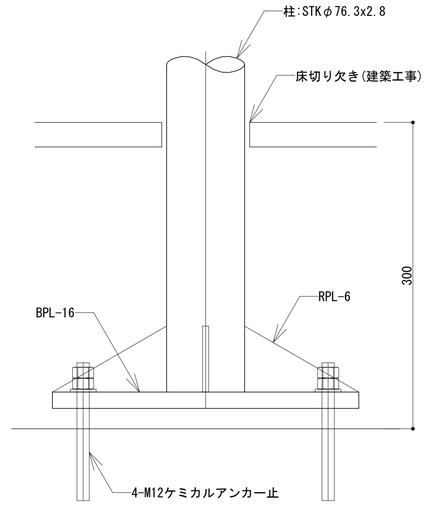


平面図(+550) S=1/40(A3)

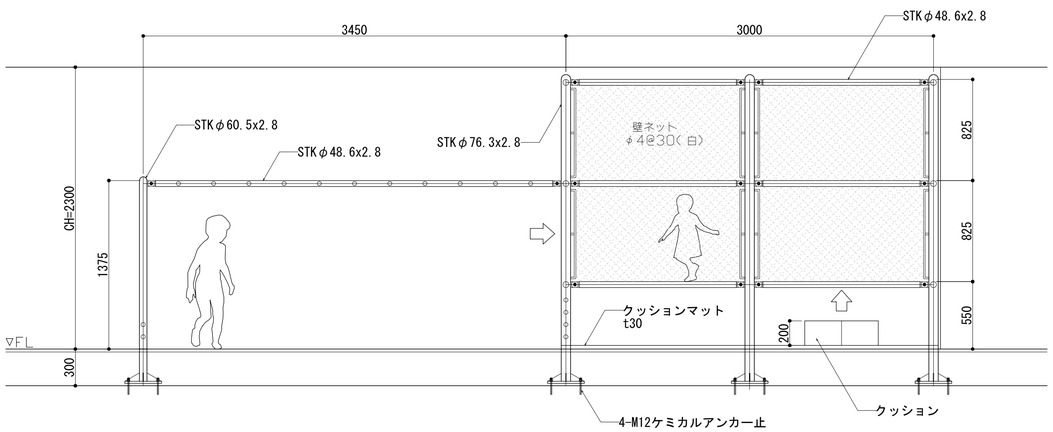




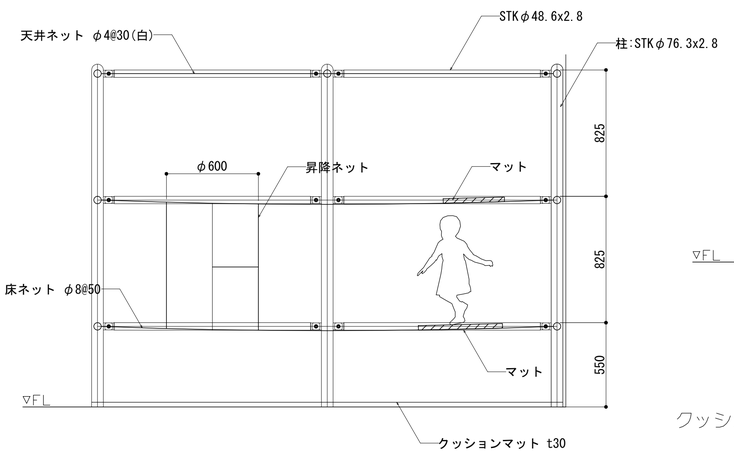
平面図(+1375) S=1/40(A3)



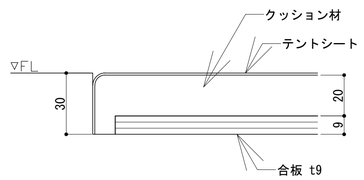
BPL詳細図S=1/6(A3)



立面図S=1/50(A3)



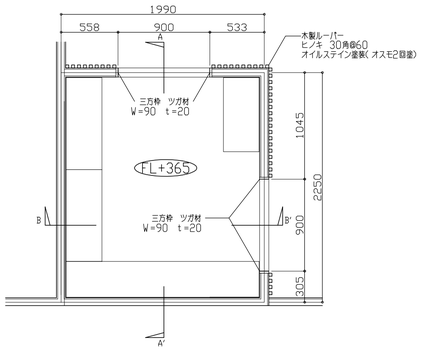
断面図S=1/40(A3)



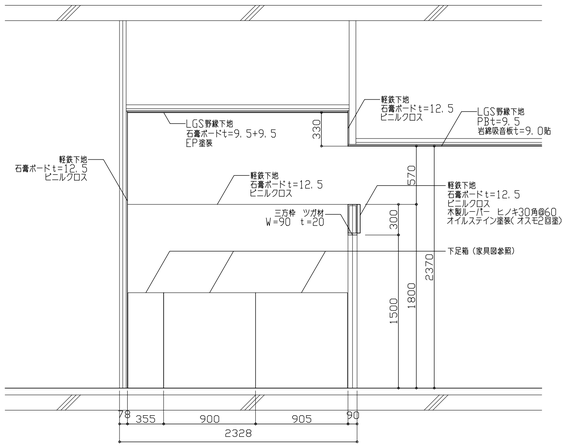
クッションマット標準図S=1/3(A3)

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第20175号 一級建築士 第274650号 伊東 陽子	遮拡設計：一級建築士 第334613号 緋部 響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課					特記	工事名	図面名	Scale	No.
HIBINO SEKKEI		平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田	製図 中田	調査 窪田				（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　雑詳細図(3)	A1: 1/100 A3: 1/200	A-45 Total 52

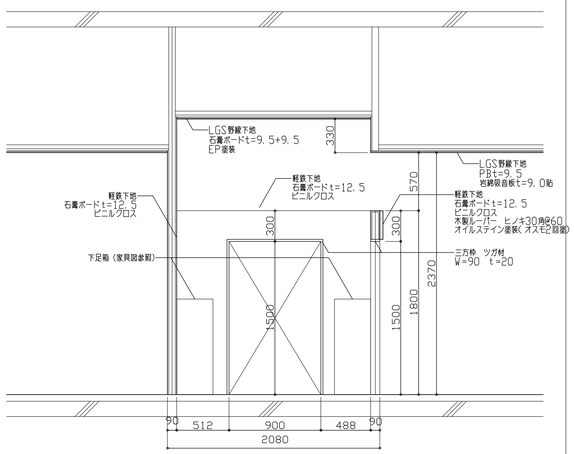
5歳見下足小屋　詳細図　1：30



<5歳見下足小屋　詳細図>

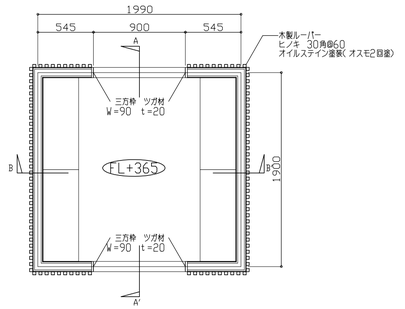


<A-A'　断面図>

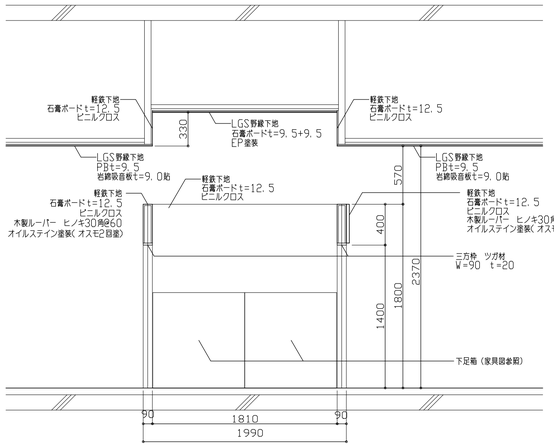


<B-B'　断面図>

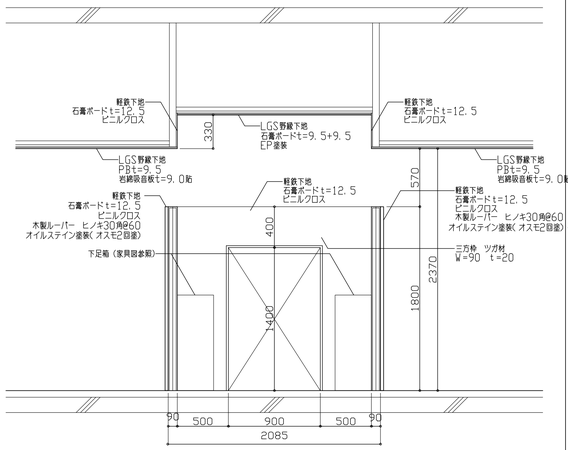
4歳見下足小屋　詳細図　1：30



<4歳見下足小屋　詳細図>

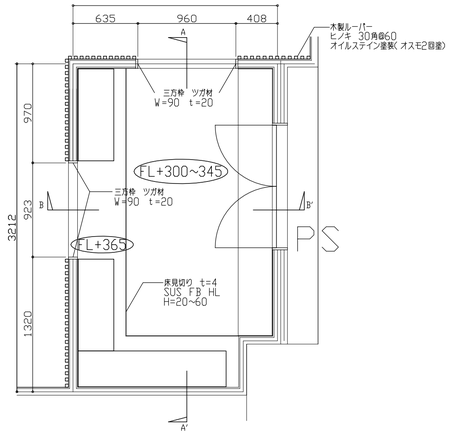


<A-A'　断面図>

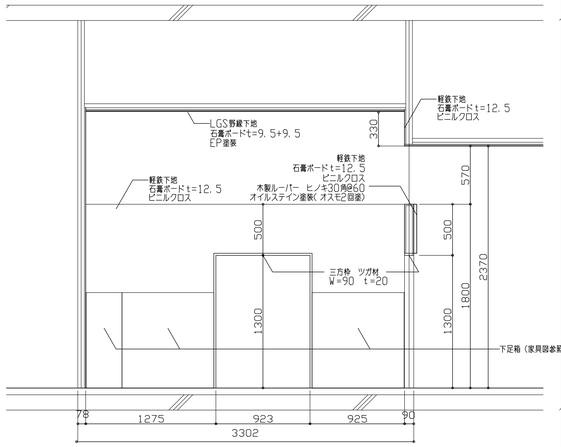


<B-B'　断面図>

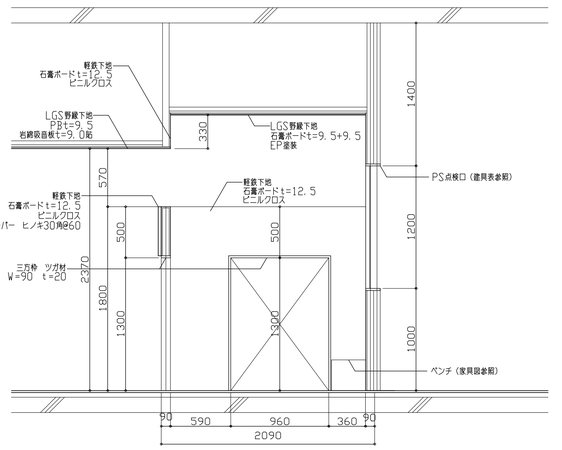
3歳見下足小屋　詳細図　1：30



<3歳見下足小屋　詳細図>



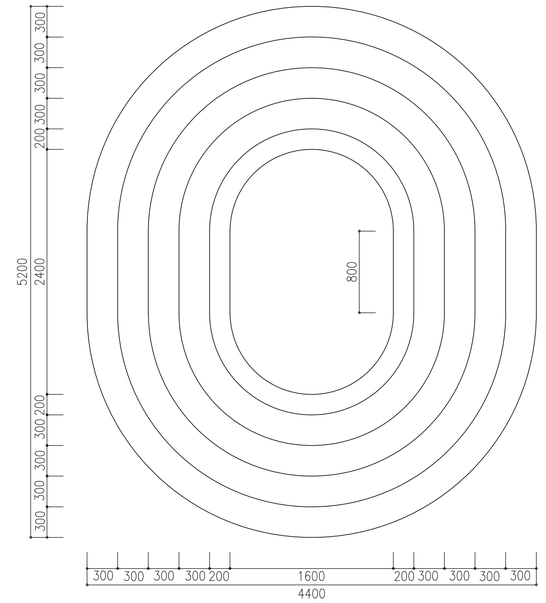
<A-A'　断面図>

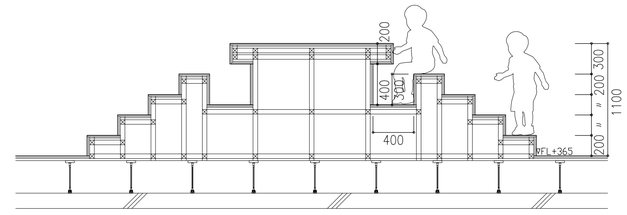


<B-B'　断面図>

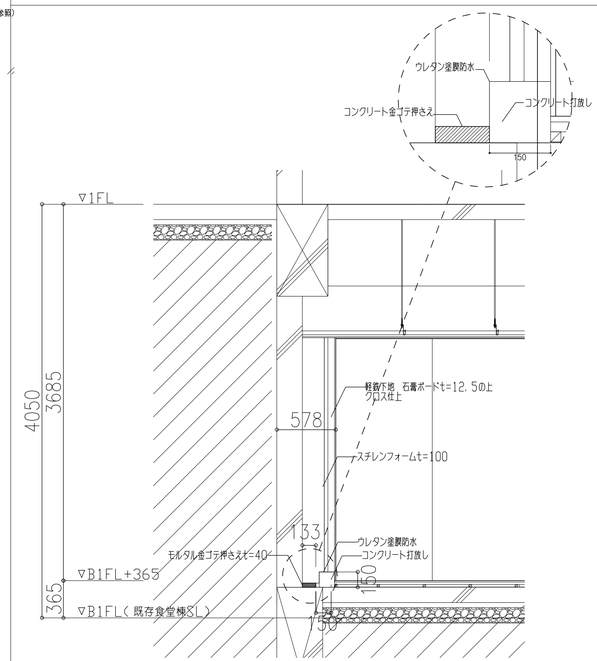
オイルステイン塗装(オスモ2回塗)

階段テーブル　詳細図　1：30





階段テーブル　詳細図　1：30



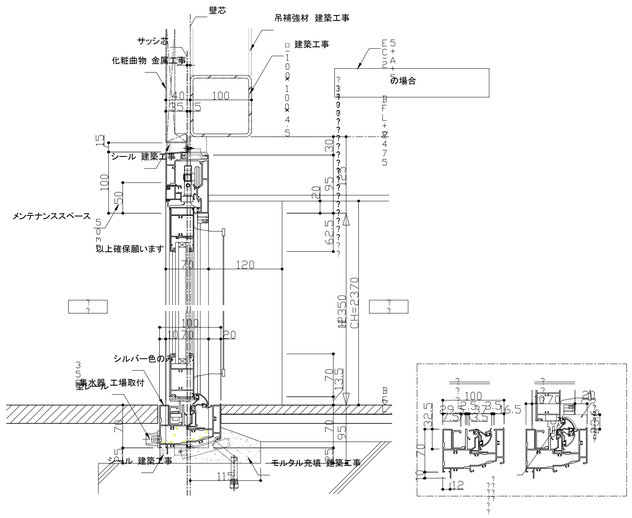
株式会社　日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号
一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子

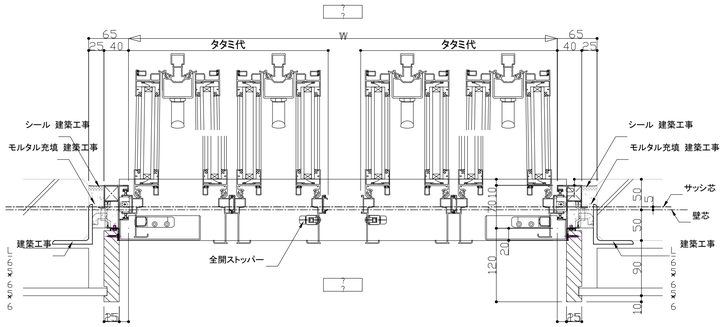
遅匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 綿部 響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課	特記
	平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田　製図 中田　調査 窪田	

工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　雑詳細図(4)	A1: 1/30 A3: 1/60	A-46 Total 52

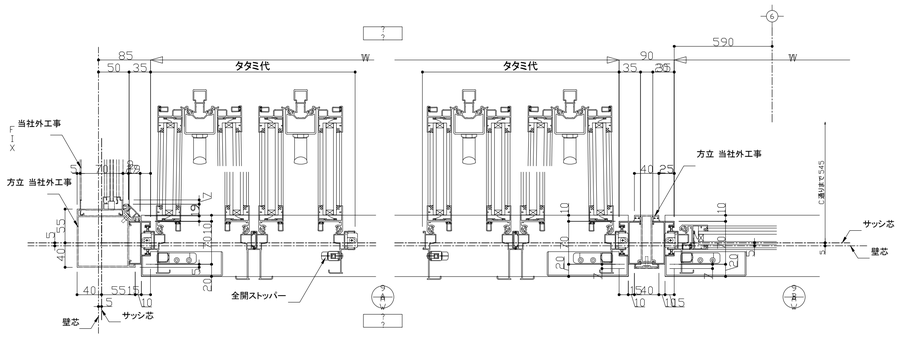
アルミサッシュ詳細図（アルミパネル＋折れ戸　AW-5　AW-9A　AW-6　AW-10）

AW-5

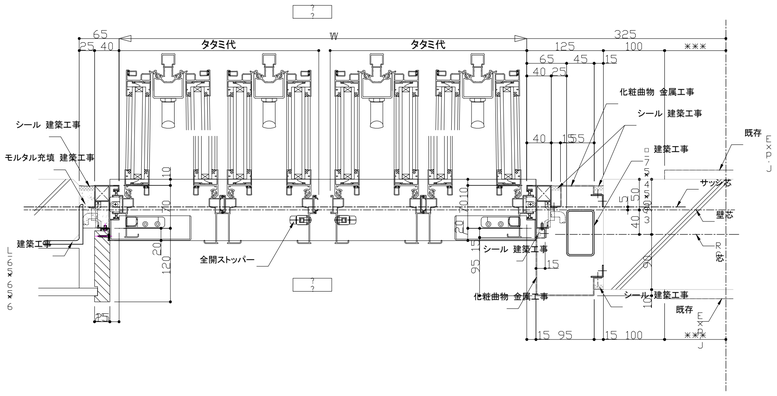




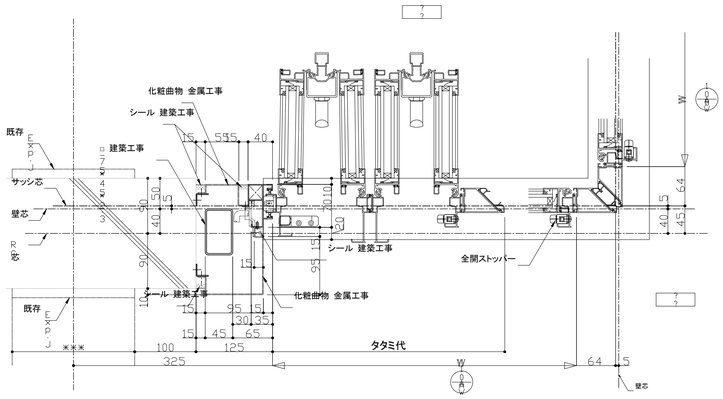
AW-9A

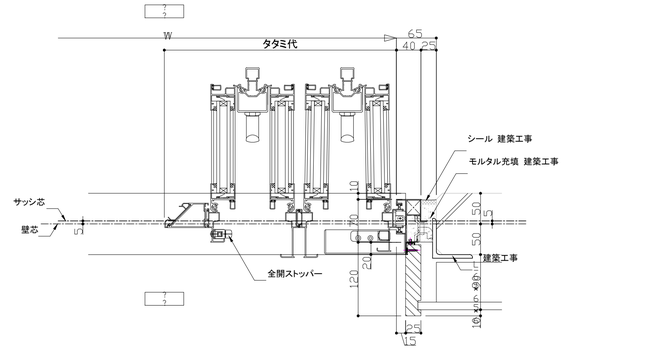


AW-6（既存Exp. J部）



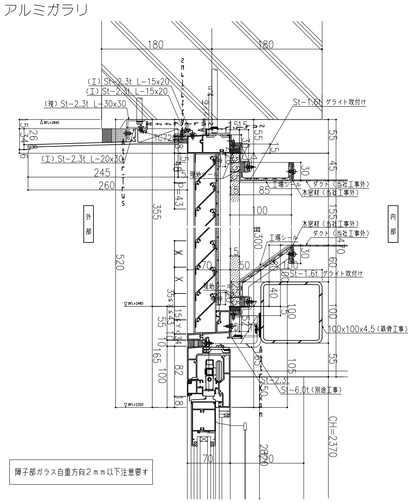
AW-10（既存Exp. J部）

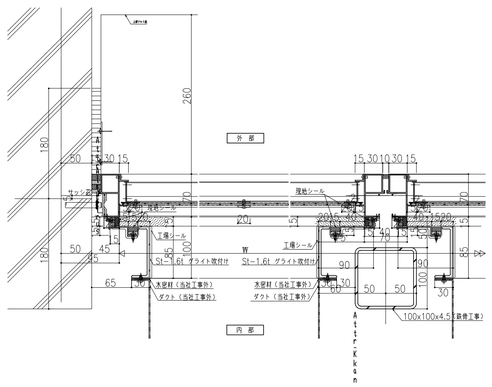




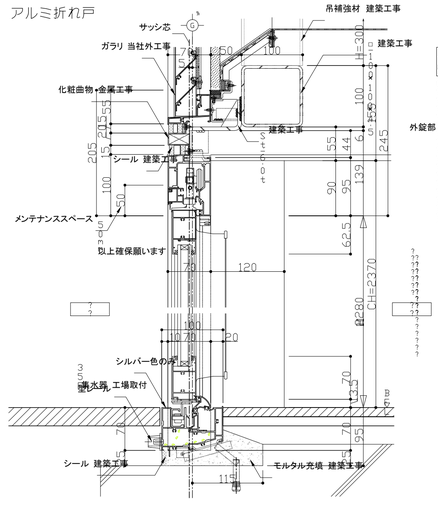
アルミサッシュ詳細図（アルミガラリ＋アルミ折れ戸　AW－1）

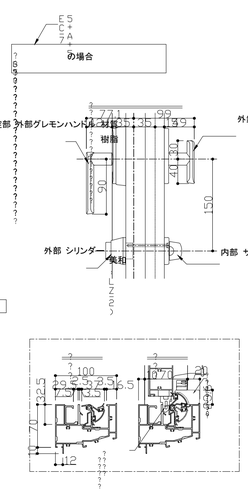
アルミガラリ

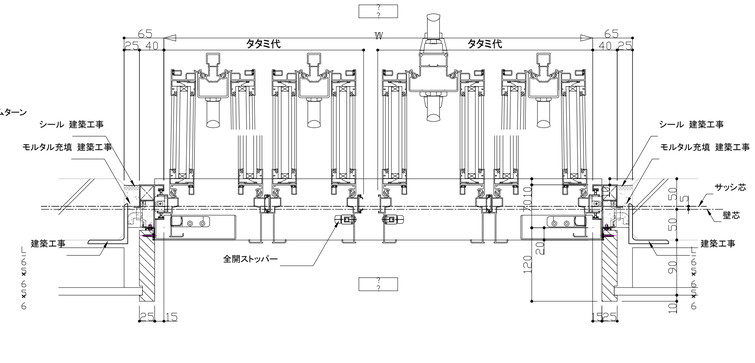




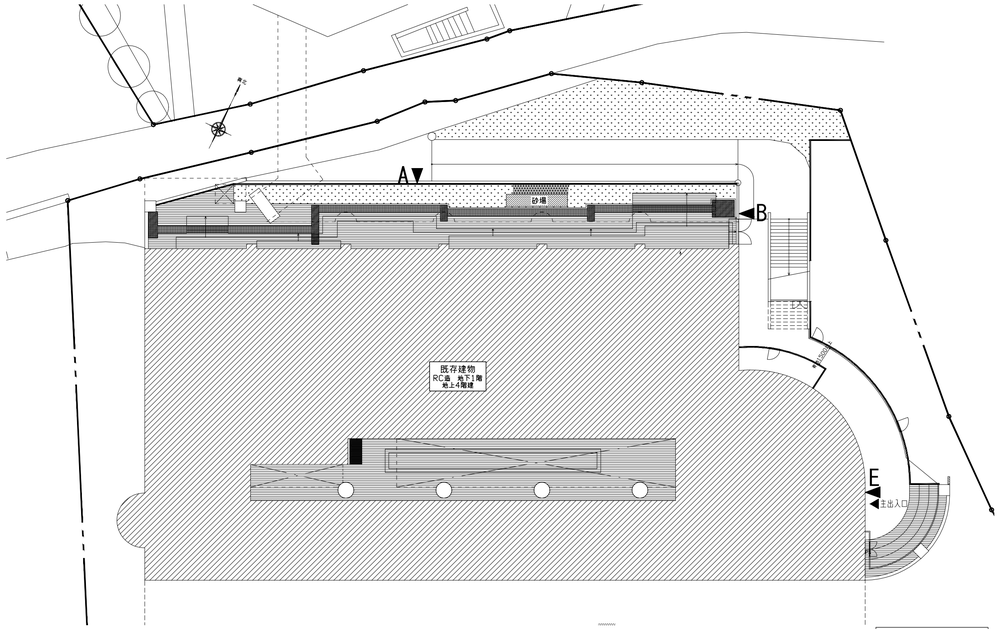
アルミ折れ戸



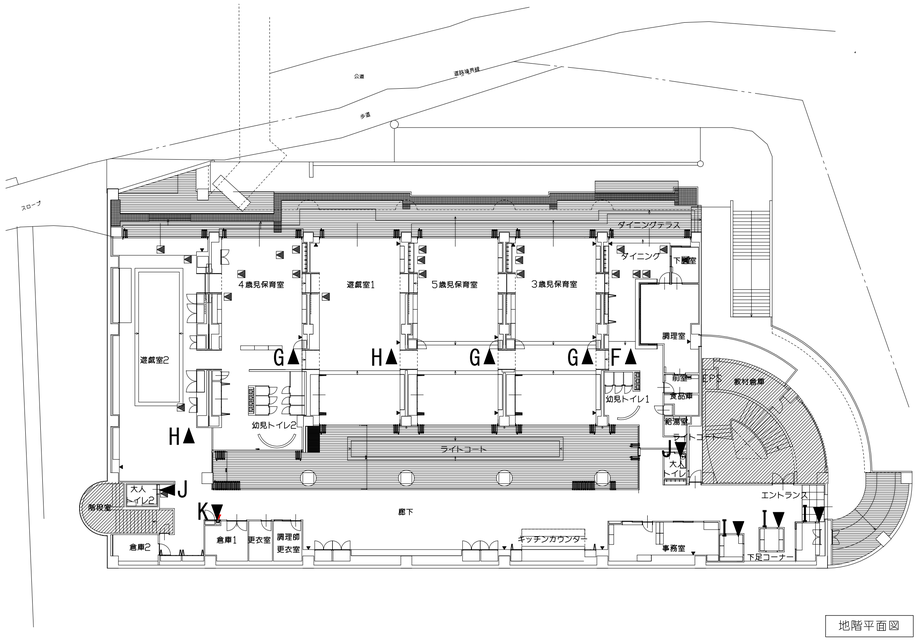




株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	神奈川県知事 登録 第２０１７号 第274650号 伊東 陽子	遮匠設計：一級建築士 第334613号 緋部 雪子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修 雑詳細図（5）	Scale A1: 1/5 A3: 1/10	No. A-47 Total 52



地階外構平面図

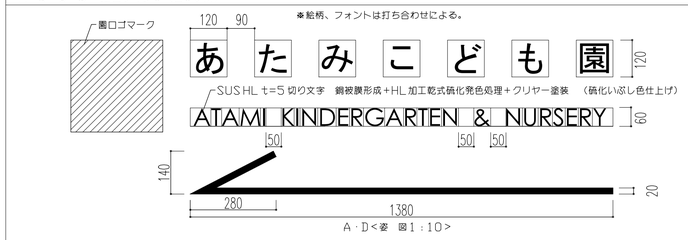


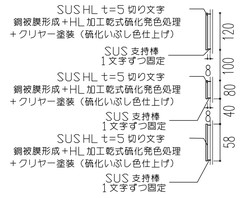
地階平面図

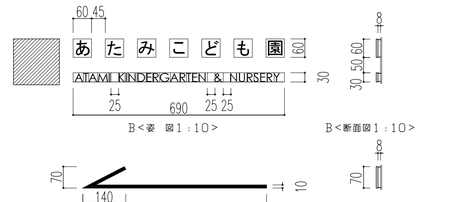
サイン凡例

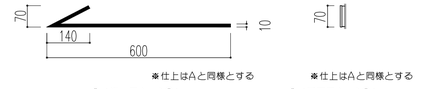
記号	内　容	箇所数
A	館名サイン1	1
B	館名サイン2	1
C	館名サイン3	1
D	館名サイン4	1
E	インターホンサイン（テンキー）	1
F	掲示板	1
G	室名サイン1	3
H	室名サイン2	2
I	室名サイン3	3
J	平付け室名サイン（トイレ）	2
K	消火器サイン	1
L	衝突防止サイン	−

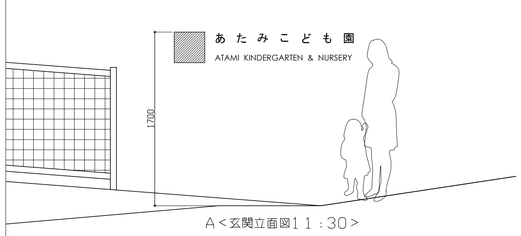
A・B・C・D　館名サイン1（各1ヶ所）　1：10　1：30

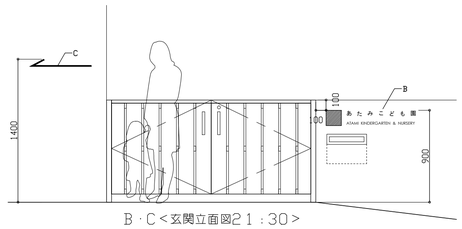






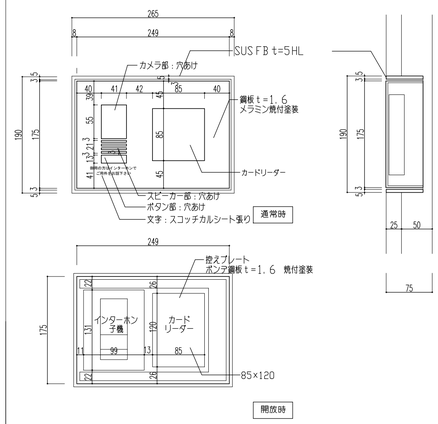




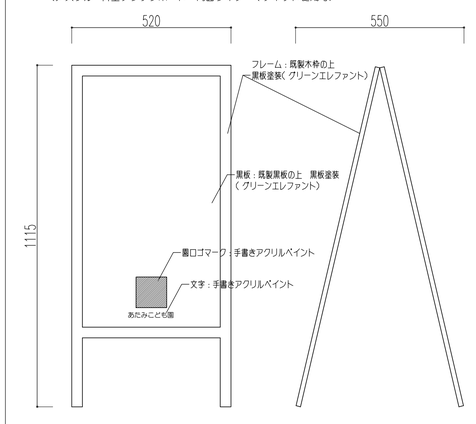




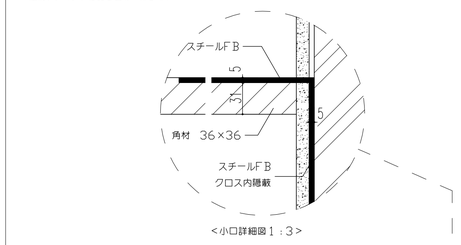
E　インターホンサイン（1ヶ所）　1：5

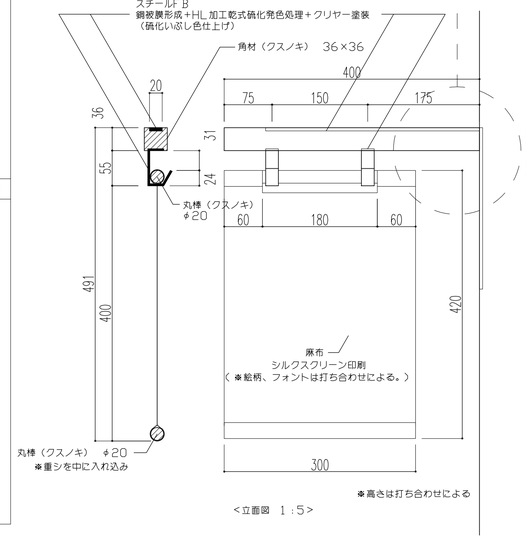


F　掲示板（1ヶ所）　1：10

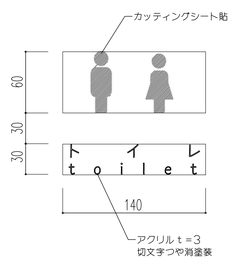


G・H・I　室名サイン（3ヶ所・2ヶ所・3ヶ所）　1：3　1：5

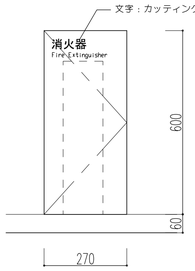




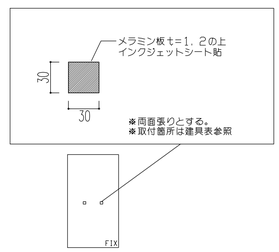
J　平付け室名サイン（トイレ　計2ヶ所）　1：3



K　消火器サイン（1ヶ所）　1：10

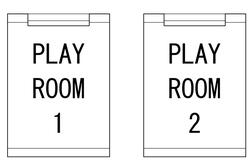


L　衝突防止サイン　1：3





G＜姿　図1：10＞



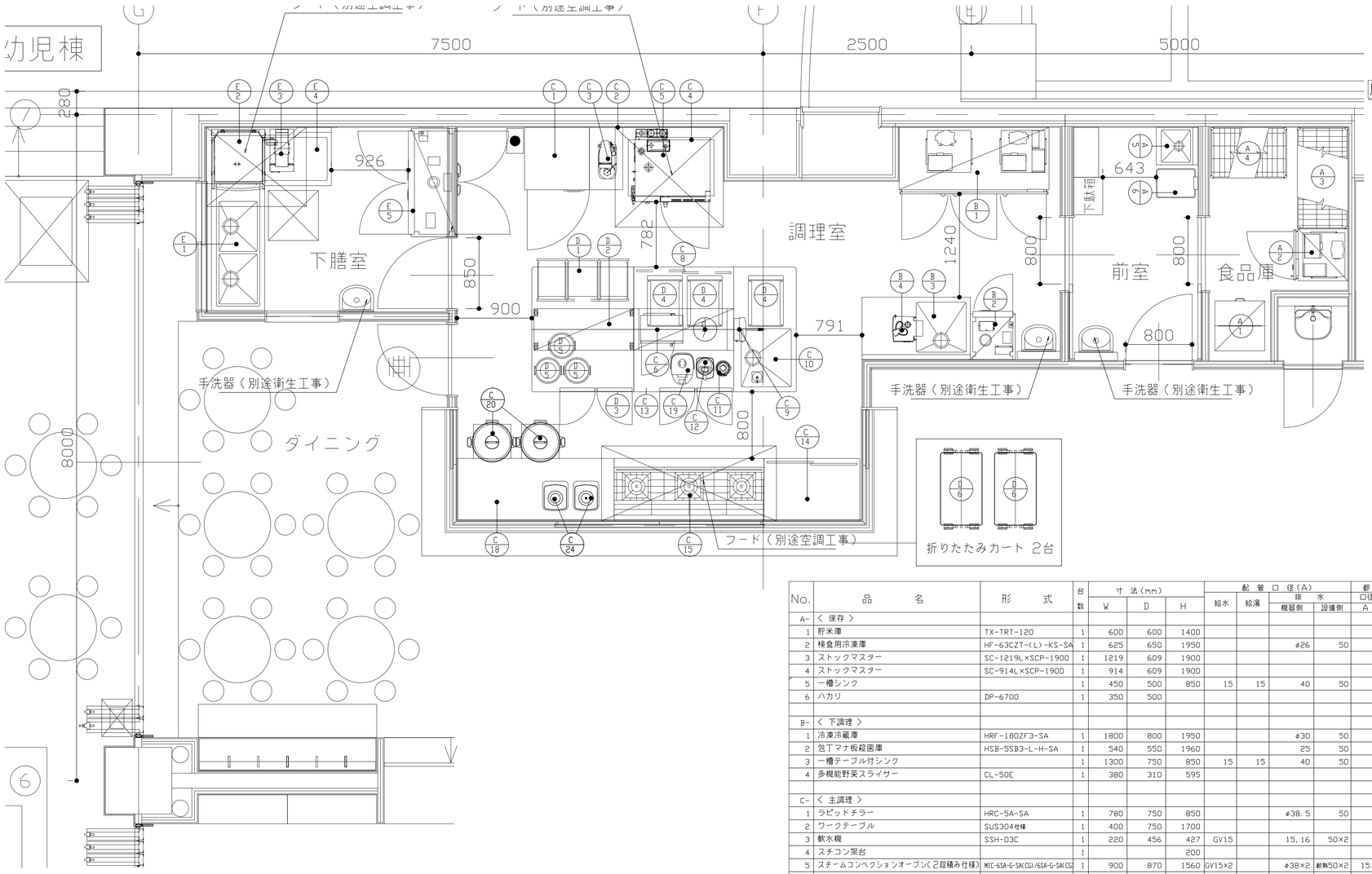
H＜姿　図1：10＞



I＜姿　図1：10＞

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子	監修設計：一級建築士　第３３４６１３号　緋部　菅子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課				特記
		平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査

工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　サイン計画図	A1：1/3 A3：1/6	A−48 Total 52



厨房区画内は床・壁・天井とも下地および仕上げを
不燃構造とみなしレイアウトしております。

厨房動線計画

A セクション 食材搬入・検収・保存 ⇨ B セクション 下調理 ⇨ C セクション 調理・炊飯・特食 ⇨ D セクション 盛付・配膳 ⇨ E セクション 下膳・洗浄・収納

★本図は厨房内を不燃構造で仕上げる事を前提に作図しています。

※厨房機器への接続（給湯・排水・ガス・電気等の一次側・二次側接続工事）
※厨房内の予備コンセント
※厨房内（壁、床、天井）下地及び仕上げ・カウンター・グレーチング等
※給湯器・フード（GF含）・手洗器・シンクのカラン等
⇨ 別途（設備工事）

※厨房機器搬入・据付（レベル調整）・試運転調整
⇨ 厨房工事

■ 定員

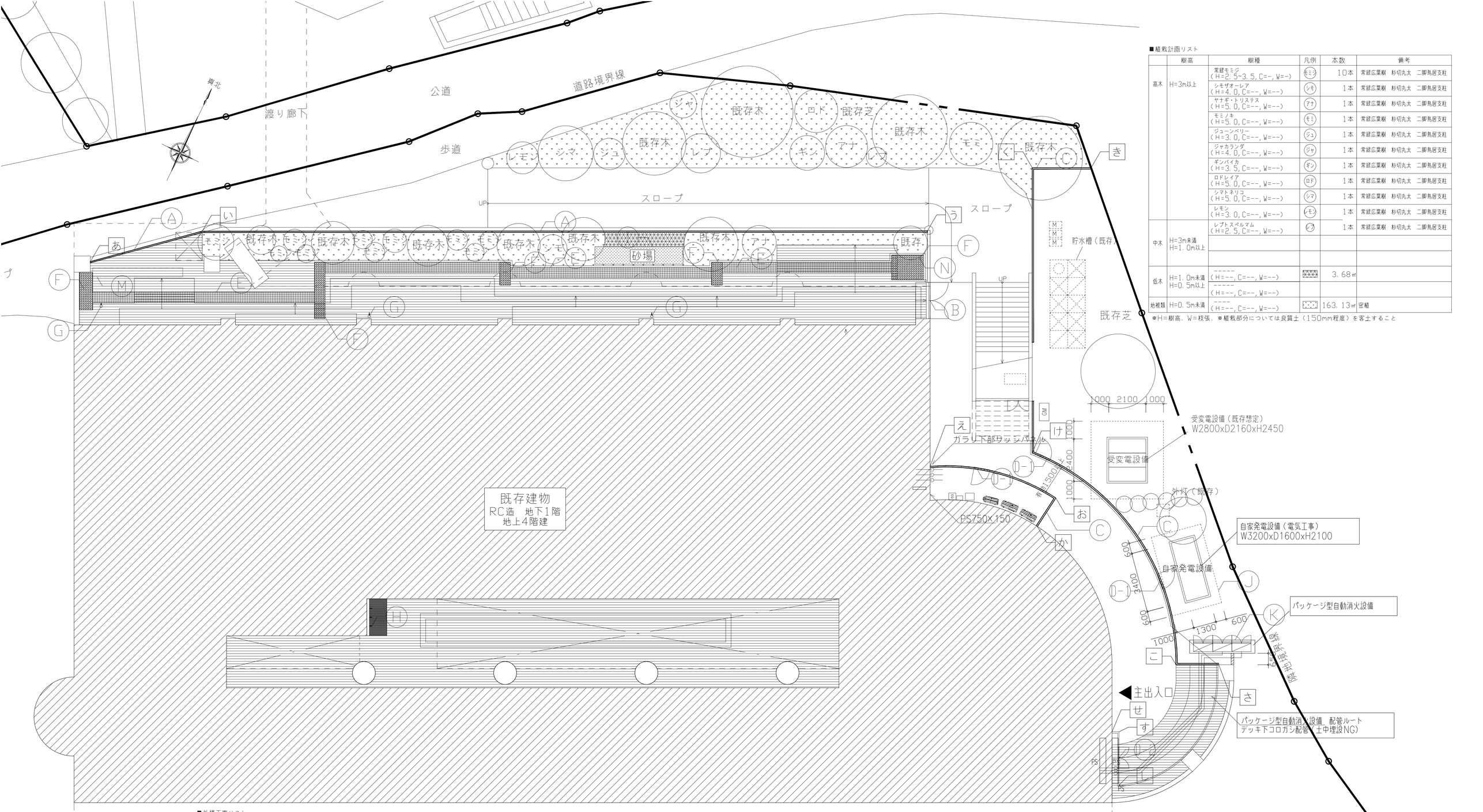
年齢	定員
0	9
1	24
2	30
3	40
4	40
5	40

No.	品名	形式	台数	寸法(mm) W	D	H	配管口径(A) 給水	給湯	排水 機器側	排水 設備側	都市ガス 口径 A	都市ガス kW	電気(50Hz, kW) 単相100V	単相200V	三相200V	フード	備考
A-	〈 保存 〉																
1	貯米庫	TX-TRT-120	1	600	600	1400											
2	検食用冷凍庫	HF-63CZT-(L)-KS-SA	1	625	650	1950			φ26	50			0.365				定格内容積：396L・周囲温度40℃対応・底面防腐食対応・専用容器14個・日付マグネット31日分
3	ストックマスター	SC-1219L×SCP-1900	1	1219	609	1900											
4	ストックマスター	SC-914L×SCP-1900	1	914	609	1900											
5	一槽シンク		1	450	500	850	15	15	40	50							
6	ハカリ	DP-6700	1	350	500												
B-	〈 下調理 〉																
1	冷凍冷蔵庫	HRF-180ZF3-SA	1	1800	800	1950			φ30	50					0.656		定格内容積：1562L(冷蔵室1060L、冷凍室502L)・周囲温度40℃対応・底面防腐食対応・扉フッ素ブレコートステンレス
2	包丁マナ板殺菌庫	HSB-SSB3-L-H-SA	1	540	550	1960			25	50					2.1		マナ板10枚、包丁30本・4面熱風送風方式・コース切替機能付き・ダブルセンサー制御
3	一槽テーブル付シンク		1	1300	750	850	15	15	40	50							
4	多機能野菜スライサー	CL-50E	1	380	310	595							0.9				
C-	〈 主調理 〉																
1	ラピッドチラー	HRC-SA-SA	1	780	750	850			φ38.5	50			0.725				周囲温度40℃対応・底面防腐食対応・庫内温度−30℃〜30℃調節可能・d65m/mホテルパン5枚・芯温センサー
2	ワークテーブル	SUS304仕様	1	400	750	1700											
3	軟水機	SSH-03C	1	220	456	427	GV15		15,16	50×2			0.003				
4	スチコン架台		1			200											
5	スチームコンベクションオーブン(2段積み仕様)	MIC-6SA-G-SAC(D)/6SA-G-SAC(D)	1	900	870	1560	GV15×2		φ38×2	耐熱50×2	15×2	26.5×2	0.36×2			要	
6	電子レンジ	NE-920GP	1	510	360	306								1.57			
7	オーバーシェルフ		1	1200	500	500											
8	キャビネットテーブル		1	1200	750	850											
9	電解水生成装置W□X	W□X-40WA-SA	1	285	145	335	GV15		φ6×2	50×2			0.17				最大4L/分の注出能力・有効塩素濃度10〜60mg/kg・カルシウム硬度50ppm以下の原水でも食品添加物指定のPH
10	一槽テーブル付シンク	SUS304仕様	1	1500	750	850	15	15	40	50							
11	ミキサー食フードブレンダー	VITA-PREP3	1	203	229	510							0.975				内容量2L
12	ロボ・クープ　マジミックス	RM-4200F	1	215	260	432							0.65				
13	テーブル形冷蔵庫	RT-120SDF-E-SA	1	1200	750	850			φ30	50			0.3				定格内容積：318L・インバーター制御・底面防腐食対応・天板1.2m/HL仕上げ・扉フッ素ブレコートステンレス
14	キャビネットテーブル		1	1150	750	800											
15	ガステーブル	TSGT-1830AC(特)	1	1800	750	800					25	52.3				要	B.Gなし
16	欠番																
17	欠番																
18	炊飯台車付ワークテーブル		1	1890	750	800											
19	IH炊飯ジャー	JKH-S18P	1	287	383	255							1.4				炊飯能力：1.8L(1升炊き)
20	ガス炊飯器	RR-50S1	2	525	481	434					φ13×2	11.0×2				要	5升炊き
21	ホテルパン	20m/m テフロン 1/1	12														
22	ホテルパン	65m/m テフロン 1/1	6														
23	ホテルパン	65m/m 穴あき 1/1	6														
24	電磁調理器	KZ-PH33	2	304	345	54							1.4×2				
D-	〈 盛付・配膳 〉																
1	引出付キャビネットテーブル		1	1225	750	850											
2	オーバーシェルフ		1	1200	500	500											
3	テーブル形冷蔵庫	RT-120SDF-E-SA	1	1200/1225	750	850/40			φ30	50			0.3				定格内容積：318L・インバーター制御・底面防腐食対応・天板1.2m/HL仕上げ・扉フッ素ブレコートステンレス
4	リーバー・サーモポート	600K	3	420	610	386											
5	二重式保温食缶	SH-2027-14N	3	310	310	260											
6	ステンレス折りたたみワゴン	3KKT-900	2	933	505	958											棚3段
7	ホテルパン	1/1 H=65m フタ付	24														
E-	〈 下膳・洗浄 〉																
1	ソイルドテーブル		1	1500	700	850	15×2	15×2	40×2	50×2							
2	食器洗浄機	JWE-680B-HP-SA	1	640	655	1432		アドバンス接続	φ38.5	耐熱50					1.46	要	万能ラック×3・フラットラック×1・すすぎ温量2L/回・すすぎポンプ揚程15m・洗浄ポンプ500L/分・ヒートパイプ仕様
3	ガスブースター	WB-25H-2	1	287	531	760	GV15		25	耐熱50	15	29.1	0.055			要	
4	クリーンテーブル		1	800	700	850											
5	食器消毒保管庫	HSB-15SPB3-SA	1	1300	550	1960			25	50					6.3		専用カゴ 15カゴ付・4面熱風送風方式・コース切替機能付き・ダブルセンサー制御
	合計											156.4	9.363	1.57	10.516		

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第20175号
一級建築士 第274650号 伊東 陽子

意匠設計：一級建築士 第334613号 藤原 響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課	特記
	平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計 中田 製図 中田 調査 窪田	

工事名	図面名	Scale	No.
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　調理室計画図	A1: 1/30 A3: 1/60	A-49
			Total 52



■植栽計画リスト

	樹高	樹種	凡例	本数	備考
高木	H=3m以上	常緑モミジ（H=2.5~3.5, C=-, W=-）	モミ	10本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		シモザオーレア（H=4.0, C=--, W=--）	シモ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		ヤナギ・トリステス（H=5.0, C=--, W=--）	ナナ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		モミノキ（H=5.0, C=--, W=--）	モミ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		ジューンベリー（H=3.0, C=--, W=--）	ジュ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		ジャカランタ（H=4.0, C=--, W=--）	ジャ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		ギンバイカ（H=3.5, C=--, W=--）	ギン	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		ロドレイア（H=5.0, C=--, W=--）	ロド	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		シマトネリコ（H=5.0, C=--, W=--）	シマ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
		レモン（H=3.0, C=--, W=--）	レモ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
中木	H=3m未満 H=1.0m以上	レプトスペルマム（H=2.5, C=--, W=--）	レプ	1本	常緑広葉樹　杉切丸太　二脚鳥居支柱
低木	H=1.0m未満 H=0.5m以上	----- （H=--, C=--, W=--）		3.68㎡	
		----- （H=--, C=--, W=--）			
地被類	H=0.5m未満	----- （H=--, C=--, W=--）		163.13㎡	密植

※H=樹高、W=枝張、※植栽部分については良質土（150mm程度）を客土すること

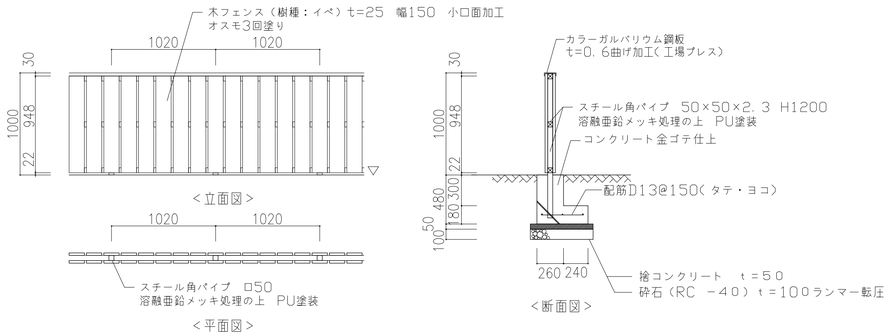
■外構工事リスト

記号	項　目	範　囲	仕　様
A	境界木フェンス工事	あ～う	詳細図参照
B	門扉・フェンス工事	図示	詳細図参照　計1ヶ所　ポストボックス：杉田エース　R905H同等以上
C	境界木フェンス工事	え～か、き～さ、し～せ	詳細図参照
D-1	門扉・フェンス工事	図示	詳細図参照　計4ヶ所
D-2	門扉・フェンス工事	図示	詳細図参照　計1ヶ所
E	タイル舗装工事		下地調整の上タイル舗装（名古屋モザイク　チブリア　同等）
F	コンクリート＋タイル舗装工事		前後のカスケード下地レベルに合わせて、コンクリート打設 下地調整の上タイル舗装　計2ヶ所 ※既存雨水配管との接続が確認された場合、工事監理者に直ちに報告すること。

記号	項　目	範　囲	仕　様
G	水栓柱設置工事	図示	三栄　ステンレス水栓柱（T805-76X1300）　詳細図参照　計2ヶ所 （水洗器具は設備工事とする）
H	屋外手足洗い設置工事	図示	詳細図参照　計1ヶ所
I	砂場設置工事		詳細図参照　計1ヶ所
J	自家発電設備基礎工事	図示	W2250×D1270×H450　D10@200縦横共
K	パッケージ型自動消火設備基礎工事	図示	W3700×D750×H300　D10@200縦横共
L	既存コンクリート擁壁高圧洗浄工事	あ～う	高圧洗浄
M	連結散水栓用バルブピット	図示	コンクリートU字側溝400　L=5100　ウッドデッキ下埋設
N	排水口工事	図示	既存配管に目皿付共栓100φ設置

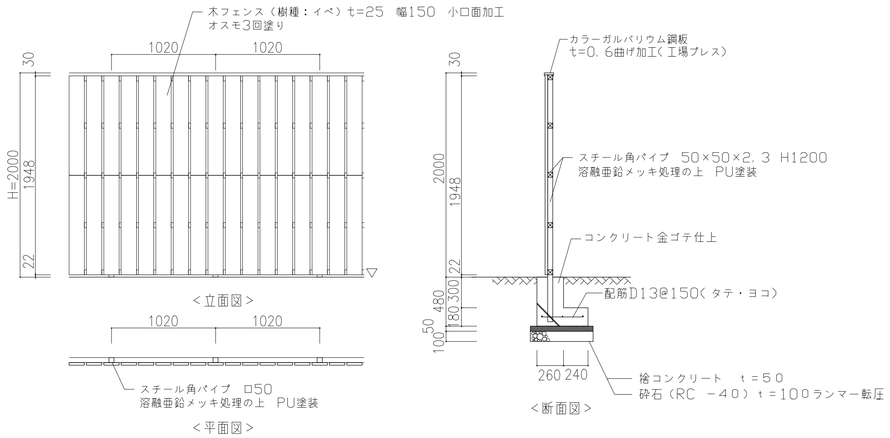
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第２７４６５０号　伊東　陽子	意匠設計：一級建築士 第３３４６１３号 藤原 響子	Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課						特記	工事名	図面名	Scale	No.
		平成30年3月	奥水	浅井	伊佐地	設計	中田	製図	中田	調査	窪田		（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	改修　地階外構平面図	A1: 1/100 A3: 1/200	A-50 Total 52

A: 境界木フェンス工事　1/30

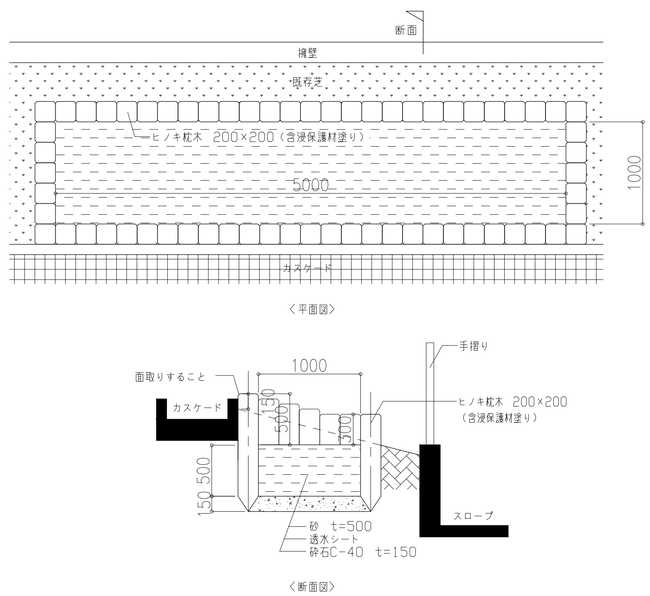


C: 境界木フェンス工事　1/30

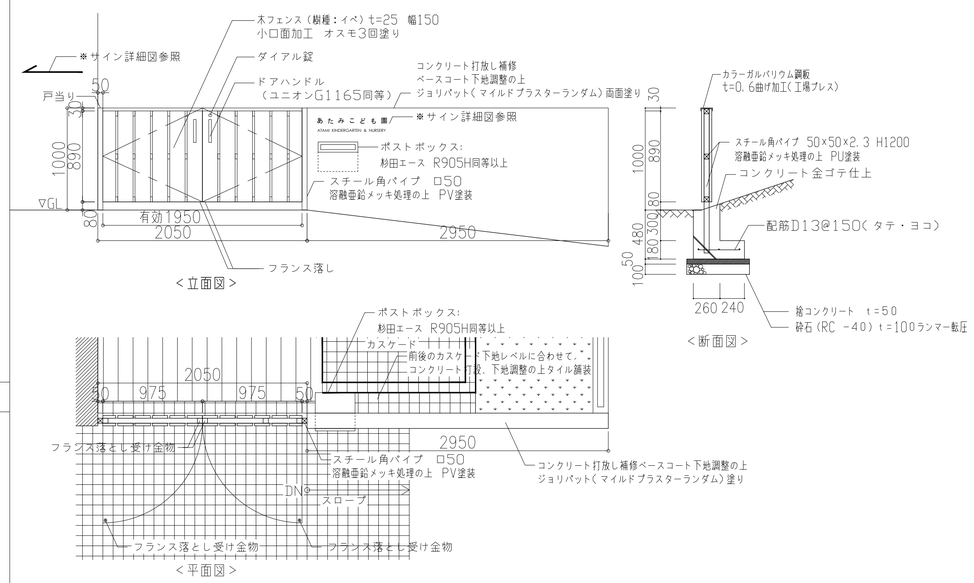
しーせ、そーちう：H=2950



I: 砂場設置工事　計1ヶ所　1/30

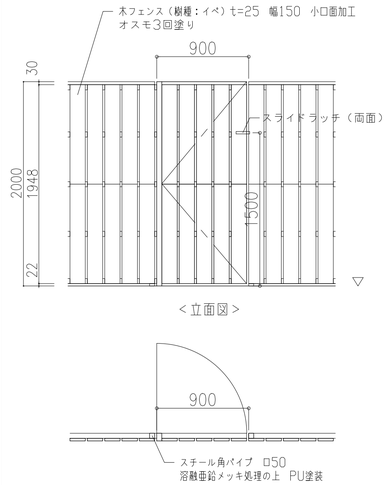


B: 門扉・フェンス工事　計1ヶ所　1/30

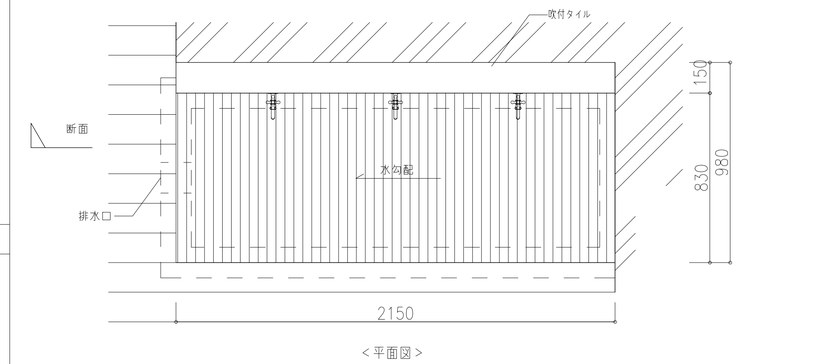


D: 門扉・フェンス工事　計5ヶ所　1/30

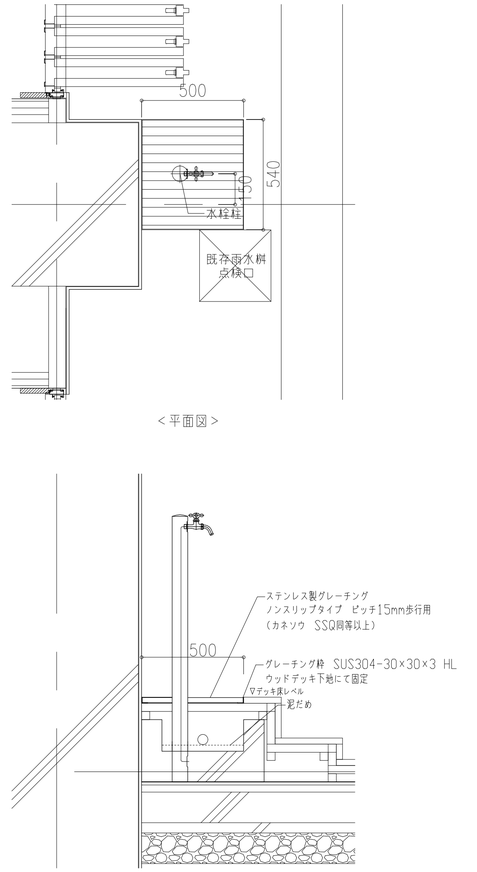
D-1：片開き戸、D-2：両開き戸（W=1200）とする



H: 屋外手足洗い設置工事　計1ヶ所　1/15

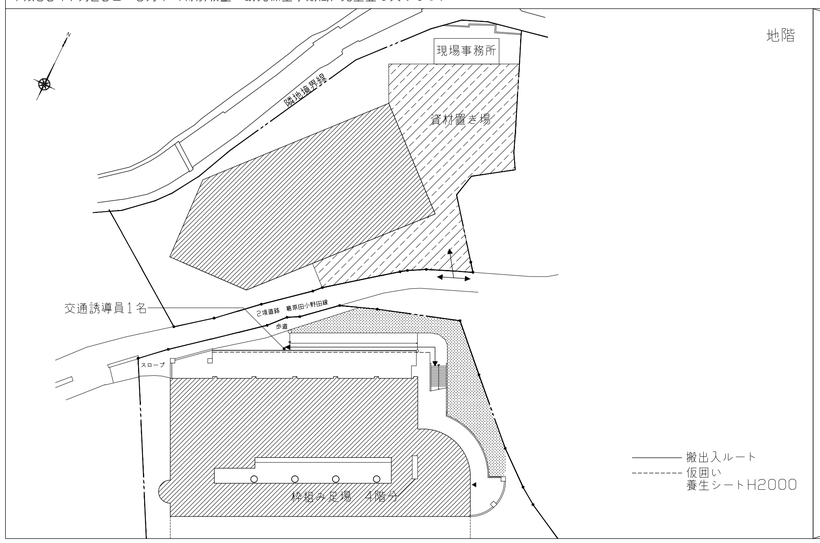


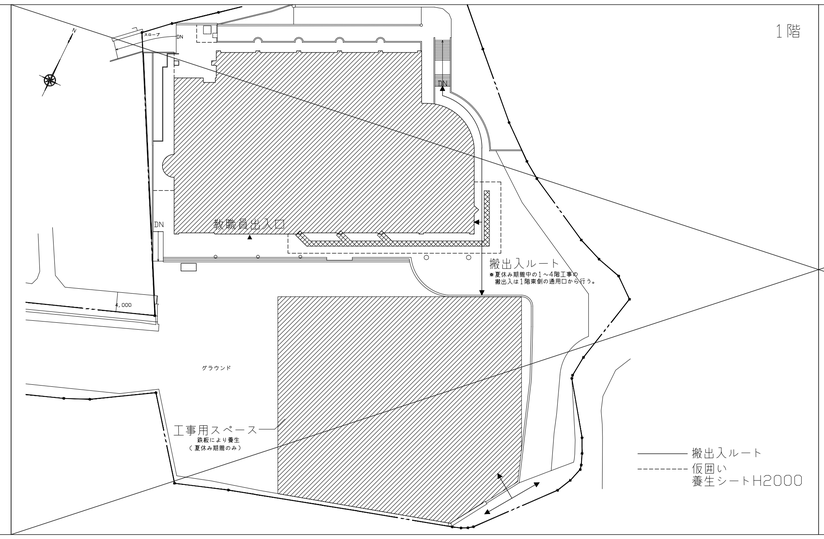
G: 水栓柱設置工事　計2ヶ所　1/30

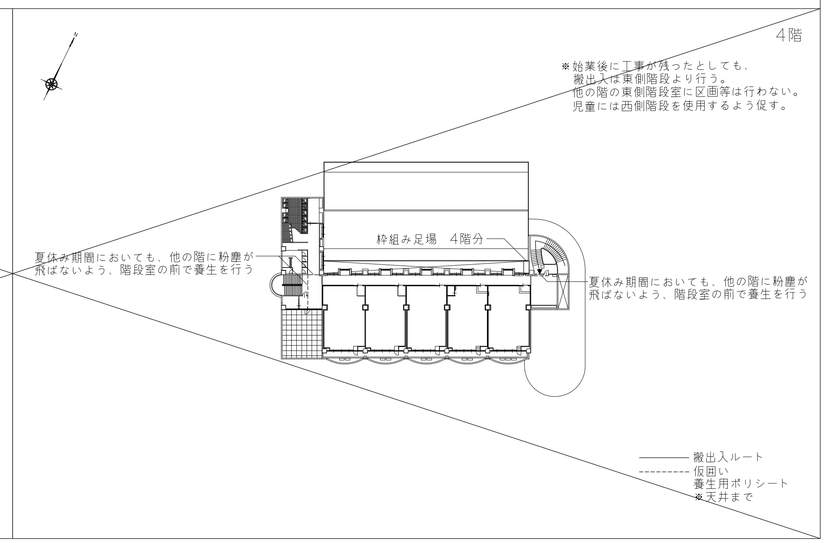


株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所　神奈川県知事 登録　第２０１７号 一級建築士　第274650号　伊東　陽子	意匠設計：一級建築士　第334613号　緋部　響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 / 製図 中田 / 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修　地階外構詳細図	Scale A1: 1/15 A3: 1/30	No. A-51 Total 52

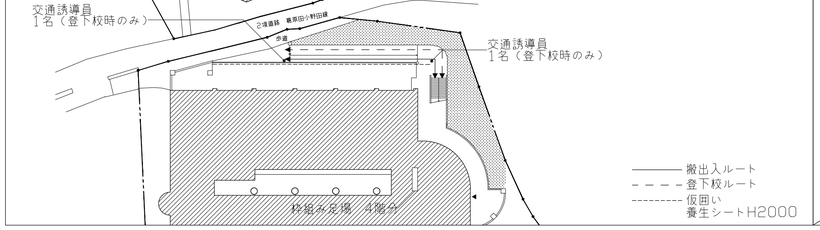
平成30年7月20日～8月末（特別教室・幼児棟工事期間／児童立ち入りなし）

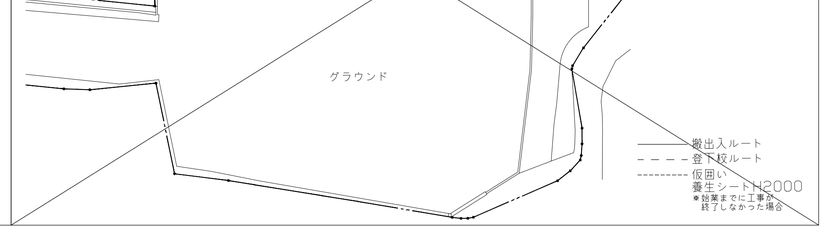




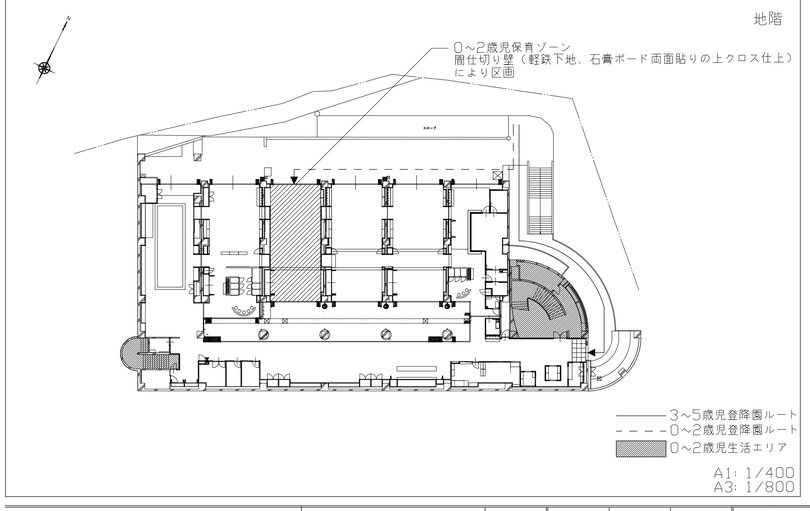


平成30年9月頭～12月末（幼児棟工事期間／小学校通常使用）

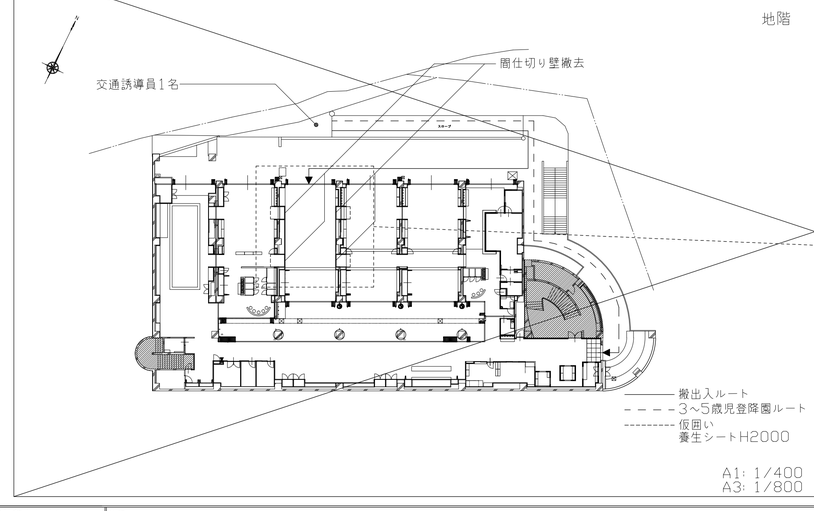


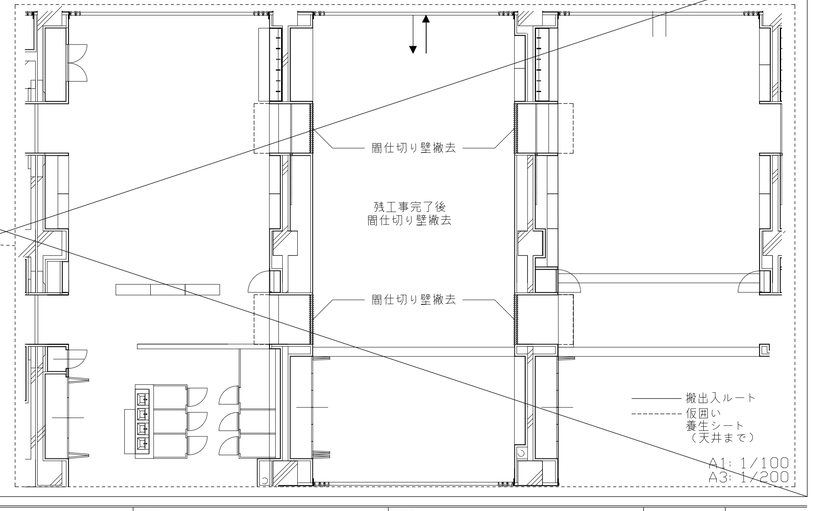


平成31年1月～（乳児棟工事期間／幼児棟利用開始）

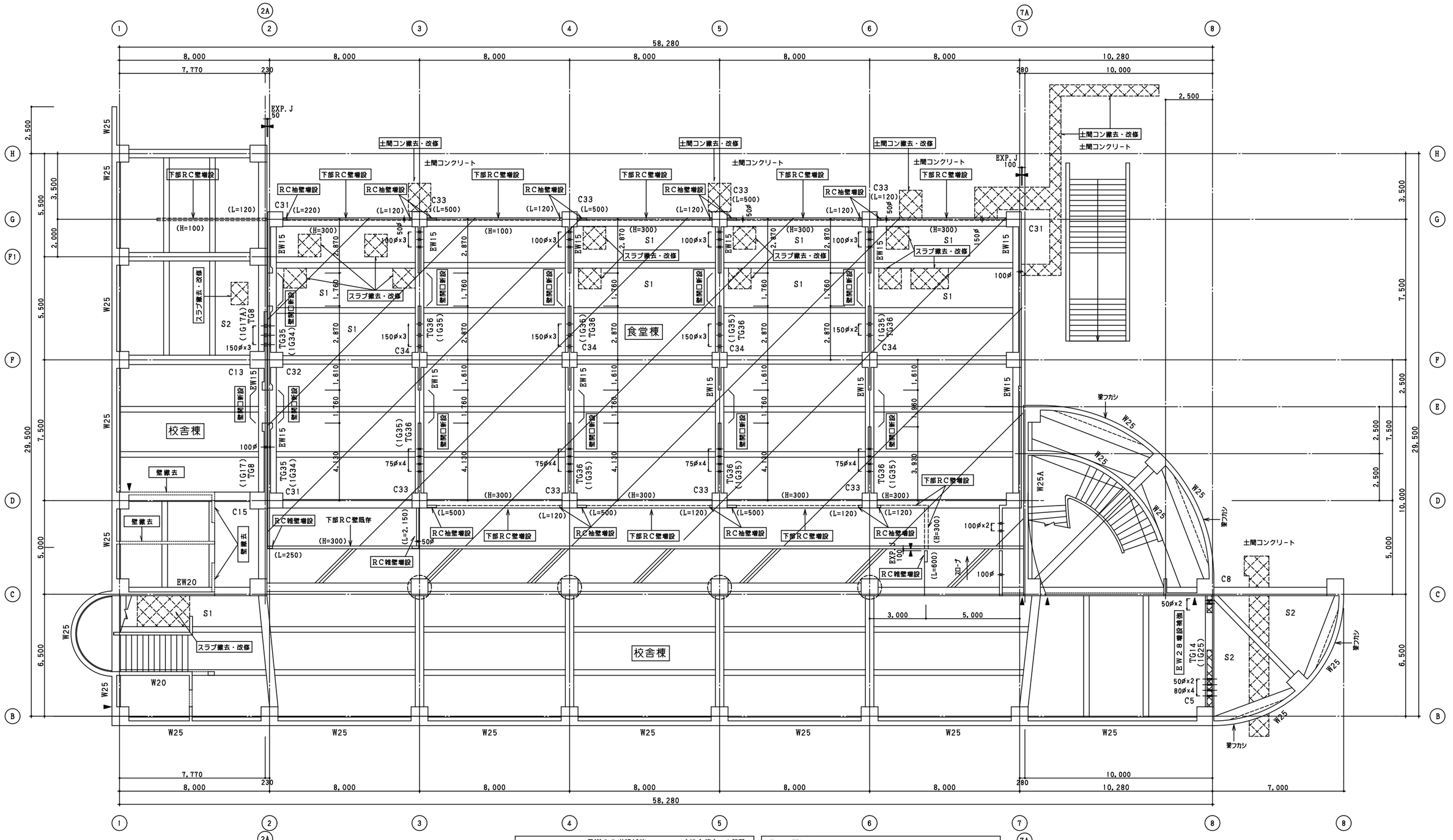


平成31年8月頃（幼児棟残工事期間）※乳児棟工事完了後





株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 神奈川県知事 登録 第２０１７号 一級建築士 第２７４６５０号 伊東 陽子	遅延設計：一級建築士 第３３４６１３号 鵜部 響子	Date 平成30年3月	Plan 奥水	Draw 浅井	Check 伊佐地	設計 中田	製図 中田	調査 窪田	熱海市観光建設部まちづくり課	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 改修　仮設計画図	Scale A1: 1/600 A3: 1/1200	No. A-52 Total 52



B１階梁伏図（改修位置図）　1:100

斜線部分は給食棟、無印部分は校舎棟を示す。

特記なき限り
1.＝＝＝　はコンクリート壁を示し W15とする。
2. 梁，柱符号は、改修壁周りのみ記入する。
（　）は、１FL梁符号を示す。
3. ▼ 既存スリットを示す。
注：開口寸法は意匠図により確認すること。

RC耐震壁　EW２８増設補強　（校舎棟）：１箇所
RC袖壁増設　サッシュ受けW１２増設　（食堂棟）：１８箇所
RC雑壁増設　サッシュ受けW１２増設　（校舎棟）：１箇所
（L＝　）は増設袖壁長を示す。　（食堂棟）：１箇所

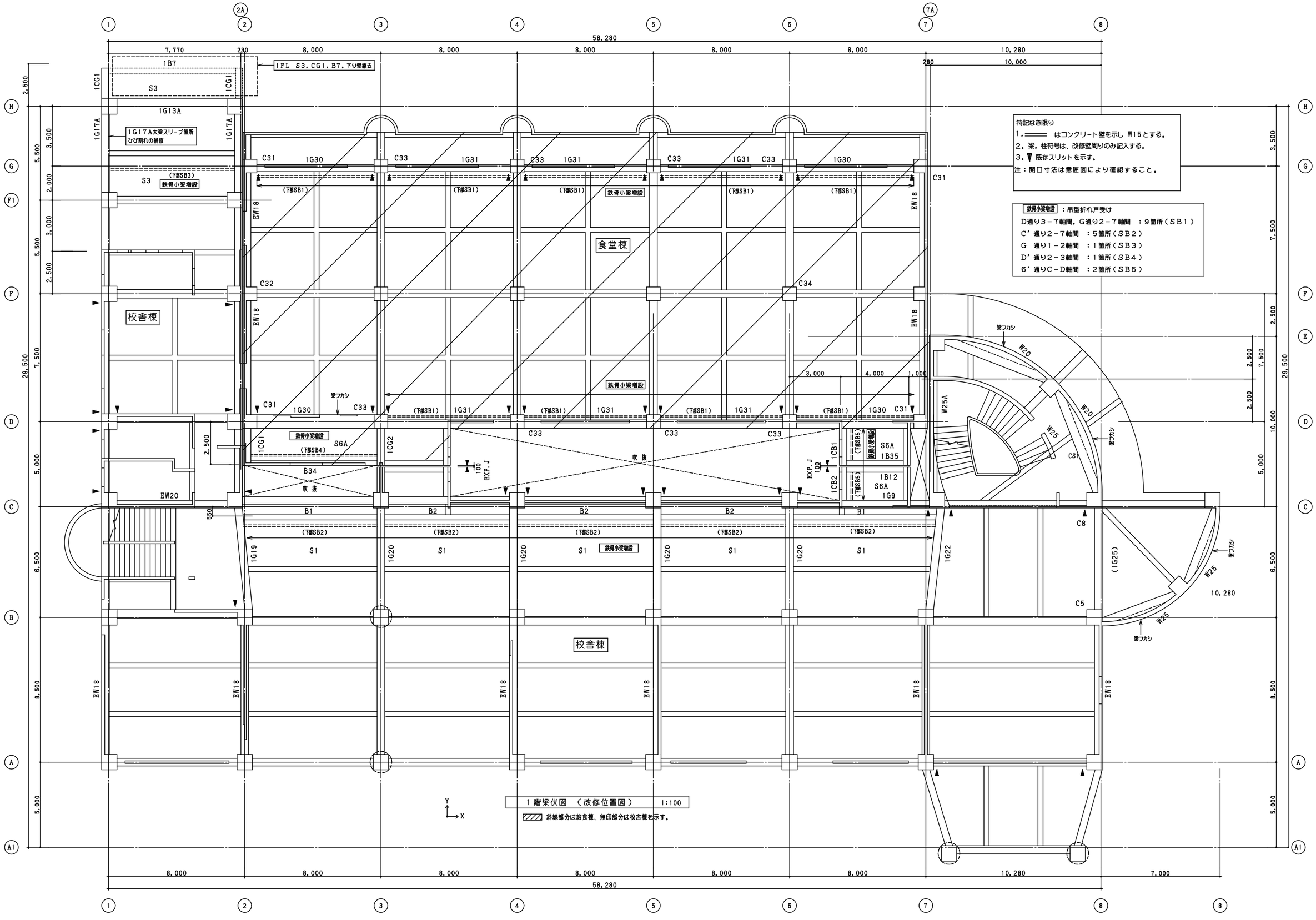
下部RC壁増設 W２５腰壁増設　（H＝　）は増設壁高さを示す。
D通り3－7軸間，G通り1－7軸間，6’通りC－D7軸間

既設壁EW１５　開口新設（開口補強筋新設）　（食堂棟）：１０箇所
（校舎棟）：１箇所

既設スラブ，土間コン　撤去・改修
（撤去範囲は設備図による。既存梁への配管・欠損は不可）
設備工事に伴い、既設コンクリートを撤去・改修する。
既設鉄筋は、重ね継手の定着長以上残すこと。

施工に関して
校舎棟：８通り増設壁を施工し、建物の偏心を是正してから
他の作業を行うこと。
食堂棟：耐震壁に新規開口を設けるので、撤去する際は
３通りD－F，４通りのF－G等ジグザグに行う。
（最大４枚同時に施工は可）
耐力が確保できてから他のEWの施工を行うこと。

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	構造設計：株式会社 矢川建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 信吾	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 篠田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その１）（幼児棟）	図面名 B１階梁伏図（改修位置図）	Scale A1，1:100 A3，1:200	No. S-01 Total 15



株式会社 日比野設計 一級建築士事務所 一級建築士	構造設計：株式会社 矢田建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 信吾	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 1階梁伏図（改修位置図）	Scale A1，1：100 A3，1：200	No. S-02 Total 15

一般仕様

1．補強位置

RC増設壁による補強

補強図（伏図・軸組図）による

2．使用鉄筋

D16以下　SD295A　（規格品）

D19以上　SD345　（規格品）

3．使用コンクリート設計基準強度（無収縮）

Fc＝21N／mm²以上（普通コンクリート）スランプ　18cm

仕様は、「公共建築改修工事標準仕様書」「公共建築工事標準仕様書」による。

注：既存RC壁：開口新設箇所は充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。

増設耐震壁壁：充填性を考慮して、粗骨材を20mmとする。

4．モルタル設計基準強度（無収縮）

Fm＝30N／mm²以上

5．あと施工アンカー（接着系アンカー）

本体　：メーカーにより素材強度が保証されたもの

接合筋：D16以下　SD295A　（規格品），D19以上　SD345　（規格品）

6．スパイラル筋

JIS　G　3532　普通鉄線

7．　注意事項

1）スパイラル筋や壁配筋等の材料の加工に先立ち躯体寸法を実測し、これらの補助筋等を、実状に合った寸法に加工する。

2）増設部材と既存コンクリート躯体との接触面については既存コンクリート躯体面を目荒しとし、コンクリート打設前に充分な水湿しを行う。

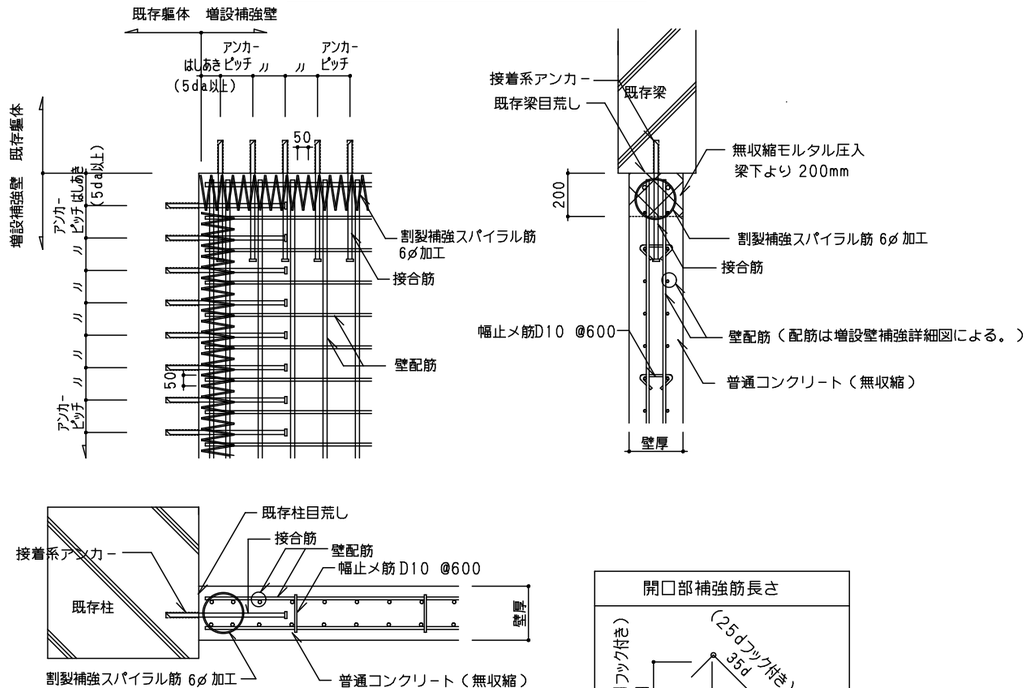
3）コンクリートの打設にはバイブレーターの使用、又はタタキにより締め固めを行い密実なコンクリートとなるように充分施工計画を立てる。

4）後打ちコンクリートは無収縮コンクリートとして計画施工する。

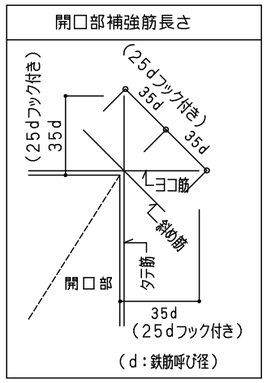
5）後打ちコンクリートは梁下20cmまで打設し壁頂部は無収縮モルタル圧入とする。

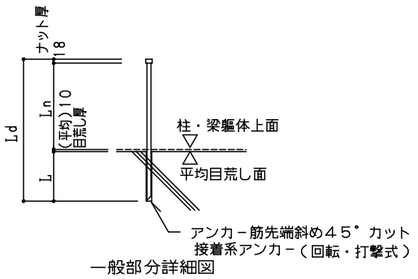
6）コンクリートの強度発現期間内は充分な湿潤状態で養生する。また養生期間中は振動等を与えないように注意する。

増設壁補強配筋納まり標準詳細



開口部補強筋長さ





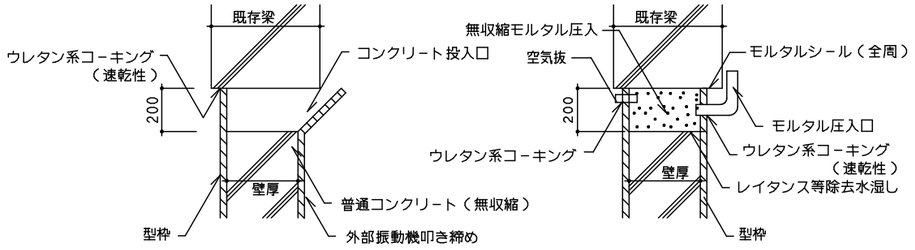
一般部分詳細図

注）1，定着長（Ln’）には目荒し分10mm
とナット厚18mmを加えている。

壁増設補強あと施工アンカー定着長詳細図

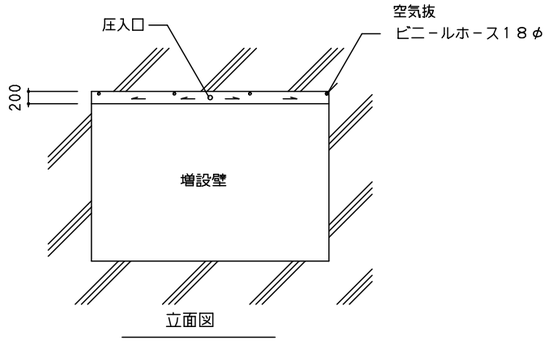
RC部材接着系アンカー L 及び接合筋Ln 表

アンカー径　da	Ln	L	位　置
D19（端部ナット付）	380mm（20da以上）	247mm以上（13da以上）	校舎棟：B1階 W28
D19（端部ナットなし）	760mm（40da以上）	323mm以上（17da以上）	校舎棟：B1階 W28（開口補強）
D19（端部ナットなし）	760mm（40da以上）	304mm以上（16da以上）	校舎棟：B1階 EW15（開口補強）
D19（端部ナットなし）	760mm（40da以上）	247mm以上（13da以上）	食堂棟：B1階 EW15（開口補強）



（1）普通コンクリート打設要領　　（2）無収縮モルタル圧入要領

［（1）による普通コンクリート施工後（2）により無収縮モルタルを圧入する。］



立面図

増設壁コンクリート打設及びモルタル圧入要領図

RC耐震壁増設　部材表

特記ナキ　幅止メ筋タテ，ヨコ筋 D10 @600　　注）1，後施工アンカーの本数は、下表による。

スパン（長さ）（L）（mm）	内法高さ	符　号	階	位　置	鉄　筋	開口補強筋			割裂補強スパイラル筋		接着系異形鉄筋アンカー							
						タテ筋	ヨコ筋	斜メ筋	鉄　筋	径	径	穿孔深さ L	全長 Ld	本数下向	本数横向	本数上向	端部ナット	補強箇所数
6,500	2,950	EW28（有開口）	B1階	8通り B~C軸間（校舎棟：掲示小屋）	タテ筋 D13 @150 ダブル ヨコ筋 D13 @150 ダブル	6-D19（L=2,665）	8-D22（L=3,540）	2-D13（L=780）	(6ø加工 @50)	150 x2列	D19	247	655	32	—	—	付	1
											D19	247	655	—	32	—	付	
											D19	247	655	—	—	35	付	
											D19	323	1,093	12	—	—	—	

既存RC耐震壁　開口新設　部材表

開口寸法（H×L）（mm）	内法高さ	符　号	階	位　置	既存壁配筋	開口補強筋			開口先端ヨコ補強筋	接着系異形鉄筋アンカー							
						タテ筋	ヨコ筋	斜メ筋	鉄　筋	径	穿孔深さ L	全長 Ld	本数下向	本数横向	本数上向	端部ナット	補強箇所数
2,000 x1,760	3,200	EW15（開口新設）	B1階	2通り F-G軸間（食堂棟：保育室）	タテ筋 D10 @200 チドリ ヨコ筋 D10 @200 チドリ	4-D13（L=3,120）	6-D13（L=2,910）	——	⌐-D10 @200	D19	247	1,017	4	—	—	—	1
2,000 x1,760	3,200	EW15（開口新設）	B1階	3-5通り D-G軸間 6通り F-G軸間（食堂棟：保育室）	タテ筋 D10 @200 チドリ ヨコ筋 D10 @200 チドリ	4-D13（L=2,715）	6-D13（L=2,910）	——	——	D19	247	1,017	4	—	—	—	7
2,000 x1,960	3,200	EW15（開口新設）	B1階	6通り D-P軸間（食堂棟：保育室）	タテ筋 D10 @200 チドリ ヨコ筋 D10 @200 チドリ	4-D13（L=2,715）	6-D13（L=2,910）	——	——	D19	247	1,017	4	—	—	—	1
2,000 x1,760	3,150	EW15（開口新設）	B1階	2A通り D-P軸間（校舎棟：遊戯室）	タテ筋 D10 @200 チドリ ヨコ筋 D10 @200 チドリ	6-D13（L=3,070）	12-D13（L=2,910）	——	□ -D10 @200	D19	304	1,074	6	—	—	—	1

接着系あと施行アンカー特記仕様書

1，仕様材種

アンカー筋　　ＪＩＳ　Ｇ３１１２（鉄筋コンクリート用棒鋼）に規定されている熱間圧延異形棒鋼
ＳＤ３４５，ＳＤ２９５Ａ，及びＳＳ４００の規格品とし、特記なき限り頭部はネジ切り加工とし、ナット取付のこと。

接着樹脂　　カプセル型接着樹脂材とし、公的機関による引張・せん断強度、耐アルカリ性の認定を受けたもので樹脂タレの少ないものとする。

2，アンカー長さ

Da：既存コンクリート躯体への穿孔径（各メーカーのアンカーの規格に合った適正なドリルビットの直径とする。）

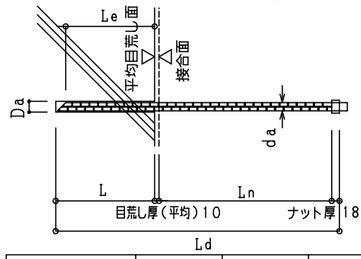
da：アンカー軸部の直径（アンカー筋の呼び名）

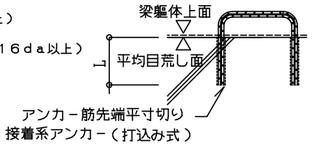
Ld：アンカー筋の全長

L ：コンクリート穿孔深さ（１３ｄａ以上又は１６，１７ｄａ以上）

Ln：増設壁への有効定着長さ（２０ｄａ以上又は４０ｄａ以上）

Le：アンカーの有効埋め込み長さ（１２ｄａ以上又は１５，１６ｄａ以上）





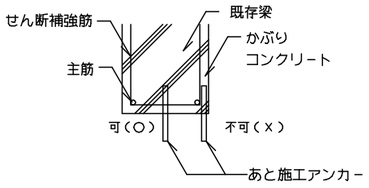
下部ＲＣ壁配筋詳細図

注）１，全長（Ｌｄ）には目荒し分１０ｍｍとナット厚１８ｍｍを加えている。

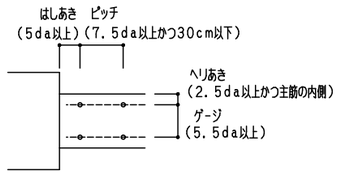
使用箇所	da	Ld	L	Ln	Le	備考
EW28増設壁	D19	655mm以上	247mm以上	380mm以上	228mm以上	（校舎棟）Le=12da（ナットあり）
EW28増設壁　開口補強	D19	1,093mm以上	323mm以上	760mm以上	304mm以上	（校舎棟）Le=16da（ナットなし）
既設EW15　開口補強	D19	1,074mm以上	304mm以上	760mm以上	304mm以上	（校舎棟）Le=15da（ナットなし）
既設EW15　開口補強	D19	1,017mm以上	247mm以上	760mm以上	228mm以上	（食堂棟）Le=12da（ナットなし）
RC袖壁増設	D10	―――	130mm以上	―――	120mm以上	Le=12da（ナットなし）アンカー長は、詳細図による。
RC袖壁増設　床上	D10	490mm以上	80mm以上	400mm以上	70mm以上	Le=7da（ナットなし）
下部RC壁増設	D10	―――	90mm以上	―――	90mm以上	L=9da（ナットなし）アンカー長は、詳細図による。
吊型折れ戸受け	M16	―――	220mm以上	―――	204mm以上	全ネジ（ダブルナット）アンカー長は、詳細図による。
吊型折れ戸受け	M12	―――	200mm以上	―――	188mm以上	
吊型折れ戸受け	M12	―――	150mm以上	―――	138mm以上	
吊型折れ戸受け	M12	―――	120mm以上	―――	108mm以上	

3，アンカー配列

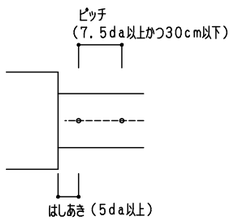
注）梁のスターラップ内にアンカー筋が打込まれているか確認するため、
少なくとも各補強壁１ヵ所は非破壊検査等の検査を行い主筋位置を確認すること。



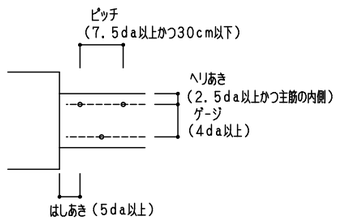
梁断面におけるあと施工アンカーの配置位置



（b）やむを得ずダブルに配置するとき



（a）望ましい配置（シングル配置）



（c）やむを得ず千鳥に配置するとき

4，アンカーとスタットボルトの配列

ds ： スタッドボルト軸部の直径

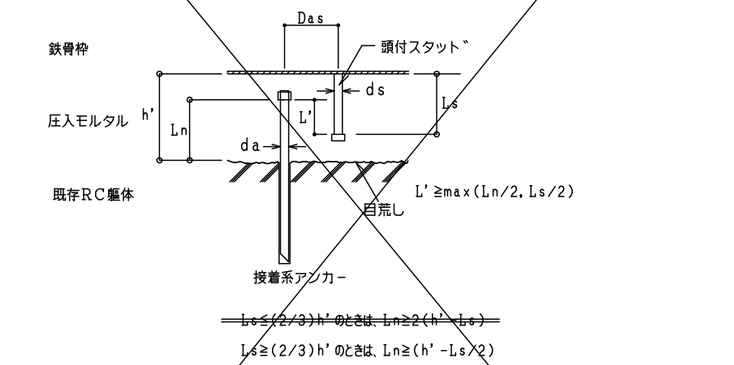
da ： アンカー軸部の直径（アンカー筋の呼び名）

h’ ： 圧入モルタルのせい

Ln ： アンカー筋の有効定着長さ

Ls ： スタッドボルトの定着長さ

L’ ： スタッドボルトとアンカー筋のラップ長さ



使用箇所	クリアランス	あと施工アンカー <必要 Ln> Ln	頭付きスタッド <必要 Ls> Ls ［呼び長さ］	ラップ長 L’
―――	200mm	D19又は19ø<114mm> 140mm	16ø ダブル <96mm> 140mm ［150mm］	80mm以上

5，試験

（１）目視検査及び打音確認

・打込完了後、各本毎にハンマー等を用いて打音の確認を行う。

・打込完了後、各本毎に目視検査を行い、補強壁ごと各辺毎に最少の掘削孔長、露出長、最大の打込角度、他を記録して監督員に提出する。

（２）引張試験

・各部材ごと１部材あたり１本以上の引張試験を行う。

引張試験用アンカーは監督員の指示により決定し、下記の張力を確認する。

アンカー径	確認張力	備考
D19	99 kN	（Le=12，15，16d）
D10	21 kN	（Le=12d）
D10	14 kN	（Le=7d，L=9d）
M16	36 kN	（L=220mm）
M12	20 kN	（L=150，200mm）
M12	17 kN	（L=120mm）

＊確認張力は、短期許容設計引張強度の値とする。

補強設計時コンクリート圧縮強度	
Ｂ１階	21　N/mm²

6，施工・その他

（１）作業に当るものは（社）日本建築あと施工アンカー協会の技術者認定資格登録者による。

（２）接着系アンカーの施工は必ずメーカーの仕様書に基づき行うものとするが、事前に施工計画書を提出し承諾を得ること。

（３）材料検査を行う前に材料の長さ、径、品質に付いて使用材料の確認を行い監督員の承諾を得ること。

（４）アンカー打込み高さの基準

・躯体の仕上げ材を除去し平均的な躯体レベルを測定した後、次表の位置を基準として根入れ長さを決定し、アンカー先端のナット部を揃える。

梁下端	凹凸の平均面による。スタッド ボルトとの重ね長さ（L’）が確保出来ない部分は、アンカー長の変更をすること。
梁上端	凹凸の平均面による。

（５）打直し

やむを得ず打ち直しを行う場合は、次の点に注意する。

・アンカー筋とスタッド ボルトとの間隔（Ｄａｓ）を厳守すること。

Das≦2L’

アンカー径	Das

・打直しにより削孔まわりのコンクリートにひび割れが生じた場合は、全て除去清掃グラウトモルタルを充填しやすい形状とする。

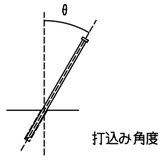
・梁下面では稚みにエアポケットが発生し、グラウトが充填されない場合が生じないように十分注意する。

（６）アンカー筋の傾き

・梁の長手方向の傾斜は原則として認めない。傾斜発生の場合は打直しとする。

・梁の直行方向の傾斜はアンカーナット部において側面のグラウトモルタル被り厚さが確保されることを限度とし、施工図にて管理角度を検討し監督員と協議すること。

＊θ　は３０°以下とし、θ＞３０°を越える場合は、打直しとする。

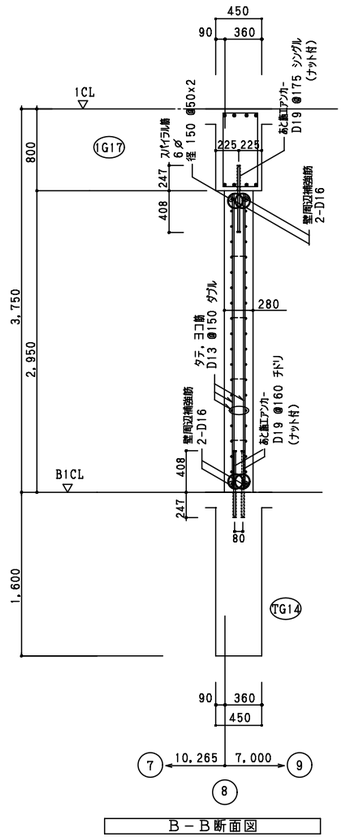


（７）埋込み部がジャンカの場合

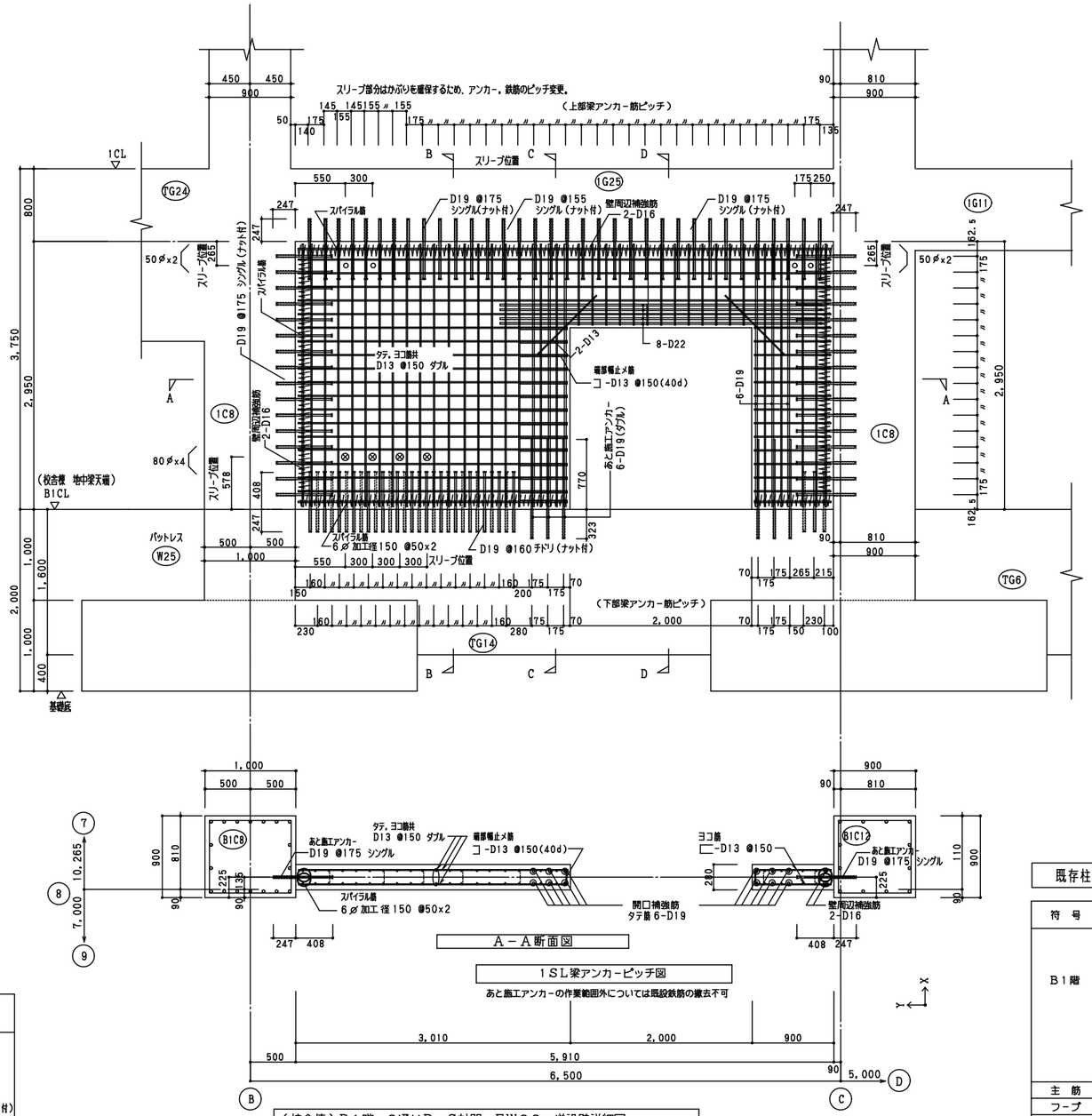
・該当部分をはつり、アンカーを打込む。

・はつり深さがアンカー埋込み長を超える部分のアンカー長さを変更のこと。

・はつり深さは健全な躯体までとし、監督員と協議のこと。



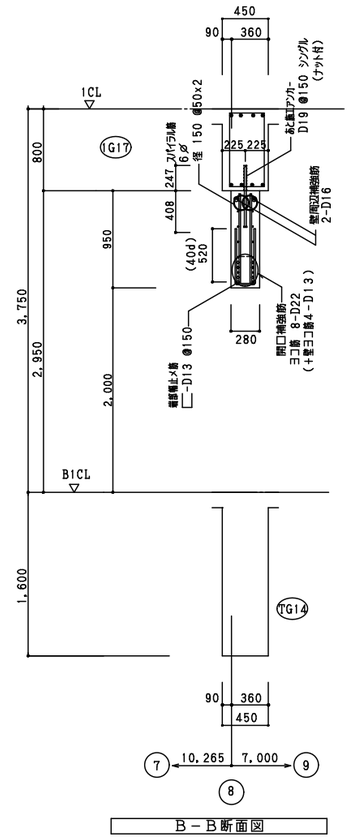
B－B断面図



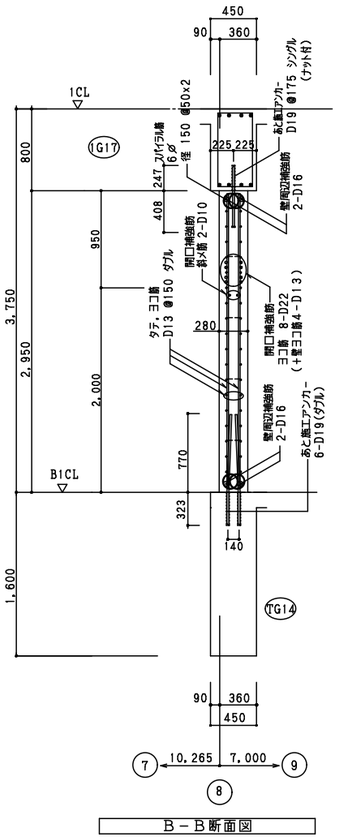
A－A断面図

1SL梁アンカーピッチ図

あと施工アンカーの作業範囲外については既設鉄筋の撤去不可



B－B断面図



B－B断面図

既存柱リスト　S=1:30

既存鉄筋
柱主筋　SD345
帯筋　SD295

符号	C8	C12
B1階	900 × 1,000	900 × 900
主筋	18 - D29	12 - D29
フープ	田-D16 @75	目-D16 @75
S:HOOP	十-D10 @400	十-D10 @400

既存大梁リスト　S=1:30

既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

符号	G25
位置	全断面
1階	800 × 450
上端筋	4 - D25
下端筋	4 - D25
スターラップ	口-D13 @150
腹筋	4 - D10

符号	TG14
位置	全断面
断面	1,600 × 450, 650
上端筋	4 -D25
下端筋	4 -D25
スターラップ	口-D13 @200
腹筋	8 - D13

共通事項

特記なき限り

増設壁配筋　タテ，ヨコ筋共　D13 @150 ダブル
壁幅止メ筋　タテ，ヨコ筋共　D10 @600

スパイラル筋　6φ加工　径150 @50x2

あと施工アンカー 柱側面，2階梁下面 D19 @175 シングル（ナット付）
地中梁上面 D19 @160 チドリ（ナット付）

（接着系アンカー）
あと施工アンカー筋定着長　Ln'=408 注）1
Ln'=770（開口補強）

あと施工アンカー穿孔深さ　L=247（13d）
L=323（17d）（開口補強）

・ピッチ：　7.5d以上
・ゲージ：　5.5d以上（ダブル）　4.0d以上（チドリ）
・はしあき：　5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー筋径）

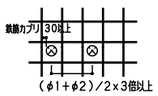
使用材料
無収縮モルタル　30 N/mm²
既存コンクリート　Fc=24.0 N/mm²
新設コンクリート　Fc=24.0 N/mm²
（充填性を考慮して、粗骨材を20mmとする。）
新設鉄筋　SD295A(D16以下)
SD345（D19以上）

注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

スリーブ部分アンカー，配筋について

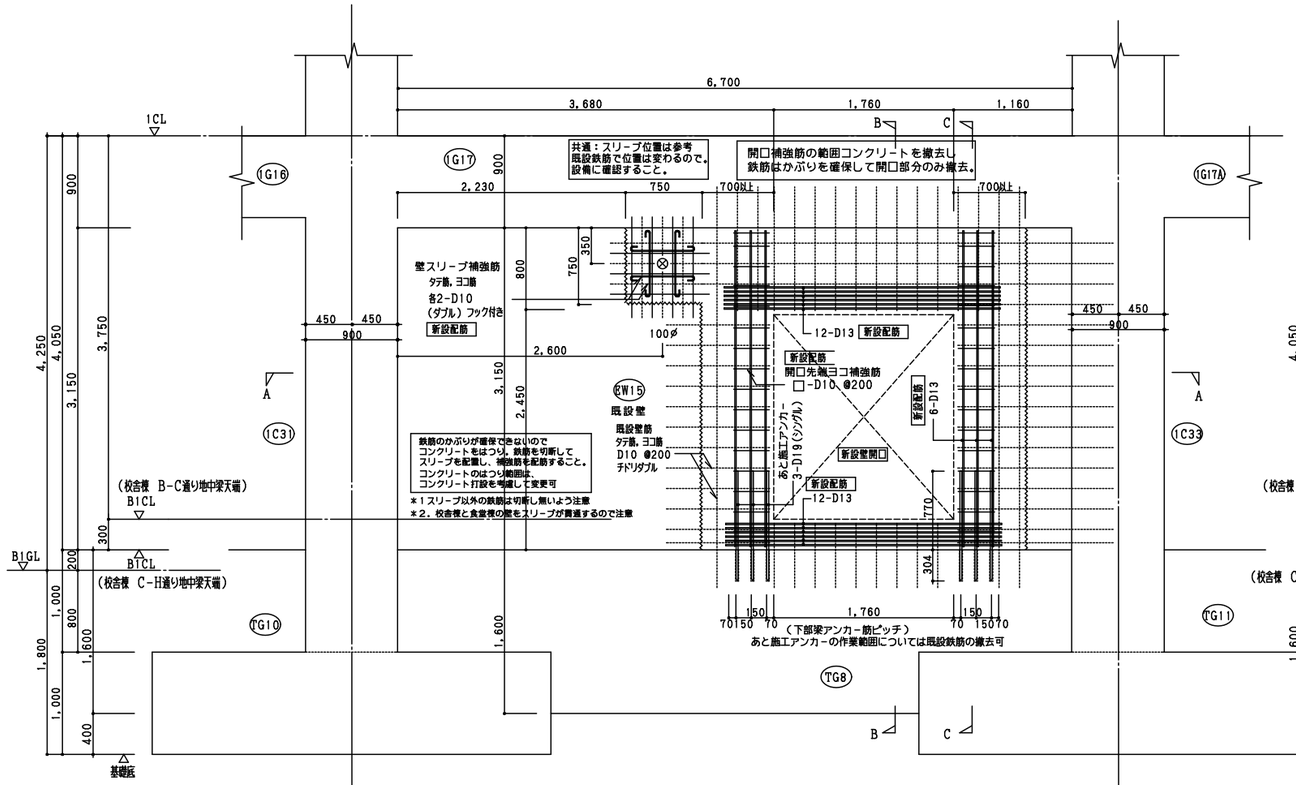
スリーブ部分は、アンカー，鉄筋を寄せてかぶりを確保すること。
耐震壁かぶり30mm
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）
スリーブ位置は、設備に確認すること。

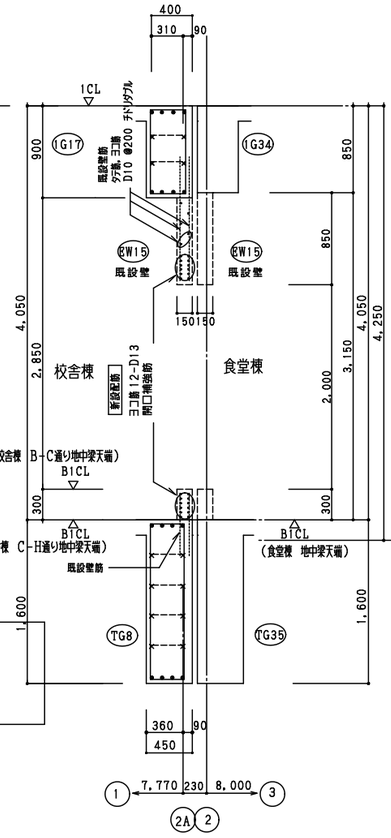
＊貫通孔が2個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の3倍以上とする



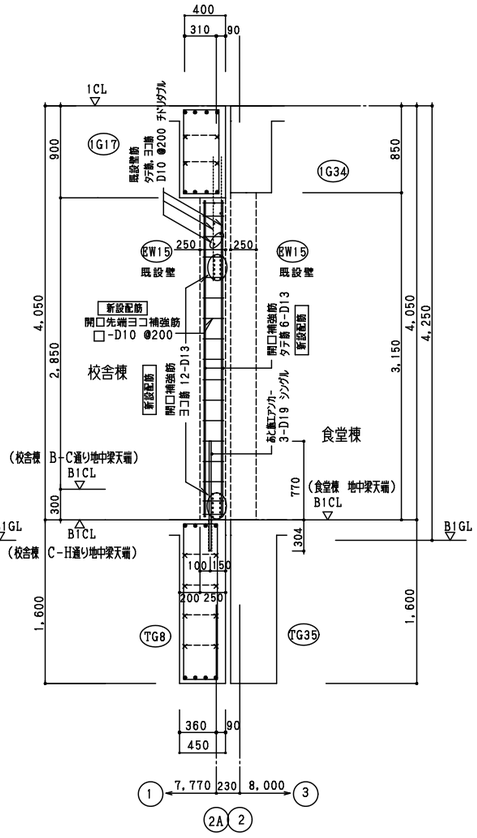
（校舎棟）B1階　8通りB～C軸間　EW28　増設壁詳細図　縮尺 1:30

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	伴者川県知事登録 第2017号 第274650号 伊東 剛子	構造設計：株式会社 矢川原構造設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 徹馬	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊在地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 （校舎棟）EW28　増設補強壁詳細図 （B1階　8通りB～C軸間）	Scale A1，1:30 A3，1:60	No. S-05 Total 15

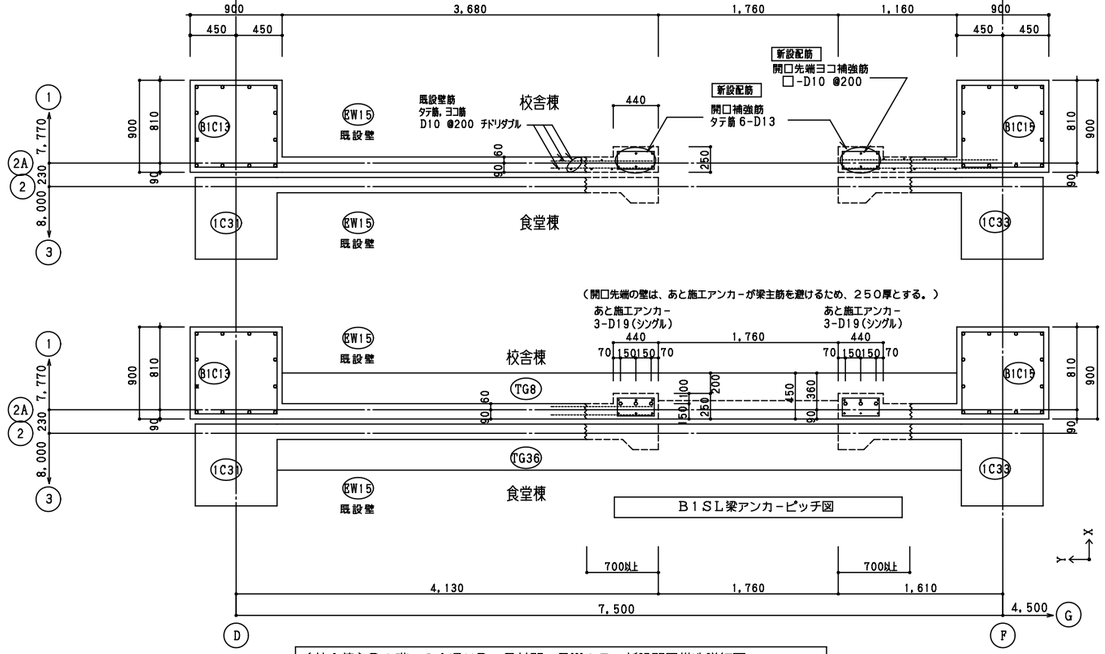




B－B断面図



C－C断面図

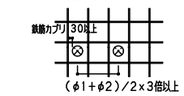


（校舎棟）B1階 2A通りD～F軸間 EW15 新設開口構造詳細図 縮尺 1:30

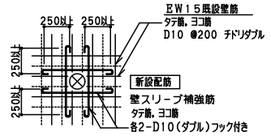
（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、
スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないよう
に配置すること。
耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。
設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径
の平均値の３倍以上とする



やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強
補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること



共通事項

特記なき限り

新設開口補強筋	タテ筋	6-D13
	ヨコ筋	12-D13
開口先端ヨコ補強筋		□-D10 @200
あと施工 アンカー		3-D19x2ヶ所
あと施工 アンカー筋定着長		Ln=770 注）1
あと施工 アンカー穿孔深さ		L=304（16d）

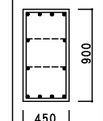
・ピッチ ： 7.5d以上
・はしあき： 5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー鉄筋径）

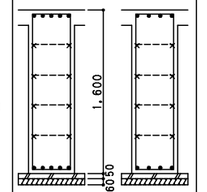
使用材料	無収縮モルタル	30 N/mm²
	既存コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	新設コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）		
	新設鉄筋	SD295A（D16以下）
		SD345（D19以上）

注）1，定着長（Ln’）には目荒し分10mm

既存大梁リスト S=1:30

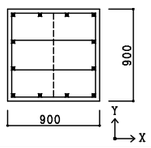
既存鉄筋
梁主筋 SD30
梁ST筋 SR24

符号	G17
位置	全断面
1階	
上端筋	4 - D25
下端筋	4 - D25
スターラップ	□-D13 @150
腹筋	4 - D10

符号	TG8	
位置	端部	中央
断面		
上端筋	5 -D25	4 -D25
下端筋	5 -D25	4 -D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	8 - D13	

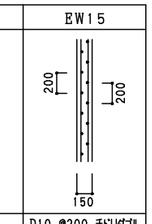
既存柱リスト S=1:30

既存鉄筋
柱主筋 SD345
帯筋 SD295

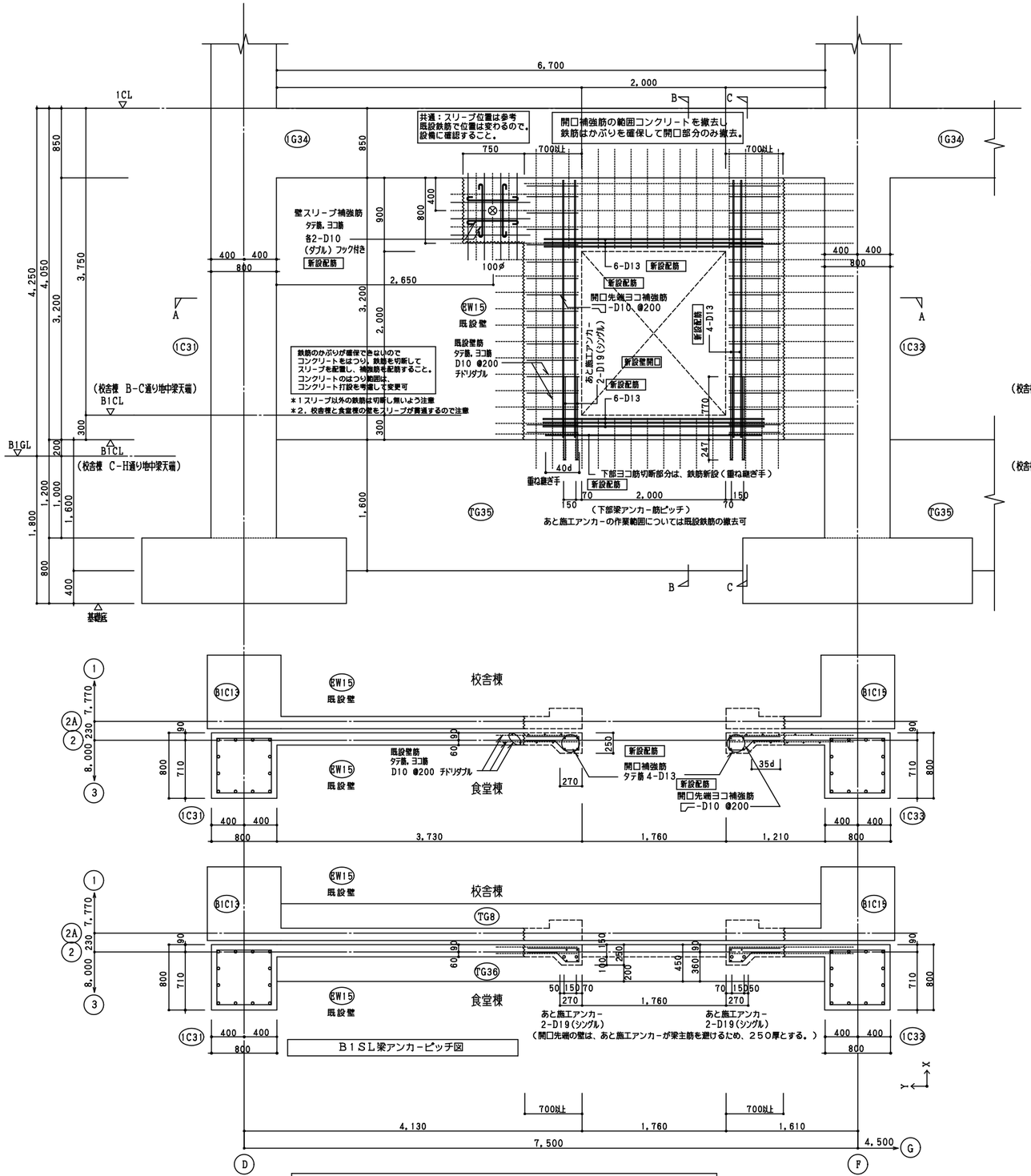
符号	C13，C15
B1階	
主筋	12 - D29
フープ	目-D16 @75
S:HOOP	十-D10 @400

既存壁リスト

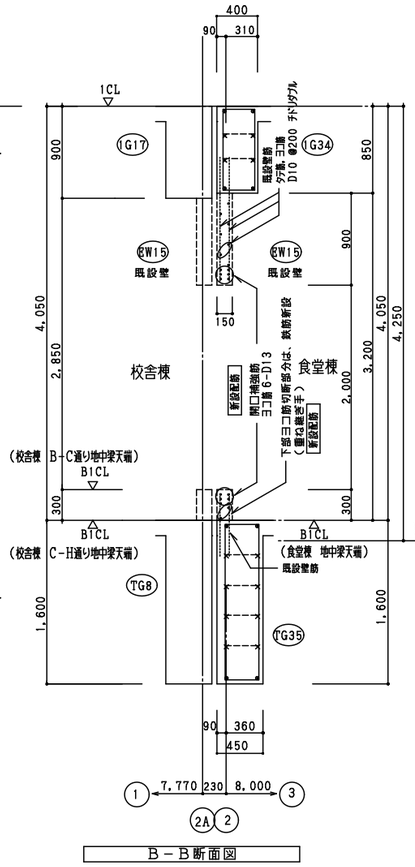
既存鉄筋
壁主筋 SD295

符号	EW15	
断面		
タテ筋	D10 @200 チドリダブル	
ヨコ筋	D10 @200 チドリダブル	
開口部補強筋	タテ筋	4- D16
	ヨコ筋	4- D16
	斜め筋	2- D16

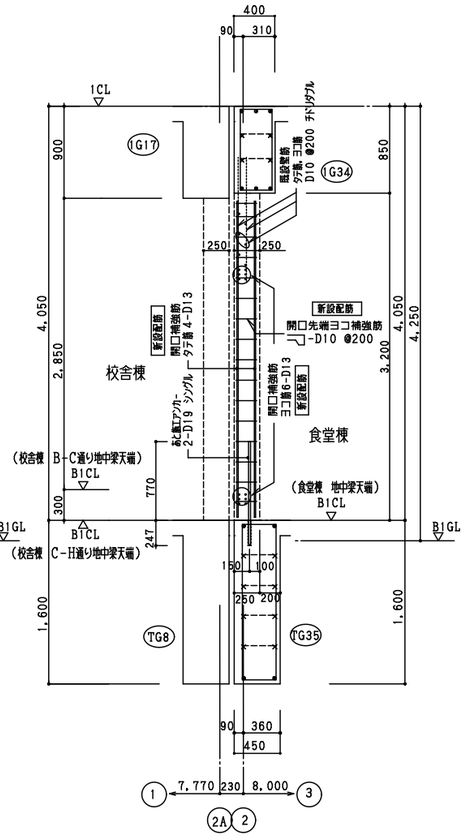
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	神奈川県知事登録 第２０１７号 第274650号 伊東剛子	構造設計：株式会社 矢田建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 優馬	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊佐地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 （校舎棟）EW15 新設開口構造詳細図 （B1階 2A通りD～F軸間）	Scale A1，1:30 A3，1:60	No. S-06 Total 15



（食堂棟）B1階 2通りD～F軸間 EW15 新設開口構造詳細図 縮尺 1:30



Ｂ－Ｂ断面図



Ｃ－Ｃ断面図

（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、
スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないよう
に配置すること。
耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

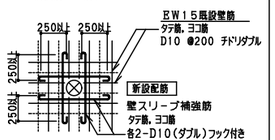
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。
設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径
の平均値の３倍以上とする

鉄筋カブリ30以上

（φ1+φ2）/2x3倍以上

やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強
補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること



共通事項

特記なき限り

新設開口補強筋	タテ筋	4-D13
	ヨコ筋	6-D13
開口先端ヨコ補強筋		-D10 @200
あと施工 アンカー		2-D19x2ヶ所
あと施工 アンカー筋定着長		Ln=770 注）1
あと施工 アンカー 穿孔深さ		L=247（13d）

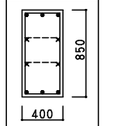
・ピッチ ： 7.5d以上
・はしあき： 5d以上
・ヘリあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー鉄筋径）

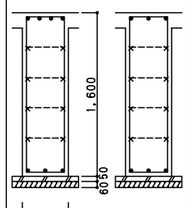
使用材料	無収縮モルタル	30 N/mm²
	既存コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	新設コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）	
	新設鉄筋	SD295A（D16以下）
		SD345 （D19以上）

注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

既存大梁リスト S=1:30

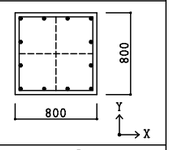
既存鉄筋
梁主筋 SD30
梁ST筋 SR24

符号	G34，35
位置	全断面
1階	
上端筋	3 - D25
下端筋	3 - D25
スターラップ	□-D13 @150
腹筋	4 - D13

符号	TG35，TG36	
位置	端部	中央
断面		
上端筋	4 -D25	3 -D25
下端筋	3 -D25	3 -D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	8 - D13	

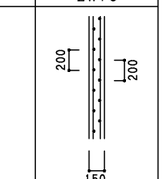
既存柱リスト S=1:30

既存鉄筋
柱主筋 SD345
帯筋 SD295

符号	C31～34
1階	
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400

既存壁リスト

既存鉄筋
壁主筋 SD295

符号	EW15	
断面		
タテ筋	D10 @200 チドリダブル	
ヨコ筋	D10 @200 チドリダブル	
開口部補強筋	タテ筋	4- D16
	ヨコ筋	4- D16
	斜め筋	2- D16

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第２０１７号
一 級 建 築 士 第274650号 伊 室 陽 子
構造設計：株式会社 矢川建築設計事務所
一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号
一級建築士 第276627号 海老沼 修馬
構造設計一級建築士 第6835号

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	興水	海老沼	伊佐地

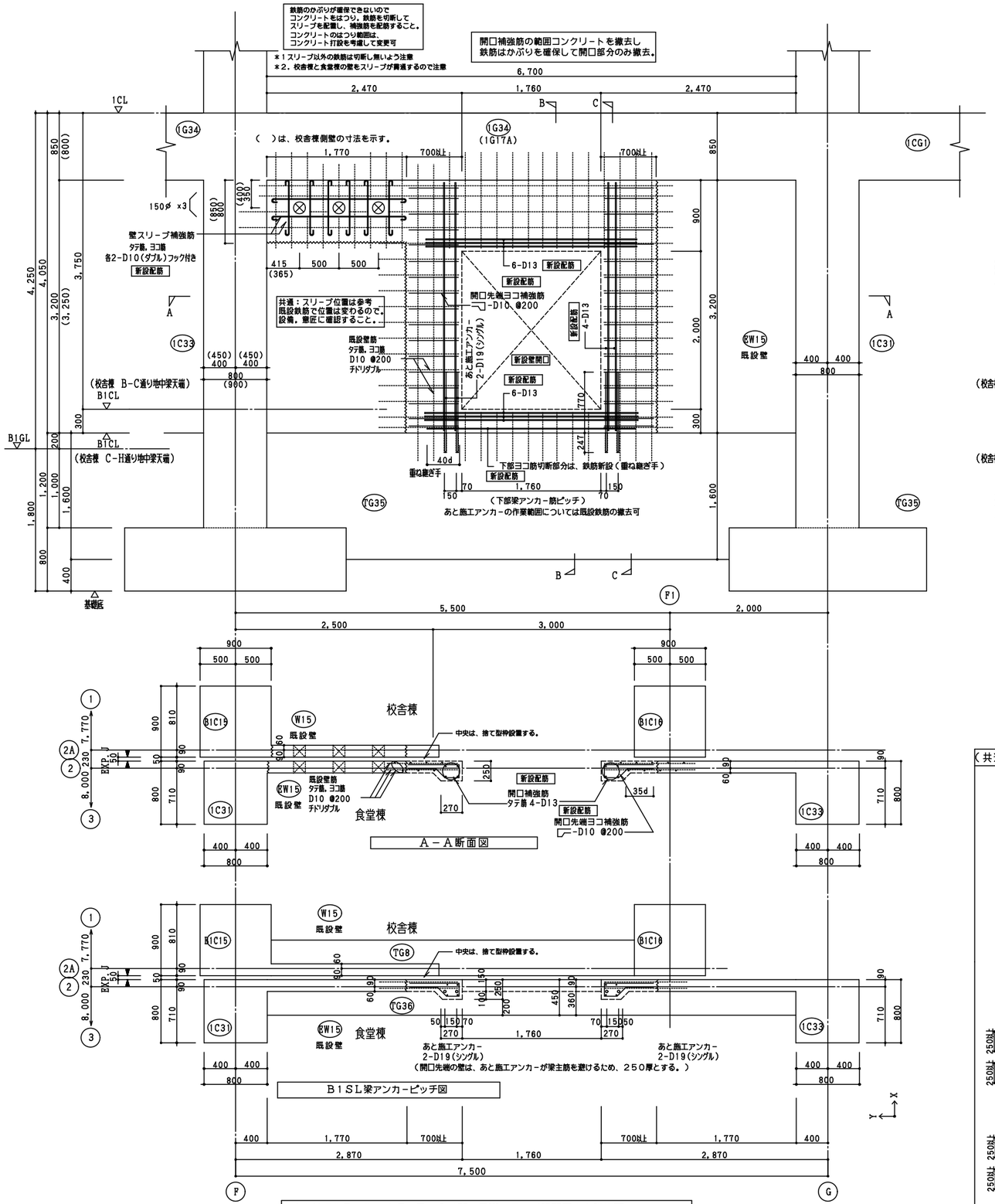
熱海市観光建設部まちづくり課
設計 中田 製図 中田 調査 窪田

特記

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

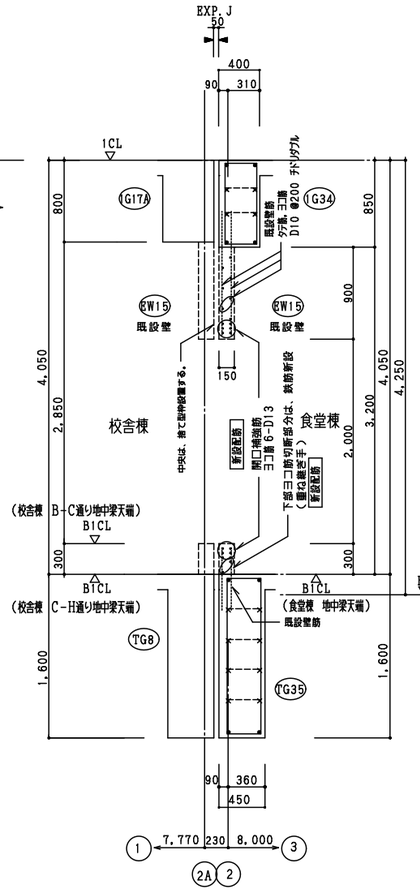
図面名：（食堂棟）EW15 新設開口構造詳細図（1）
（B1階 2通りD～G軸間）

Scale	No.
A1，1:30	S-07
A3，1:60	Total 15

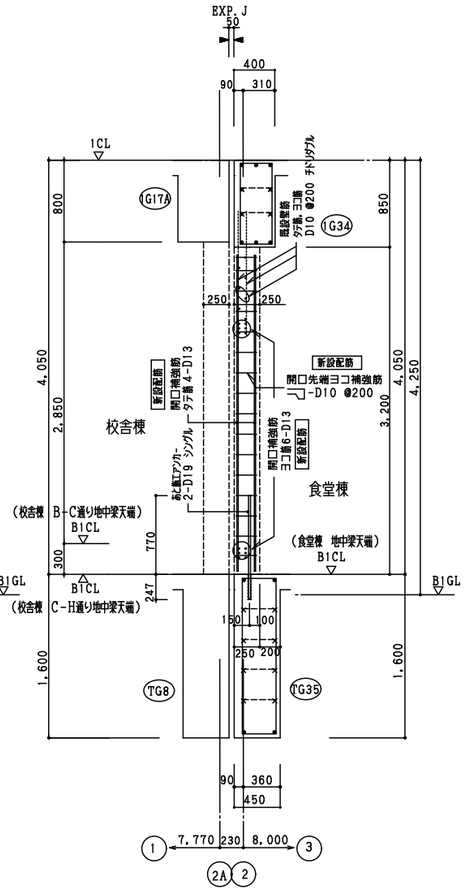


（食堂棟）B1階　2通りF～G軸間　EW15　新設開口構造詳細図　縮尺 1:30

校舎棟側　２A通り　壁スリーブは上記にならう。



Ｂ－Ｂ断面図



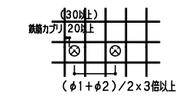
Ｃ－Ｃ断面図

（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、
スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないよう
に配置すること。
雑壁２０，耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

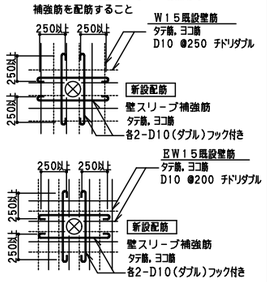
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。
設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径
の平均値の３倍以上とする



やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強

補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること



共通事項

特記なき限り

新設開口補強筋	タテ筋	4-D13
	ヨコ筋	6-D13
開口先端ヨコ補強筋		-D10 @200
あと施工 アンカー		2-D19x2ヶ所
あと施工 アンカー	筋定着長	Ln=770 注）1
あと施工 アンカー	穿孔深さ	L=247（13d）

・ピッチ　：　7.5d以上
・はしあき：　5d以上
・ヘリあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー鉄筋径）

使用材料	無収縮モルタル	30 N/mm²
	既存コンクリート	Fc=24.0 N/mm²
	新設コンクリート	Fc=24.0 N/mm²

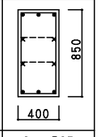
（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）

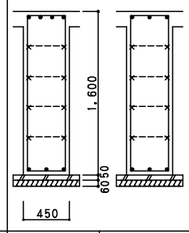
新設鉄筋	SD295A(D16以下)
	SD345（D19以上）

注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

既存大梁リスト　S=1:30

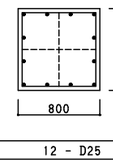
既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

符号	G34，35
位置	全断面
断面	1階 
上端筋	3 - D25
下端筋	3 - D25
スターラップ	□-D13 @150
腹筋	4 - D13

符号	TG35，TG36	
位置	端部	中央
断面		
上端筋	4 -D25	3 -D25
下端筋	3 -D25	3 -D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	8 - D13	

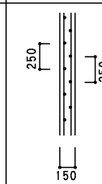
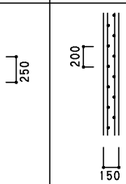
既存柱リスト　S=1:30

既存鉄筋
柱主筋　SD345
帯筋　SD295

符号	C31～34
1階	
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400

既存壁リスト

既存鉄筋
壁主筋　SD295

符号	W15	EW15
断面		
タテ筋	D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル
ヨコ筋	D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル
開口部補強筋 タテ筋	2- D13	4- D16
開口部補強筋 ヨコ筋	2- D13	4- D16
開口部補強筋 斜め筋	1- D10	2- D16

株式会社 日比野設計
HIBINO SEKKEI
一級建築士事務所　神奈川県知事登録　第２０１７号
一級建築士　第274650号　伊東 麗子
構造設計：株式会社 矢田建築設計事務所
一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号
一級建築士 第276627号
構造設計一級建築士 第6835号　海老原 修祐

Date	Plan	Draw	Check
平成30年3月	與木	海老沼	伊佐地

熱海市観光建設部まちづくり課
設計 中田　製図 中田　調査 窪田

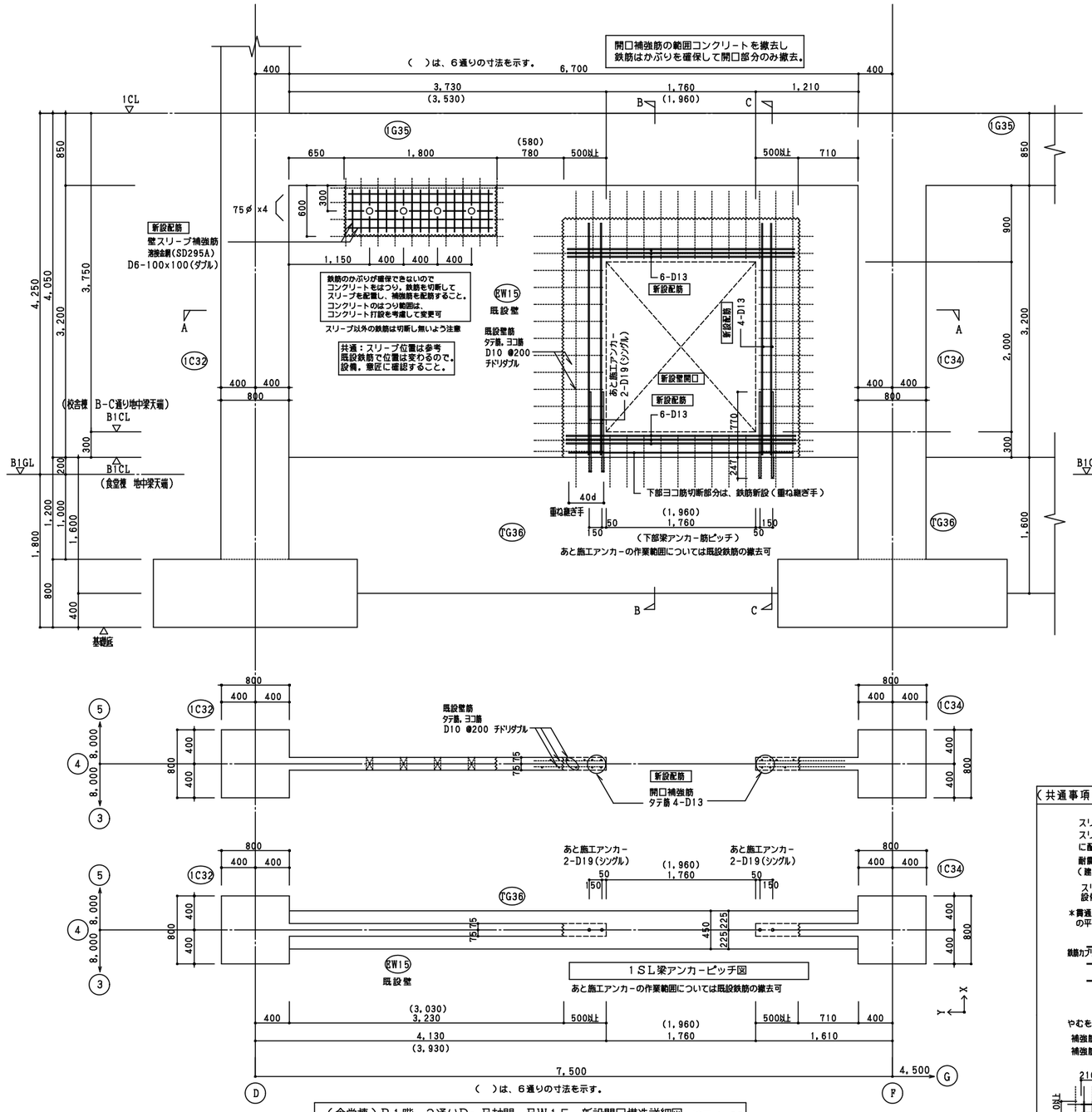
特記

工事名
（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名
（食堂棟）EW15 新設開口構造詳細図（２）
（B1階 2通りF～G軸間）

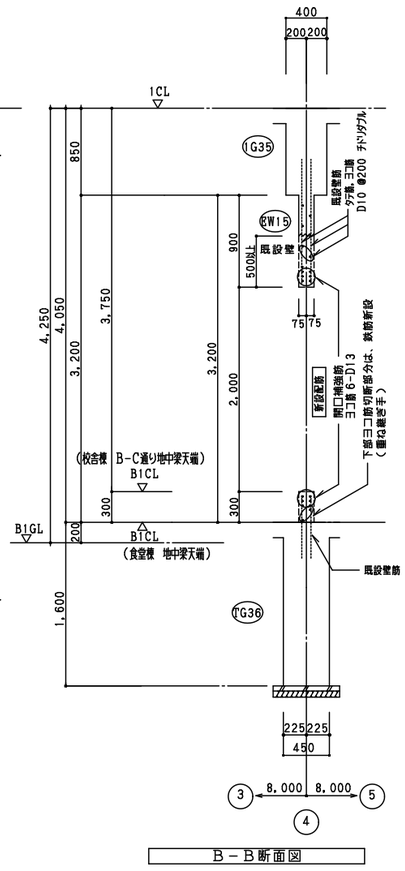
Scale
A1，1:30
A3，1:60

No. S-08
Total 15

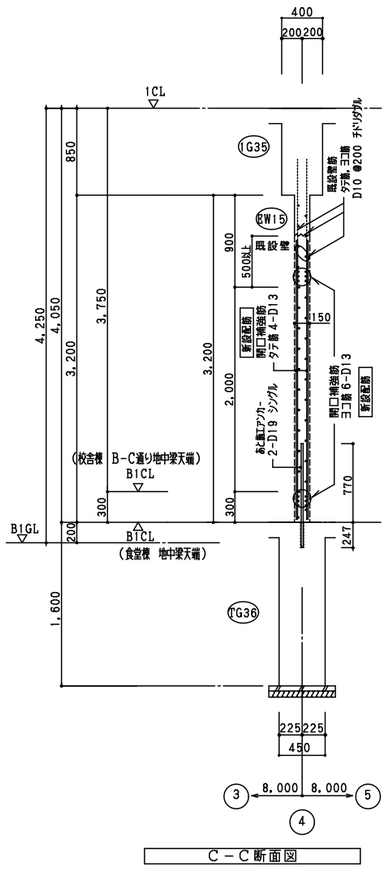


（食堂棟）B1階　3通りD~F軸間　EW15　新設開口構造詳細図　縮尺 1:30

（食堂棟　B1階　3~6通りD~F軸間　EW15　新設開口は上記にならう。）



Ｂ－Ｂ断面図



Ｃ－Ｃ断面図

既存大梁リスト　S=1:30

既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

符号	G34，35
位置	全断面
1階	850 × 400
上端筋	3 - D25
下端筋	3 - D25
スターラップ	□-D13 @150
腹筋	4 - D13

符号	TG35，TG36	
位置	端部	中央
断面	1,600 × 450	1,600 × 450
上端筋	4 -D25	3 -D25
下端筋	3 -D25	3 -D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	8 - D13	

既存柱リスト　S=1:30

既存鉄筋
柱主筋　SD345
帯筋　SD295

符号	C31~34
1階	800 × 800
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400

既存壁リスト

既存鉄筋
壁主筋　SD295

符号	EW15	
断面	200 / 200 / 150	
タテ筋	D10 @200 チドリダブル	
ヨコ筋	D10 @200 チドリダブル	
開口部補強筋	タテ筋	4- D16
	ヨコ筋	4- D16
	斜め筋	2- D16

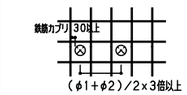
（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないように配置すること。

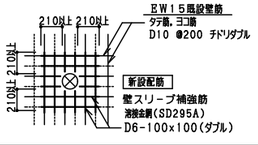
耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の３倍以上とする



やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強
補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること



共通事項

特記なき限り

新設開口補強筋　タテ筋　4-D13
ヨコ筋　6-D13

あと施工 アンカー　2-D19x2ヶ所

あと施工 アンカー 筋定着長　Ln=770 注）1

あと施工 アンカー 穿孔深さ　L=247（13d）

・ピッチ　：　7.5d以上
・はしあき：　5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー筋径）

使用材料
無収縮モルタル　30 N/mm²
既存コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
新設コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）
新設鉄筋　SD295A(D16以下)
SD345（D19以上）

注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

株式会社 日比野設計
一級建築士事務所 一級建築士
神奈川県知事登録 第２０１７号
第274650号 伊宮 麗子
構造設計：株式会社 矢川建築設計事務所
一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号
一級建築士 第276627号
構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 康弘

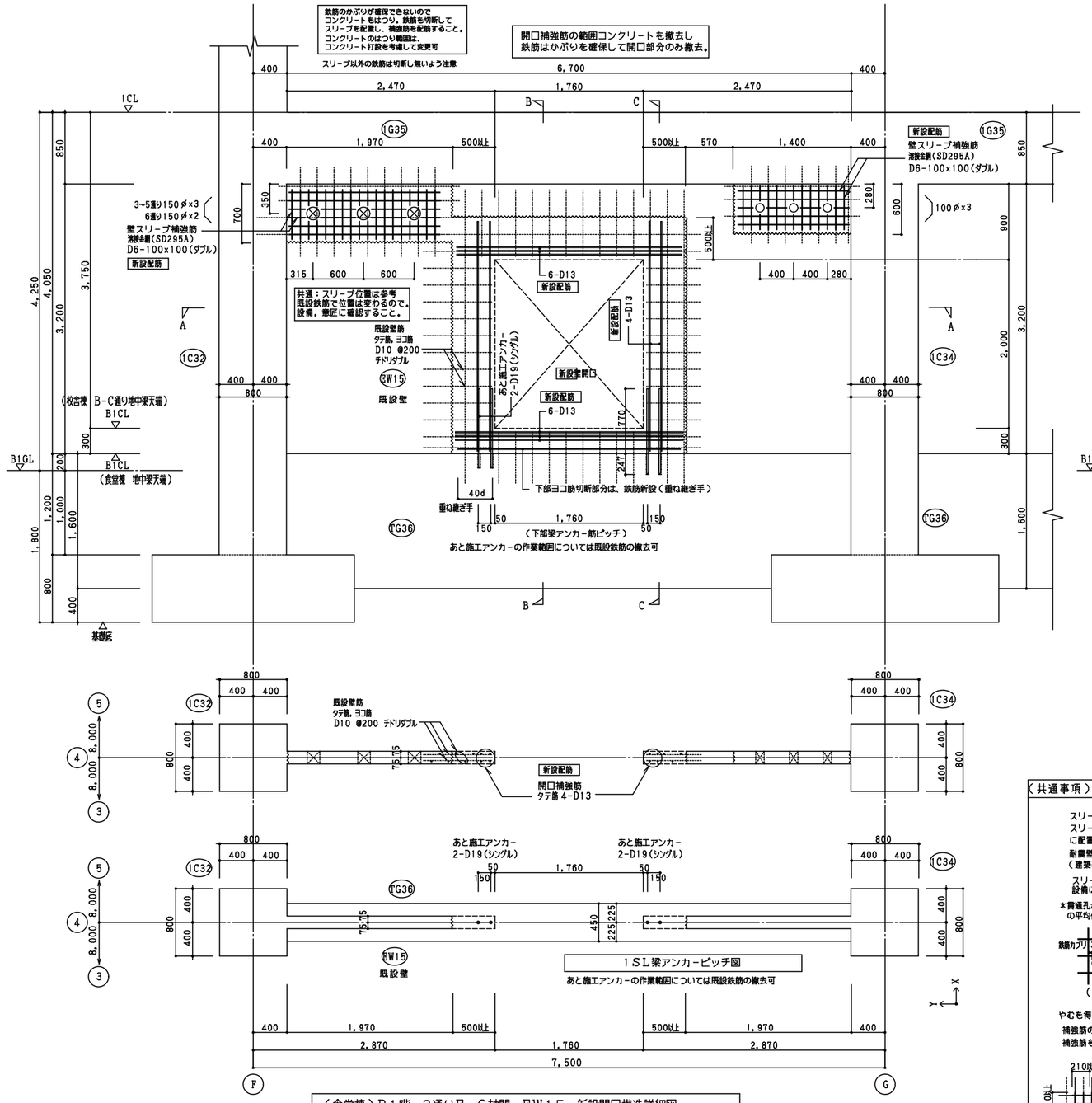
Date	Plan	Draw	Check	熱海市観光建設部まちづくり課
平成30年3月	興水	海老沼	伊佐地	設計 中田 / 製図 中田 / 調査 蓬田

特記

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

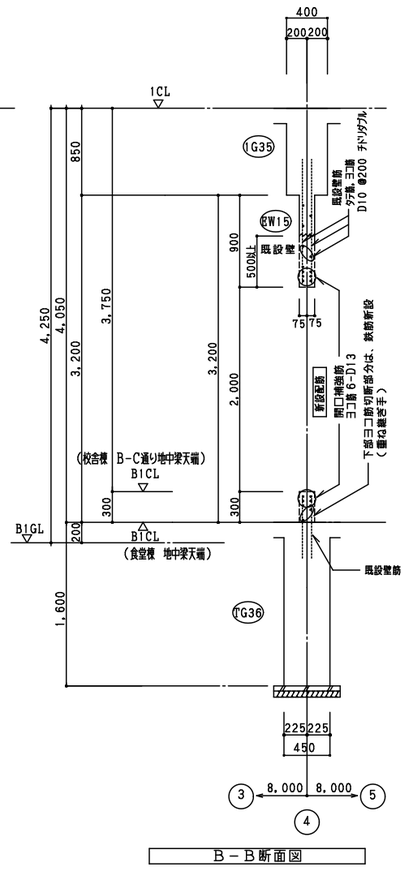
図面名：（食堂棟）EW15　新設開口構造詳細図（３）
（B1階　3~6通りD~F軸間）

Scale	No.
A1，1:30	S-09
A3，1:60	Total 15

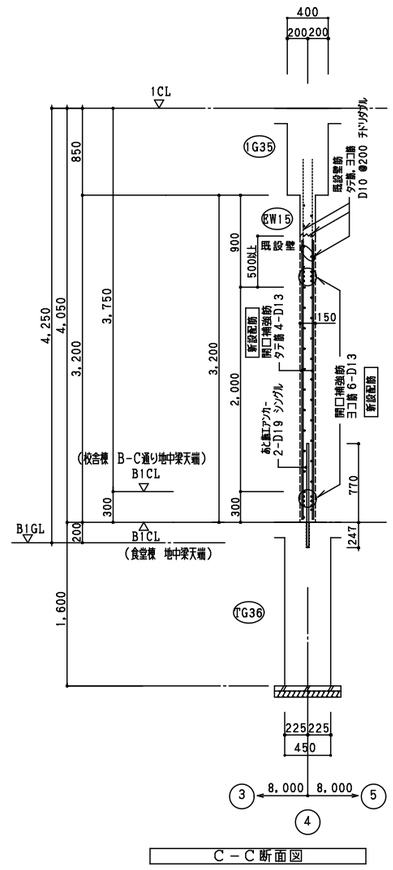


（食堂棟）B1階 3通りF～G軸間 EW15 新設開口構造詳細図 縮尺 1:30

（食堂棟 B1階 3～6通りF～G軸間 EW15 新設開口は上記にならう。）



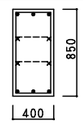
Ｂ－Ｂ断面図

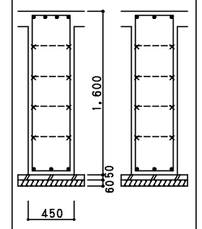


Ｃ－Ｃ断面図

既存大梁リスト S=1:30

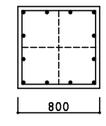
既存鉄筋
梁主筋 SD30
梁ＳＴ筋 SR24

符号	G34，35
位置	全断面
1階	
上端筋	3 - D25
下端筋	3 - D25
スターラップ	□-D13 @150
腹筋	4 - D13

符号	TG35，TG36	
位置	端部	中央
断面		
上端筋	4 -D25	3 -D25
下端筋	3 -D25	3 -D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	8 - D13	

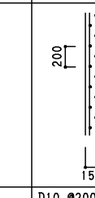
既存柱リスト S=1:30

既存鉄筋
柱主筋 SD345
帯筋 SD295

符号	C31～34
1階	
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400

既存壁リスト

既存鉄筋
壁主筋 SD295

符号	EW15
断面	
タテ筋	D10 @200 チドリダブル
ヨコ筋	D10 @200 チドリダブル
開口部補強筋 タテ筋	4- D16
開口部補強筋 ヨコ筋	4- D16
開口部補強筋 斜め筋	2- D16

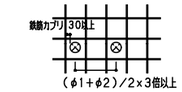
（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないように配置すること。

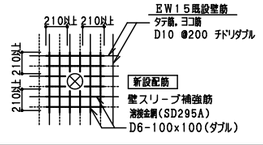
耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の３倍以上とする



やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強
補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること



共通事項

特記なき限り

新設開口補強筋	タテ筋	4-D13
	ヨコ筋	6-D13

あと施工 アンカー 2-D19x2ヶ所

あと施工 アンカー 筋定着長 Ln=770 注）1

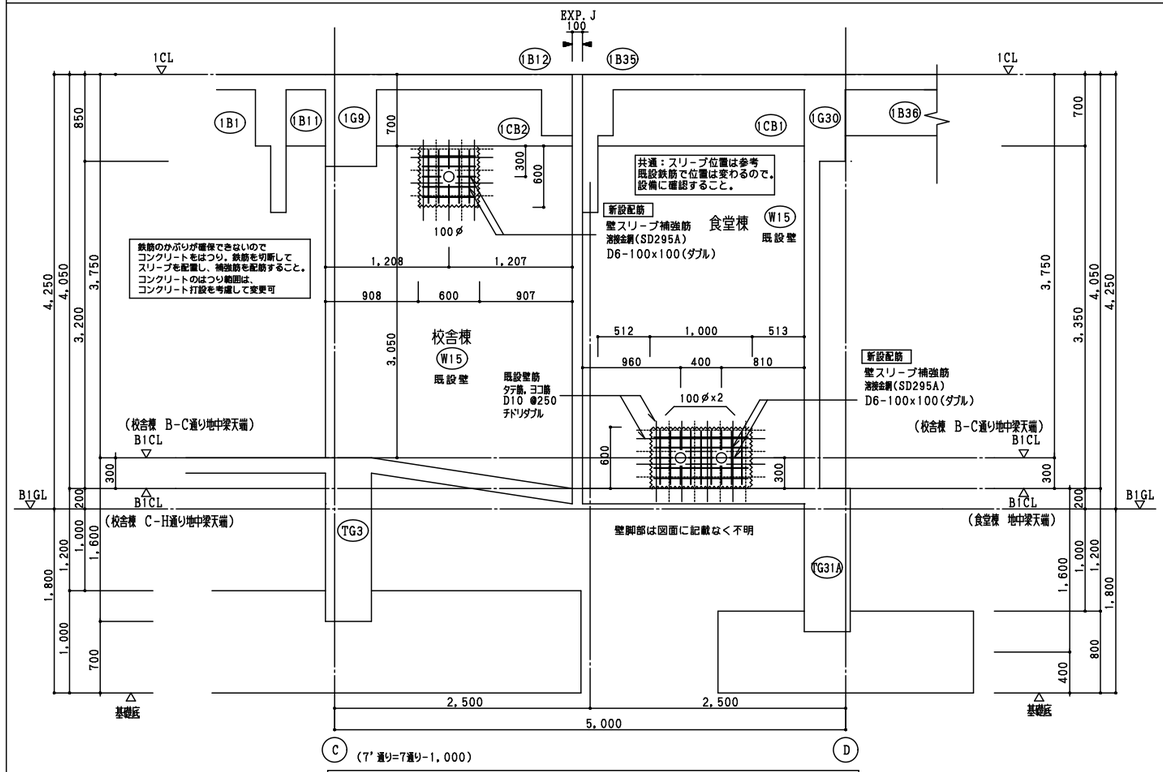
あと施工 アンカー 穿孔深さ L=247（13d）

・ピッチ ： 7.5d以上
・はしあき： 5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー筋径）

使用材料	無収縮モルタル	30 N/mm²
	既存コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	新設コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）	
	新設鉄筋	SD295A(D16以下)
		SD345 (D19以上)

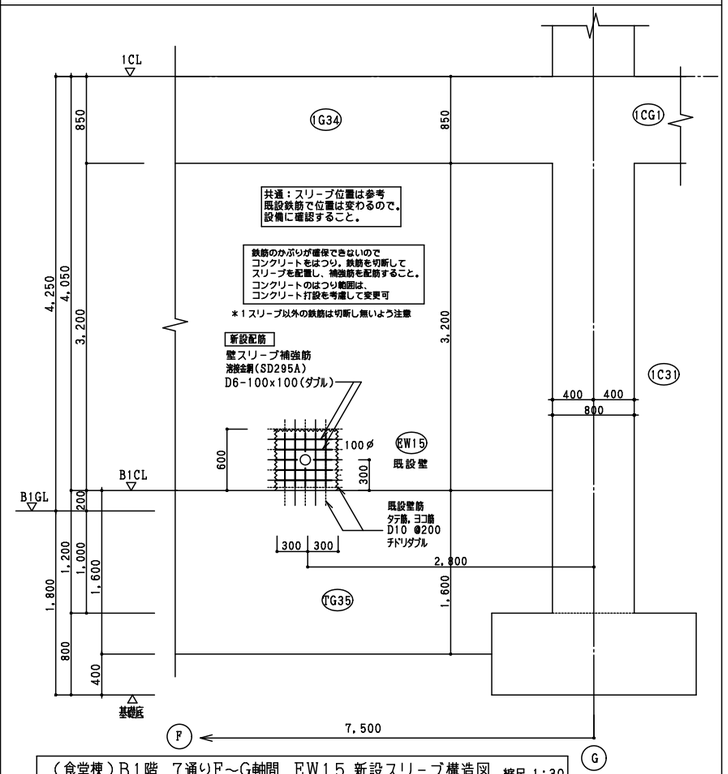
注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

（校舎棟，食堂棟）B１階7’通りC～D軸間　ＥＷ１５　新設スリーブ構造図　縮尺 1:30



（食堂棟）B１階 7’通りC～D軸間 W15 新設スリーブ構造図 縮尺 1:30

（食堂棟）Ｂ１階　７通りＦ～Ｇ軸間　ＥＷ１５　新設スリーブ構造図　縮尺 1:30



（食堂棟）B１階 7通りF～G軸間 EW１５ 新設スリーブ構造図 縮尺 1:30

既存壁リスト

既存鉄筋
壁主筋　SD295

符号		W15	EW15
断面		250 / 250 / 150	200 / 200 / 150
タテ筋		D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル
ヨコ筋		D10 @250 チドリダブル	D10 @200 チドリダブル
開口部補強筋	タテ筋	2- D13	4- D16
	ヨコ筋	2- D13	4- D16
	斜め筋	1- D10	2- D16

（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないように配置すること。

雑壁２０，耐震壁３０
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

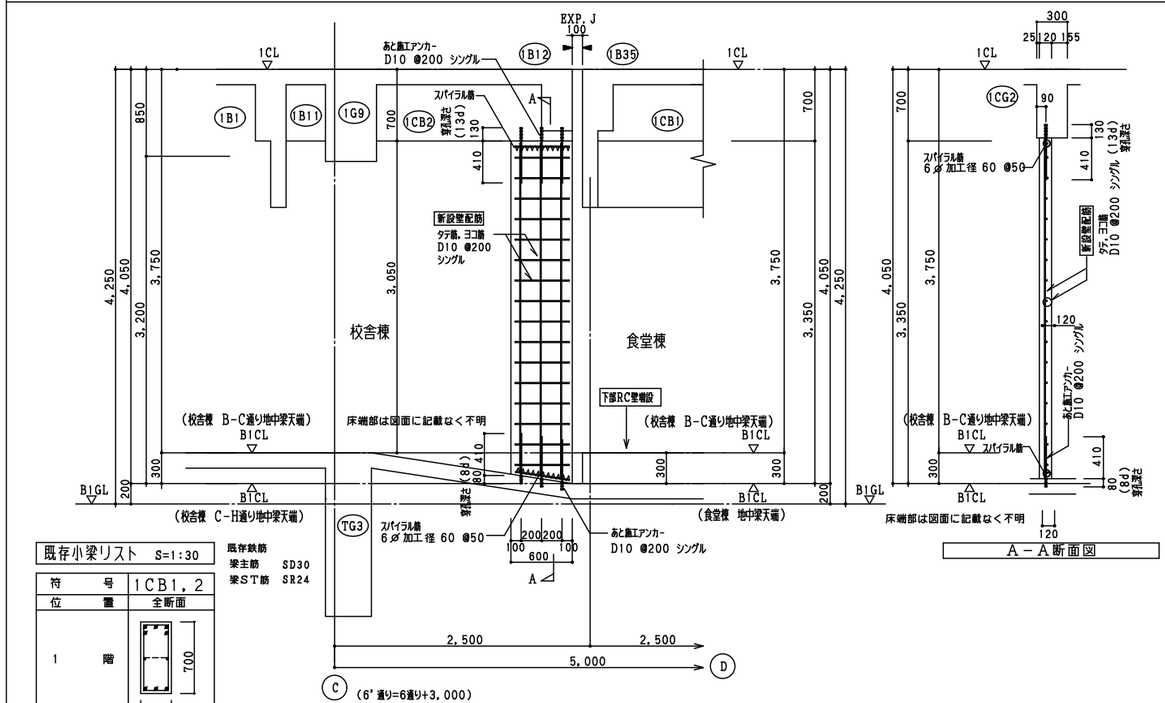
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。
設備に確認すること。

＊貫通孔が２個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の３倍以上とする

やむを得ずに鉄筋を切断した場合の開口補強
補強筋の範囲のコンクリートをはつり
補強筋を配筋すること

使用材料　無収縮モルタル　30 N/mm²
既存コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
新設コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
（注：充填性を考慮して、豆砂利コンクリートとする。）
新設鉄筋　SD295A(D16以下)
SD345 (D19以上)

（校舎棟）Ｂ１階　６’通りＣ～Ｄ軸間　ＲＣ袖壁増設　構造詳細図　縮尺 1:30



（校舎棟）B１階 6’通りC～D軸間 RC袖壁増設 構造詳細図 縮尺 1:30

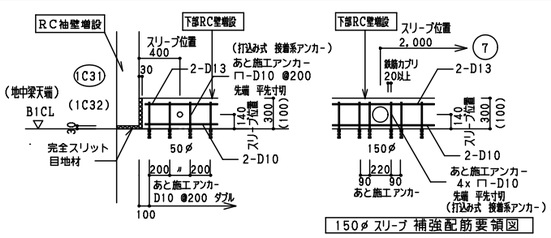
A－A断面図

既存小梁リスト　S=1:30

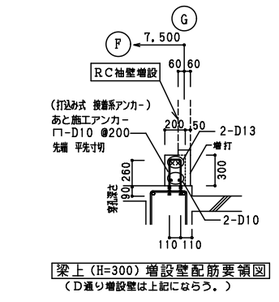
既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

符号	1CB1，2
位置	全断面
1階	
上端筋	5 - D22
下端筋	3 - D22
スターラップ	□-D10 @200
腹筋	2 - D10

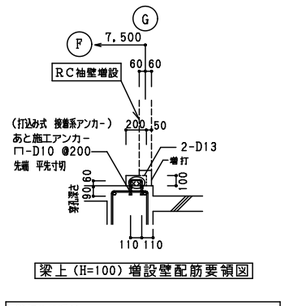
（食堂棟）Ｂ１階　Ｄ，Ｇ通り　下部ＲＣ壁増設　配筋要領図　縮尺 1:30



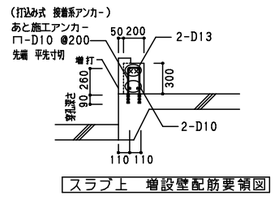
150φ スリーブ 補強配筋要領図



梁上（H=300）増設壁配筋要領図
（D通り増設壁は上記にならう。）



梁上（H=100）増設壁配筋要領図



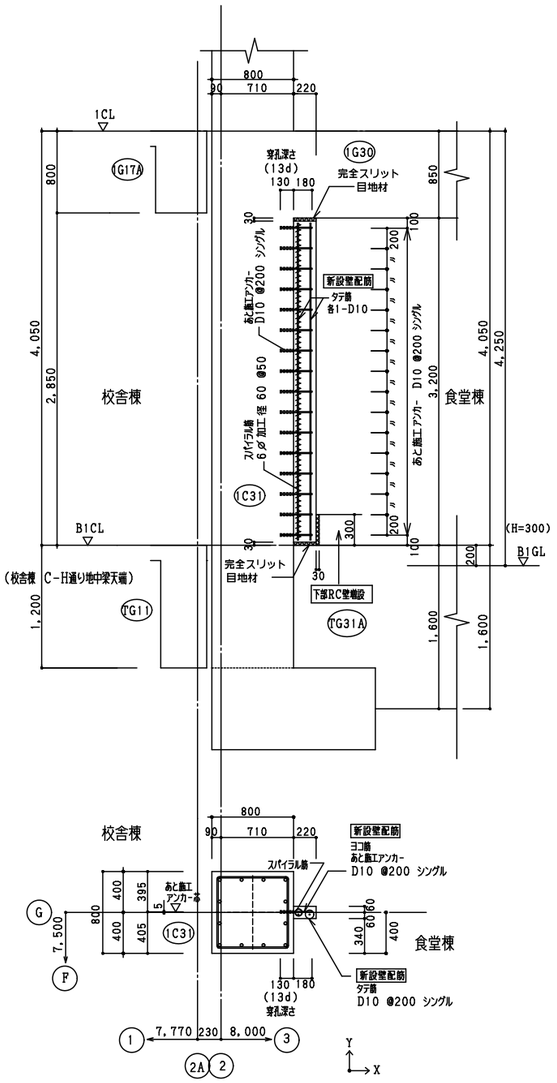
スラブ上　増設壁配筋要領図

特記なき限り
あと施工 アンカー □-D10 @200 先端 平先寸切
（打込み式 接着系アンカー）
あと施工 アンカー 穿孔深さ　L=90
・ピッチ　：　7.5d以上
・ゲージ　：　5.5d以上(ダブル)
・はしあき：　5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー鉄筋径）

使用材料　無収縮モルタル　30 N/mm²
既存コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
新設コンクリート　Fc=21.0 N/mm²
新設鉄筋　SD295A(D16以下)
SD345 (D19以上)

Ｂ１階　既設スラブ，土間コン　撤去・改修配筋要領図　縮尺 1:30

| | | |



（食堂棟）B1階 G通り2～3軸間 RC袖壁増設 構造詳細図 縮尺 1:30

（食堂棟）B1階D， G通り3～5軸間 RC袖壁増設 構造詳細図 縮尺 1:30

（食堂棟 B1階D， G通り3～5軸間 RC袖壁増設は上記にならう。）

（食堂棟）B1階3通りC～D軸間 RC袖壁増設 構造詳細図 縮尺 1:30

共通事項

特記なき限り

増設袖壁配筋 タテ，ヨコ筋共 D10 @200 シングル

スパイラル筋 6φ加工径 60 @50

あと施工 アンカー D10 @200 シングル

（接着系アンカー）
あと施工 アンカー筋定着長 Ln=410 注）1
（壁長L=220） 定着長ln=180
（壁長L=500） 定着長ln=460
（壁長L=120） 定着長ln=80
あと施工 アンカー 穿孔深さ L=130（13d）

・ピッチ ： 7.5d以上
・はしあき： 5d以上
・へりあき：（2.5d以上かつ主筋の内側）
（d=アンカー鉄筋径）

使用材料		
	無収縮モルタル	30 N/mm²
	既存コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	新設コンクリート	Fc=21.0 N/mm²
	新設鉄筋	SD295A(D16以下)
		SD345 (D19以上)

注）1，定着長（Ln'）には目荒し分10mm

（共通事項）スリーブ部分配筋について

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないように配置すること。

雑壁20
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）

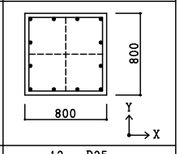
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。設備に確認すること。

＊貫通孔が2個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の3倍以上とする



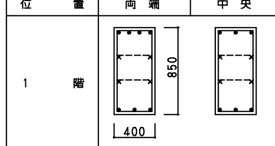
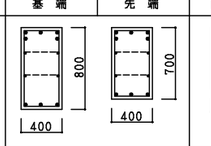
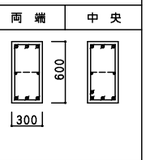
既存柱リスト S=1:30

既存鉄筋
柱主筋 SD345
帯筋 SD295

符号	C31～34
1階	
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400

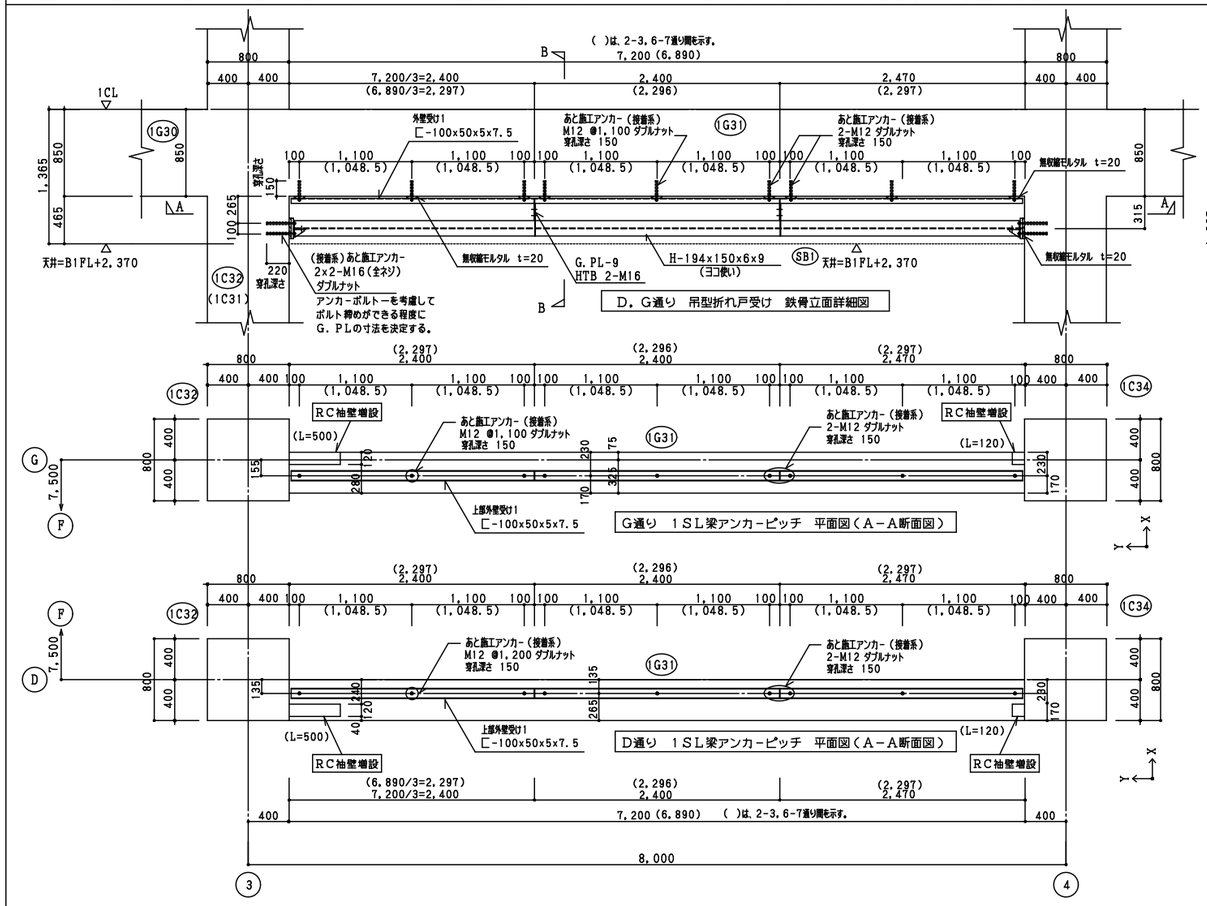
既存大梁リスト S=1:30

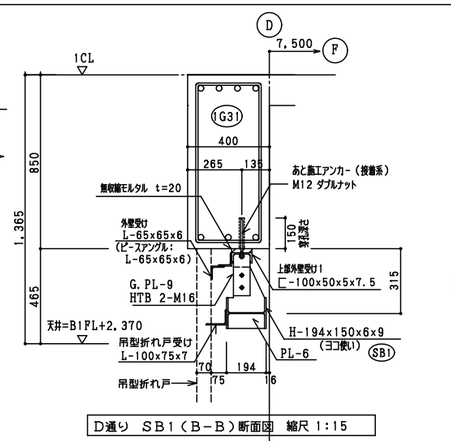
梁主筋 SD30
梁ST筋 SR24

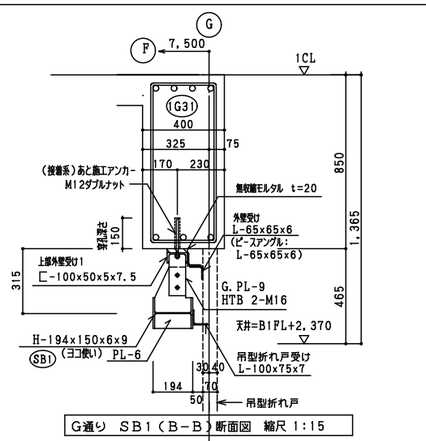
符号		1G30，31		1CG2		1B34	
位置		両端	中央	基端	先端	両端	中央
1階							
上端筋		4 - D25	3 - D25	5 - D25	5 - D25	3 - D22	3 - D22
下端筋		3 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D25	3 - D22	4 - D22
スターラップ		□-D13 @200		□-D13 @200		□-D10 @200	
腹筋		4 - D13		4 - D10		2 - D10	

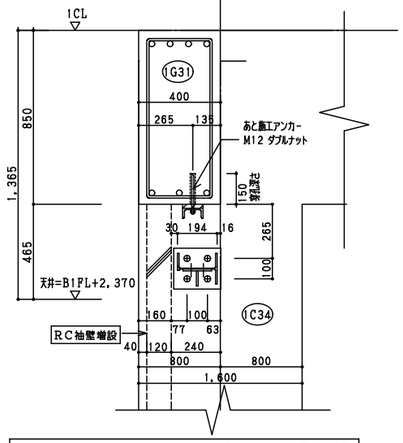
株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	神奈川県知事登録 第２０１７号 第274650号 伊東 剛子	構造設計：株式会社 矢川建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号	海老沼 優馬	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊在地	熱海市観光建設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 （食堂棟） RC袖壁，雑壁増設 構造詳細図	Scale A1，1:30 A3，1:60	No. S-12 Total 15

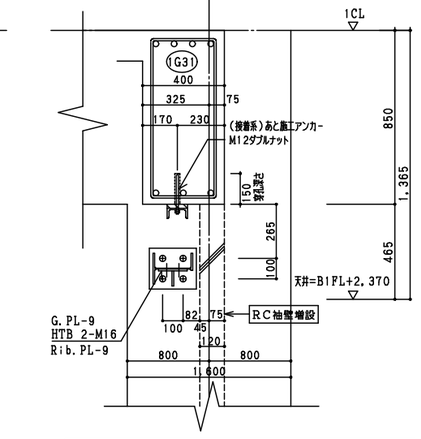
（食堂棟）B1階　D，G通り2～7軸間　吊型折れ戸受け　SB1構造詳細図　縮尺 1:30，1:15　　＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。





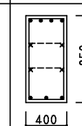
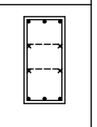






既存大梁リスト　S=1:30

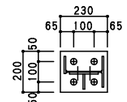
既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

符号	1G30，31	
位置	両端	中央
1階		
上端筋	4 - D25	3 - D25
下端筋	3 - D25	3 - D25
スターラップ	□-D13 @200	
腹筋	4 - D13	

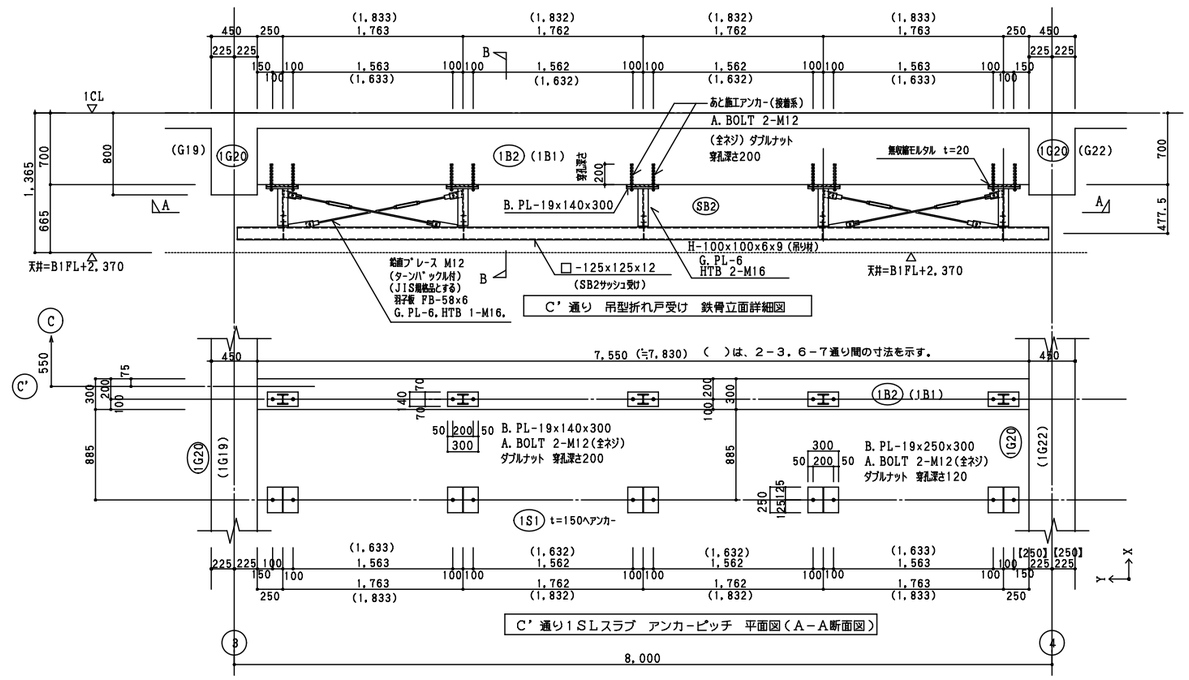
既存柱リスト　S=1:30

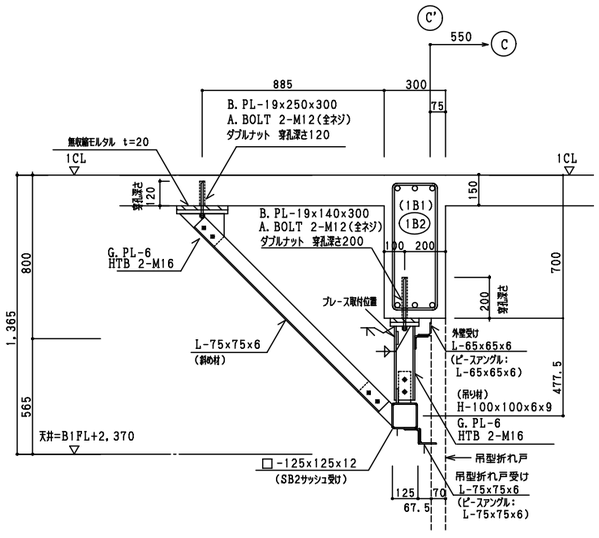
既存鉄筋
柱主筋　SD345
帯筋　SD295

符号	C31～34
1階	
主筋	12 - D25
フープ	□-D13 @100
S:HOOP	┼-D13 @400



（校舎棟）B1階　C’通り2～7軸間　吊型折れ戸受け　SB2構造詳細図　縮尺 1:30，1:15　　＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。

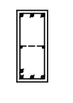
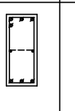
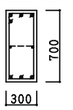
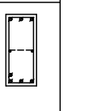




S1風設床配筋　t=150
主筋，配力筋共：上端筋 D10，D13 @200
主筋，配力筋共：下端筋 D10 @200

既存小梁リスト　S=1:30

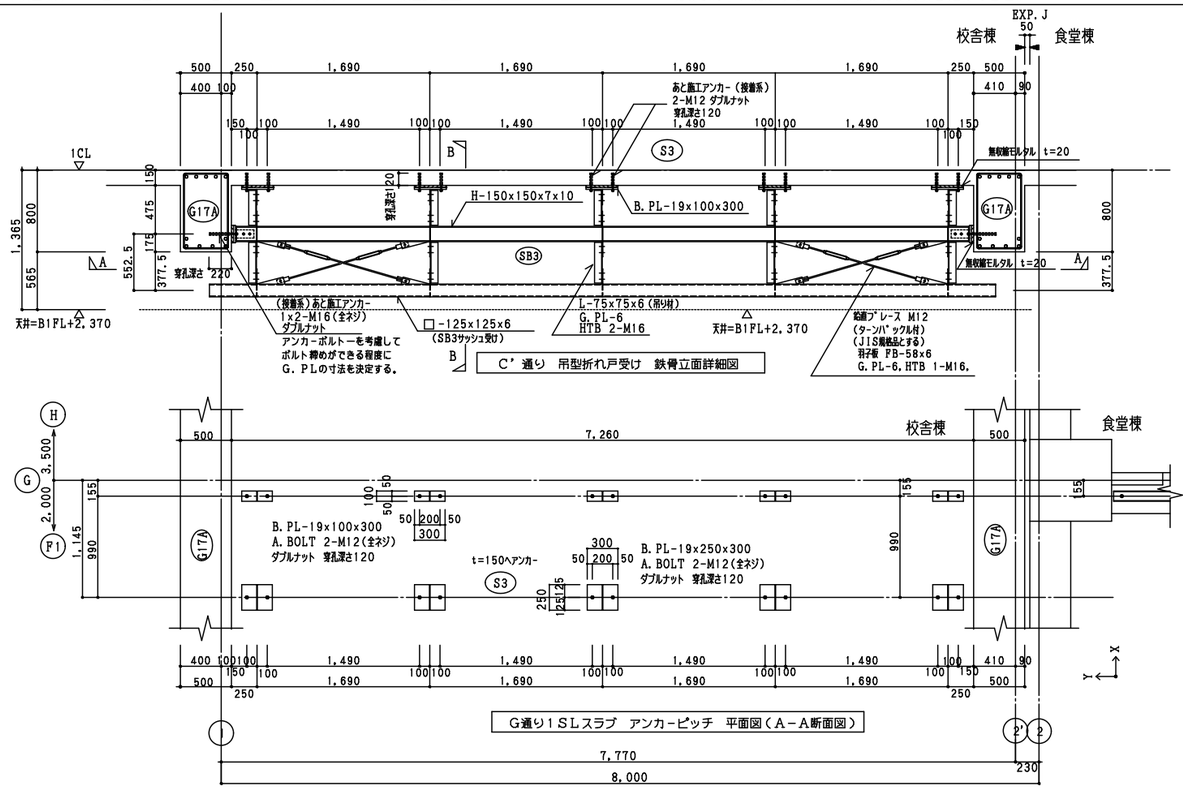
既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

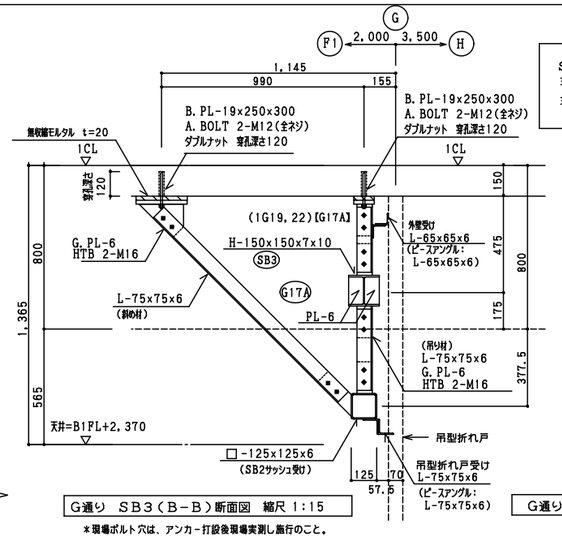
符号	1B1			1B2	
位置	外端	中央	内端	両端	中央
1階					
上端筋	3 - D22	3 - D22	4 - D22	4 - D22	3 - D22
下端筋	3 - D22	4 - D22	3 - D22	3 - D22	4 - D22
スターラップ	□-D10 @200			□-D10 @200	
腹筋	2 - D10			2 - D10	

株式会社 日比野設計 HIBINO SEKKEI 一級建築士事務所 一級建築士	一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第２０１７号 一級建築士 第274650号 伊東 剛子	構造設計：株式会社 矢田建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 康弘	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊佐地	鈴海市観光施設部まちづくり課 設計 中田 製図 中田 調査 窪田	特記	工事名 （仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）	図面名 吊型折れ戸受け　鉄骨小梁構造詳細図（1）	Scale A1，1:30，15 A3，1:60，30	No. S-13 Total 15

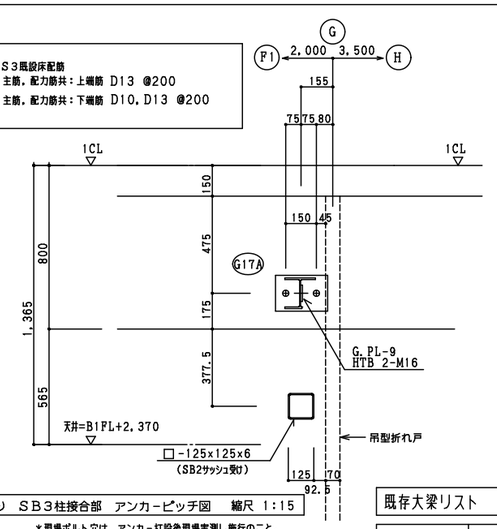
（校舎棟）B1階　G通り1～2軸間　吊型折れ戸受け　SB3構造詳細図　縮尺 1:30, 1:15

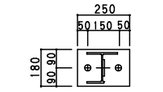
＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。





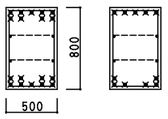
S3既設床配筋
主筋，配力筋共：上端筋 D13 @200
主筋，配力筋共：下端筋 D10，D13 @200





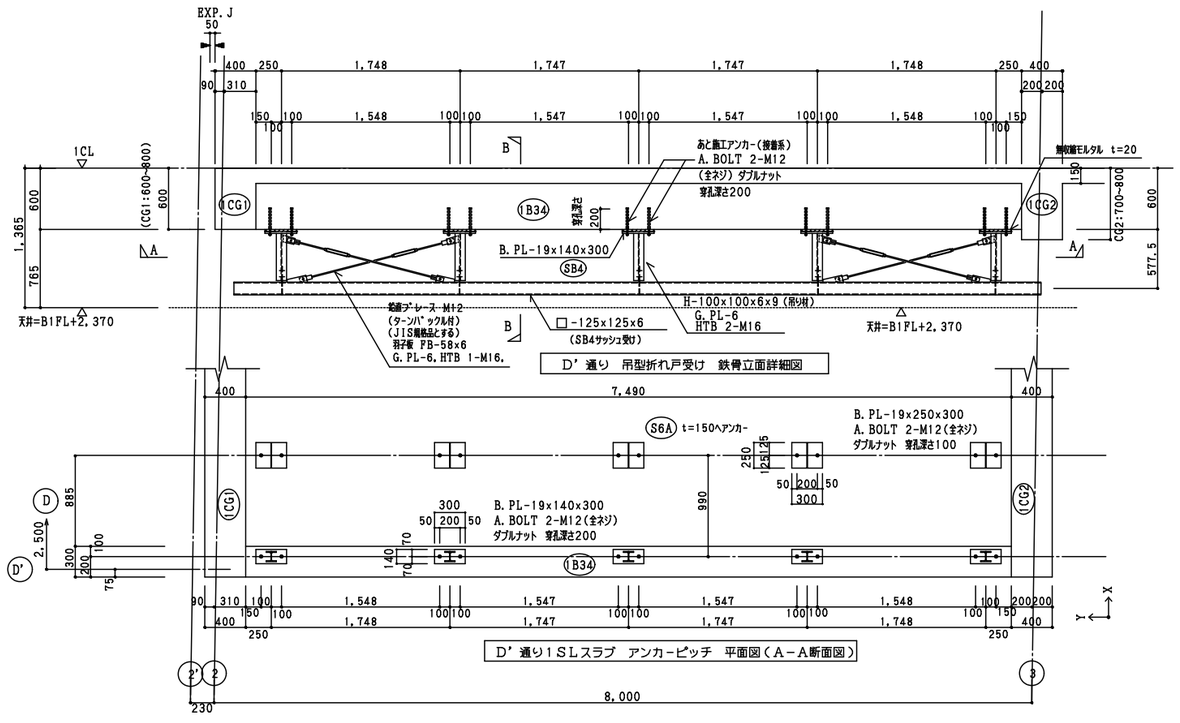
既存鉄筋
梁主筋 SD30
梁ST筋 SR24

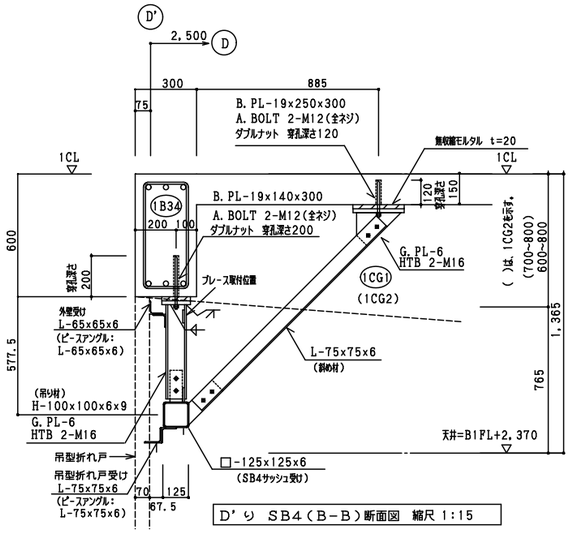
既存大梁リスト　S=1:30

符号	1G17A	
位置	両端	中央
1階		
上端筋	9 - D29	5 - D29
下端筋	9 - D29	6 - D29
スターラップ	田-D13 @100	
腹筋	4 - D10	

（校舎棟）B1階　D'通り2～7軸間　吊型折れ戸受け　SB4構造詳細図　縮尺 1:30, 1:15

＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。

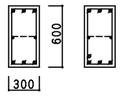




S6A既設床配筋　t=150
主筋：上端筋　D13 @150
主筋：下端筋　D10 @150
配力筋：上端筋　D10,D13 @200
配力筋：下端筋　D10 @200

既存鉄筋
梁主筋 SD30
梁ST筋 SR24

既存小梁リスト　S=1:30

符号	1B34	
位置	両端	中央
1階		
上端筋	3 - D22	3 - D22
下端筋	3 - D22	4 - D22
スターラップ	□-D10 @200	
腹筋	2 - D10	

株式会社 日比野設計 一級建築士事務所 一級建築士	構造設計：株式会社 矢田建築設計事務所 一級建築士事務所 神奈川県知事登録 第 8425 号 一級建築士 第276627号 構造設計一級建築士 第6835号 海老沼 徹馬	Date 平成30年3月	Plan 興水	Draw 海老沼	Check 伊佐地

熱海市観光建設部まちづくり課				
設計	中田	製図	中田	調査	窪田

特記

工事名：（仮称）あたみ認定こども園改修工事（その1）（幼児棟）

図面名：吊型折れ戸受け　鉄骨小梁構造詳細図（2）

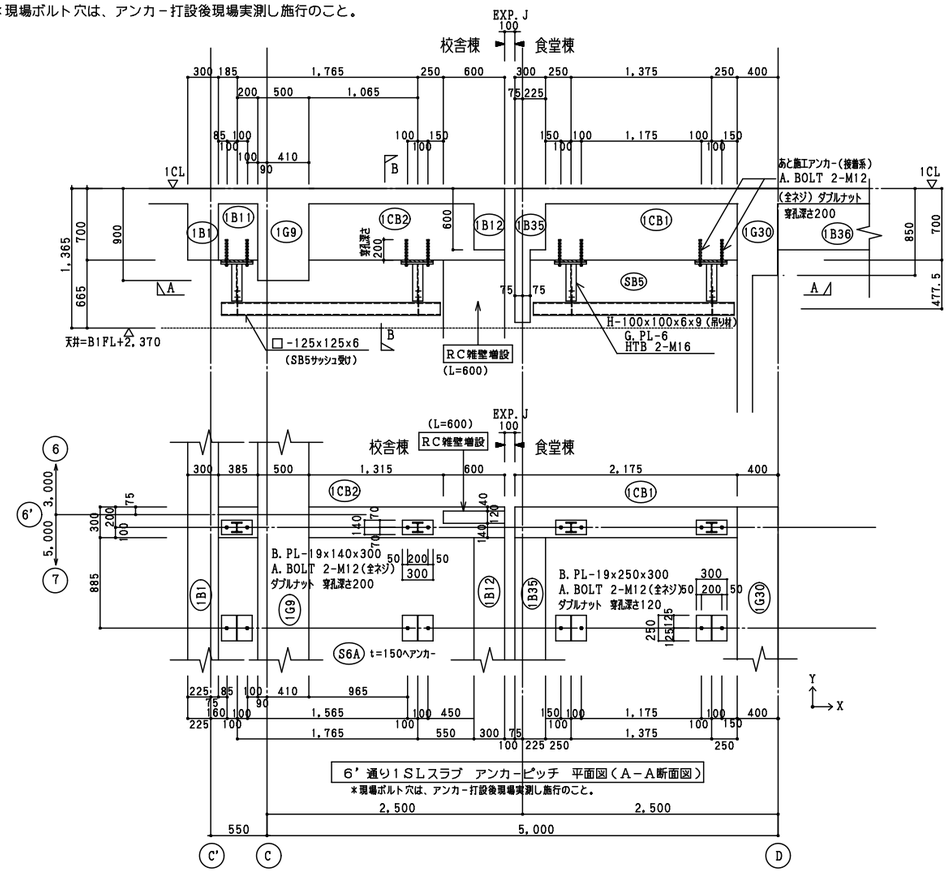
Scale A1, 1:30, 15 / A3, 1:60, 30

No. S-14

Total 16

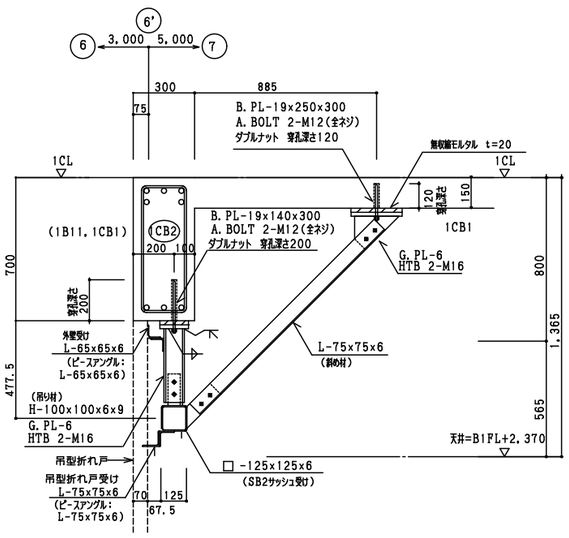
（校舎棟，食堂棟）B1階　6’通りC～D軸間　吊型折れ戸受け　SB5構造詳細図　縮尺 1:30，1:15

＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。



6’通り1SLスラブ　アンカーピッチ　平面図（A－A断面図）

＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。



6’り　SB5（B－B）断面図　縮尺 1:15

＊現場ボルト穴は、アンカー打設後現場実測し施行のこと。

S6A既設床配筋　t=150
主筋：上端筋　D13 @150
主筋：下端筋　D10 @150
配力筋：上端筋　D10,D13 @200
配力筋：下端筋　D10 @200

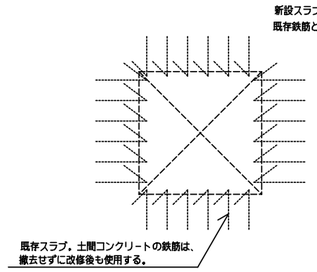
既存小梁リスト　S=1:30

既存鉄筋
梁主筋　SD30
梁ST筋　SR24

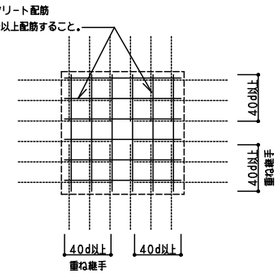
符号	1CB1，2	1B11
位置	全断面	全断面
1階	300×700	300×700
上端筋	5 - D22	5 - D22
下端筋	3 - D22	3 - D22
スターラップ	□-D10 @200	□-D10 @200
腹筋	2 - D10	2 - D10

B1階　既設スラブ，土間コン　撤去・改修配筋要領図　縮尺 1:30

設備工事に伴い、既設コンクリートを撤去し、設備工事終了後に復旧する。
＊1：B1階床撤去範囲は、設備図による。
＊2：B1階床断面配筋を確認のうえ、同断面同等配筋以上とし、施工要領について監督員の承諾を得ること。
＊3：既設鉄筋は、重ね継手の定着長以上残すこと。
＊4：S1，S2のコンクリート撤去中は、床が落ちない様に支保工等で支える事。



撤去範囲の既設スラブ配筋について



改修スラブ配筋要領図

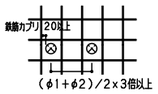
既存スラブリスト

符号	版厚	位置	短辺方向	長辺方向
B1S1	150	上端筋	D10,D13 @200	D10 @200
		下端筋	D10 @200	D10 @200
B1S2	150	上端筋	D13 @200	D13 @200
		下端筋	D10,D13 @200	D10,D13 @200

土間コンクリート断面配筋は不明（S1断面配筋と同程度と仮定してください。）

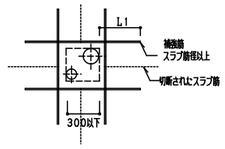
床スラブの開口補強要領

スリーブ位置は、鉄筋かぶりを確保して、
スリーブ位置以外の既設鉄筋を切らないように配置すること。
スラブ20
（建築基準法施行令：かぶり厚さ規定）
スリーブ位置は、既設鉄筋で変わるので。
設備に確認すること。



＊貫通孔が2個以上並ぶ場合の中心間隔は孔径の平均値の3倍以上とする

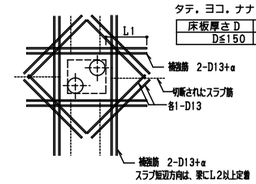
1．連続する開口を1つの開口と見なして、300㎜以下の場合は、
切断された鉄筋以上の配筋を開口補強として配筋する。



2．連続する開口を1つの開口と見なして、300㎜を超える場合

タテ，ヨコ，ナナメ補強筋を配筋する。

床板厚さD	周囲	斜め
D≦150	各 2-D13	各 1-D13



α：切断される鉄筋本数の1／2以上

使用材料　鉄筋　SD295A(D16以下)
SD345 (D19以上)
コンクリート Fc=21 N/mm²